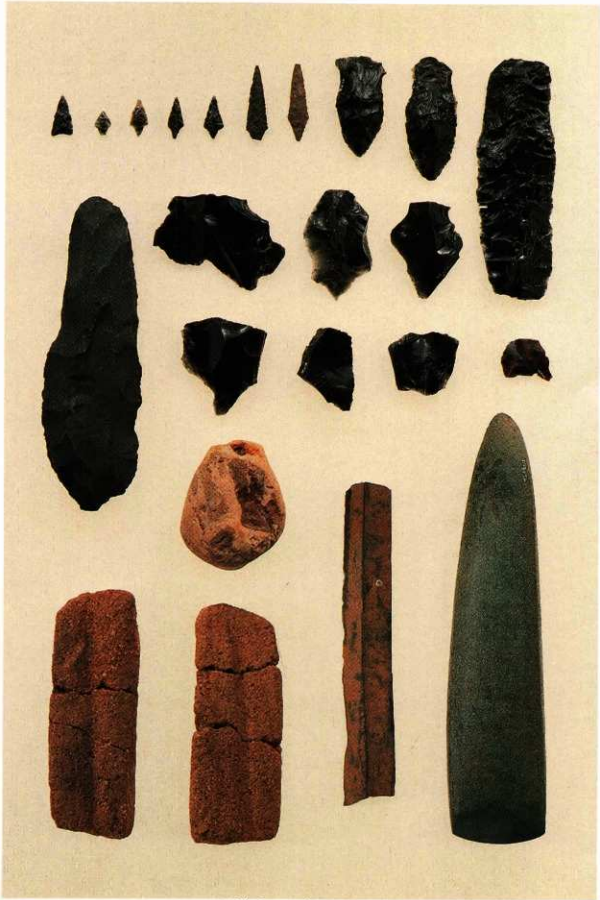
北埋調報　66

余市町
栄町５遺跡

―北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―

昭和63・平成元年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター



土壙墓（P－20）出土の石器

余市町
栄町５遺跡

―北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―

昭和63・平成元年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

例　言

1　この報告書は，北後志東部地区広域営農団地農道整備事業に伴って，昭和63・平成元年度に財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した栄町（さかえまち）５遺跡の埋蔵文化財発掘調査に関するものである。

2　本書の作成は，調査部調査第３課（昭和63年度）・同第４課（平成元年度）で行ったが，編集は長沼孝が担当した。各章または節の執筆は以下のとおりである。

Ⅱ３花岡正光，Ⅲ１長沼孝・前田正憲・森岡健治，Ⅲ３，Ⅴ３前田正憲

Ⅲ４森岡健治，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ２・５，Ⅴ１・２・４・５長沼孝

3　第Ⅳ章の各種分析・同定については次の方がたに執筆を依頼した。

1(1)山田悟郎（北海道開拓記念館），2(1)興水達司（北海道大学）

なお，2(2)については花岡正光・長沼孝が執筆した。

4　現地の写真撮影は，調査員が分担したが，遺物撮影は伊野正之，菊池滋人が行った。

5　遺構図は，調査員が作成したものを長沼，森岡が整理し，大森佐知子がトレースした。

6　遺物実測図の作成は，長沼，前田，森岡，大野明子，木元睦子，久末真紀子，木下昭仁，藤内まゆみ，伊藤幸子，漆啓枝，三崎かおる，山岸利江，三国谷雅子が行い，トレースは大野明子，木元睦子，久末真紀子，伊藤幸子が行った。

7　石器石質の肉眼的鑑定は，長沼，森岡，花岡が行ったが，一部のものについては北海道開拓記念館赤松守雄氏の指導を得た。

8　図版１のR.C.ヘリコプターからの航空写真は，シン航空写真株式会社に依託して撮影した。

9　図版21－２・３のＸ線写真は，札幌医科大学解剖学第二講座の協力を得て撮影した。

10　出土遺物は余市町教育委員会，写真，実測図等の記録類は㈶北海道埋蔵文化財センターが保管している。

11　調査にあたっては下記の機関および人びとの指導ならびに協力を得た。（順不同，敬称略）

文化庁，青森県立郷土館，八戸市博物館，北海道教育委員会，北海道開拓記念館，余市町教育委員会，シン航空写真株式会社

松村恵司，春成秀爾，西本豊弘，林謙作，興水達司，百々幸雄，石田肇，大島直行，栗村知弘，藤田俊雄，佐々木浩一，古里淳，大野亨，宇部則保，村木淳，上村四郎，関豊，福田友之，野村崇，山田悟郎，赤松守雄，矢吹俊男，寺崎康史，大島秀俊，松田義章，宮宏明，熊崎晨夫博，鎌田望，石川朗，佐藤利雄，青木延広，中野芳一

凡　例

1　遺構，遺物の図，写真などは，基本的に以下の縮尺に統一してあるが，分布図，出土状況図，集成図などは任意の縮尺としたものもある。

土壙：1/20，土器実測図：1/4，土器拓影・写真：1/3，石器，土・石製品：1/2，石鏃全点，包含層出土やり先またはナイフ・石錐・つまみ付ナイフ写真，土・石製品写真：1/2，遺構出土やり先またはナイフ・石錐，スクレイパー全点，Uフレイク・フレイク全点，石核全点，台石を除く礫石器全点写真：1/3，台石写真：1/4

2　遺構図中の方位は平面直角座標の北，レベルは標高（単位m）を示す。

3　遺物の出土状況図では，遺物の形状を図示したほか剥片石器とフレイク類は以下の記号を使用し，遺物に付した番号は挿図の番号と一致する。

▲　石鏃以外の小型の剥片石器　　△　フレイク類

4　遺構の規模は以下の内容である。

確認面での長軸長×短軸長／底面での長軸長×短軸長／確認面からの最大深（単位m）

5　土器，石器，土・石製品の大きさはいずれも最大のもので，欠損している場合は（ ）を付けた。

6　石質の岩石名は以下の略号で表現した。

Aga.：めのう　And.：安山岩　Ba.：玄武岩　Che.：チャート　Gni.：片麻岩
Gr-Mud.：緑色泥岩　Mud.：泥岩　Obs.：黒曜石　Per.：かんらん岩　Qua.：珪岩
Sa.：砂岩　Sch.：片岩　Ser.：蛇紋岩　Sh.：頁岩　Ta.：滑石　Tu.：凝灰岩
We-Tu.：溶結凝灰岩

目　次

巻頭カラー
例言・凡例
目次・挿図目次・表目次・図版目次
Ⅰ　調査の概要 …… 1
1　調査要項 …… 1
2　調査体制 …… 1
3　調査の経緯 …… 1
4　調査概要 …… 4
(1)　発掘区の設定 …… 4
(2)　調査の方法 …… 5
(3)　整理の方法 …… 5
(4)　遺構，遺物の分類 …… 5
(5)　遺跡の概要 …… 6
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 11
1　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 11
2　西崎山ストーンサークル群 …… 12
3　遺跡周辺の地形・地質 …… 17
4　基本層序 …… 18
Ⅲ　遺構と遺物 …… 23
1　土壙 …… 23
(1)　Ⅰ群土壙 …… 26
(2)　Ⅱ群土壙 …… 61
(3)　Ⅲ群土壙 …… 69
(4)　Ⅳ群土壙 …… 76
2　大型安山岩礫 …… 93
3　包含層出土の土器 …… 93
4　包含層出土の石器 …… 122
5　包含層出土の土・石製品 …… 156
Ⅳ　各種分析，同定 …… 161
1　環境 …… 161
(1)　栄町５遺跡の古植生について（山田悟郎） …… 161
2　遺物 …… 166
(1)　栄町５遺跡出土黒曜石の原産地同定および水和層年代測定（興水達司） …… 166
(2)　栄町５遺跡出土土器の胎土分析 …… 170
Ⅴ　まとめ …… 175
1　有舌尖頭器 …… 175
2　土壙 …… 176
3　土器 …… 180
4　黒曜石の原産地 …… 182
5　遺跡の特徴 …… 186
表１～８
図版１～60（モノクロ）

挿図目次

図Ⅰ－1　遺跡の位置と工事計画路線図 …… 2
図Ⅰ－2　調査区域図 …… 3
図Ⅰ－3　発掘区設定図 …… 4
図Ⅰ－4　遺構分布図 …… 7
図Ⅰ－5　発掘区別遺物出土点数 …… 9
図Ⅰ－6　発掘区・種類別遺物出土点数 …… 10
図Ⅱ－1　遺跡の位置と周辺の遺跡（国土地理院発行２万５千分の１地形図余市を縮小） … 11
図Ⅱ－2　西崎山ストーンサークル群位置図 …… 13
図Ⅱ－3　西崎山ストーンサークル第１～３区実測図（駒井　1959・峰山・久保　1965に加筆） 14
図Ⅱ－4　西崎山ストーンサークル第４区実測図（大場・重松　1977に加筆） …… 15
図Ⅱ－5　遺跡周辺の地形分類図 …… 17
図Ⅱ－6　遺跡土層断面(1) …… 19
図Ⅱ－7　遺跡土層断面(2) …… 21
図Ⅲ－1　Ⅰ群土壙分布図 …… 23
図Ⅲ－2　Ⅰ群土壙(1)・P－1(1) …… 24
図Ⅲ－3　Ⅰ群土壙(2)・P－1(2) …… 25
図Ⅲ－4　Ⅰ群土壙(3)・P－1遺物(1) …… 27
図Ⅲ－5　Ⅰ群土壙(4)・P－1遺物(2) …… 28
図Ⅲ－6　Ⅰ群土壙(5)・P－1遺物(3) …… 29
図Ⅲ－7　Ⅰ群土壙(6)・P－1遺物(4) …… 30
図Ⅲ－8　Ⅰ群土壙(7)・P－1遺物(5) …… 31
図Ⅲ－9　Ⅰ群土壙(8)・P－1遺物(6) …… 32
図Ⅲ－10　Ⅰ群土壙(9)・P－2(1) …… 34
図Ⅲ－11　Ⅰ群土壙(10)・P－2(2) …… 35
図Ⅲ－12　Ⅰ群土壙(11)・P－2遺物(1) …… 36
図Ⅲ－13　Ⅰ群土壙(12)・P－2遺物(2) …… 37
図Ⅲ－14　Ⅰ群土壙(13)・P－2遺物(3) …… 38
図Ⅲ－15　Ⅰ群土壙(14)・P－2遺物(4) …… 39
図Ⅲ－16　Ⅰ群土壙(15)・P－2遺物(5) …… 40
図Ⅲ－17　Ⅰ群土壙(16)・P－3 …… 42
図Ⅲ－18　Ⅰ群土壙(17)・P－3遺物 …… 43
図Ⅲ－19　Ⅰ群土壙(18)・P－5 …… 44
図Ⅲ－20　Ⅰ群土壙(19)・P－5遺物(1) …… 45
図Ⅲ－21　Ⅰ群土壙(20)・P－5遺物(2) …… 46
図Ⅲ－22　Ⅰ群土壙(21)・P－11(1) …… 47
図Ⅲ－23　Ⅰ群土壙(22)・P－11(2) …… 48
図Ⅲ－24　Ⅰ群土壙(23)・P－11遺物(1) …… 49
図Ⅲ－25　Ⅰ群土壙(24)・P－11遺物(2) …… 50
図Ⅲ－26　Ⅰ群土壙(25)・P－11遺物(3) …… 51
図Ⅲ－27　Ⅰ群土壙(26)・P－11遺物(4) …… 52
図Ⅲ－28　Ⅰ群土壙(27)・P－20(1) …… 53
図Ⅲ－29　Ⅰ群土壙(28)・P－20(2) …… 54
図Ⅲ－30　Ⅰ群土壙(29)・P－20遺物(1) …… 55
図Ⅲ－31　Ⅰ群土壙(30)・P－20遺物(2) …… 56
図Ⅲ－32　Ⅰ群土壙(31)・P－20遺物(3) …… 57
図Ⅲ－33　Ⅰ群土壙(32)・P－20遺物(4) …… 58
図Ⅲ－34　Ⅰ群土壙(33)・P－20遺物(5) …… 59
図Ⅲ－35　Ⅱ群土壙分布図 …… 61
図Ⅲ－36　Ⅱ群土壙(1)・P－4・6 …… 62
図Ⅲ－37　Ⅱ群土壙(2)・P－7・8 …… 63
図Ⅲ－38　Ⅱ群土壙(3)・P－8 …… 65
図Ⅲ－39　Ⅱ群土壙(4)・P－4・6遺物 …… 66
図Ⅲ－40　Ⅱ群土壙(5)・P－7・8遺物 …… 67
図Ⅲ－41　Ⅱ群土壙(6)・P－8遺物 …… 68
図Ⅲ－42　Ⅲ群土壙分布図 …… 69
図Ⅲ－43　Ⅲ群土壙(1)・P－9・13 …… 71
図Ⅲ－44　Ⅲ群土壙(2)・P－17 …… 72
図Ⅲ－45　Ⅲ群土壙(3)・P－19・23 …… 73
図Ⅲ－46　Ⅲ群土壙(4)・P－24・25 …… 74
図Ⅲ－47　Ⅲ群土壙(5)・P－9・13・17・24・25遺物 … 75
図Ⅲ－48　Ⅳ群土壙分布図 …… 76
図Ⅲ－49　Ⅳ群土壙(1)・P－10・12 …… 78
図Ⅲ－50　Ⅳ群土壙(2)・P－14 …… 79
図Ⅲ－51　Ⅳ群土壙(3)・P－15・16 …… 80
図Ⅲ－52　Ⅳ群土壙(4)・P－18 …… 81
図Ⅲ－53　Ⅳ群土壙(5)・P－21・22 …… 83
図Ⅲ－54　Ⅳ群土壙(6)・P－26・27 …… 84
図Ⅲ－55　Ⅳ群土壙(7)・P－28・29 …… 85
図Ⅲ－56　Ⅳ群土壙(8)・P－30・31 …… 86
図Ⅲ－57　Ⅳ群土壙(9)・P－10・12遺物 …… 88
図Ⅲ－58　Ⅳ群土壙(10)・P－14遺物 …… 89
図Ⅲ－59　Ⅳ群土壙(11)・P－14・15遺物 …… 90
図Ⅲ－60　Ⅳ群土壙(12)・P－16・18・21遺物 …… 91
図Ⅲ－61　Ⅳ群土壙(13)・P－22・26～28遺物 …… 92
図Ⅲ－62　Ⅳ群土壙(14)・P－30遺物 …… 93
図Ⅲ－63　大型安山岩礫分布図 …… 94
図Ⅲ－64　包含層の土器(1)・中・後期 …… 95
図Ⅲ－65　包含層の土器(2)・晩期 …… 96
図Ⅲ－66　包含層の土器(3)・晩期 …… 97
図Ⅲ－67　包含層の土器(4)・晩期・深鉢(1) …… 98
図Ⅲ－68　包含層の土器(5)・晩期・深鉢(2) …… 99
図Ⅲ－69　包含層の土器(6)・晩期・深鉢(3) …… 101
図Ⅲ－70　包含層の土器(7)・晩期・深鉢(4) …… 102
図Ⅲ－71　包含層の土器(8)・晩期・鉢(1) …… 105
図Ⅲ－72　包含層の土器(9)・晩期・鉢(2) …… 107
図Ⅲ－73　包含層の土器(10)・晩期・鉢(3) …… 108
図Ⅲ－74　包含層の土器(11)・晩期・鉢(4) …… 109
図Ⅲ－75　包含層の土器(12)・晩期・浅鉢(1) …… 111
図Ⅲ－76　包含層の土器(13)・晩期・浅鉢(2) …… 113

図Ⅲ－77　包含層の土器04・晩期・浅鉢(3) …… 114
図Ⅲ－78　包含層の土器09・晩期・浅鉢(4) …… 115
図Ⅲ－79　包含層の土器06・晩期・壺(1) …… 117
図Ⅲ－80　包含層の土器07・晩期・壺(2) …… 118
図Ⅲ－81　包含層の土器08・晩期・壺(3) …… 119
図Ⅲ－82　包含層の土器09・晩期・異形・底部 … 121
図Ⅲ－83　包含層の石器(1)・石錘(1) …… 124
図Ⅲ－84　包含層の石器(2)・石錘(2) …… 125
図Ⅲ－85　包含層の石器(3)・石錘(3) …… 126
図Ⅲ－86　包含層の石器(4)・やり先・ナイフ …… 127
図Ⅲ－87　包含層の石器(5)・石錐・つまみ付ナイフ　128
図Ⅲ－88　包含層の石器(6)・スクレイパー(1) …… 129
図Ⅲ－89　包含層の石器(7)・スクレイパー(2) …… 130
図Ⅲ－90　包含層の石器(8)・スクレイパー(3) …… 131
図Ⅲ－91　包含層の石器(9)・スクレイパー(4) …… 132
図Ⅲ－92　包含層の石器08・スクレイパー(5) …… 133
図Ⅲ－93　包含層の石器01・スクレイパー(6) …… 135
図Ⅲ－94　包含層の石器02・スクレイパー(7) …… 136
図Ⅲ－95　包含層の石器03・スクレイパー(8) …… 137
図Ⅲ－96　包含層の石器04・スクレイパー(9) …… 138
図Ⅲ－97　包含層の石器05・スクレイパー00・石核(1) 139
図Ⅲ－98　包含層の石器06・石核(2)・原石 …… 140
図Ⅲ－99　包含層の石器07・石斧(1) …… 142
図Ⅲ－100 包含層の石器08・石斧(2) …… 143
図Ⅲ－101 包含層の石器09・石斧(3) …… 144
図Ⅲ－102 包含層の石器00・石斧(4) …… 145
図Ⅲ－103 包含層の石器01・石斧(5) …… 146
図Ⅲ－104 包含層の石器02・石斧(6) …… 147
図Ⅲ－105 包含層の石器03・石斧(7) …… 148
図Ⅲ－106 包含層の石器04・たたき石(1) …… 149
図Ⅲ－107 包含層の石器05・たたき石(2) …… 150
図Ⅲ－108 包含層の石器06・たたき石(3) …… 151
図Ⅲ－109 包含層の石器07・砥石(1) …… 152
図Ⅲ－110 包含層の石器08・砥石(2)・石錘・台石(1) … 153
図Ⅲ－111 包含層の石器09・台石(2) …… 154
図Ⅲ－112 包含層の土製品(1)・土偶(1) …… 157
図Ⅲ－113 包含層の土製品(2)・土偶(2) …… 158
図Ⅲ－114 包含層の土製品(3)・土偶(3) …… 159
図Ⅲ－115 包含層の石製品 …… 160
図Ⅳ－1　産出した主な花粉・胞子 …… 164
図Ⅳ－2　試料の出土位置図 …… 166
図Ⅳ－3　黒曜石片の分析結果 …… 168
図Ⅳ－4　胎土型・器形・分類別の分析土器 …… 172
図Ⅴ－1　栄町5・忍路土場・川上B遺跡出土の有舌尖頭器 …… 175
図Ⅴ－2　土壙集成図 …… 177
図Ⅴ－3　Ⅱ群（縄文時代晩期）土器分類図 …… 181
図Ⅴ－4　原産地同定黒曜石 …… 183

表目次

表Ⅰ－1　遺構数一覧 …… 6
表Ⅰ－2　出土遺物一覧 …… 8
表Ⅳ－1　各試料から産出した花粉・胞子数 …… 163
表Ⅳ－2　黒曜石片のフィッション・トラック年代測定結果 …… 167
表Ⅳ－3　黒曜石の水和層年代測定結果 …… 169
表Ⅳ－4　土器胎土の一次鉱物組成 …… 171
表Ⅴ－1　土壙墓一覧 …… 176
表Ⅴ－2　原産地同定黒曜石観察表 …… 184
表Ⅴ－3　黒曜石分類集計表 …… 186
表1　土壙一覧 …… 189
表2　土壙掲載実測土器一覧 …… 189
表3　土壙掲載拓本土器一覧 …… 189
表4　土壙掲載石器一覧 …… 190
表5　包含層掲載実測土器一覧 …… 193
表6　包含層掲載拓本土器一覧 …… 193
表7　包含層掲載石器一覧 …… 195
表8　包含層掲載土・石製品一覧 …… 200

図版目次

図版1　航空写真
1　遺跡近景（RCヘリコプターより，南から）
図版2　西崎山ストーンサークル群(1)
1　第1区（道指定史跡，南から）
2　昭和25年調査時の第1区（駒井　1959より複写）
図版3　西崎山ストーンサークル群(2)
1　第1区西側からシリパ岬方面を見る（東から）
2　第2区（北から）
図版4　西崎山ストーンサークル群(3)
1　第3区1群（北から）
2　第3区2群（南から）
図版5　遺跡の遠景・近景
1　遺跡西側からシリパ岬方面を見る（東から）
2　遺跡遠景（春部川対岸・南西から）
3　遺跡近景（東から）
図版6　調査前の状況
1　調査区北側（南から）
2　調査区南側（北から）

図版７　25％調査
　１　調査区北側（南東から）
　２　調査区北側（北西から）
　３　調査区南側（北東から）
図版８　包含層調査
　１　調査区北側（南東から）
　２　調査区南側（北東から）
図版９　遺構調査
　１　土壙墓の調査（南から）
　２　調査状況（南から）
　３　土壙の調査（北から）
図版10　北側沢部分の調査
　１　包含層調査（北西から）
　２　全景（北西から）
図版11　花粉分析試料・大型礫
　１　花粉分析試料採取状況（南西から）
　２　花粉分析試料採取地点土層（南から）
　３　大型安山岩礫・Ｂ－19（西から）
　４　大型安山岩礫・Ｃ－20（西から）
　５　大型安山岩礫・調査区南側（北東から）
図版12　Ⅰ群土壙(1)・Ｐ－１
　１　遺物・土層断面（北東から）
　２　遺物（南から）
　３　全景（南西から）
図版13　Ⅰ群土壙(2)・Ｐ－２
　１　土層断面（南西から）
　２　全景（南から）
　３　遺物（北から）
　４　遺物（東から）
図版14　Ⅰ群土壙(3)・Ｐ－３
　１　遺物（北東から）
　２　全景（南西から）
図版15　Ⅰ群土壙(4)・Ｐ－５
　１　遺物（南から）
　２　歯エナメル質（南西から）
　３　全景（南西から）
図版16　Ⅰ群土壙(5)・Ｐ－11
　１　遺物（北から）
　２　土層断面（北東から）
　３　遺物（西から）
図版17　Ⅰ群土壙(6)・Ｐ－20
　１　遺物（北西から）
　２　土層断面（南東から）
　３　遺物（南東から）
図版18　Ⅱ群土壙(1)
　１　Ｐ－４遺物（西から）
　２　Ｐ－４全景（西から）
　３　Ｐ－７遺物（南西から）
図版19　Ⅱ群土壙(2)・Ｐ－６
　１　遺物・土層断面（南から）
　２　全景（南から）
　３　遺物（南から）
図版20　Ⅱ群土壙(3)・Ｐ－８
　１　遺物（南西から）
　２　遺物・土層断面（南から）
　３　全景（南から）
図版21　Ⅱ群土壙(4)・Ｐ－８
　１　土器内のフレイク
　２　Ｘ線写真（上面）
　３　Ｘ線写真（側面）
図版22　Ⅲ群土壙(1)
　１　Ｐ－９全景（南西から）
　２　Ｐ－13全景（北西から）
　３　Ｐ－13遺物（北西から）
　４　Ｐ－17遺物（北西から）
　５　Ｐ－17全景（北西から）
図版23　Ⅲ群土壙(2)
　１　Ｐ－19遺物（西から）
　２　Ｐ－23遺物（北から）
　３　Ｐ－24遺物（北西から）
　４　Ｐ－24全景（北西から）
　５　Ｐ－25遺物（北から）
　６　Ｐ－25全景（北から）
図版24　Ⅳ群土壙(1)
　１　Ｐ－10土層断面・遺物（南東から）
　２　Ｐ－10全景（南西から）
　３　Ｐ－12遺物（南西から）
　４　Ｐ－14全景（南から）
　５　Ｐ－15遺物（北から）
　６　Ｐ－16全景（南東から）
図版25　Ⅳ群土壙(2)
　１　Ｐ－18遺物（西から）
　２　Ｐ－21遺物（北から）
　３　Ｐ－22遺物（北から）
　４　Ｐ－26遺物（北から）
図版26　Ⅳ群土壙(3)
　１　Ｐ－27遺物（南から）
　２　Ｐ－28遺物（南西から）
　３　Ｐ－29遺物（南から）
　４　Ｐ－30遺物（西から）
　５　Ｐ－31遺物（南から）
図版27　復元土器(1)
　１　Ｐ－５の土器（図Ⅲ－20－１）
　２　Ｐ－４の土器（図Ⅲ－39－１）
　３　Ｐ－６の土器（図Ⅲ－39－４）
　４　Ｐ－６の土器（図Ⅲ－39－５）

5　P－7の土器（図Ⅲ－40－9）
6　P－8の土器（図Ⅲ－40－10）
図版28　復元土器(2)
1　P－14の土器（図Ⅲ－58－18）
2　P－14の土器（図Ⅲ－58－19）
3　P－14の土器（図Ⅲ－58－20）
4　P－16の土器（図Ⅲ－60－48）
5　P－22の土器（図Ⅲ－61－64）
6　包含層の土器（図Ⅲ－65－11）
7　包含層の土器（図Ⅲ－65－17）
8　包含層の土器（図Ⅲ－66－18）
9　包含層の土器（図Ⅲ－66－19）
図版29　遺構の遺物(1)
1　P－1の遺物(1)（½・⅓）
図版30　遺構の遺物(2)
1　P－1の遺物(2)（½・⅓）
図版31　遺構の遺物(3)
1　P－2の遺物(1)（½・⅓）
図版32　遺構の遺物(4)
1　P－2の遺物(2)（⅓）
2　P－3の遺物（½・⅓）
3　P－5の遺物(1)（½・⅓）
図版33　遺構の遺物(5)
1　P－5の遺物(2)（⅓）
2　P－11の遺物(1)（½・⅓）
図版34　遺構の遺物(6)
1　P－11の遺物(2)（½・⅓）
2　P－20の遺物(1)（½・⅓）
図版35　遺構の遺物(7)
1　P－20の遺物(2)（⅓）
図版36　遺構の遺物(8)
1　P－20の遺物(3)（⅓）
2　P－4・6・8の遺物（½・⅓）
3　P－9・13・17・24・25の遺物（½・⅓）
4　P－10の遺物（⅓）
図版37　遺構の遺物(9)
1　P－12・14の遺物（½・⅓）
図版38　遺構の遺物(10)
1　P－15・16・18・21・22・26・27・28・30の遺物（½・⅓）
図版39　包含層の土器(1)
1　中・後期（⅓）
2　晩期・深鉢(1)（⅓）
図版40　包含層の土器(2)
1　晩期・深鉢(2)（⅓）
図版41　包含層の土器(3)
1　晩期・深鉢(3)（⅓）
図版42　包含層の土器(4)
1　晩期・深鉢(4)（⅓）
2　晩期・鉢(1)（⅓）
図版43　包含層の土器(5)
1　晩期・鉢(2)（⅓）
図版44　包含層の土器(6)
1　晩期・鉢(3)（⅓）
図版45　包含層の土器(7)
1　晩期・浅鉢(1)（⅓）
図版46　包含層の土器(8)
1　晩期・浅鉢(2)（⅓）
図版47　包含層の土器(9)
1　晩期・浅鉢(3)（⅓）
図版48　包含層の土器(10)
1　晩期・壺(1)（⅓）
図版49　包含層の土器(11)
1　晩期・壺(2)・異形・底（⅓）
図版50　包含層の石器(1)
1　石鏃(1)（½）
2　石鏃(2)（½）
図版51　包含層の石器(2)
1　石鏃(3)（½）
2　やり先またはナイフ（½）
図版52　包含層の石器(3)
1　石錐・つまみ付きナイフ（½）
2　スクレイパー(1)（⅓）
図版53　包含層の石器(4)
1　スクレイパー(2)（⅓）
2　スクレイパー(3)（⅓）
図版54　包含層の石器(5)
1　スクレイパー(4)（⅓）
2　石核・棒状原石（⅓）
図版55　包含層の石器(6)
1　石斧(1)（⅓）
2　石斧(2)（⅓）
図版56　包含層の石器(7)
1　石斧(3)（⅓）
2　たたき石(1)（⅓）
図版57　包含層の石器(8)
1　たたき石(2)（⅓）
2　砥石（⅓）
図版58　包含層の石器(9)・石製品
1　台石（¼）
2　石製品（⅓）
図版59　包含層の土製品(1)
1　土偶(1)（⅓）
図版60　包含層の土製品(2)
1　土偶(2)（⅓）
2　土偶(3)（⅓）

Ⅰ　調　査　の　概　要

1　調　査　要　項

事　業　名　北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内埋蔵文化財発掘調査
委　託　者　北海道後志支庁
受　託　者　財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺　跡　名　栄町５遺跡（北海道教育委員会登載番号：Ｄ－19－48）
所　在　地　余市郡余市町栄町550－２
調査面積　4,191m²
調査期間　昭和63年４月16日～平成元年３月25日（現地調査　６月20日～10月25日）
　　平成元年４月20日～平成２年３月31日　※整理作業のみ

2　調　査　体　制

財団法人北海道埋蔵文化財センター　理事長　澤　宣彦
専務理事　山本慎一（昭和63年５月31日まで）
　　永田春男（昭和63年６月１日から）
常務理事　竹田輝雄（非常勤）（昭和63年６月１日から）
業務部長　伊藤庄吉　　調査部長　中村福彦
昭和63年度　調査部調査第３課長　大沼忠春
　　同主任　長沼　孝（発掘担当者）
　　同嘱託　前田正憲　　同嘱託　森岡健治
平成元年度　調査部調査第４課長　千葉英一
　　同主任　長沼　孝
　　同文化財保護主事　森岡健治（調査第１課）

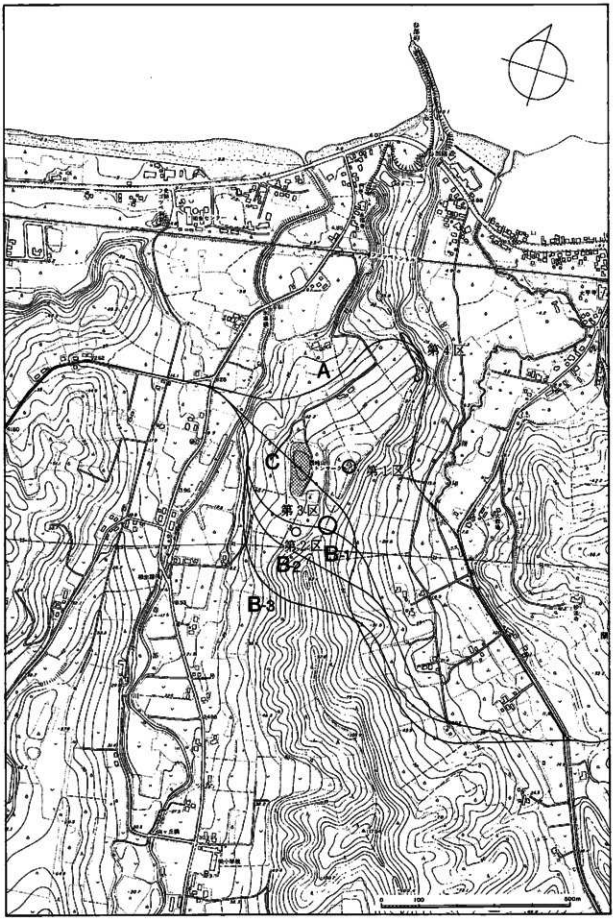
3　調　査　の　経　緯

北海道は，北後志における農産物の円滑な輸送，生活環境の整備，農業経営の安定向上などをはかることを目的とした北後志東部地区営農団地整備計画の一環として，小樽市，余市町，仁木町の１市２町にわたる広域農道の整備計画を策定した。　広域農道

一方，小樽西部から余市町にかけての地域には，国指定史跡忍路環状列石・フゴッペ洞窟，道指定史跡地鎮山巨石記念物・西崎山ストーンサークルなどの著名な遺跡のほか多数の埋蔵文化財包蔵地が所在することが古くから知られていた。　指定史跡

そのような状況で，昭和58年４月，後志支庁（以下支庁）から北海道教育委員会（以下道教委）に埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。以後，１市２町の該当遺跡について，道教委による所在・範囲確認調査が行われ，支庁，道教委，地元教育委員会などによる協議を経て，一部については記録保存のための発掘調査が実施された。　事前協議

小樽市に関わる発掘調査は，昭和59年に忍路11遺跡（調査主体　小樽市教育委員会），昭和60～62年に忍路土場・忍路５遺跡（調査主体　㈶北海道埋蔵文化財センター）で行われ，いずれも報告書が刊行されている（小樽市教育委員会　1985，㈶北海道埋蔵文化財センタ　発掘調査



図Ⅰ－1　遺跡の位置と工事計画路線図

— 1989)。

当遺跡周辺に関しては，道指定史跡西崎山ストーンサークルの隣接地という関係から，遺跡の現状保存のため2度の路線変更がなされた。当初計画は舌状丘陵の中腹をまわるA ルートであったが，Bルートの検討を経て，Cルートに決定された(図Ⅰ－1)。その結果，指定地第1区以外の第2～4区の石組・石積群についても現状保存されることとなった。 各ルートに関する協議と調査は下記のとおりである。

路線変更

現状保存

Aルート　昭和59年8月　所在確認調査

　　昭和60年7月　範囲確認調査　第4区の石組・石積群の確認

Bルート　昭和61年9月　事前協議書（2次）提出（ルート変更のため）

　　同年同月　所在・範囲確認調査　第2・3区の石組・石積群の確認

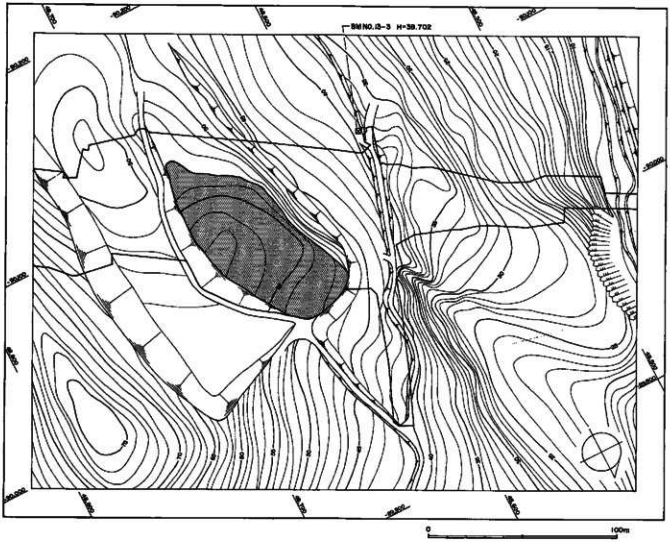
Cルート　昭和62年4月　事前協議書（3次）提出（ルート変更のため）

　　同年5月　範囲確認調査　栄町5遺跡範囲確定

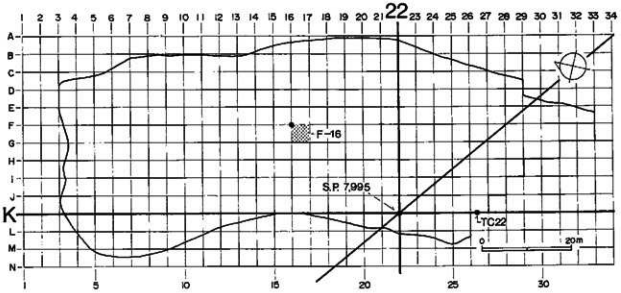
栄町5遺跡

　　昭和63年2月　事前協議書（4次）提出（ルート・工事内容決定のため）

以上の結果，昭和63年3月，栄町5遺跡については工事着工以前に2,815m²の発掘調査が



図Ⅰ－2　調査区域図



図Ⅰ－3　発掘区設定図

必要との回答が道教委から支庁に出された。その後，道教委と支庁に御北海道埋蔵文化財センター（以下埋文センター）が加わった3者で協議の結果，昭和63年6月～10月の期間に埋文センターが発掘調査を実施することとなった。さらに同年7月，工事計画の一部変更による調査区域の拡大と予想を大きく上回る遺物の出土という問題が生じ，支庁，道教委，埋文センターの3者で協議の結果，現地調査については昭和63年度内に終了し，整理，報告書作成については翌年度も継続して行うこととなった。最終的な調査面積は4,191m²（図Ⅰ－2）である。

計画変更

4　調　査　概　要

(1)　発掘区の設定

発掘区は，アルファベットの大文字と数字の組合せで表示し，規格は4×4 mとした。

設定基準　設定の基準は，道幅センターのS.P.7,995mと測量ポイントTC22で，それらを結んだ線を南北の基線（Kライン），その線に直交し，S.P.7,995mを通る線を東西の基線（22ライン）とし，図Ⅰ－3のように4 m間隔でラインを設定した。その結果，調査区域は，南北は3～33ライン，東西はA～Nラインの間となった。なお，S.P.7,995m，TC22の測量成果は下記のとおりである。

測量成果　S.P.7,995m　X＝－90,083.99m　Y＝48,647.32m
TC22　X＝－90,078.02m　Y＝48,641.91m　（平面直角座標　第XI系）

発掘区の呼称は，4 m四方の区画の北東隅のラインの交点で表示した。例えばFラインと16ラインの交点の南西側がF－16区画ということになる（図Ⅰ－3）。

方　位　発掘区の方向は，平面直角座標の南北方向とN－12°38′55″－Wである。したがって，遺構の作図にあたって方位は，東西方向のライン（アルファベットの大文字）と方位記号の角度を12.5°にした。なお，各遺構の標高の測定にあたっては，調査区域の西方60mに工事用に設置されていたB.M. No.13－3（H＝39.702m）（図Ⅰ－2）を利用した。

水準点

(2)　調査の方法

調査は，調査区全域の草刈り後，遺跡全体の状況を把握するため，全体の25%の発掘区を掘開することから始めた。その後，遺構，遺物の多い部分から順次調査を進めた。遺物の大部分はⅠ層の耕作土中から出土し，それらは4×4ｍの発掘区単位で一括して取り上げた。また，14ラインより北側のF～Hライン付近の小さな沢地形部分ではプライマリーな包含層(Ib)がわずかに残存していた。しかし，遺物は流れ込みと思われる状況で発見されたため，Ⅰ層同様，発掘区単位で一括して取り上げた。遺構から出土した遺物については，可能な限り出土状況を記録し，本文中に図示した。しかし，調査区全域は心土破砕による攪乱が著しく，幅10cm程の溝が60cmの間隔で縦横にみられ，遺構内の遺物もかなり動かされている状況であった。明らかに心土破砕による移動と思われるものは取り上げたが，識別が困難な場合も多かった。したがって，図示したものがすべて遺物の原位置を示しているとは限らない。

25%調査

包含層(Ib)

心土破砕

土壌サンプル

土壌サンプルは，H－13の北壁のプライマリーな包含層(Ib)で花粉分析試料，P－8の内部，周囲および出土壺形土器内から脂肪酸分析試料をそれぞれ採取した。

(3)　整理の方法

当初，遺物の水洗，注記を現地で行う予定であったが，遺物が予想を大きく上回ったため，現地では水洗と遺物の種類別の分類のみを行い，注記は札幌のセンターで現地調査と並行して実施した。

並行整理

土器復元

土器は細片化していたため，出土点数の割に接合が進まず，24個体程復元できたが，完形に近いものは3点程である。

石器類も土器同様，心土破砕や耕作によるダメージを受けているものが多く，接合作業を進めたが，欠損しているものが多い。また，黒曜石製の石器については，産地同定(Ⅳ－2(1))に関連して，肉眼的な分類を試みた。

産地同定

(4)　遺構，遺物の分類

遺構

住居跡，焼土などは全くみられず，土壌のみが確認され，Pの略号を付けた。

土壌分類

報告書の作成段階で，土壌を形態や遺物の出土状況からⅠ～Ⅳ群の4つのグループに分け，Ⅰ群は土壌ごとに，Ⅱ～Ⅳ群は群ごとに遺物を図示した。

Ⅰ群は，土壌墓と考えられるもので，副葬品，ベンガラなどが確認されている。

Ⅱ群は，平面形が楕円形，長径が0.8m以下の小型の土壌で，壺形土器が単独または他の遺物とともに出土している。

Ⅲ群は，土壌から礫がまとまって出土し，平面形は円形に近く，断面形は長方形，掘り方はしっかりしている。

Ⅳ群は，Ⅰ～Ⅲ群に含まれないもので，平面形は円形，楕円形，不整形などでバラエティーに富んでいる。断面形はⅢ状に近いものが多く，遺物は覆土中から流れ込んだ状態で出土している。

遺物

土器，石器，土・石製品のほか，フレイク・チップ，自然礫などがある。

土　　器　土器は縄文時代中・後期と晩期のものが出土し，中・後期をⅠ群，晩期をⅡ群とした。

中・後期のⅠ群土器はわずかであるが，中期後葉・後期初頭～中葉のものがあり，１～３類に分けた。

晩期のⅡ群土器は大洞Ａ式前後の時期とみられるが，若干の時期差がみられることから１～３類に分類し，さらに道南系（a）と道央系（b）に分けた。

石　　器　石器は器種別に大分類を行ったのみで，記号による細分はおこなっていない。剝片石器には石鏃，やり先またはナイフ，石錐，スクレイパー，楔形石器などが，礫石器には石斧，たたき石，砥石(矢柄研磨器を含む)，台石などがある。このほか石核，黒曜石・石斧原石，フレイク・チップ，自然礫などがある。また，Uフレイクとしたものは utilized flake とみられるものである。

土 製 品　土製品としては，大型の土偶と思われるものの破片が多数出土しているが，個体数は２個体と思われる。

石 製 品　石製品としては，垂飾，玉，有孔石製品，石棒，有溝石製品などが出土している。

(5)　遺跡の概要

発見された遺構と遺物は表Ⅰ－１，２のとおりである。遺構は31基の土壙のみで，時期はすべて縄文時代晩期後葉と考えられる(図Ⅰ－４)。31基の土壙は形態や遺物の出土状況からⅠ～Ⅳ群に分けたが，そのうち性格が明らかなのは，Ⅰ群の土壙墓と考えられるものだけである。

土 壙 墓　土壙墓とみられるⅠ群土壙は６基あり，いずれも副葬品と考えられる各種の石器のほか，壙底部でベンガラが確認されている。人骨は全く出土しなかったが，１基で歯のエナメル質部分を確認できた。

Ⅱ群土壙は，壺形土器の出土している小型のもので，４基ある。そのうち１基では完形に近い土器が斜めになった状態で出土し，その中には黒曜石製の大型フレイクが５点入っていた。

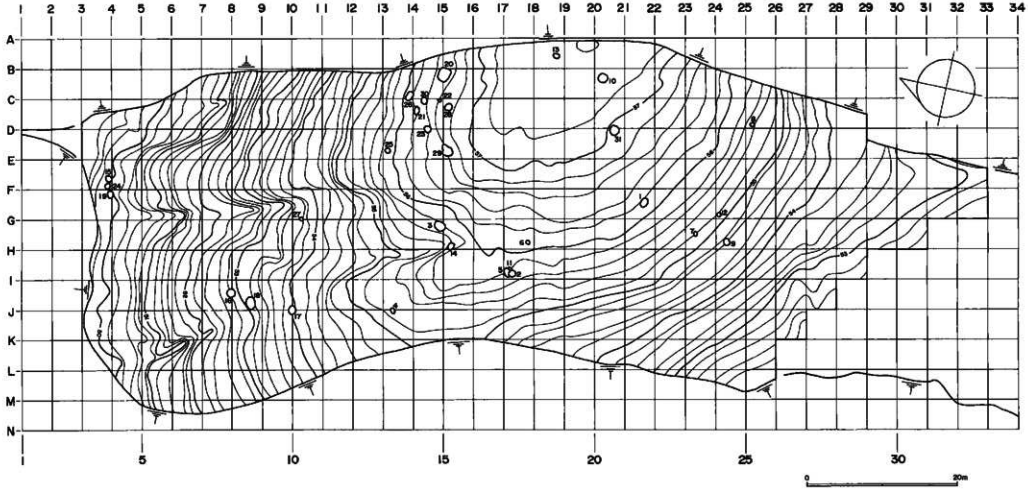
Ⅲ群土壙は７基，覆土中に礫が入っているもので，平面形は円形に近く，掘り込みもしっかりしている。礫は安山岩製の角礫が多く，石器類は少ない。

Ⅳ群土壙は，14基，Ⅰ～Ⅲ群に含まれないもので，平面形は各種ある。

遺 物 数　遺物総数は102,146点（表採などを加えると102,330点）(図Ⅰ－５)，そのうち遺構出土のものは2,708点，遺構は全体の2.7%にすぎない。遺物は南側の一部を除きほぼ全域の発掘区から出土しており，最も多いところでは４×４ｍの発掘区で2,360点出土している。また，１m²あたりの出土点数は，４×４ｍの発掘区を調査した部分で最大148点であるが，平均は25点である（図Ⅰ－５)。土器，土製品総数は75,844点，石器，石製品総数は2,688

表Ⅰ－１　遺構一覧

土壙分類	遺構番号	数量
Ⅰ群土壙(墓)	P－1・2・3・5・11・20	6
Ⅱ群土壙	P－4・6・7・8	4
Ⅲ群土壙	P－9・13・17・19・23・24・25	7
Ⅳ群土壙	P－10・12・14・15・16・18・21・22・26・27・28・29・30・31	14
計		31

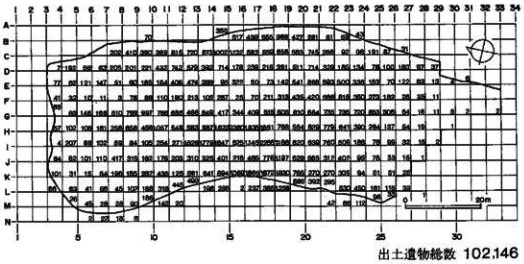

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34
A B C D E F G H I J K L M N
1 5 10 15 20 25 30
0 20m

図Ⅰ－4　遺構分布図

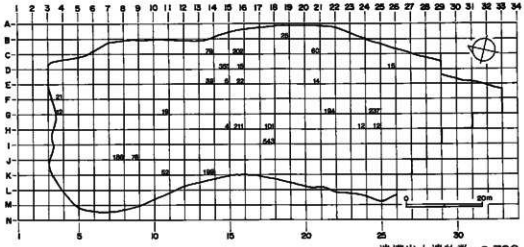
点，フレイク，礫などの総数は23,614点，土器などが圧倒的に多く，全体の74%を占める（図Ⅰ－6）。土器は中・後期と晩期のものがあるが，中・後期のものは0.2%と少量である。石器は器種別にみると石鏃が37%，スクレイパーが34%と，二つの器種で全体の71%を占めるという特徴がある。土器のほとんどが晩期後葉のものであることから考えて，石器類も同時期のものと考えてよいであろう。

表Ⅰ－2　出土遺物一覧

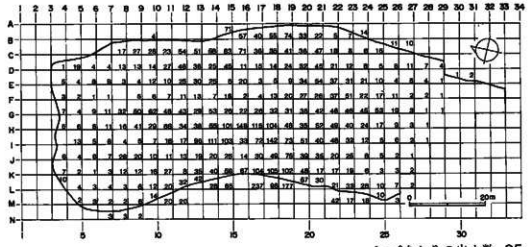
出土地点 / 種類	遺構	包含層	小計	表採・排土	合計
縄文中・後期土器		116	116		116
縄文晩期土器	1,696	73,935	75,631	130	75,761
土器小計	1,696	74,051	75,747	130	75,877
石鏃	104	795	899	1	900
やり先・ナイフ	5	27	32		32
石錐	3	22	25		25
つまみ付ナイフ		7	7		7
スクレイパー	28	798	826		826
楔形石器	1	12	13		13
石器片他	7	169	176		176
剥片石器小計	148	1,830	1,978	1	1,979
石斧	40	269	309	1	310
石斧原石	2	2	4		4
たたき石	6	54	60	2	62
すり石		5	5		5
石錘		1	1		1
砥石		29	29		29
矢柄研磨器	6	3	9		9
台石	1	10	11	1	12
磨器	1		1		1
礫石器小計	56	373	429	4	433
石棒	7	168	175		175
棒状原石	2	5	7		7
原石	4	33	37		37
Uフレイク	77	897	974		974
フレイク・チップ	406	21,617	22,023	41	22,064
礫・礫片	245	372	617	8	625
石器等小計	741	23,092	23,833	49	23,882
土製品	14	83	97		97
石製品	53	9	62		62
合計	2,708	99,438	102,146	184	102,330



出土遺物総数 102,146

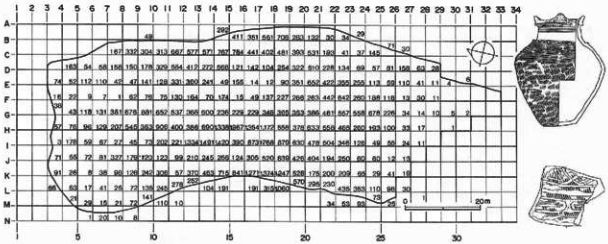


遺構出土遺物数 2,708

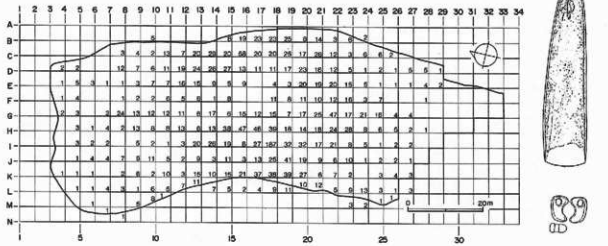


1 m²あたりの出土数 25

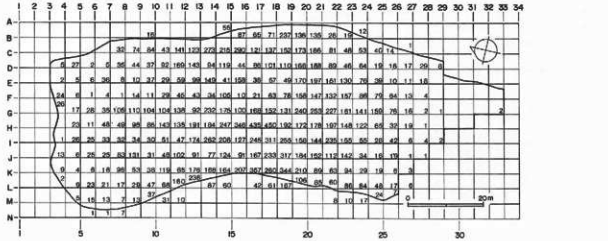
図Ⅰ－5　発掘区別遺物出土点数



土器・土製品　75.844



石器・石製品　2.688



フレイク等　23.614

図Ⅰ－6　発掘区・種類別遺物出土点数

Ⅱ　遺跡の位置と周辺の環境

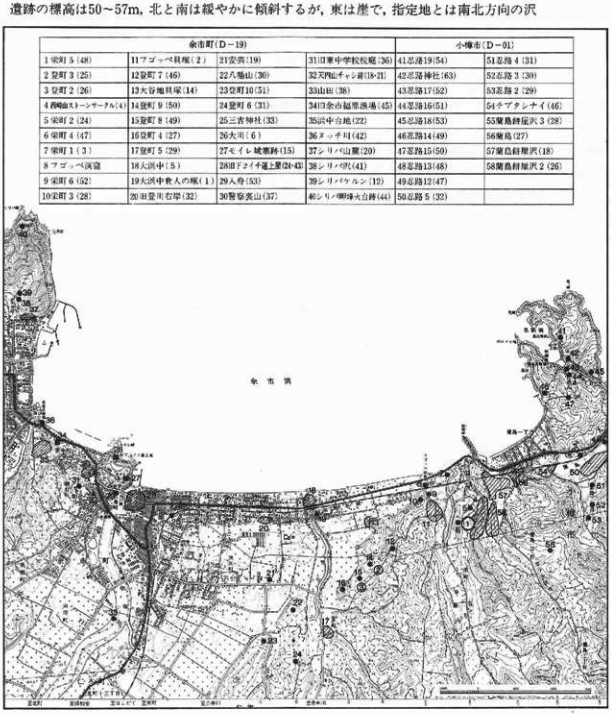
1　遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡の所在する余市町は後志（しりべし）支庁管内の東部にあり，東は小樽市，南は赤井川村・仁木町，西は古平町に囲まれ，北は日本海に面している。町は西のシリパ岬と東の兜岬に挟まれた余市湾に沿って広がり，遺跡のある栄町は小樽市に接する町の東端に位置している。遺跡の立地する南北にのびた丘陵は，春部（ムデマン）川の東側にそってわずかに傾斜して余市湾に突出した春部岬につながっている。この丘陵上には縄文時代後期とみられるストーンサークルが点在し，その一部は「西崎山ストーンサークル」として，道指定史跡となっている。遺跡の標高は50～57m，北と南は緩やかに傾斜するが，東は崖で，指定地とは南北方向の沢

シリパ岬

ストーンサークル

余市町（D－19）				小樽市（D－01）	
1 栄町５（48）	11フゴッペ貝塚（２）	21宏漁（19）	31旧東中学校校庭（36）	41忍路19（54）	51忍路４（31）
2 登町３（25）	12登町７（46）	22八幡山（30）	32天狗山チャシ跡（18・21）	42忍路神社（63）	52忍路３（30）
3 登町２（26）	13大谷地貝塚（14）	23登町10（51）	33山田（38）	43忍路17（52）	53忍路２（29）
4 西崎山ストーンサークル（４）	14登町９（50）	24登町６（31）	34旧余市福祉病院（45）	44忍路16（51）	54チプタシナイ（46）
5 栄町２（24）	15登町８（49）	25三吉神社（33）	35浜中台地（22）	45忍路18（53）	55蘭島餅屋沢３（28）
6 栄町４（47）	16登町４（27）	26大川（６）	36ヌッチ川（42）	46忍路14（49）	56蘭島（27）
7 栄町１（３）	17登町５（29）	27モイレ城郭跡（15）	37シリパ山麓（20）	47忍路15（50）	57蘭島餅屋沢（18）
8 フゴッペ洞窟	18大浜中（５）	28旧ドライ電上屋（24・43）	38シリパ沢（41）	48忍路13（48）	58蘭島餅屋沢２（26）
9 栄町６（52）	19大浜中教人の塚（１）	29入舟（53）	39シリパケルン（12）	49忍路12（47）	
10栄町３（28）	20旧登用右岸（32）	30警察長山（37）	40シリパ岬弾火台跡（44）	50忍路５（32）	



図Ⅱ－１　遺跡の位置と周辺の遺跡（国土地理院発行２万5千分の１地形図余市を縮小）

を挟んで対峙し，独立丘陵に近い状態となっている。

西崎山ストーンサークル群については第２節で説明することとし，ここでは余市町東部の遺跡について説明する。

余市町の遺跡は，立地のうえから大きく丘陵部のものと沖積平野のものと二つに分けることができる（図Ⅱ－１）。丘陵部の遺跡はさらに余市川を挟んで東西に分られ，東側は登川と春部川の流域に集中している。

当遺跡(1)の立地する春部川の右岸では，西崎山ストーンサークル群(4)のほか，当遺跡に隣接して栄町３(5)・栄町４(6)遺跡があり，さらに北側の春部岬へつながる丘陵先端部分は

春部チャシ　かつて「春部チャシ」（西田　1932），「フゴッペ岬チャシ・蘭島チャシ」（河野　1958a・b）と呼ばれているが，確かではない。

フゴッペ貝塚　春部川の左岸には，今年度調査したフゴッペ貝塚(11)のほか栄町２(10)・栄町６(9)遺跡などがある。フゴッペ貝塚の調査では，縄文時代中期を中心とした大量の遺物とともに40軒の住居跡，148基の土壙，23ヵ所の焼土，貝塚のブロックなどが発見されている。

登町２・３　登川の流域では，今年度フゴッペ貝塚と同時に調査した登町２(3)・登町３(2)遺跡があり，

登町５　いずれも縄文時代中期の北筒式を主体とする遺物が発見されている。また，登町５遺跡(17)

登町４　では縄文時代後期の土偶２点が，登町４遺跡(16)付近では縄文時代晩期の当遺跡出土のもと類似した土偶１点が採集されている（名取・峰山　1968）。さらに登町４(16)・登町６(24)遺

登町４・６

八幡山　跡では配石遺構が，八幡山遺跡(22)では配石遺構と石棒などが発見されている（佐藤　1977，余市町教育研究所編集委員会　1982，登郷土誌作成委員会　1986）。

黒川砂丘

安芸　沖積平野に立地する遺跡は，主に黒川・大川砂丘に分布する。内陸部に位置する黒川砂丘上で登載されているのは安芸遺跡(21)のみであるが，他にも縄文時代前期を中心とした遺

大川砂丘

大川　跡が点在するらしい。国道５号線が走っている大川砂丘では縄文時代晩期以降から近世にわたる遺跡が点在する。最も西側に位置する余市川河口の大川遺跡では河川改修工事に伴って今年度から発掘調査が開始され，統縄文～中・近世の遺構・遺物が多数出土している。

大浜中　登川の河口に位置する大浜中遺跡(18)では15世紀代の中国製磁器がまとまって発見され（松下 1973），また，最近では刀装具や甲冑の部品が注目を浴びている（佐藤　1990）。砂丘の西

フゴッペ洞窟　部付近では国指定史跡フゴッペ洞窟(8)のほか栄町１遺跡(7)がある。また，大川砂丘の南側，丘

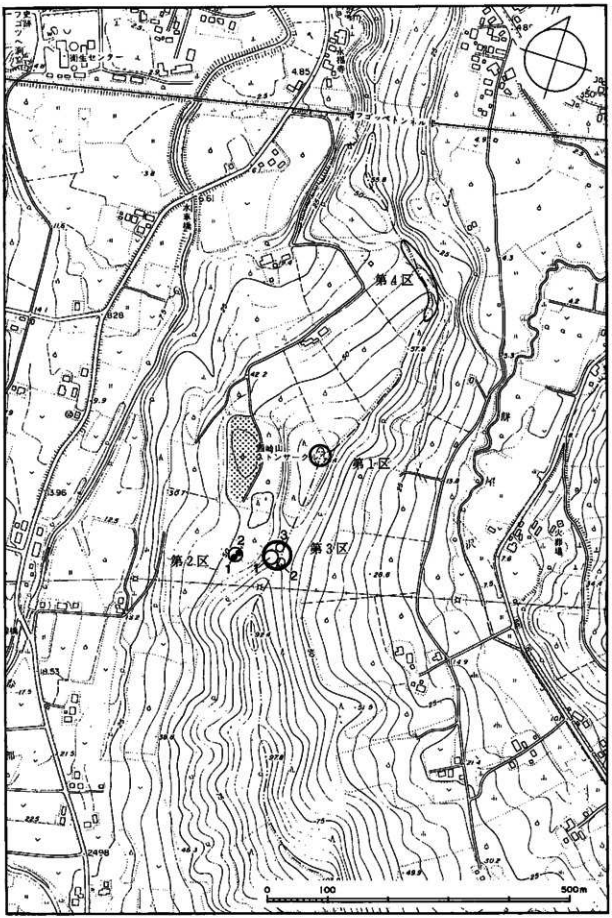
大谷地貝塚　陵部に接するように縄文時代後期初頭の余市式の貝塚として著名な大谷地貝塚(13)がある。大谷地貝塚では貝塚のほか，道内では数少ない中空の大型土偶も出土している（清野　1969）。

２　西崎山ストーンサークル群

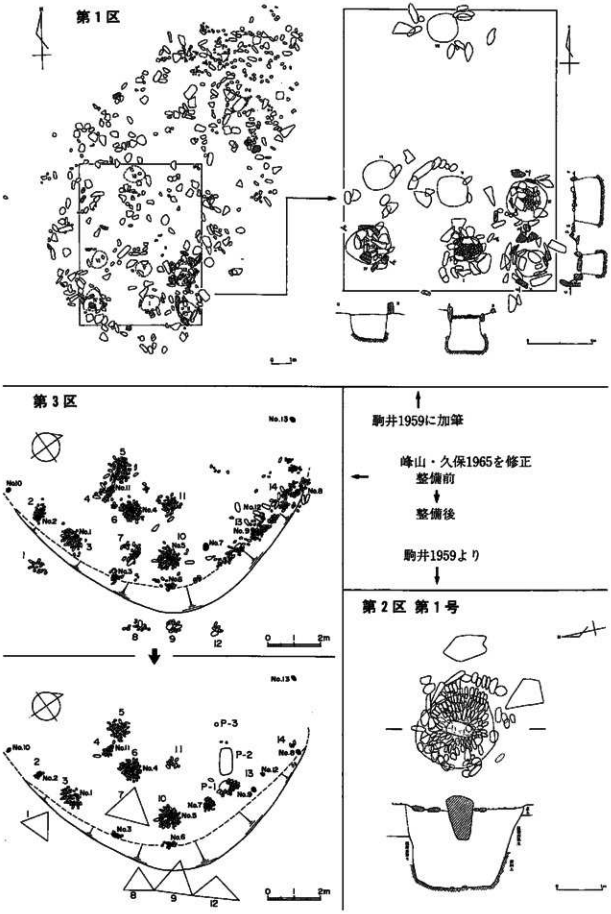
西崎山ストーンサークル群は，昭和25～27年東京大学駒井和愛，昭和38年町教委峰山厳・久保武夫，昭和43・47年北海道大学大場利夫・重松和男などによって調査されている（駒井　1959，峰山・久保　1965，大場・重松　1977）が，今回，工事に伴う範囲確認調査，発掘調査などによってその所在を再確認したので，以下に調査歴，現況などを整理する。

ストーンサークル群は，北側から大場・重松の調査した第４区，指定地の第１区，第３区と丘陵上にならび，第３区の南西部，小さな沢を挟んで第２区がある（図Ⅱ－２）。なお，第１～３区の名称は峰山・久保（峰山・久保　1965），第４区の名称は大場・重松（大場・重松　1977）によるもので，ここでもそれらを踏襲し，地区ごとに説明する。

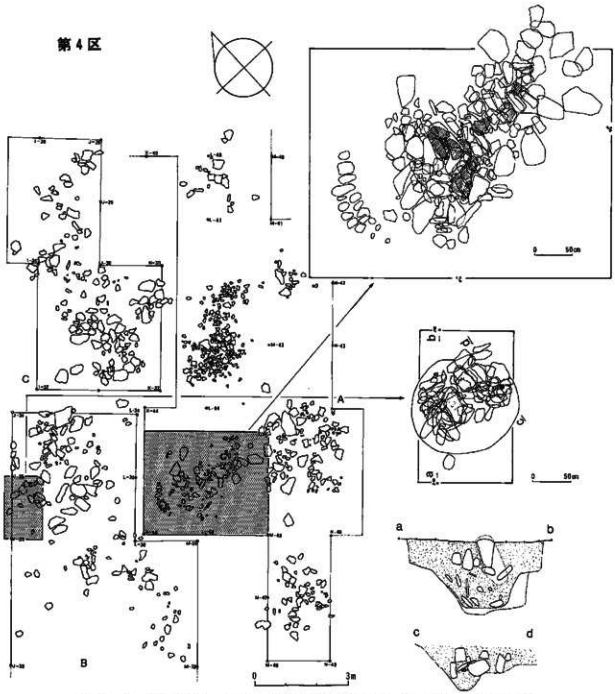
第１区　第１区（図Ⅱ－３，図版２）（駒井　1953・1959）



図Ⅱ－2　西崎山ストーンサークル群位置図



図II－3　西崎山ストーンサークル第1～3区実測図（駒井　1959・峰山・久保　1965に加筆）



図Ⅱ－４　西崎山ストーンサークル第４区実測図（大場・重松　1977に加筆）

昭和25年９・10月　東京大学駒井和愛発掘調査

全域の調査により，東西11m，南北17mの楕円形のストーンサークル確認。南側に径１～２ｍの小型のものを７基（Ⅰ～Ⅶ）確認。うち形状の明らかなものは４基（Ⅰ～Ⅳ），いずれも小環状列石内に河原石や割石の積石があり，その下に深さ70cm前後の穴がある。穴内外の燒分の比較から，いずれも墓壙と推定。遺物は第四号（Ⅳ）敷石の間から縄文時代後期の土器が出土したのみ。

昭和26年９月６日　北海道指定史跡（面積　279m²，所有者　中野芳一）　道指定史跡

西崎山という名称は，中野氏以前の土地の所有者西崎氏の名前に由来するものである。

第２区（図Ⅱ－３，図版３－２）（駒井　1953・1959，峰山・久保　1965）　第２区

昭和26年９月　東京大学駒井和愛発掘調査

第１区の環状列石群のあるところから「小さい沢を一つ越えた西方の台地つまり西崎山の裏」といわれている。第１号（Ⅰ）～第３号（Ⅲ）の３基の組石を確認。第２号と第３号を調査，墓壙などは確認できず，「立石を埋没するための穴」があっただけ。第１号については立石と根かための石を露出した状態で発掘中止。

昭和27年10月　東京大学駒井和愛発掘調査

前年調査を中断した第１号を発掘調査，組石・立石下に墓壙とみられる穴を確認（図Ⅱ－３）。

昭和38年５月　農地造成により一部破壊

第３号消失，第１・２号は上部に石塊が山積みになっていた。

昭和38年７月　町教委（峰山厳・久保武夫・中村子之吉）復元・整備

第１・２号を昭和26・27年調査時の写真をもとに復元・整備。

復元した第１・２号の北方に石積を３ヵ所（a，b，3）確認，昭和39年４月に実測・調査，

日時計型　３基のうち１基（a）は日時計型の石積。

昭和61年９月　範囲確認調査，昭和63年６月　栄町５遺跡発掘調査時に再確認

昭和38年に復元・整備した第１・２号（図版３－２）のみ存在，昭和39年に実測した石積a，b，cは発見できず。

第３区　第３区（図Ⅱ－３，図版４）（駒井　1953・1959，峰山・久保　1965）

昭和27年10月　東京大学駒井和愛発掘調査

駒井1953では「西崎山の南の丘」，駒井1959では「西崎山裏の立石のあるところからさらに南に行った雑木林のなか」といわれている場所に相当するらしい。３基の特殊石組調査？，調査内容・成果不明。

昭和38年５月　農地造成により一部が破壊されていることを確認

昭和38年７月　町教委（峰山厳・久保武夫・中村子之吉）復元・整備

「石塊の集積」を測量（図Ⅱ－３，第３区上段），１～14号を設定，さらに移動のない立石，寝石についてナンバーリング（No.１～No.13）

浮き石を除去し，組石の形態をあらわす整備（図Ⅱ－３，第３区下段）。

整備時において発見した遺構と遺物

日時計型　(1)　特殊組石（立石のある日時計型のもの）　３・４・６・10号，No.７の５基

(2)　サークル状に並列する立石　No.10・３・６・９・８の５個の立石

(3)　寝石のみの組石　２・５・11号の３基

(4)　ピット（Ｐ１～３）　Ｐ１・３は特殊組石の跡，Ｐ２は1.1×0.5m，深さ30cmの穴

(5)　後世の移動による集石　１・７・８・９・12号

(6)　遺物　「石錘の形態を示す」石製品２，「人面状を呈する石製品」１，「石砥様の板状のチャート」１

昭和61年９月　範囲確認調査（道教委），昭和63年６月　栄町５遺跡発掘調査（埋文センター）時に再確認

大きく三群に分けられる。１群は昭和38年に峰山らによって整備がなされたもので，ほぼ整備時の状況を保っている（図版４－１）。２群は昭和38年に移動していたものを集石したもので，河原石の集石がところどころにみられる（図版４－２），３群は最も北側にあるいくつかの集石で，後世に石組らしくしたものらしい。１・２群は農地造成によって部分的に破壊され，

その後，浮石などを取り除き整備が行われているものの，配石のまとまりに関しては造営時の状況を残しているらしい。しかし，3群に関しては造営時には存在していない可能性が強い。

第4区（図Ⅱ－4）（大場・重松　1977）　第4区

昭和43年10～11月，昭和47年9月　北海道大学大場利夫・重松和男発掘調査

5基（第1～5号）の組石遺構を調査，遺構の状況は第1区に類似するが，2種類に分けられる。第1～3号は組石下に浅い皿状の土壙を伴う。第4・5号は第1～3号よりは深い土壙を伴い，その中に立石を中心に石を縦または斜めにしてつめ込んだものである。いずれも墓の可能性を想定しているものの確定するにいたっていない。

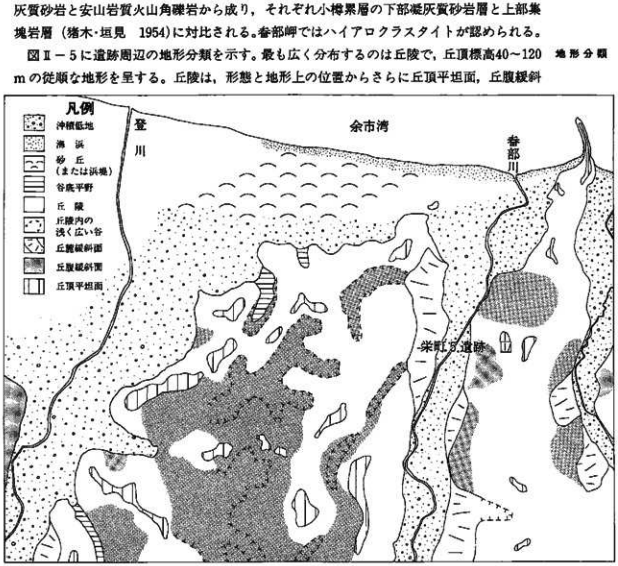
遺物は，第1号から土器片1点，第2号から土器片10数点，石鏃1点，第3号からは復元可能な4個体の小型土器，第4号から小型の完形土器1個，第5号から石鏃1点などが出土。土器はいずれも後期中葉のもので，5基の組石遺構と同時期の所産と考えられている。

昭和60年7月　範囲確認調査（Aルート）（道教委）時に関連する配石遺構を計画路線内で11群確認。

3　遺跡周辺の地形・地質

遺跡周辺は，主に丘陵・砂丘（または浜堤）・沖積低地から成る。丘陵は固結度の低い凝灰質砂岩と安山岩質火山角礫岩から成り，それぞれ小樽累層の下部凝灰質砂岩層と上部集塊岩層（熊木・垣見　1954）に対比される。春部岬ではハイアロクラスタイトが認められる。

図Ⅱ－5に遺跡周辺の地形分類を示す。最も広く分布するのは丘陵で，丘頂標高40～120m の従順な地形を呈する。丘陵は，形態と地形上の位置からさらに丘頂平坦面，丘腹緩斜　地形分類



図Ⅱ－5　遺跡周辺の地形分類図

面及び丘麓緩斜面に細分することができる。丘頂平坦面は丘陵の頂部に位置し，平坦ないしやや凸型の地形である。丘腹緩斜面は，丘頂平坦面を取り巻く斜面のうち，比較的緩傾斜で丘麓緩斜面より高所に位置する。丘麓緩斜面は，丘陵周縁に発達する傾斜10°以下の平滑またはやや凹型の緩斜面である。丘腹緩斜面の一部には，周囲を丘頂で囲まれ，谷の横断形が皿状を呈するものがある。これを丘陵内の浅く広い谷とした。

浅く広い谷

砂　丘　砂丘（または浜奥）としたものは，現汀線に平行な高まりで，春部川河口から西方へ分布する。現登川河口附近の沖積低地との比高は約2.5m である。露頭がないため確認はできていないが，形態と位置から砂丘（または浜奥）と考えられる。

沖積低地は春部川と登川に沿って発達している。丘麓緩斜面との境界は不明瞭なことが多い。

その他に，発達度は悪いが，現汀線沿いには未固結の砂・貝殻片から成る海浜，丘陵内には狭長な侵蝕性低地である谷底平野が認められる。

谷底平野

本遺跡は，標高約55m の平坦面上に立地している。この平坦面は丘頂平坦面とは性質を異にしている。丘頂部には位置しない，周囲を丘腹緩斜面で囲まれた平坦面である。この平坦面の背後には，比高約25m の高所に丘頂平坦面（西崎山ストーンサークルが立地する平坦面）が急斜面を介して分布する。造構運動により山頂平坦面が変位し，平坦面が異なる高度に分布するようになった可能性もあるが，詳細は不明である。遺跡が立地する平坦面も，ここでは便宜的に山頂平坦面に含めている。

造構運動

遺跡が立地する平坦面の基盤（地山・第Ⅳ層）は安山岩質火山角礫岩である。礫はくさり礫化している。マトリックスは赤～赤褐色の泥質物である。基盤全体が赤色味の強い色調を呈する。このような風化礫や色調の特徴は，本基盤の赤～赤褐色風化層が過去の温緩期に生成された古赤色土と推定される一方，母材（岩石）自体の風化・変質特性により単にそのような色調を呈することも考えられる。佐々木ほか（1964）は，小樽附近で古赤色土を認めているが，本遺跡の基盤の赤～赤褐色風化層がこれに当たるか否かは不明である。

古赤色土

4　基本層序

遺跡の層序および層厚は，場所によって異なるが，基本的に次のように整理される。

第Ⅰ層：表土・耕作土・暗褐色土層　20～30cm，遺物の大部分がこの層から出土，耕作・心土破砕による攪乱が著しい。

心土破砕

第Ib層：黒褐色土層（包含層）5～30cm　14ラインより北側の沢地形部分の調査で確認された層で，当初予想されていなかったため，第Ⅰ層をａとｂの二つに細分した。ただし，Ⅰa 層はⅠ層と同一であるため，ａは省略した。この層は部分的な心土破砕の溝以外は攪乱をうけていないと判断されたので，Ｈ－13の北壁から花粉分析試料を採取した。また，南北にのびる沢地形の断面は全体的にＶ字形に近いが，部分的に段状をなしている。成因については定かではないが，小規模な断層の可能性がある。ただし，その時期は遺跡が形成された以前である。

断　層

第Ⅱ層：褐色土層（漸移層か？）10～50cm　第Ⅲ層が脱色されたような感じで，くさり礫化した安山岩・凝灰岩の角礫を多く含む。沢地形部分に厚く堆積し，遺物の出土量は少い。

第Ⅲ層：赤褐色土層　基盤の安山岩質火山角礫岩の風化層。前述のように古赤色土の可能性があるが，定かではない。

古赤色土

Ⅲ　遺構と遺物

遺構は土壙のみであるが，すでに述べているようにⅠ～Ⅳ群の四つに分類したので，各グループごとに説明する。なお，土壙出土の遺物は，Ⅰ群については土壙ごとに示したが，Ⅱ～Ⅳ群については群ごとに示した。遺物の配列は，実測土器，拓本土器，剥片石器，礫石器，土・石製品の順である。

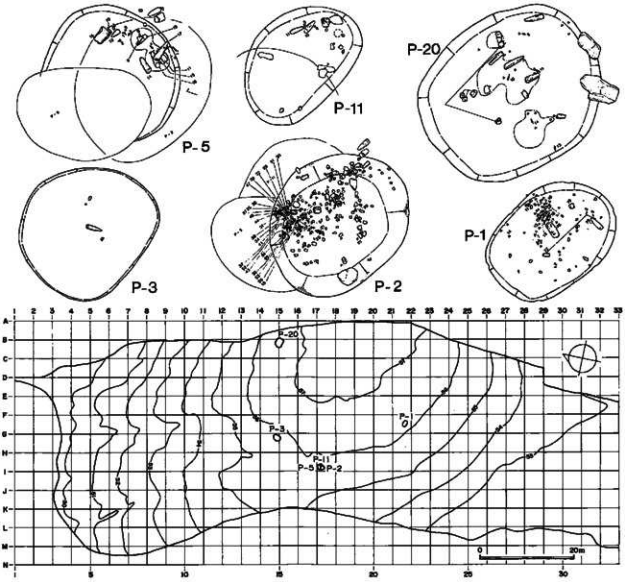
遺物の配列

土壙の次には調査区の18～23ライン，A～Fラインの第Ⅰ層中から出土した大型の安山岩礫について，続いて包含層出土の土器，石器，土・石製品の順で説明する。なお，土壙の規模，出土遺物，掲載遺物の出土地区・層位・大きさなどは巻末の表1～8に示したので参照願いたい。

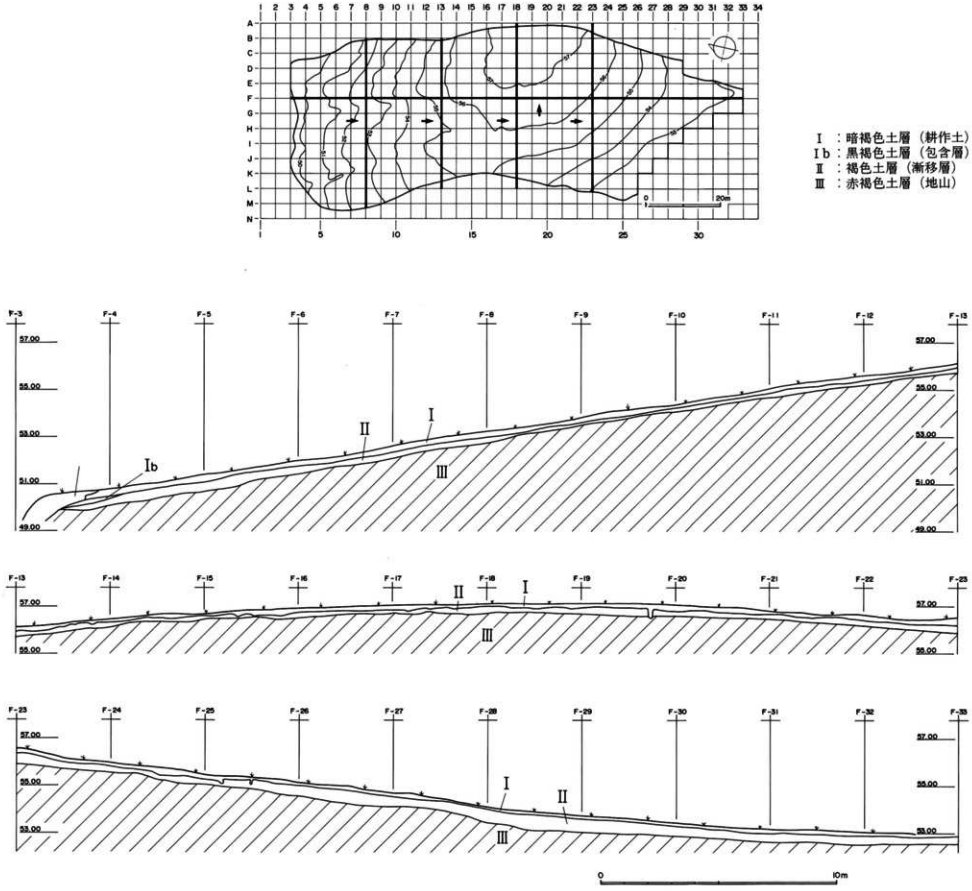
説明の順番

1　土　　壙

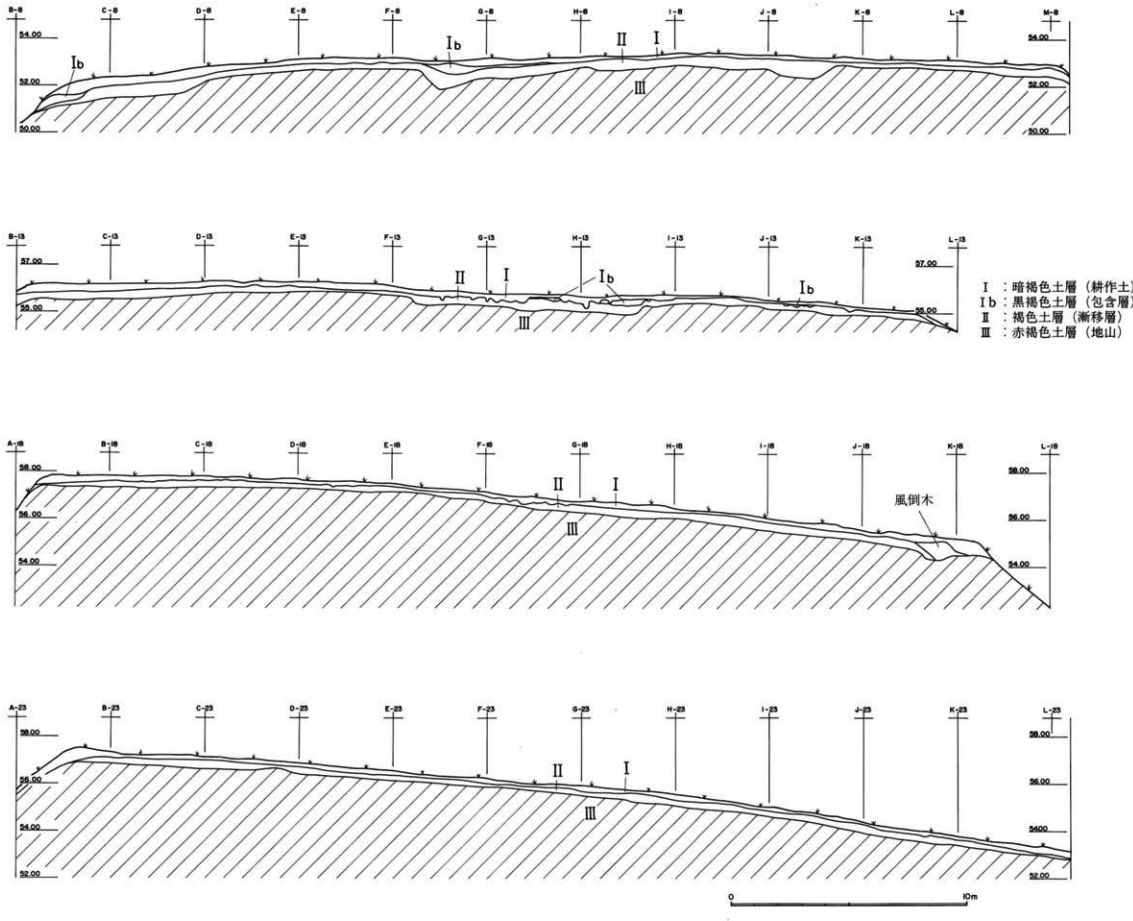
土壙は31基，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ群の順で説明する。



図Ⅲ－1　Ⅰ群土壙分布図

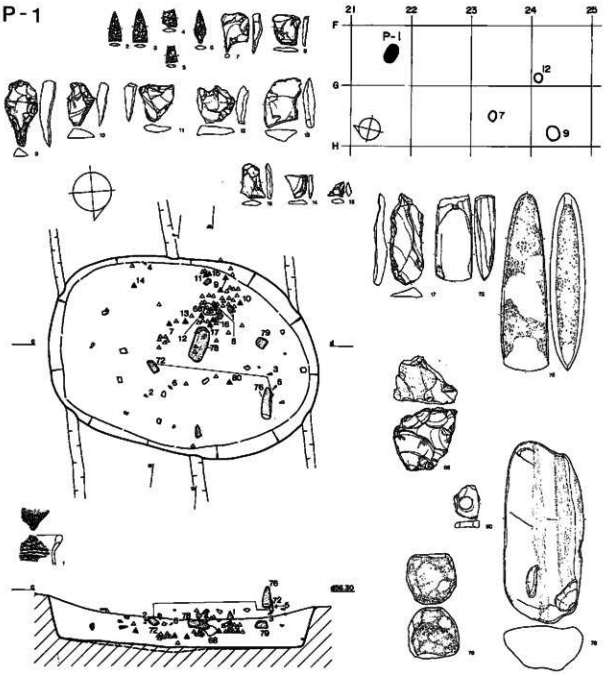


図Ⅱ－6　遺跡土層断面(1)

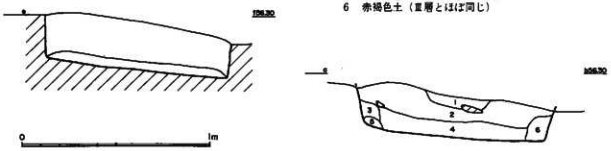


I ：暗褐色土層（耕作土）
Ib：黒褐色土層（包含層）
II ：褐色土層（漸移層）
III ：赤褐色土層（地山）

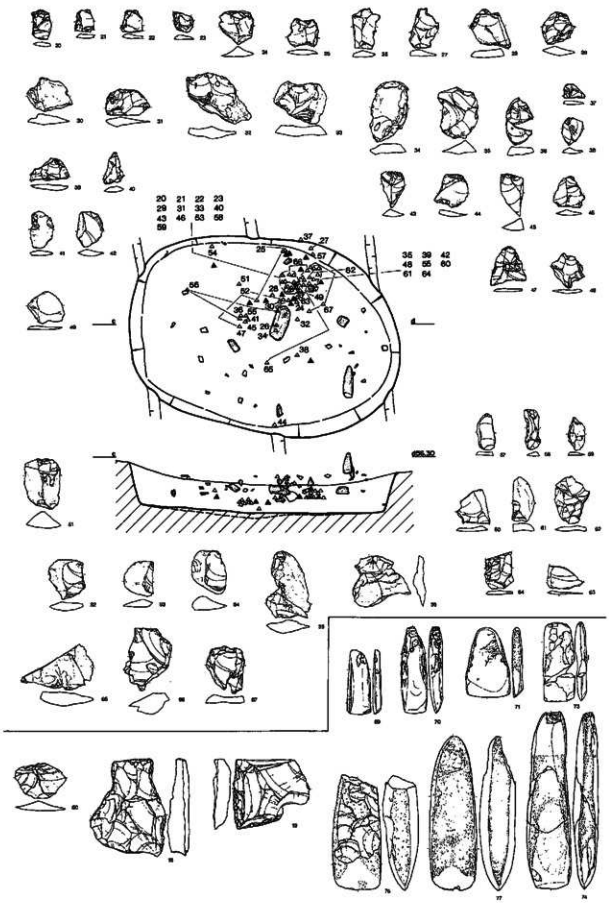
図II－7　遺跡土層断面(2)



1　茶褐色土（耕作土）
2　明赤褐色土（Ⅰ層より粒子が大きく小礫を含む）
3　茶褐色土（やや粘性あり）
4　褐色土（粒子の細かい粘質土，かたい）
5　暗茶褐色土（木根による攪乱）
6　赤褐色土（Ⅱ層とほぼ同じ）



図Ⅲ－２　Ⅰ群土壙(1)・Ｐ－１(1)



図Ⅲ－3　Ⅰ群土壙(2)・P－1(2)

(1) Ⅰ群土壙

調査区のほぼ中央14～22ライン，B～Ⅰラインの区域で6基確認された。6基はいずれも標高56m前後の部分にあり，P－1・3・20は単独であるが，P－2・5・11は重復している(図Ⅲ－1)。6基は形状，遺物の出土状況などからみて，すべて土壙墓と考えられ，位置，規模，頭位，形状の特徴，覆土の状況，出土遺物の順で説明する。なお，遺物の出土状況については，可能な限り図示したが，前述のように心土破砕・耕作によって攪乱されているものもあり，図示したすべてが原位置を示してはいない。また，土壙上部の耕作土中から出土した遺物でも土壙出土の遺物として取り扱ったものがある。

土壙墓 説明の項目

P－1 (図Ⅲ－2～9，図版12・29・30)

位置 F－21　**規模** 1.44×1.03/1.34×0.97/0.20m　**頭位** 不明

平面楕円形 **特徴** 6基のうち最も南側に位置する。平面形は楕円形で，心土破砕による溝が3条，短軸方向にみられる。壙底面は堅く締っており，壁面は比較的急角度で立ち上がっている。ベンガラ，人骨などは確認できなかった。

埋め戻し **覆土** 六層に分けた。壙底面から壁面にかけての第3・4・6層は第Ⅲ層（赤褐色土）を多く含み，粘性が強い。土壙を掘り上げた最後の土で，最初に埋め戻された土と思われる。

出土遺物 遺構確認面より上部の耕作土から石斧7点，安山岩製のスクレイパー2点などが，覆土中から土器32点，石器等が162点出土した。覆土中のものは大部分が第2層から出土し，墓壙全体に分布するが，中央南側にフレイク類を中心とした集中域がある。

土器 32点の土器片は覆土中に散在し，細片化している。1はⅡ群3類bの壺形土器の口縁部である。大きく外反し，肥厚した山形突起がみられ，頸部には2条の沈線がめぐる。

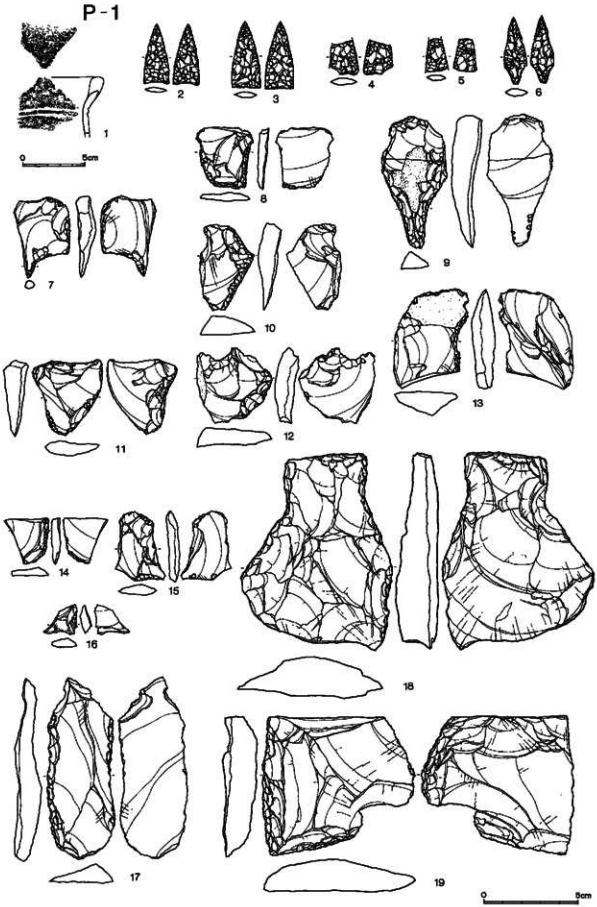
石器等の内訳は，耕作土中のものを含め，石鏃5点，石錐1点，スクレイパー13点，Uフレイク10点，フレイク119点，石核1点，石斧9点，石斧原石1点，たたき石1点，石製品1点，礫1点である。

石鏃 石鏃は5点(2～6)，2と6は中央北側，3と5は西側でそれぞれ近接しているが，4は南側の壁近くで出土している。2～4は無茎の三角形鏃で，2・4は基部が内湾し，3は平坦である。5は先端・基部ともに欠損しているが，有茎鏃の可能性が強い。6は柳葉形に近い有茎鏃である。石質はすべて黒曜石である。

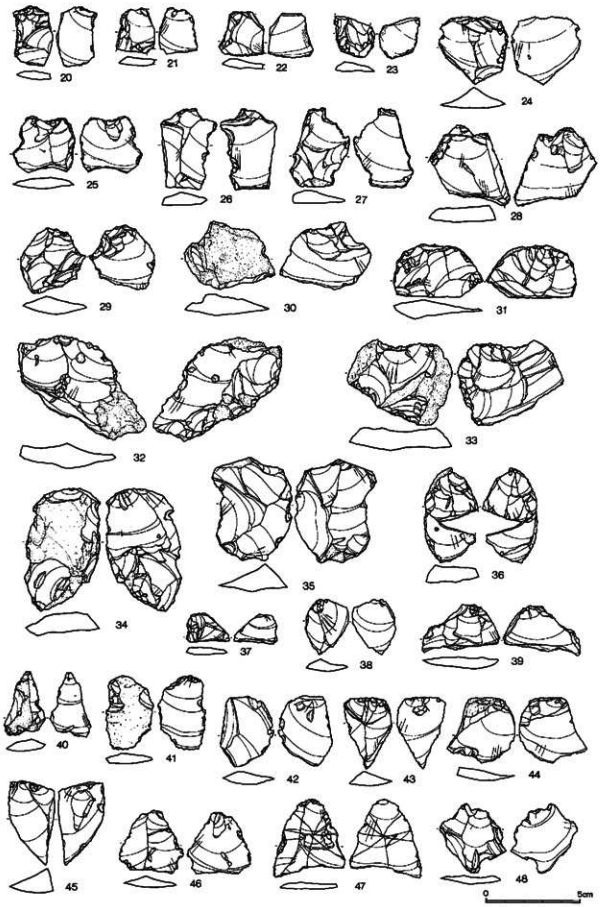
石錐 7は厚手の剥片の一部に刺突部を作出した黒曜石製の石錐で，二次加工は刺突部周辺に限られる。

スクレイパー 8～19はスクレイパー類で，18・19は7点の石斧とともに墓壙上部の耕作土中から出土したものである。8は縦長の剥片の両側縁と下端部に連続的な二次加工が施されたもので，刃部の角度は急である。9は厚手の縦長剥片の両側縁に加工が施され，下部が棒状になっている。10・17は縦長剥片の片側縁に加工が施されているが，17の加工は粗い。11～13は不定形の剥片の一部に二次加工がみられるが，加工は浅く，粗い。14～16は破片で，全体の形状は不明である。石質は17だけが頁岩で，他はすべて黒曜石である。18・19は安山岩製の剥片の両面に粗い加工が施され，周縁の一部に刃部が作出されている。いずれも欠損しているので，全体の形状は定かではないが，18はばち形と思われる。

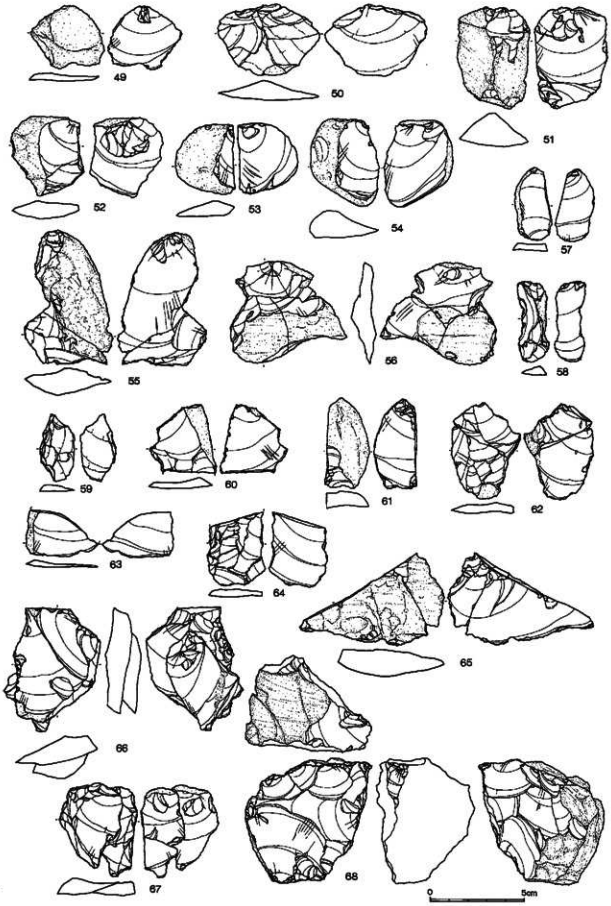
フレイク 20～28は剥片の一部に不連続に小さな剥離がみられるUフレイク，29～65はフレイクである。Uフレイク，フレイクともに形状は不定形のものが多く，バルブが残存しているものをみると，打面が大きく，バルバー・スカーがみられるものが多い。石質は50・59が安



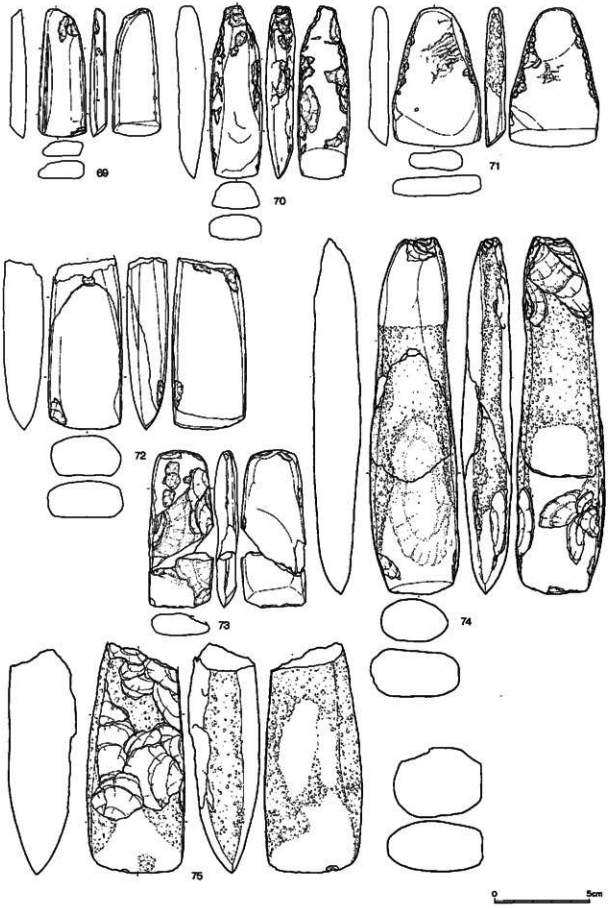
図Ⅲ－４　Ⅰ群土壙(3)・Ｐ－１遺物(1)



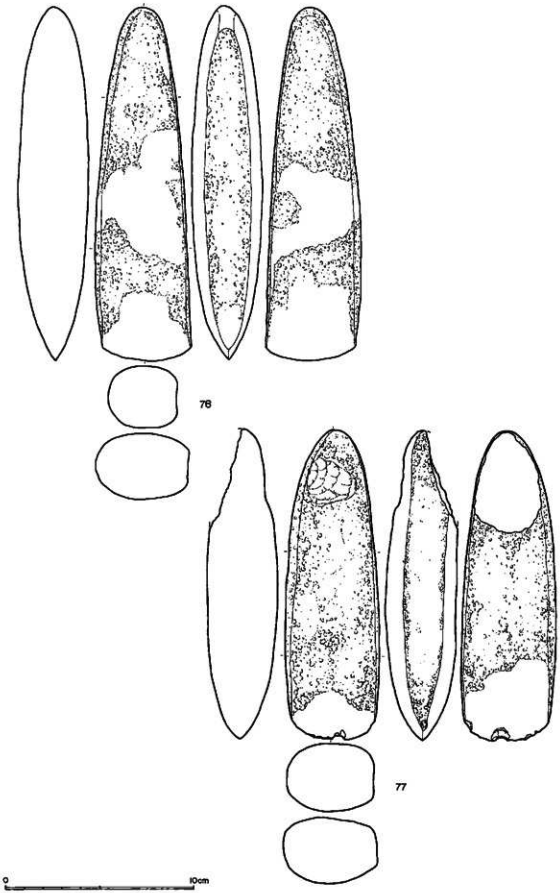
図Ⅲ－5　Ⅰ群土壙(4)・P－1遺物(2)



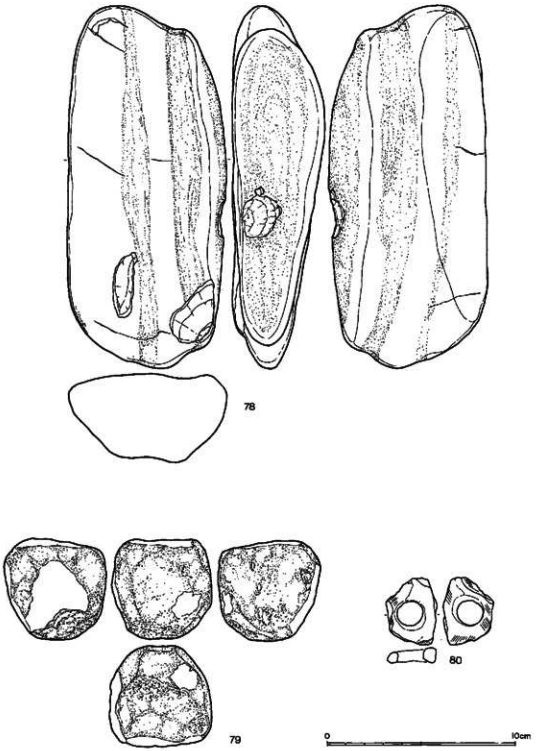
図Ⅲ－6　Ⅰ群土壙(5)・P－1遺物(3)



図Ⅲ－7　Ⅰ群土壙(6)・P－1遺物(4)



図Ⅲ－8　Ⅰ群土壙(7)・P－1遺物(5)



図Ⅲ－9　Ⅰ群土壙(8)・P－1遺物(6)

山岩で，他はすべて黒曜石である。黒曜石の原石は角礫素材のものが多いが，円礫とみられるもの（53・54）もある。原石面の特徴から同一母岩とみられるものがいくつかあるが，接合したのは66・67に示したものだけである。

68は中央南側のフレイクの集中した部分から出土した黒曜石製の石核で，３方向から剥片が剥離されている。　石　核

69～77は石斧で，出土位置が確認できたのは72と76のみで，他の７点は墓壙上部の耕作土から発見された。69～74は片刃，75～77は両刃である。69は擦切製，70・71・73・74は原石の形状を生かし，剥離ないし敲打によって形態を整えている。72は全面が研磨されているので，素材の状態は不明である。69・71・73は切刃状の刃部で，裏面（後主面）（佐原1977の用語を使用）に明瞭な鎬がみられる。また，刃先（刃縁）をみると69～72はわずかに摩滅し，73・74は破損している。いずれも使用されたものであろう。75～76は全面が敲打整形された給刃に近い石斧である。75は片面が受熱のため剥離し，基部が欠損している。３点とも右側縁（前主面）が平坦になるように整形され，敲打後，刃部だけでなく基部も部分的に研磨されている。刃先（刃縁）はわずかに摩滅しているが，破損は少ない。いわゆる縦斧として機能したものであろう。石質は69～72・74が緑色泥岩，73が片岩，75・76が砂岩，77が片麻岩である。　石　斧　切刃状刃部

78は墓壙のほぼ中央部から出土した緑色泥岩製の石斧原石で，受熱による剥離のほか側縁の一部に敲打痕がみられる。79は珪岩製のたたき石で，サイコロ状の原石のほぼ全面に敲打痕がみられる。80は砂岩製の石製品で，自然の有孔石を部分的に加工し，垂飾品とした可能性があるが，加工の状況は確認できない。　石斧原石

Ｐ－２（図Ⅲ－10～16，図版13・31・32－１）

位置　Ｈ－17　**規模**　1.59×1.35/1.20×0.97/0.36m　**隅位**　不明

特徴　Ｐ－５・11を切っている。平面形は楕円形，壁面の傾斜は緩やかである。東側の壁面近くは心土破砕により攪乱され，一部の遺物は墓壙外側へ引っ張られていた。　平面楕円形

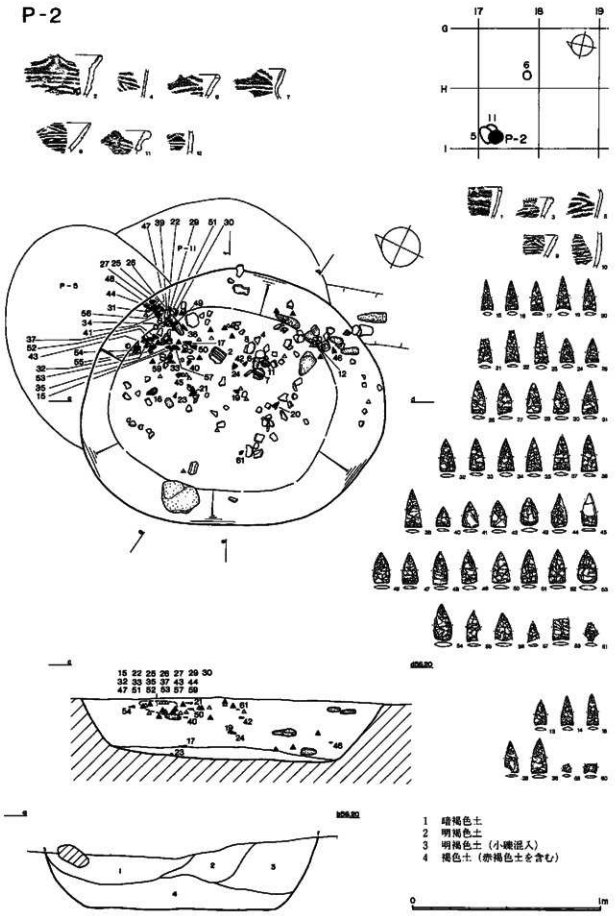
覆土　四層に分けたが，明瞭に異なるのは第１層の黒味が強い部分だけで，第２～４層は褐色を基調に，第４層では第Ⅲ層に近い赤褐色土が混じる。

出土遺物　覆土中から土器295点，石器等117点が出土した。遺物は墓壙全体に分布するが，東側に濃密にみられる。Ｐ－５・11を切っていることから考えて，それらの副葬品も含まれている可能性があるが，識別は困難である。

１はⅡ群１類ｂ，２はⅡ群２類ａ，３～６はⅡ群３類ａ，７はⅡ群３類，８～12はⅡ群３類ｂの土器である。１～６・８～11は鉢形土器の口縁部ないし胴部，７は壺形土器の口縁部である。４・５，８～10は同一個体とみられる。１には指頭幅沈線，口唇部の刺突文，２・６には山形突起，平行沈線，内面の三叉文風の沈線，３には突起口唇部への刻み，７には口唇部への刺突文，８～12には平行沈線，楔形押圧痕などがみられる。　土　器　三叉文風

石器等の内訳は，石鏃49点，やり先・ナイフ１点，石錐２点，スクレイパー４点，Ｕフレイク12点，フレイク28点，石斧７点，矢柄研磨器１点，土製品13点である。

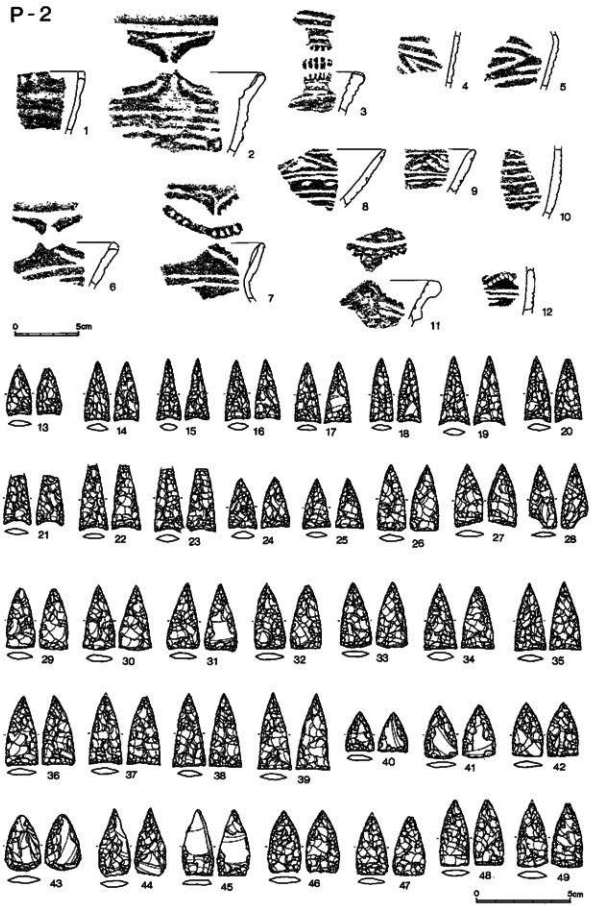
石鏃は墓壙の北西部に集中していた。49点のうち明らかに有茎のものは61のみで，基部が欠損して不明なもの（56～58）以外すべて無茎の三角形鏃である。細かくみると，基部が内湾するもの（13～23など），直線的なもの（32・45～48など），外湾するもの（41・43・50・53・54など）などがある。大きさは長さで2.1～4.0cmの幅があるが，平均すると3.3　石　鏃



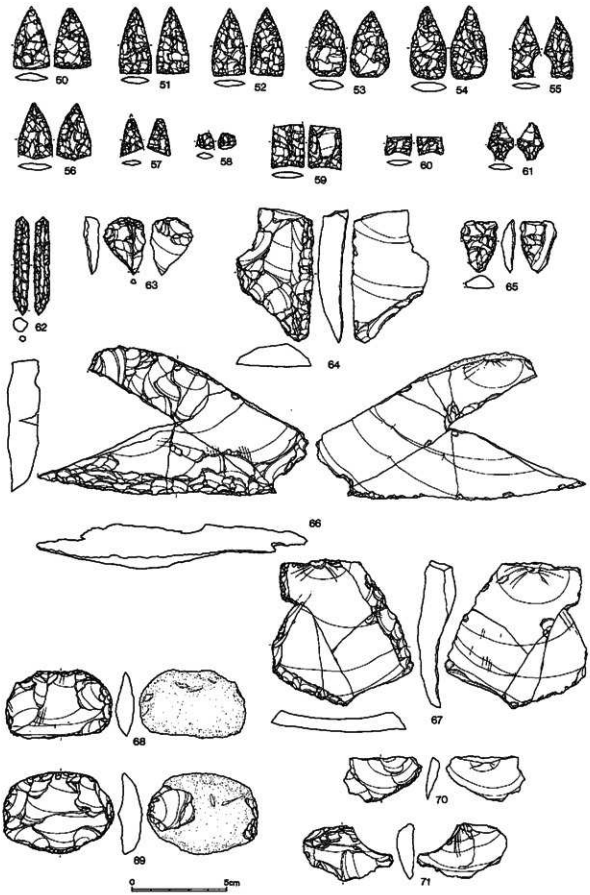
34

図Ⅲ—10　Ⅰ群土壙(9)・P—2(1)

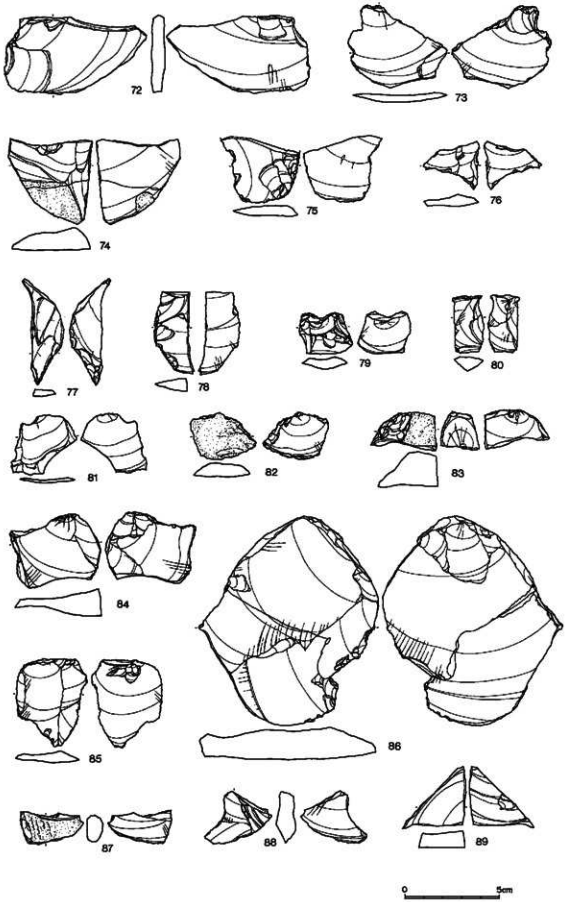
図Ⅲ－11　Ⅰ群土壙(10)・P－2(2)



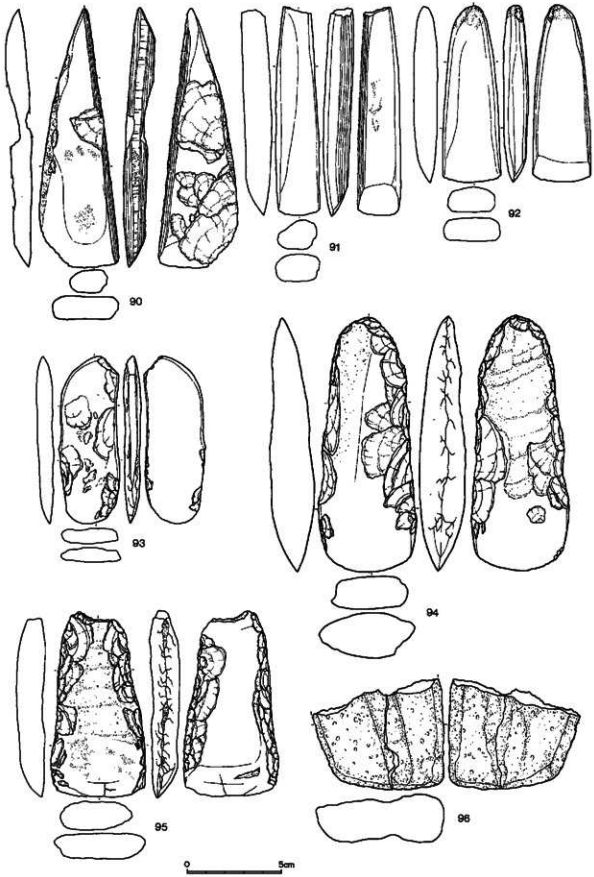
図Ⅲ－12　Ⅰ群土壙(11)・P－2遺物(1)



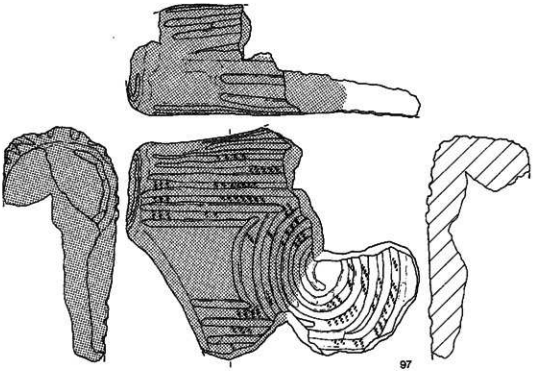
図Ⅲ－13　Ⅰ群土壙(1)(2)・P－2遺物(2)

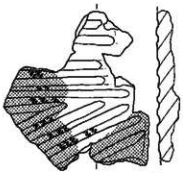


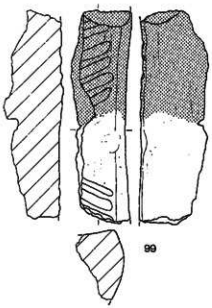
図Ⅲ－14　Ⅰ群土壙(13)・P－2遺物(3)

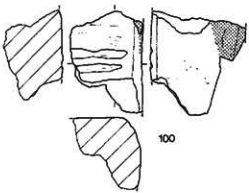


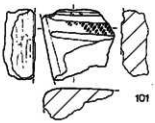
図Ⅲ—15　Ⅰ群土壙(4)・P—2遺物(4)











包含層出土部分

0 10cm

図Ⅲ—16　Ⅰ群土壙(12)・P—2遺物(5)

cmとなり，概して大型である。加工は丁寧なものが多いが，両面に素材面を残す粗いもの（40・41・43～45）もある。石質はすべて黒曜石である。

62は頁岩製，63は珪岩製の石錐である。62は厚手の剥片に細かな加工を施して棒状にしたもの，63は剥片の一部に加工を施したものである。　石錐

64～67はスクレイパー，64・66には直線的な刃部がみられる。また，66・67はいくつかに割れ，さらに欠損部分もある。これは耕作または心土破砕による損傷と思われる。石質は，64が頁岩，65～67は黒曜石である。　スクレイパー

68・69は片面に円礫面の残る石核であるが，剥片剥離後の不連続な小さな剥離がみられる。2点とも黒曜石である。　石核

70～89はUフレイクまたはフレイクで，70・74・81・88が頁岩，77が安山岩，他は黒曜石である。欠損しているものが多く，86などは大型・厚手のフレイクで，周縁が欠損しているので不明であるが，スクレイパーの可能性が強い。　フレイク

90～93・95は緑色泥岩製の片刃石斧，94は砂岩製の両刃石斧である。90・91は擦切製，93～95は原石の形状を生かしたものである。92は全面研磨され，素材面がほとんど残っていないが，擦切製の可能性が強い。90～92の刃部は切刃状で裏面（後主面）には鎬がみられる。刃先（刃縁）はわずかに摩滅しているが，破損は少ない。また，91は正面（前主面）の刃部に，使用痕と思われる縦方向の条痕が顕著にみられる。　石斧　切刃状刃部

96は溶結凝灰岩製の矢柄研磨器で，片面に幅1cmの溝がみられる。溝のある面は他の面より滑沢である。　矢柄研磨器

97～101は土製品の破片で，H－17区の第Ⅰ層から出土したもの（図Ⅲ－16網部分）と接合している。これらについては第5節で詳しく説明するが，大型の土偶の破片と思われる。　土偶破片

P－3（図Ⅲ－17・18，図版14・32－2）

位置　G－14・15　**規模**　1.52×1.37/1.42×1.32/0.08m　**頭位**　不明

特徴　墳底面に近い部分で確認できたので，壁面の状態は明確でない。平面形は円形に近い楕円形である。　平面楕円形

覆土　墳底に近い部分のみであるが，第Ⅳ層に近い赤褐色土で，わずかに褐色土が混じる。覆土は墳底に比べると少しやわらかい。

出土遺物　石斧1点，フレイク1点，石製品2点が墳底部ほぼ中央で出土した。

1は黒曜石製のフレイク，2は緑色泥岩製の片刃石斧，3はかんらん岩製，4は滑石製の垂飾品である。2は擦切製で，擦切後，両側縁を部分的に敲打整形，その後刃部を含めた両面の研磨を行っている。刃先（刃縁）はわずかに磨滅しているが，破損していない。3は勾玉状，4はいも虫状の垂飾品で，いずれも丁寧に整形され，穿孔は両側の可能性が強い。　石斧　垂飾品

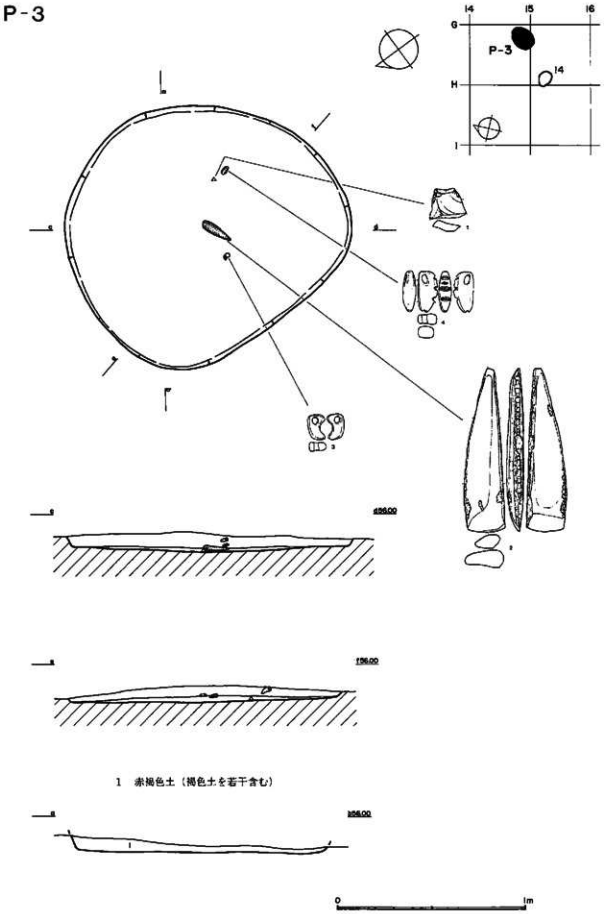
P－5（図Ⅲ－19～21，図版15・27－1・32－3・33－1）

位置　H－17　**規模**　1.43×0.97/1.30×0.78/0.10m　**頭位**　北東

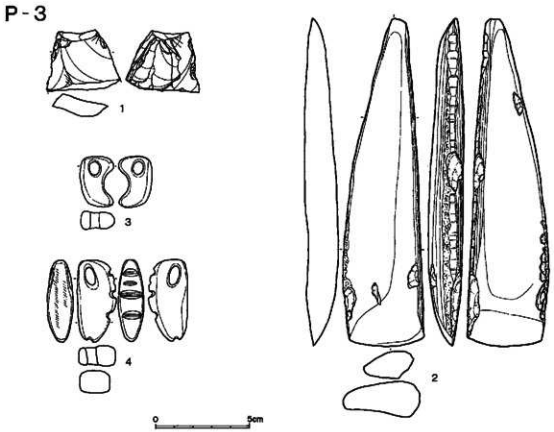
特徴　南側の上部がP－2に切られ，東側にあるP－11を切っている。平面形は楕円形，壁面の傾斜は緩やかである。墳底の北東部で人の歯のエナメル質部分が確認できた。また，その周辺ではわずかながらベンガラがみられた。　平面楕円形　歯のエナメル質　ベンガラ

覆土　三層に分けたが，第2層と第3層の差は明瞭ではない。

出土遺物　覆土および墳底から土器27点，石器等21点が出土した。遺物は北東側に集中す



図Ⅲ—17　Ⅰ群土壙(06)・P—3



図Ⅲ—18　Ⅰ群土壙(17)・P—3遺物

るが，南側でも礫が2点出土している。

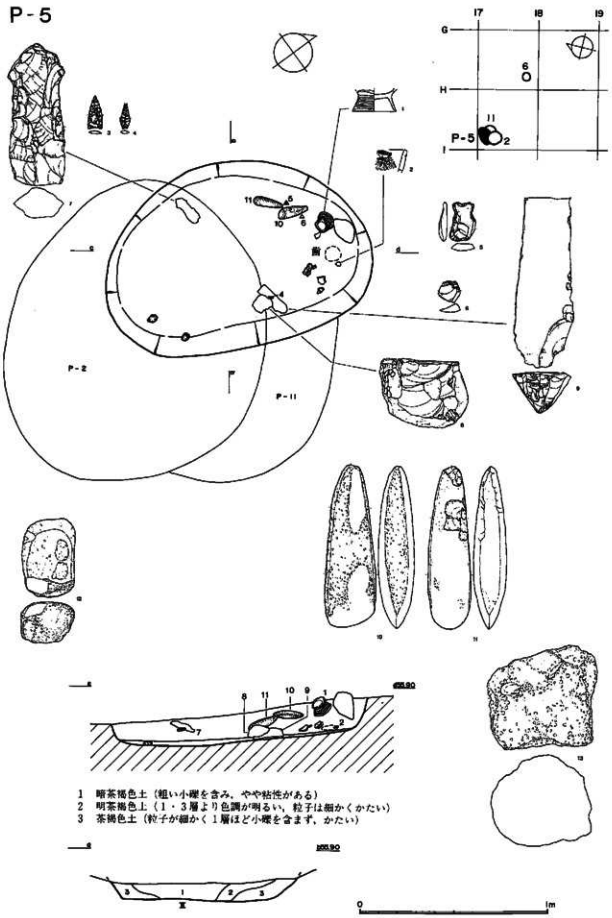
1はⅡ群1類aの台付鉢形土器の台の部分で，5条の平行沈線がみられる。2はⅡ群1類bの鉢形土器の口縁部で，条痕文の地文に半截竹管状の工具による刺突文が施されている。

土器

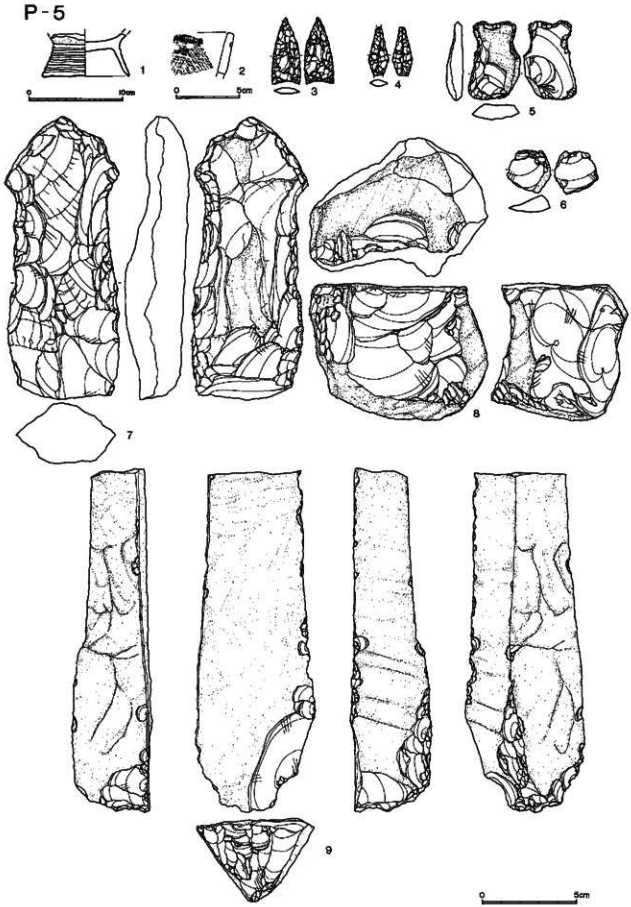
石器等の内訳は，石鏃2点，スクレイパー1点，石器未成品（？）1点，石斧2点，たたき石1点，石核2点，多孔質安山岩の原石1点，Uフレイク1点，フレイク8点，礫2点である。

3は黒曜石製の三角形鏃，4は頁岩製の有茎鏃である。5は素材の周縁に加工の施されたスクレイパー，6はUフレイクで，ともに石質は黒曜石である。7は頁岩製で，両面加工が施されているが，裏面には原石面が残る。両側縁の加工も粗く，全体に厚手である。両面加工のナイフの未成品であろうか。8・9は黒曜石製の石核で，8は角礫，9は大型の棒状原石である。10・11は両刃石斧で，敲打整形後，刃部のほか基部も部分的に研磨されている。刃部は蛤刃状で，刃先（刃縁）はわずかに摩滅しているが，破損はしていない。P—1・2・20出土の両刃石斧同様，右側縁（前主面）が平坦に整形されている。石質は10は緑色泥岩，11は砂岩である。12は珪岩製のたたき石で，下面の全面に敲打痕がみられる。13は多孔質な安山岩の原石で，歯のすぐ横から出土している。

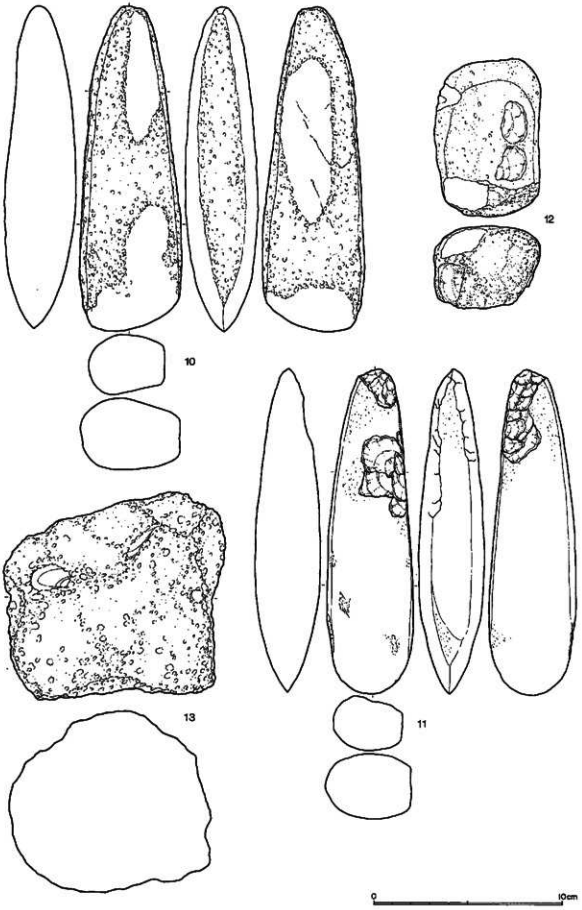
石鏃
スクレイパー
石器未成品
石核
石斧
蛤刃状刃部



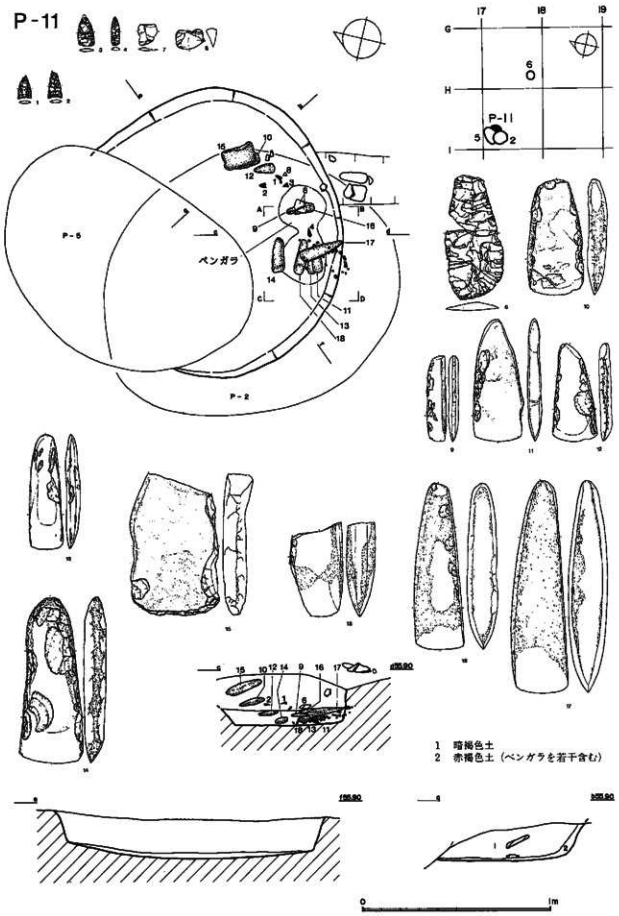
図Ⅲ—19　Ⅰ群土壙(18)・P—5



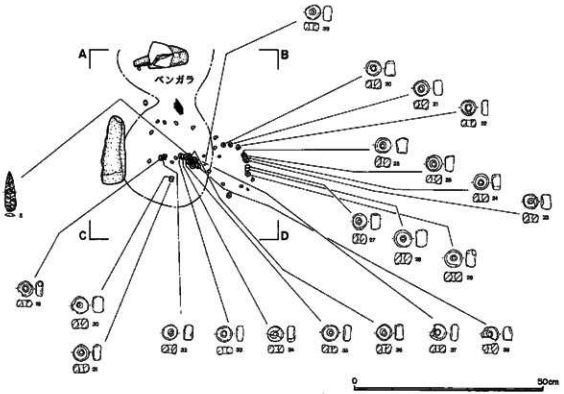
図Ⅲ—20　Ⅰ群土壙(19)・P—5遺物(1)



図Ⅲ－21　Ⅰ群土壙(20)・P－5遺物(2)



図Ⅲ－22 Ⅰ群土壙(21)・P－11(1)



図Ⅲ—23　Ⅰ群土壙(22)・P—11(2)

P—11（図Ⅲ—22～27，図版16・33—2・34—1）

位置　H—17　**規模**　1.45×(0.62)/1.32×(0.57)/0.18　**覆位**　不明

平面楕円形　**特徴**　上部がP—2に，北西側がP—5に切られている。北西側が不明であるが，平面形は楕円形と思われ，壁面の傾斜は比較的急である。人骨・歯などはみられなかったが，壙

ベンガラ　底の南東部で石斧や玉などとともにベンガラが確認できた。

覆土　南東側しか観察することができなかったが，大部分は暗褐色土(第1層)，壙底および壁面に近い部分で第Ⅲ層に近い赤褐色土（第2層）がみられた。第2層は壙底・壁面より少しやわらかく，ボソボソした感じであった。

出土遺物　土器6点，石器等が75点出土している。遺物の大部分は南東側の壁面に近い部分に集中している。また，南側では5点の石斧が重なるように出土し，さらにそれらの石斧にからまるように玉が確認された。人骨・歯などは確認できなかったが，重なった石斧・玉の周辺でベンガラがみられた。

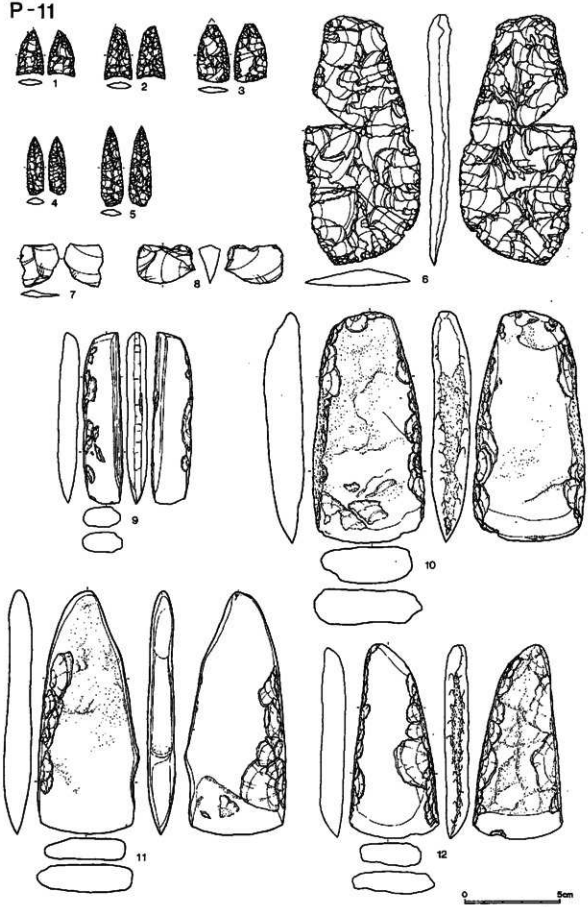
石器等の内訳は，石鏃8点，やり先・ナイフ1点，石斧9点，石斧未成品1点，フレイク5点，土製品1点，石製品50点である。

石　鏃　1～3は無茎の三角形鏃，基部が内湾するもの（1・2）と外湾するもの（3）がある。4・5は細身の有茎鏃であるが，いずれも茎部が欠損している。石質は1～3・5が黒曜

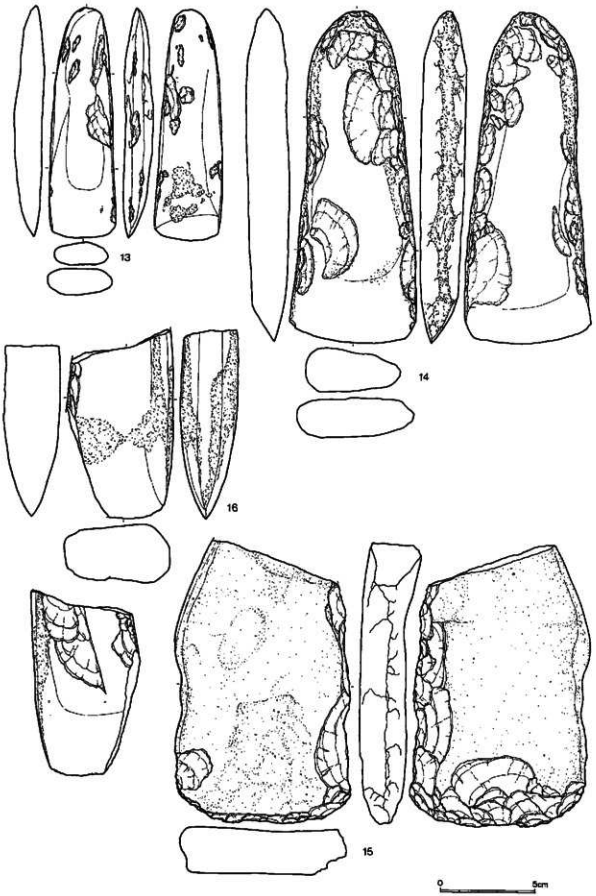
ナイフ　石，4が頁岩である。6は両面加工の黒曜石製のナイフである。一部欠損しているが，加

フレイク　工は丁寧で薄身につくられている。7・8は黒曜石製のフレイクである。

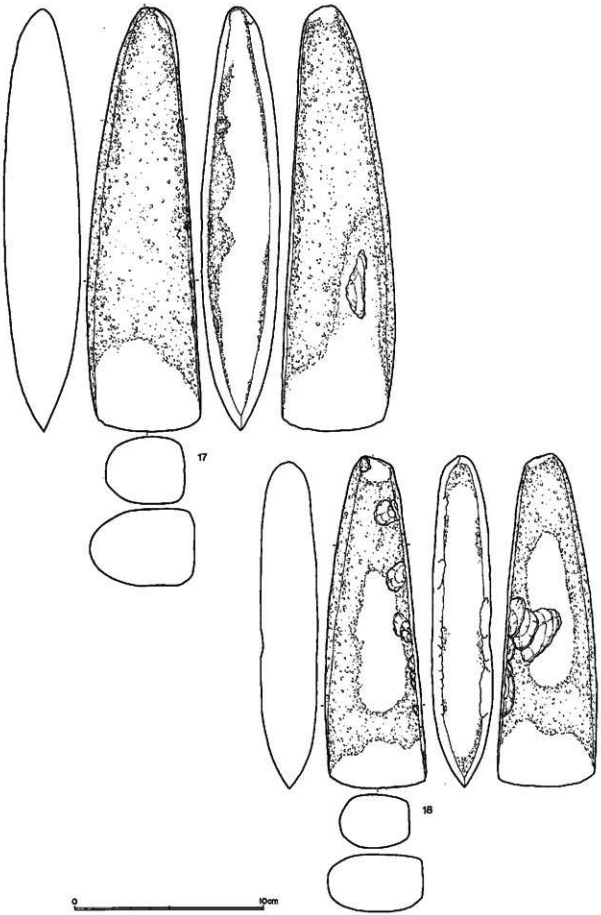
石　斧　9～14は緑色泥岩製の片刃石斧である。9は擦切製，10～14は原石の形状を生かして整形されている。10・12・14は剥離整形後，さらに敲打で側縁を整え，最終的に刃部を中心



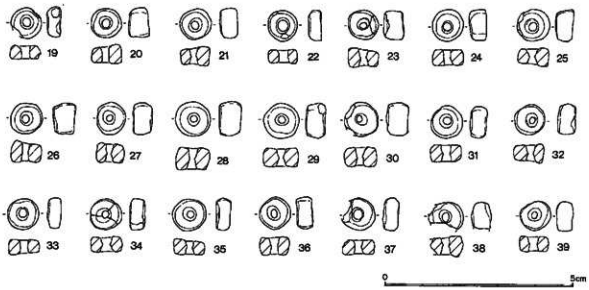
図Ⅲ—24　Ⅰ群土壙(23)・P—11遺物(1)



図Ⅲ－25　Ⅰ群土壙(24)・P－11遺物(2)



図Ⅲ－26　Ⅰ群土壙(25)・P－11遺物(3)



図Ⅲ－27　Ⅰ群土壙(28)・P－11遺物(4)

に研磨している。11は左側縁と刃部の若干の剝離整形のみで研磨作業を行い仕上げている。

切刃状刃部　13は剝離整形後，全面の研磨を行い，基部にも刃部を作っている。12・14の刃部は切刃状で，刃先（刃縁）はすべてわずかに摩滅しているが，破損は少い。15は緑色泥岩の偏平な原石の一部に剝離整形のみがみられるもので，石斧の未成品と思われる。16～18は両刃石斧で，16は緑色泥岩，17・18は砂岩である。16は基部と刃部の一部を欠損しているが，敲打整形後，研磨で仕上げられている。17・18は剝離，研磨の順で製作され，ともに右側縁（前主面）が平坦に整形されている。刃先（刃縁）はわずかに摩滅しているが，破損はしていない。大きさが異なるものの，形態，整形，石材の特徴などが酷似した石斧である。

大型土偶　土製品はP－2および包含層から出土している大型土偶の破片の一部である。石製品は

玉　5点の石斧にからまるように出土したかんらん岩製の玉で，8の字状に連なっている（図Ⅲ－23)。50点あるが，風化のため非常にもろく，原形を保っているもの21点（19～39）を図示した。正面および裏面は平らで周縁は少し丸味があり，すべて両側穿孔である。

P－20（図Ⅲ－28～34，図版17・34－2・35・36－1）

位置　B－14・15　　**規模**　1.97×1.67/1.79×1.50/0.28m　　**頭位**　不明

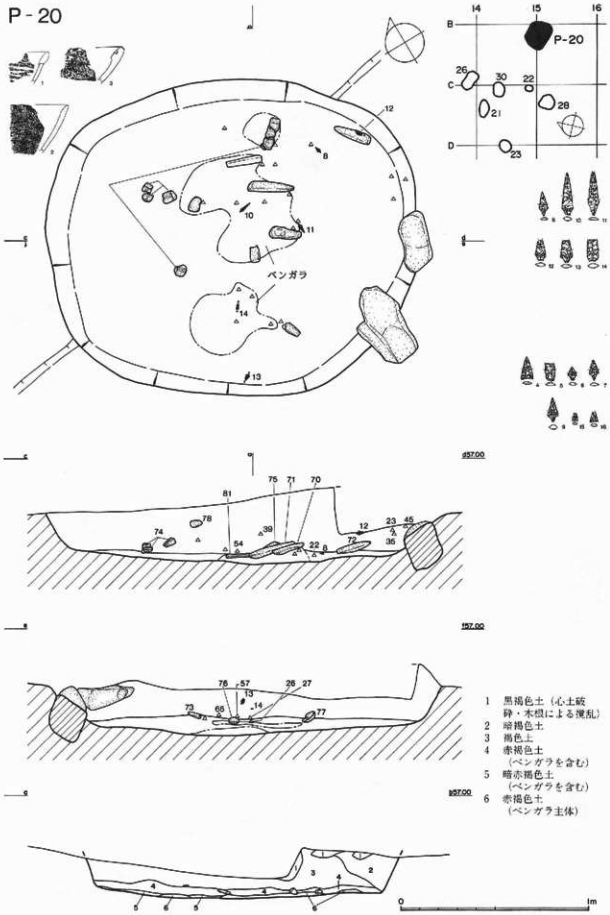
平面楕円形　**特徴**　最も東側で発見された土壙墓で，平面形は幅広の楕円形である。壙底は堅く，若干の凹凸があり，壁面は比較的急傾斜で立ち上がる。心土破砕による遺物の損傷，移動が認められる。

覆土　覆土の上部には心土破砕・木根などによる撹乱が部分的にみられる（第1層)。ほぼ

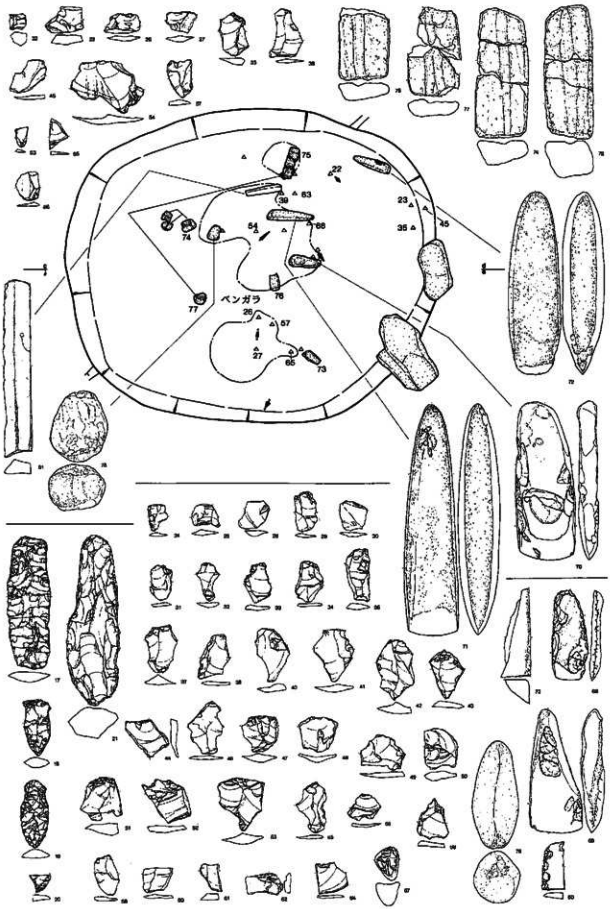
ベンガラ　全体を埋めている第3層はやわらかく，壙底に近い第4～6層はベンガラを含み，粘性がある。

出土遺物　平面形の確認がやや遅れた関係で，大部分のナイフ，フレイク類は取り上げてしまったため，出土位置が不明なものもある。覆土，壙底から土器69点，石器等133点が出土した。

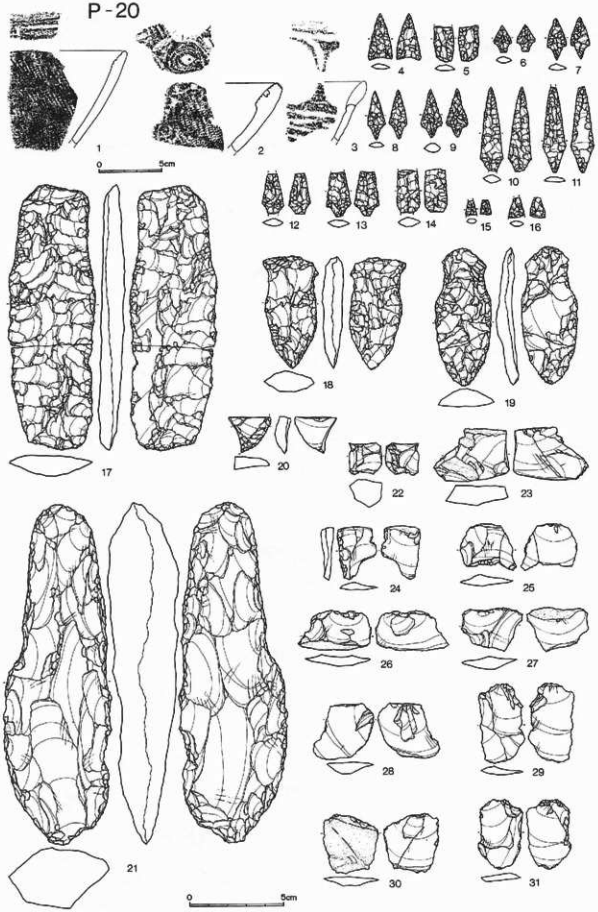
土　器　1はⅡ群1類b，2はⅡ群2類b，3はⅡ群3類aの土器である。1・2は浅鉢形土器の口縁部で，外面は縄文のみ，内面の口唇部には縄線文が施されている。3は鉢形土器の突



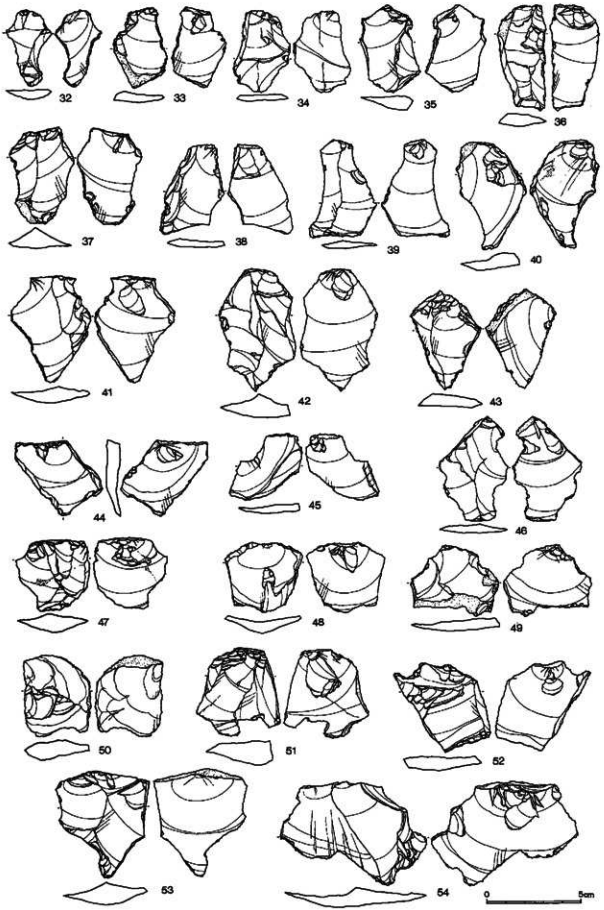
図Ⅲ－28　Ⅰ群土壙(27)・P－20(1)



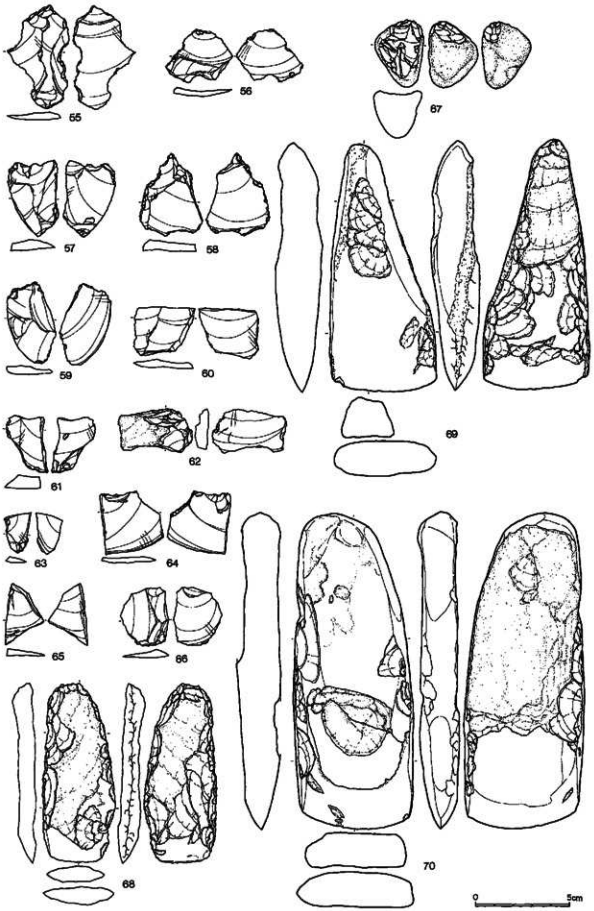
図Ⅲ—29　Ⅰ群土壙(28)・P—20(2)



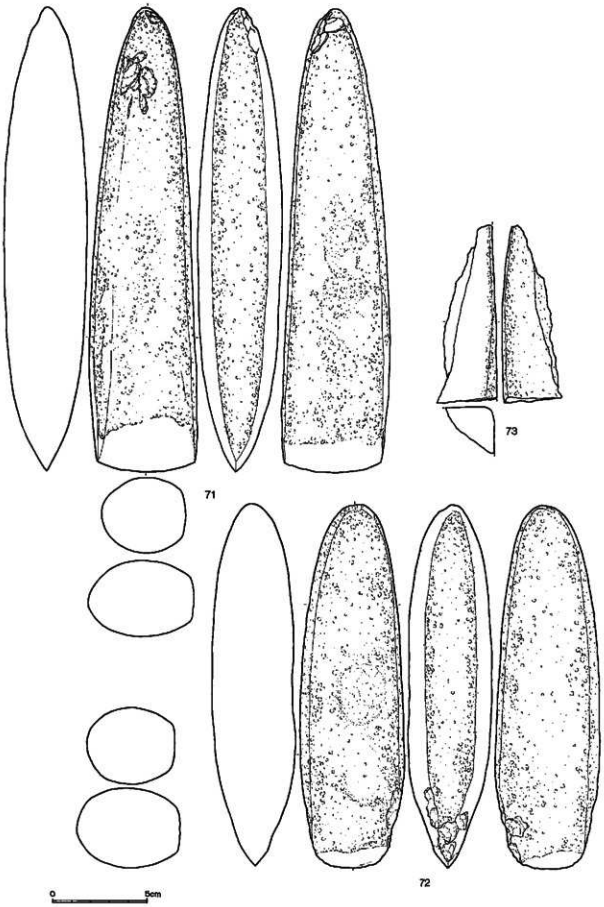
図Ⅲ－30　Ⅰ群土壙(29)・P－20遺物(1)



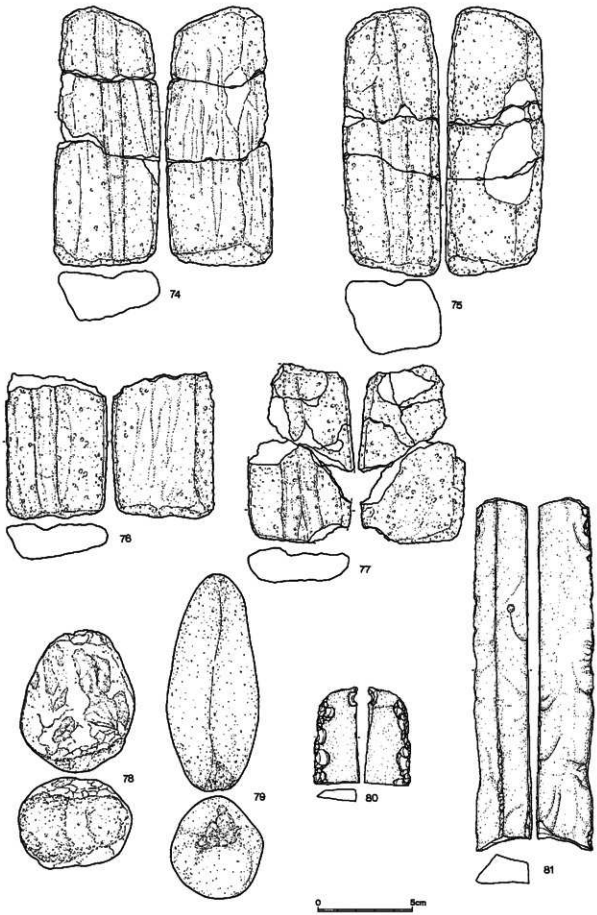
図Ⅲ—31　Ⅰ群土壙(90・P—20遺物(2)



図Ⅲ－32　Ⅰ群土壙(31)・P－20遺物(3)



図Ⅲ—33　Ⅰ群土壙(92)・P—20遺物(4)



図Ⅲ—34　Ⅰ群土壙(33)・P—20遺物(5)

起部で，外面には平行沈線がみられる。突起は２個で１対となるもののようで，１個は欠損している。突起部の内面にも沈線がある。

石器等の内訳は，石鏃13点，やり先･ナイフ３点，スクレイパー２点，石器未成品（？）１点，石器片１点，石斧７点，たたき石２点，矢柄研磨器４点，石核１点，Ｕフレイク42点，フレイク55点，黒曜石棒状原石２点である。

石　鏃　４は無茎の三角形鏃，５～14は有茎鏃，15･16は破片のため形態が不明である。５･10～14は細身の長身鏃で，11・12の茎部には黒色の付着物がみられる。アスファルトなどの可能性が考えられる。石質は４・６～９・14～16が黒曜石，５・10～13が頁岩である。

やり先・ナイフ　17～19は黒曜石製の両面加工のやり先・ナイフである。17は裏面に素材面が残るものの両面に深い剥離が施され，薄身に整形されている。20は黒曜石製のスクレイパーの破片，21は頁岩製の両面加工石器である。21は加工も粗く，厚手である。Ｐ－５で出土している

スクレイパー

石器未成品　頁岩製の粗い両面加工の石器と同様のもので，ナイフの未成品であろうか。

フレイク　22～66はＵフレイクまたはフレイクで，不定形のものが多い。47・52・66が頁岩で，他はすべて黒曜石である。黒曜石のものは同一母岩と思われるものがあるが，接合はしない。

石　核　67は黒曜石の円礫の一部に剥離痕のみられる石核である。

石　斧　68～70は片刃石斧，71・72は両刃石斧である。68は剥片を素材に剥離整形後，刃部を中心に研磨して仕上げている。69は原石の形状を生かす，若干の剥離・敲打整形後，刃部の研磨が行われている。70も偏平な原石の形状を生かし，若干の剥離整形後，研磨作業を行っている。３点とも刃先（刃縁）はわずかに磨滅しているが，破損はしていない。71・72は全面敲打整形後，刃部のみ研磨されている。いずれも右側縁（前主面）が平坦に整形され，Ｐ－１・５・11の出土の両刃石斧と同様の特徴がみられる。71は長さ24.5cm，当遺跡最大の石斧である。石質は68～71が緑色泥岩，72が片麻岩である。73は敲打痕がみられる石斧の破片と思われる。

矢柄研磨器　74～77は溶結凝灰岩製の矢柄研磨器である。74・75ともに三つに折れているのは心土破砕による損傷の可能性が強い。２点ともほぼ完形に近く，セットで使用されたものとみられる。厚みが異なるが，いずれも片面に幅１cm程の皿状の溝がみられる。また，溝のある面は他の面に比べ滑沢である。また，74の左側面と75の右側面の凹凸がほぼ一致し，板状の素材を縦割りにして２個とした可能性が強い。76も片面に１条の溝があり，その面は地の面より滑沢である。77は欠損部分があるが，やはり片面に１条，部分的に２条の浅い溝がみられる。76と77がセットかどうかはわからない。

たたき石　78・79はたたき石，78は両端に，79は片方に敲打痕がみられる。石質は78が珪岩，79が安山岩である。

棒状原石　80・81は黒曜石の棒状原石，80は片側縁に加工がみられるが，81は片側縁の一部に擦ったような痕跡があるだけである。

(2)　Ⅱ群土壙

土壙内から壺形土器が礫などとともに出土しているもので，4基ある。4基は集中することなく，約20mの間隔で分布している(図Ⅲ－35)。平面形は楕円形，長径は0.49～0.80mと小型の土壙である。

P－4（図Ⅲ－36・39，図版18・27－1・36－2）

位置　I・J－13　　**規模**　0.74×0.54/0.62×0.42/0.13m

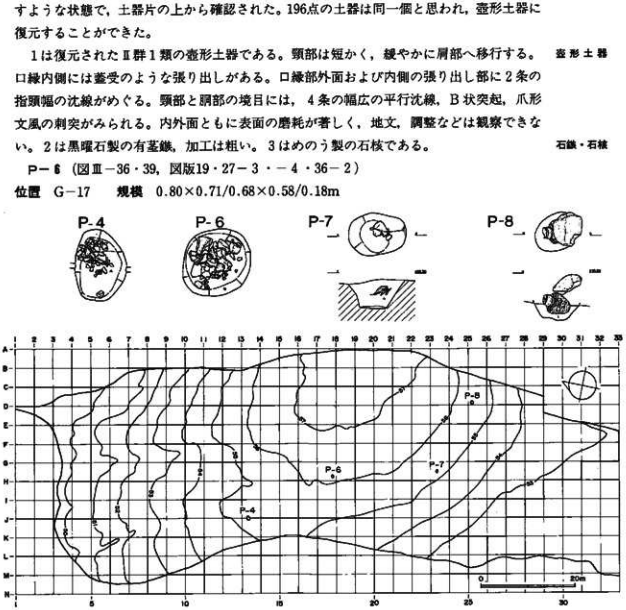
特徴　第Ⅰ層（耕作土）を除去したところ，礫や土器片が集中する部分があり，その周辺の精査を行ったところ，土壙を確認した。中央部には心土破砕による細い溝が短軸方向に走る。壙底は浅い皿状で，壁面の傾斜は比較的急である。

出土遺物　土壙の北東側に礫と土器片が集中している。覆土中から出土した遺物は，土器196点，石鏃1点，石核1点，礫1点である。礫は重さ2kg程の砂岩で，土器を押しつぶすような状態で，土器片の上から確認された。196点の土器は同一個と思われ，壺形土器に復元することができた。

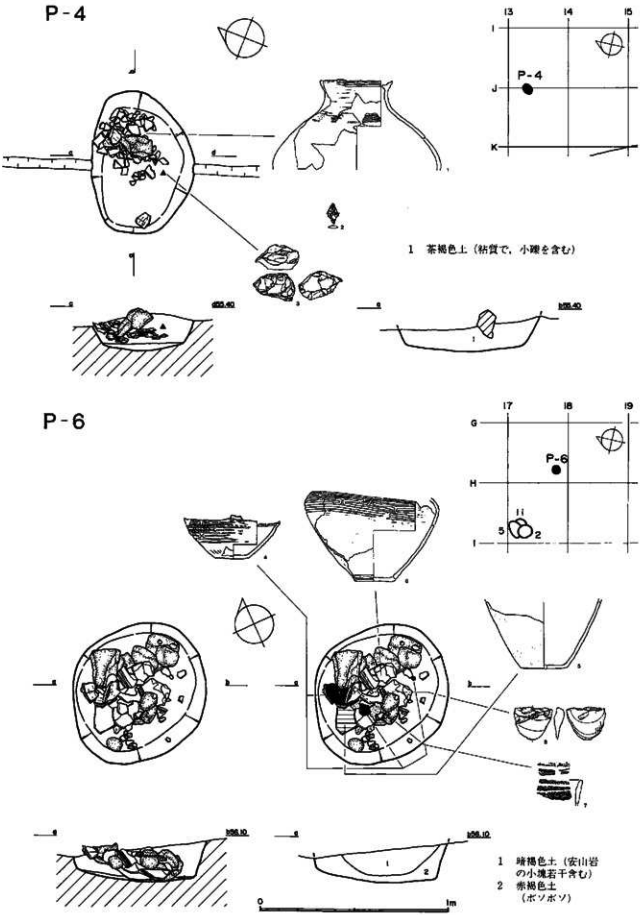
1は復元されたⅡ群1類の壺形土器である。頸部は短かく，緩やかに肩部へ移行する。口縁内側には菱受のような張り出しがある。口縁部外面および内側の張り出し部に2条の指頭幅の沈線がめぐる。頸部と胴部の境目には，4条の幅広の平行沈線，B状突起，爪形文風の刺突がみられる。内外面ともに表面の磨耗が著しく，地文，調整などは観察できない。2は黒曜石製の有茎鏃，加工は粗い。3はめのう製の石核である。　壺形土器　石鏃・石核

P－6（図Ⅲ－36・39，図版19・27－3・－4・36－2）

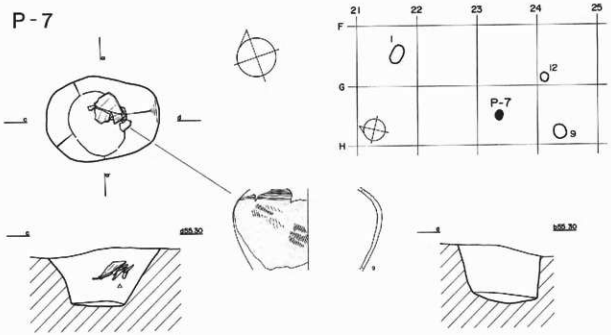
位置　G－17　　**規模**　0.80×0.71/0.68×0.58/0.18m

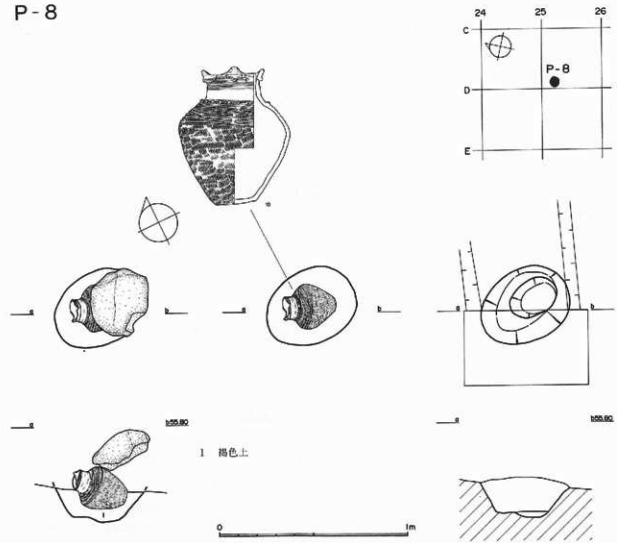


図Ⅲ－35　Ⅱ群土壙分布図



図Ⅲ—36　Ⅱ群土壙(1)・P—4・6





図Ⅲ－37　Ⅱ群土壙(2)・P－7・8

平面円形　**特徴**　平面形は円形に近い楕円形，壙底は浅い皿状で，壁面の傾斜は急である。

出土遺物　覆土中から土器83点，フレイク3点，礫15点が出土した。遺物は土壙の中央に重なるような状態で，礫が土器を押しつぶしているような状況であった。

土　器　83点の土器から復元できたのは3個体，4はⅡ群2類b，5～7はⅡ群2類の土器である。4は大小の山形突起が交互にみられる鉢形土器である。口縁下に平行沈線，その下に沈線

工 字 文　による工字文が施され，さらに平行沈線上に中央に押圧痕のある貼瘤，沈線間に刺突文がみられる。口唇内側は1条の沈線がめぐり，段状になっている。地文はRLの斜行縄文で，底部はやや丸味がある。5は深鉢形土器の底部と思われるが，内外面とも表面が剝落し，地文，調整などは不明である。6は壺形土器で，肩から下の部分が残存している。肩は強

工 字 文　く張り，底部は揚げ底気味である。肩部には太い平行沈線を縦の短い沈線で切った工字文が施されている。文様帯の下は丁寧に研磨され，底部付近には2条の沈線がめぐる。また，内面全体も丁寧に調整されている。胎土は精良で，他の土器とは全く異なり，焼成も良好である。外面のところどころに赤色顔料が残存している。全面に塗布されていた可能性がある。7は深鉢形土器の口縁部で，内外面に1条の沈線がみられる。地文はRLの縄文である。

フレイク　8は頁岩製のフレイクである。礫は2点の凝灰質砂岩を除きすべて安山岩の角礫で，1.5 kg以上のものは6点，最大は7 kgである。

P－7（図Ⅲ－37・40，図版18－3・27－5）

位置　G－23　**規模**　0.59×0.44/0.32×0.34/0.28m

平面楕円形　**特徴**　平面形は楕円形，断面はすり鉢状である。覆土は一層（褐色土）のみである。

出土遺物　覆土のほぼ中央から土器11点，フレイク1点が出土した。

土　器　9はⅡ群1類の壺形土器で，胴部のみが復元できた。肩の強く張る器形で，文様は平行沈線のみがみられる。表面の剝落が著しいが，部分的に細撚の縄文が残っている。

P－8（図Ⅲ－37・38・40・41，図版20・21・27－6・36－2）

位置　C－25　**規模**　0.49×0.38/0.20×0.13/0.18m

特徴　大型の礫の下からほぼ完形の壺形土器が斜めの状態で検出され，その周辺の精査で

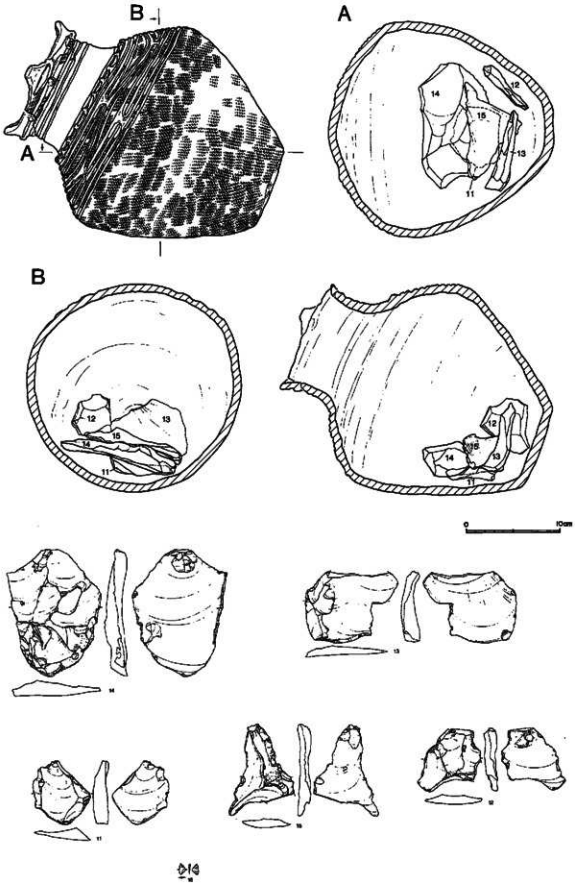
平面楕円形　土壙が確認できた。平面形は楕円形，壙底は2段で，壁面の傾斜は緩やかである。また，土壙長軸の両端は心土破砕による溝で若干削られている。礫と土器は心土破砕による溝のほぼ中央に位置し，攪乱をうけず，原位置を保っているものと思われる。土器内には覆土の黒褐色と同様の土が入っていたが，上三分の一程が空間となっていた。

出土遺物　覆土中ないし壺形土器内から土器5点，フレイク8点，礫2点が出土している。

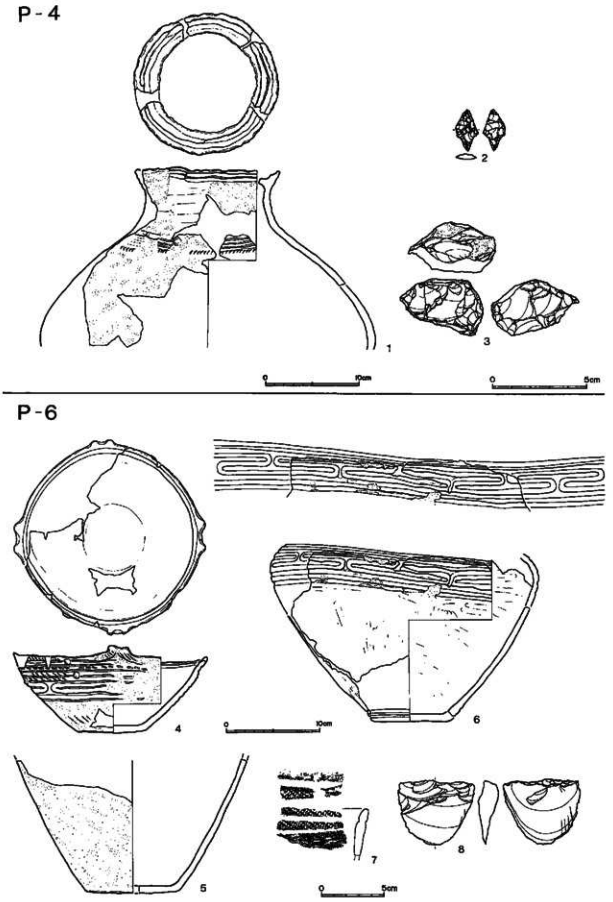
壺形土器　10は口縁が部分的に欠損しているが，ほぼ完形の壺形土器である。口縁部には大小の山形突起が4個，大きな突起の内側には貼瘤がある。口縁下に8個の貼瘤とその間をつなぐ太い沈線がある。頸部は無文で，上部には3本の沈線，肩部との境には太い沈線と瘤状の高まりと短沈線を交互に配した文様がみられる。瘤状の高まりと短沈線と配したものは頸部の無文帯と肩部の対様帯を画するもので，「結節沈線」（須藤1970）と同種のものであろう。

工 字 文　肩部にはややくずれた工字文が太い沈線で描かれ，胴部下半はRLの縄文が全体に施されている。底部は丸底気味で，縄文がみられる。赤色顔料などの塗布はみられない。

大　型
フレイク
X線撮影　土器内の土壌から脂肪酸分析の試料を採取する段階で，大型の黒曜石製フレイクが入っていることがわかった。フレイクが動かない範囲で土を取り除き，X線撮影，状況撮影（図

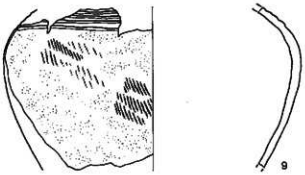


図Ⅲ－38　Ⅱ群土壙(3)・P－8

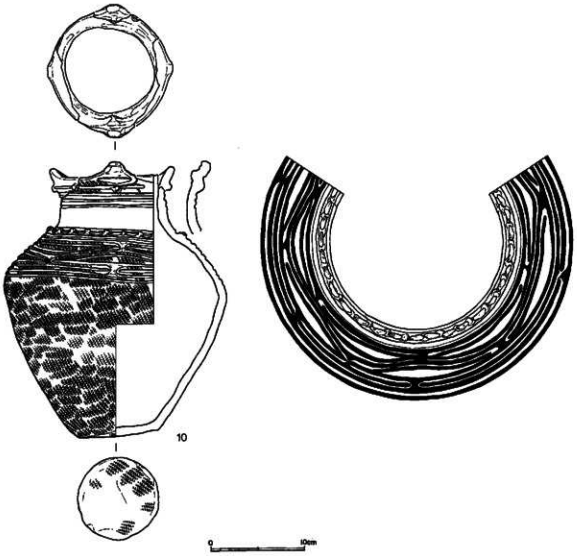


図Ⅲ—39　Ⅱ群土壙(4)・P—4・6遺物

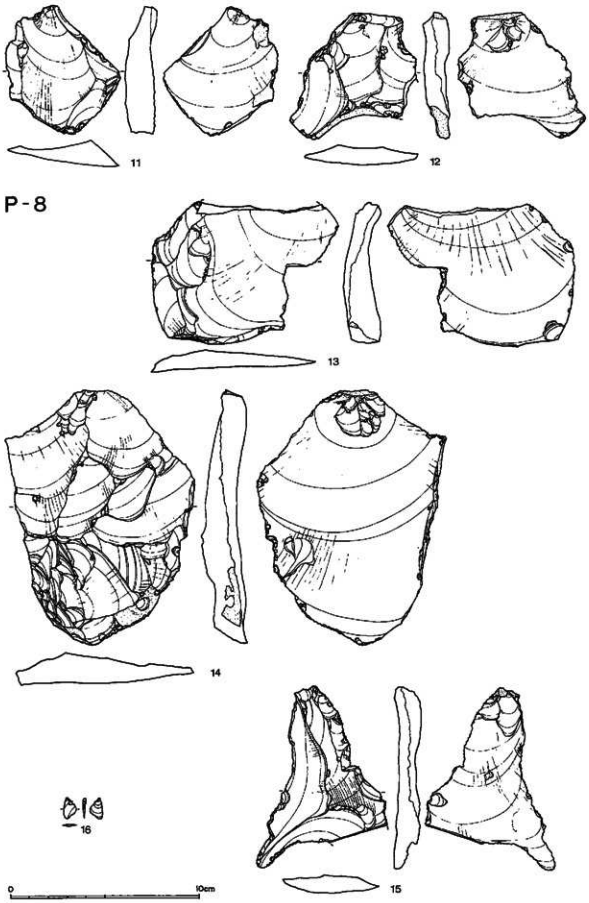
P-7



P-8



図Ⅲ—40　Ⅱ群土壙(5)・P—7・8遺物



図Ⅲ—41　Ⅱ群土壙(6)・P—8遺物

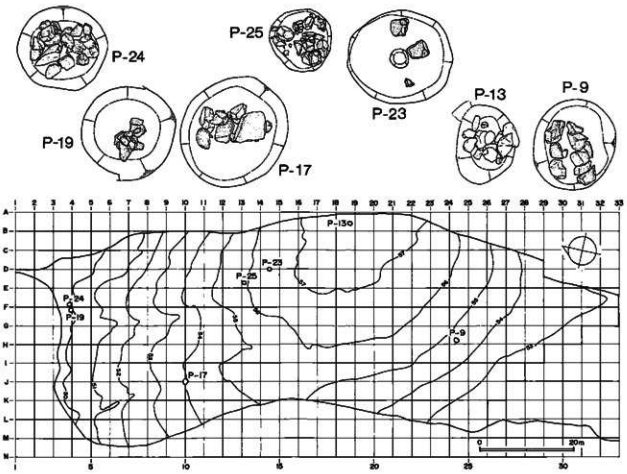
版21)，実測などを行ったのち，土器からフレイクを取り出した。当初は12～15の4点が確認されていたが，取り出す段階でもう1点（11）みつかった。また，取り出した土壌中から細かいフレイク（16）が1点採取できた。フレイク以外の人骨，動・植物遺存体などは全くみられなかった。16のような小型のものは土壌の流入とともに土器内に流れ込む可能性が強いが，11～15の大型のものについては流れ込んだとは考えられず，意識的に土器内に入れたものと考えられる。15・14・11は水平に近い状態で重なるように，13は奥，12は左側で立った状態で確認された。11～15の4点の大型フレイクには二次的な加工は全くみられないが，周縁部には不連続な細かい剥離がみられ，さらにわずかではあるが稜が磨耗している。14は俗にいう「花十勝」で，白滝産とみられ，他の4点も色などの特徴から白滝産の可能性が強い。　白滝産黒曜石

土器上の礫は安山岩の角礫で，重量は18.3kg，加工は全くない。

(3) Ⅲ群土壙

土壙内から礫がまとまって出土しているもので，7基ある。調査区全体に分布し，集中する傾向はみられないが，5基が北側の斜面にある。平面形は円形のものが多く，掘り方もしっかりして，断面形は長方形に近い。　礫出土土壙

P－9（図Ⅲ－43・47，図版22－1・36－3）



図Ⅲ－42　Ⅲ群土壙分布図

位置　G－24　　**規模**　0.98×0.86/0.85×0.71/0.31m

平面円形　**特徴**　平面形は円形に近い楕円形，壙底は浅い皿状である。壁面は長軸側は急に，短軸側は緩やかに立ち上がる。

出土遺物　土壙のほぼ中央から礫が10点，他に覆土中から石鏃1点，楔形石器1点が出土している。1は両端が欠損した有茎鏃，2は楔形石器，石質は2点とも黒曜石である。10点の礫のうち1点が珪岩の角礫（5 kg），残りの9点は安山岩で，円礫1点（345g）のほかはすべて角礫である。安山岩の角礫の重量は7.25・6.5・6.0・6.0・5.8・3.9・2.5・1.9 kg，平均は約5 kgである。1点の円礫のみが焼けている。

石　鏃
安山岩礫

P－13（図Ⅲ－43・47，図版22－2・－3・36－3）

位置　A－18　　**規模**　0.82×0.62/0.54×0.41/0.12m

特徴　集石を検出した後に土壙を確認したので，壁面はわずかしか残存していない。壙底は凹凸があり，壁面の傾斜は緩く，断面はすり鉢形に近い。北西側の壁の一部が木根によって壊されている。

出土遺物　覆土中から土器3点，スクレイパー1点，たたき石1点，フレイク7点，礫13点が出土している。3は腹面の一部に浅い加工の施された黒曜石製のスクレイパー，4は棒状の礫の一端に敲打痕がみられる珪岩製のたたき石である。13点の礫は1点が珪岩(398g)，他のすべて安山岩である。安山岩は円礫が3点（1.2kg，900・180g）で，他は角礫である。角礫の重量は4.5・4.4・4.2・4.2・2.5・2.3・2.0・1.2・1.0kg，平均は2.9kgである。2個の円礫が焼けている。

スクレイパー
たたき石
安山岩礫

P－17（図Ⅲ－44・47，図版22－4・－5・36－3）

位置　I・J－9・10　　**規模**　1.20×1.09/1.01×0.88/0.50m

平面円形　**特徴**　平面形は円形，壙底は平らで堅く，壁面は垂直に近い状態で立ち上がる。

出土遺物　土壙のほぼ中央，覆土の中位からまとまって出土した14点の礫のほか覆土中から土器19点，石器片4点，フレイク15点が出土した。5は黒曜石製の棒状のフレイクにわずかに加工がみられるもので，石鏃か石錐の未成品の可能性がある。14点の礫は，凝灰質砂岩が3点（1 kg，600・285g，3点が接合して285g），安山岩の円礫1点（2 kg），角礫8点（39.2・7.5・7.5・5.4・3.3・3.0・2.6kg，300g）で，角礫の最大のものは39.2kgである。焼けているものはない。

石器未成品
安山岩礫

P－19（図Ⅲ－45，図版23－1）

位置　F－3・4　　**規模**　1.00×0.99/0.71×0.67/0.59m

平面楕円形　**特徴**　調査区の北端，P－24に隣接して確認された。平面形は円形，壙底は浅い皿状で，壁面の傾斜は垂直に近い。

出土遺物　土壙の中央部，覆土の下位から12点の礫がまとまって出土した。礫は凝灰質砂岩が4点（510・205・185・140g），安山岩の円礫1点（470g），角礫7点（4.1・3.8・3.2・2.8・1.5・1.4kg，740g）で，焼けているものはない。

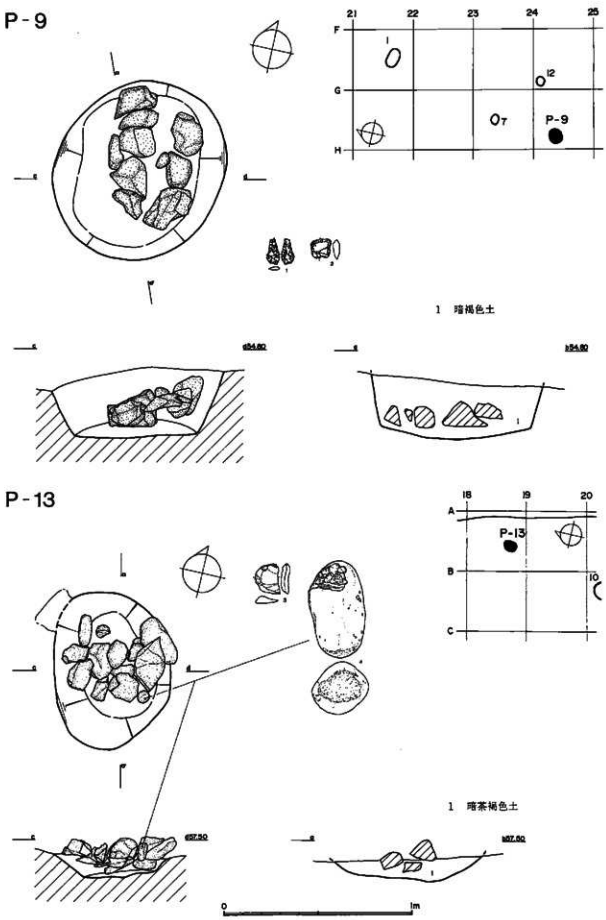
安山岩礫

P－23（図Ⅲ－45，図版23－2）

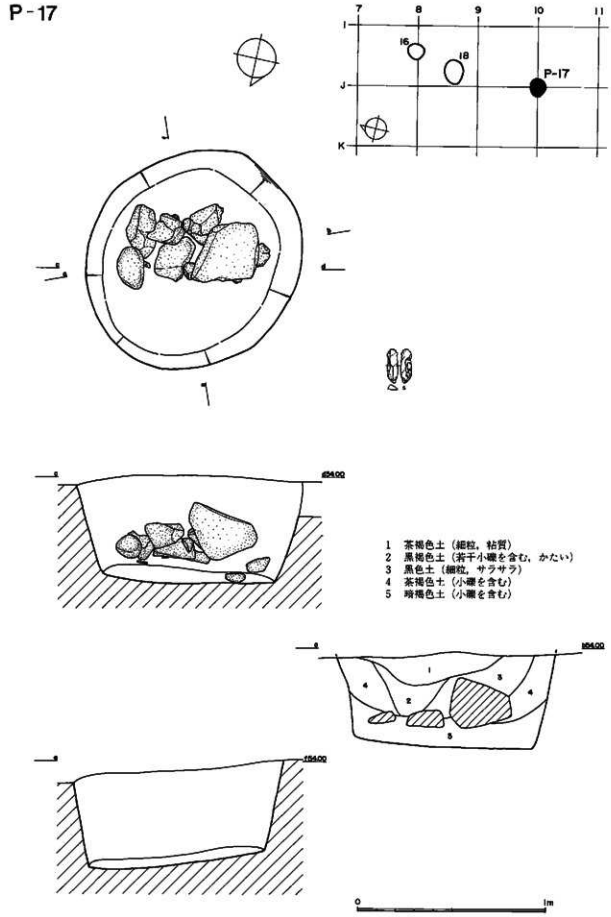
位置　C・D－14　　**規模**　1.12×1.00/1.00×0.86/0.38m

平面楕円形　**特徴**　平面形は円形に近い楕円形，壙底は比較的平らで，中央に浅い小ピットがある。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

出土遺物　覆土中および壙底から土器1点，フレイク1点，礫3点が出土した。3点の礫

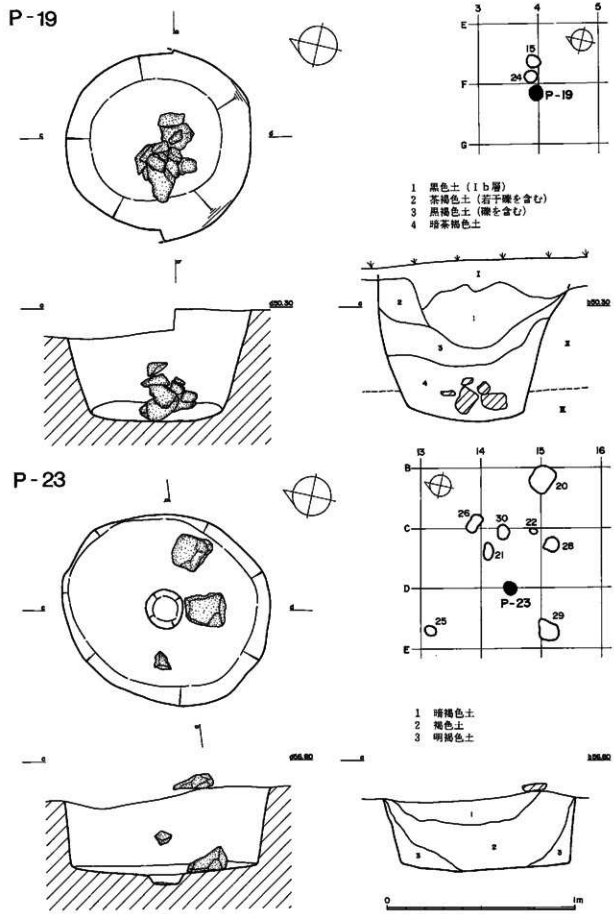


図Ⅲ—43 Ⅲ群土壙(1)・P—9・13



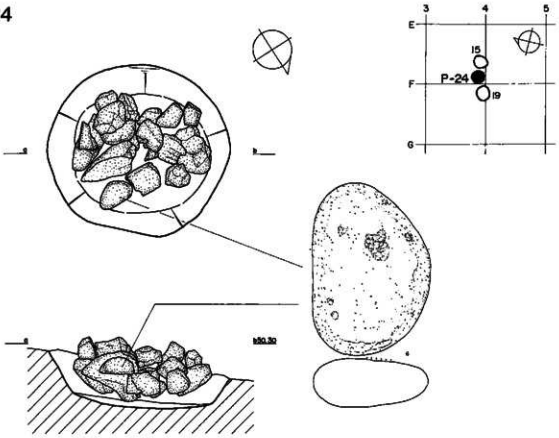
72

図Ⅲ—44　Ⅲ群土壙(2)・P—17

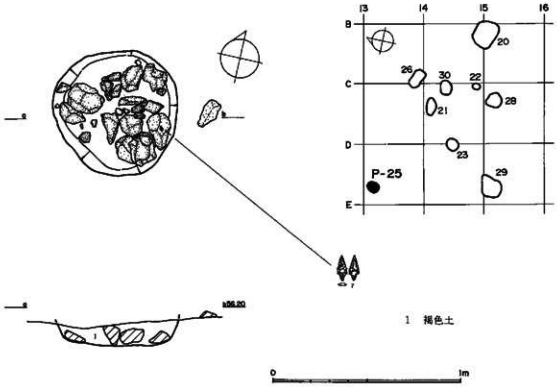


図Ⅲ—45　Ⅲ群土壙(3)・P—19・23

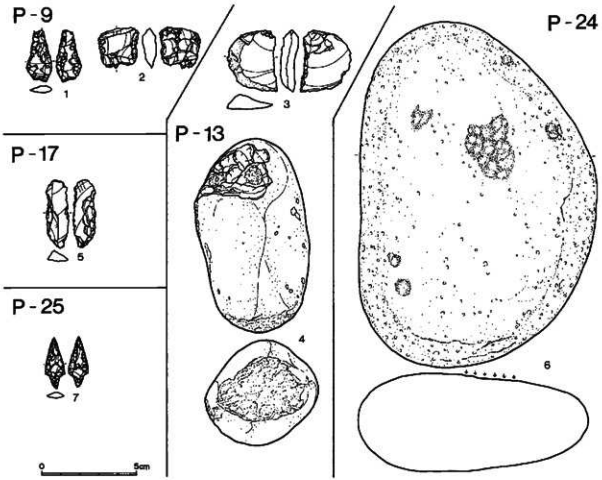
P-24



P-25



図Ⅲ—46　Ⅲ群土壙(4)・P—24・25



図Ⅲ－47　Ⅲ群土壙(5)・P－9・13・17・24・25遺物

はそれぞれ壙口，覆土中位，壙底で確認された。3点とも安山岩の角礫（5.3・4.2kg，730g）で，焼けてはいない。　安山岩礫

P－24（図Ⅲ－46・47，図版23－3・－4・36－3）

位置　E－3　**規模**　0.97×0.89/0.72×0.62/0.24m

特徴　調査区の北端，P－15とP－19の間で確認された。平面形は円形，壙底は比較的平らで壁面の傾斜は緩やかである。　平面円形

出土遺物　覆土中から密集して台石1点と17点の礫が出土している。6は安山岩の円礫で，一部に潰打痕がみられる。17点の礫は珪岩の角礫1点（2.5kg）を除きすべて安山岩の角礫（13.2・8.3・7.5・4.6・3.5・3.2・2.9・2.6・2.5・2.5・2.5・2.3・2.2・2.0・1.4・0.9kg）で，2～4kgのものが多い。焼けているもの，加工のあるものはない。　台石　安山岩礫

P－25（図Ⅲ－46・47，図版23－5・－6・36－3）

位置　D－13　**規模**　0.66×0.65/0.57×0.54/0.13m

特徴　平面形は円形，壙底は凹凸があるが，壁面は垂直に近い状態で立ち上がる。　平面円形

出土遺物　覆土および壙底から土器8点，石斧片1点，フレイク8点，礫21点が出土した。7は黒曜石製の有茎鏃で，両面に素材面が残っている。21点の礫は15～85gの軽い凝灰質砂岩が5点，他はすべて安山岩の角礫である。角礫は1kg以下の軽いものが9点（980・800・790・435・420・300・290・225・75g），1kg以上のものが7点（3.8・3.2・2.9・2.5・2.3・1.6・1.2）で，焼けているものや加工のあるものはない。　石鏃　安山岩礫

(4) Ⅳ群土壙

Ⅰ～Ⅲ群に含まれないもので，14基ある。調査区の全域に分布するが，14～16，B～Eラインの間に6基が集中している。平面形は円形，楕円形，不整形と各種あり，断面は皿状のものが多い。

P－10（図Ⅲ－49・57，図版24－1・－2・36－4）

位置　B－20　　**規模**　1.24×1.10/1.19×1.03/0.26m

平面楕円形　**特徴**　平面形は楕円形，壙底は南側の一部が凹むが堅くしっかりしている。壁面はほぼ垂直に近く立ち上がる。

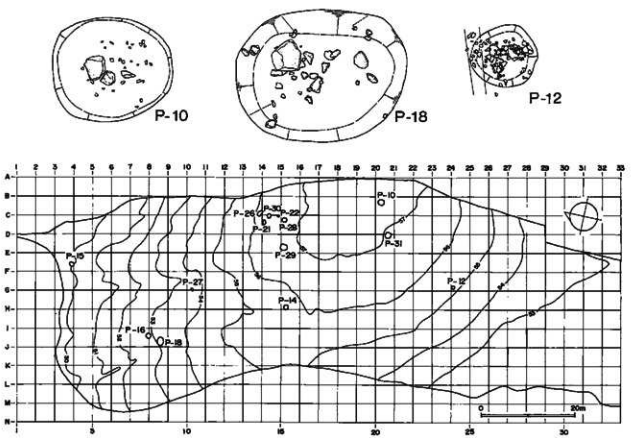
出土遺物　覆土中から土器45点，フレイク11点，礫4点が出土した。土器は散発的にみられるだけで集中する部分はない。

土　器　1はⅡ群2類aの深鉢形土器の口縁で，縦位に近いRLの縄文に平行沈線が施されている。2はⅡ群2類の壺形土器の口縁で，外側には鋸歯状に貼付した隆帯とA状突起，内側には蓋受状の張り出しがみられる。

P－12（図Ⅲ－49・57，図版24－3・37）

位置　F－24　　**規模**　(0.71)×0.65/(0.55)×0.50/0.19m

平面円形　**特徴**　西側の一部が心土破砕の溝で壊されているが，平面形は円形と思われる。壁面の傾斜は緩やかで，断面は皿状である。



図Ⅲ－48　Ⅳ群土壙分布図

出土遺物 覆土中から土器203点，スクレイパー1点，Uフレイク2点，フレイク24点，礫7点が出土した。土器は土壙全域に分布するが，覆土上部からの出土が多い。3～7はⅡ群2類a，8・9はⅡ群2類b，10～14はⅡ群2類，15はⅡ群3類の土器である。3・5～7は深鉢形土器の口縁で，平行沈線と中央に刻みのある瘤などがみられ，工字文風の文様となっている。口唇内側はいずれも縄文が施され，3・5・7は沈線が1条めぐる。4は胴部で縦位に近いRL縄文の地文に沈線がみられる。8は深鉢形土器，9は鉢形土器の口縁で，外面および口唇内側にRLの縄文が施されている。10・11は壺形土器の口縁で，10は小さな山形の突起部の下にB状の突起，11は波状口縁の山形突起部の内外に三叉文がみられる。12～14は壺形土器の胴部で，縦位に近いRLの縄文に平行沈線が施されている。15は壺形土器の口縁で，小突起に縦位の刻みがあり，頸部には平行沈線がみられる。 土器 工字文風 三叉文

16は縦長剥片の両側縁に二次加工の施された黒曜石製のスクレイパー，17は黒曜石製のUフレイクである。 スクレイパー

P－14（図Ⅲ－50・58・59，図版24－4・28－1～3・37）

位置 G－15 **規模** 1.22×0.99/0.86×0.55/0.35m

特徴 平面形は楕円形，壙底は皿状に凹み，中央部には小ピットがある。壁面は凹凸があり，傾斜は緩やかである。 平面楕円形

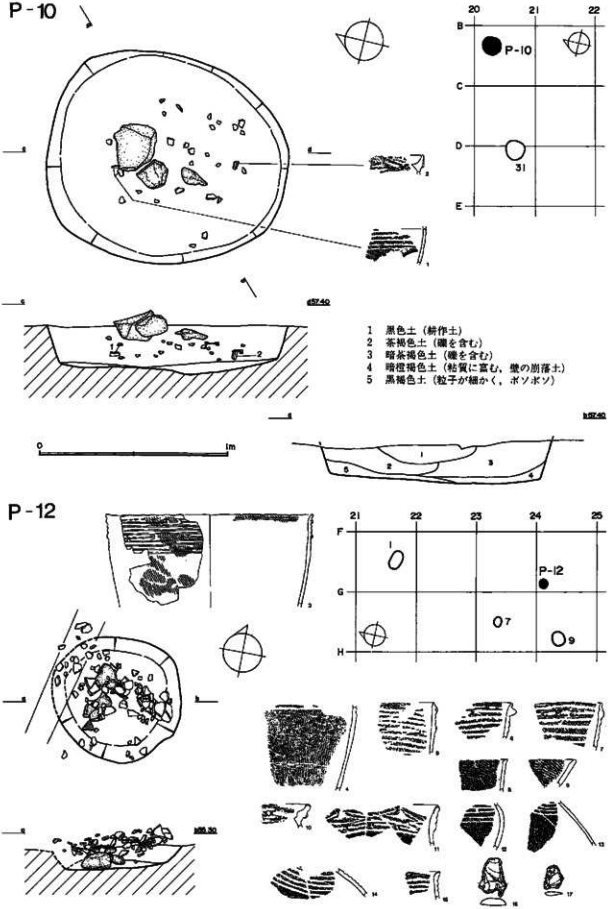
出土遺物 覆土中から土器168点，石鏃10点，スクレイパー2点，石斧1点，礫器1点，Uフレイク3点，フレイク15点，礫11点が出土した。遺物は土壙のほぼ全域に分布するが，出土レベルは覆土の上部が多い。168点の土器はいくつかの集中部分があり，鉢形土器1点，浅鉢形土器2点が復元できた。21はⅡ群1類b，19・20はⅡ群2類b，18はⅡ群3類a，22～25はⅡ群3類b，26はⅡ群3類の土器である。21は深鉢形土器の口縁で，条痕文の地文に貼瘤と太い沈線がみられる。19・20は浅鉢形土器で，19は表面の磨耗が著しいが，刺突文と平行沈線がみられ，丸底である。20は上面観が菱形を呈する土器で，外面はRLの縄文のみ，底部は細い粘土紐を環状に貼り付けて，高台風にしているらしいが，粘土紐が剥落している。18は平縁の鉢形土器で，平行沈線，刻みのある貼瘤，矢羽根状の沈線がみられる。口唇内面は若干肥厚している。22～25は浅鉢形土器の口縁で，いずれも外面は縄文のみで，内面に文様が施されている。22～24は竹管状工具の押引による沈線文，25は3本単位の沈線文が施されている。26は壺形土器の口縁で，連続する三つの突起がみられる。外反する突起部の内外面に平行沈線が施されている。27～35は黒曜石製，36は頁岩製の石鏃である。27～29は基部が内湾する三角形鏃，31～35は有茎鏃，36は欠損品であるが，細身で有茎鏃と考えられる。37・38は黒曜石製のスクレイパー，周縁および側縁に粗い加工が施されている。39～41は黒曜石製のUフレイクである。42は緑色泥岩の片刃石斧で，全面が研磨されている。43は安山岩製の礫器で，周縁の一部に粗い加工が施され，「石鍬」とでも呼べそうな形態である。 土器 石鏃 スクレイパー 礫器

P－15（図Ⅲ－51・59，図版24－5・38）

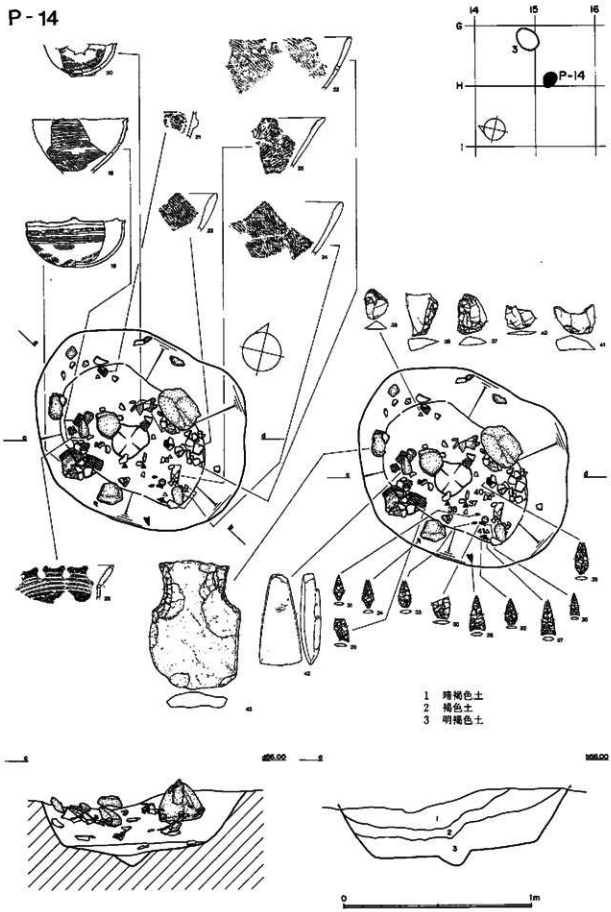
位置 E－3 **規模** 0.77×0.71/0.58×0.60/0.21m

特徴 調査区の北端，P－19・24に隣接して確認された。平面形は円形，壙底は比較的平らで，壁面の傾斜は急である。 平面円形

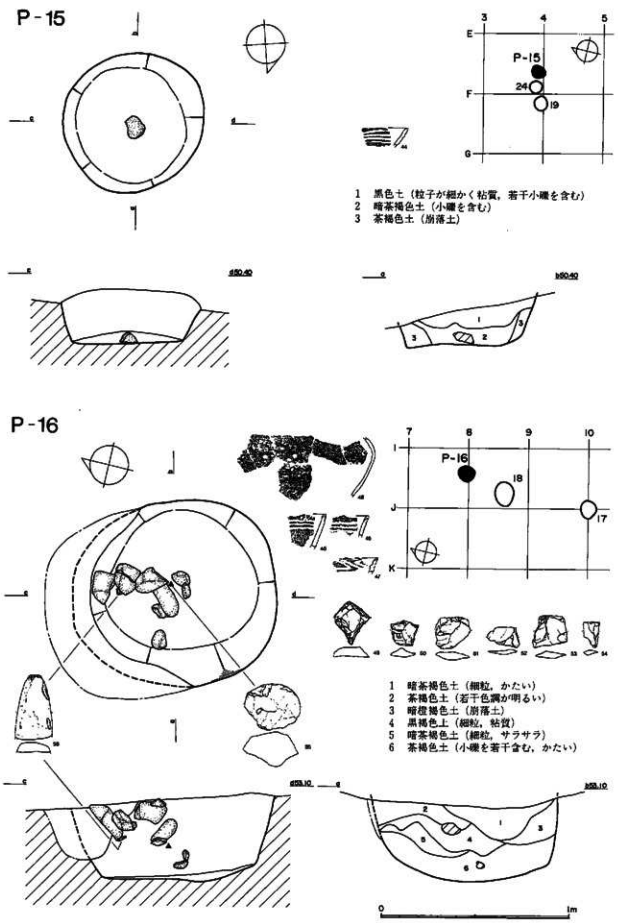
出土遺物 覆土および壙底から土器1点，礫2点が出土した。44はⅡ群2類bの鉢形土器の口縁，口縁下に4本の平行沈線がみられる。壙底から出土した礫は安山岩の角礫で，重 土器 安山岩礫



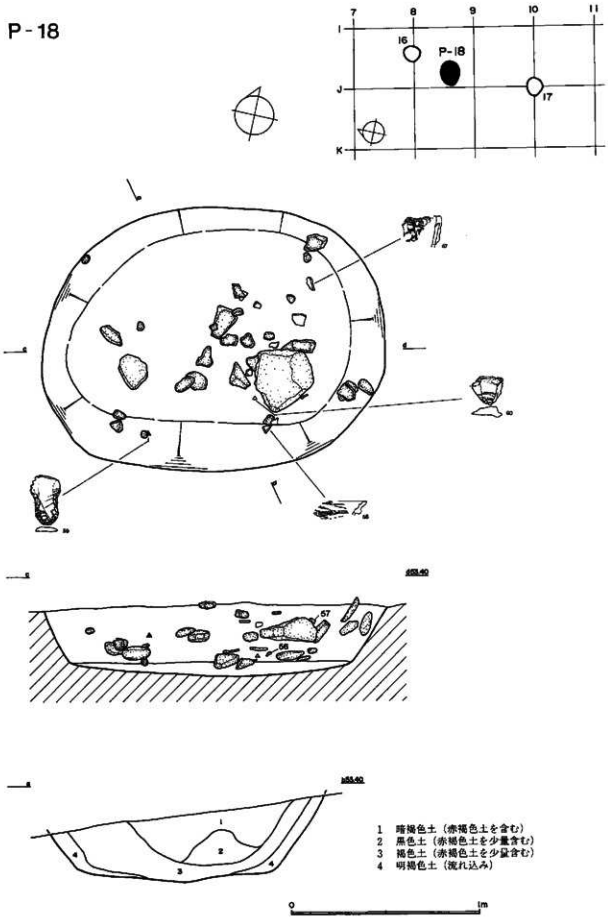
図Ⅲ—49　Ⅳ群土壙(1)・P—10・12



図Ⅲ—50 Ⅳ群土壙(2)・P—14



図Ⅲ—51　Ⅳ群土壙(3)・P—15・16



図Ⅲ—52　Ⅳ群土壙(4)・P—18

量は635gである。

P－16（図Ⅲ－51・60，図版24－6・28－4・38）

位置 Ⅰ－7・8　**規模**　(1.00)×0.99/0.82×0.74/0.40m

平面楕円形　**特徴**　北西側の上部が木根によって撹乱されている。平面形は楕円形とみられ，壙底は皿状に若干凹んでいる。壁面の傾斜は南東側は急であるが，北西側は緩やかである。

出土遺物　覆土中から土器143点，スクレイパー1点，石斧1点，Uフレイク5点，フレイク21点，黒曜石原石1点，礫14点が出土した。45はⅡ群2類a，46・47はⅡ群3類a，48はⅡ群3類の土器である。45～47は鉢形土器の口縁，45は山形の小突起部に三叉文風の沈線と平行沈線，46は2個1対の小突起と平行沈線，47は2個1対の小突起と内面の三叉文風の沈線などがみられる。48は壺形土器の胴部で，細撚りのRLの斜行縄文が施されている。49は厚手の剥片の周縁に加工の施された黒曜石製のスクレイパーで，部分的に尖頭状になっている。50～51は黒曜石製のUフレイク，55は黒曜石の原石である。56は緑色泥岩製の石斧基部の破片である。14点の礫はすべて安山岩の角礫で，最大のものは3.8kgである。

土器　三叉文風　スクレイパー　Uフレイク

P－18（図Ⅲ52・60，図版25－1・38）

位置 Ⅰ－8　**規模**　1.82×1.40/1.50×1.02/0.35m

平面楕円形　**特徴**　平面形は楕円形，壙底は浅い皿状で壁面の傾斜は比較的緩やかである。

出土遺物　覆土中から土器34点，スクレイパー1点，フレイク15点，礫28点が出土した。57はⅡ群1類b，58はⅡ群2類の土器である。57は壺形土器の口縁，口唇にB状突起，その下にA状突起があり，口唇内外には三叉文風の沈線がみられる。内外面ともヘラミガキで丁寧に調整されている。59は縦長剥片の両側縁に加工がみられるスクレイパー，60はUフレイクで，石質は2点とも黒曜石である。28点の礫は凝灰質砂岩，安山岩の角礫・円礫がみられるが，ほとんどは安山岩の角礫である。重量は1kg以下が24点，1kg以上のものは4点，最大でも2.1kgと，概して小型である。

土器　三叉文風　スクレイパー　Uフレイク　安山岩礫

P－21（図Ⅲ－53・60，図版25－2・38）

位置 C－14　**規模**　1.12×0.76/1.01×0.63/0.16m

平面楕円形　**特徴**　東側に木根状の小ピットがあり，中央部と小ピットに心土破砕による溝状の撹乱がみられる。平面形は楕円形，壙底は比較的平らで，壁面の傾斜は急である。

出土遺物　覆土中から土器98点，石斧1点，礫器1点，フレイク13点，礫18点が出土した。遺物は西側に集中し，土器片を囲むように礫がみられた。61・62はⅡ群2類土器，61は深鉢形土器の底部で，外面および底部にRLの縄文が施されている。62は壺形土器の胴部で工字文と平行沈線がみられる。63は安山岩製の礫器で，一部に剥離痕がみられる。18点の礫は凝灰質砂岩，安山岩の角礫，円礫がみられるが，大部分は安山岩の角礫である。重量は1kg以下が12点，1kg以上が6点で，最大は2.2kgと，小型のものが多い。

土器　礫器　安山岩礫

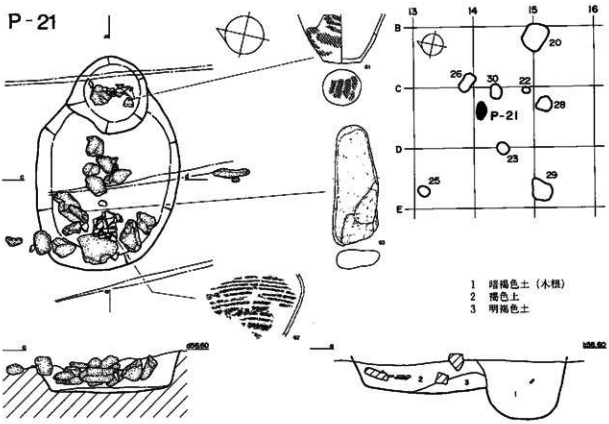
P－22（図Ⅲ－53・61，図版25－3・28－5・38）

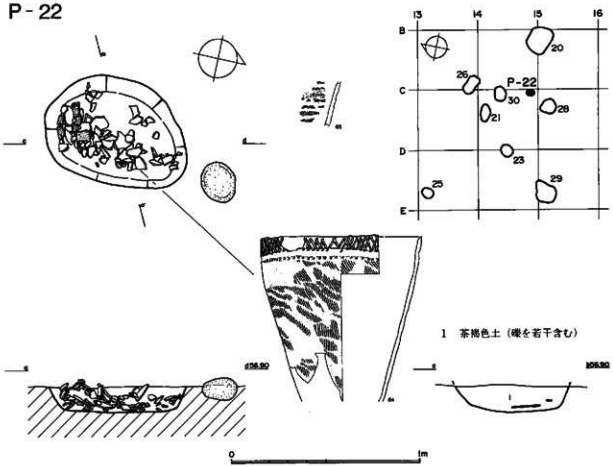
位置 C－14　**規模**　0.79×0.59/0.65×0.43/0.14m

平面楕円形　**特徴**　平面形は楕円形，壙底は平らで，壁面の傾斜は比較的急である。

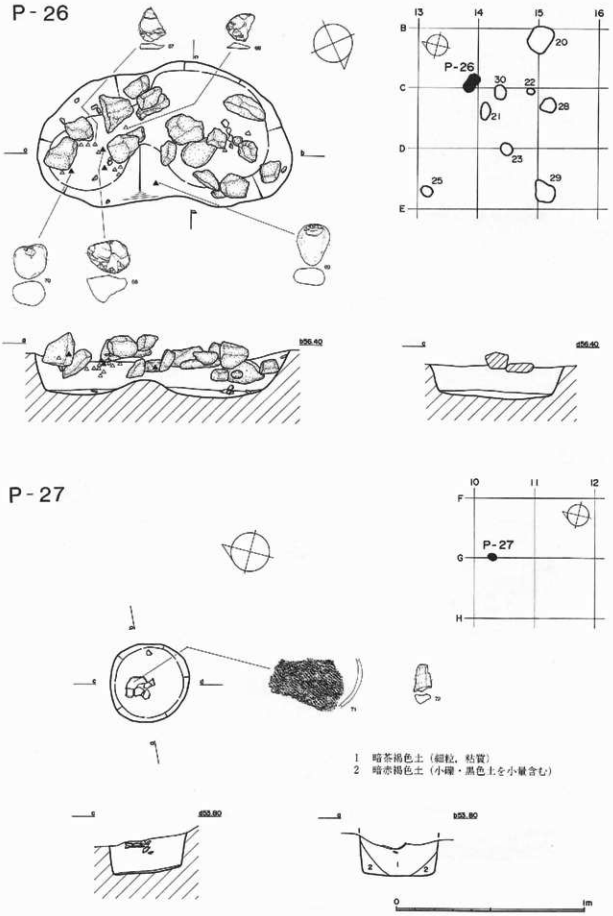
出土遺物　覆土中から土器166点，フレイク14点，礫1点が出土した。土器は土壙の中央部に集中し，深鉢形土器が1個復元できた。64・65はⅡ群2類bの深鉢形土器である。64は底部を欠損しているが，ほぼ全体の形を知ることができる。口縁下に斜格子状の沈線文，指頭幅の沈線に刺突文などがみられ，口唇の断面は切出し形で，地文はRLの斜行縄文であ

土器

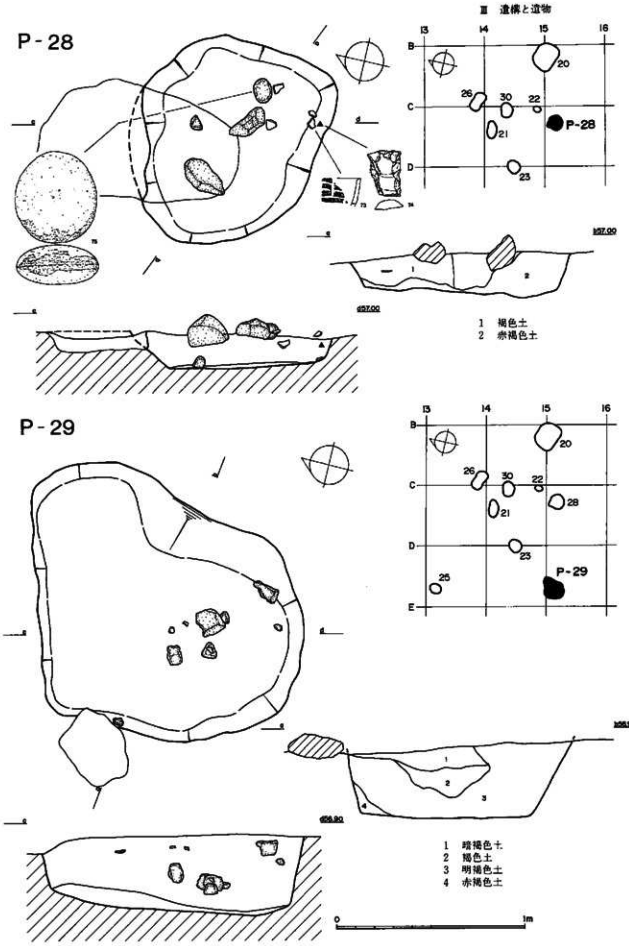




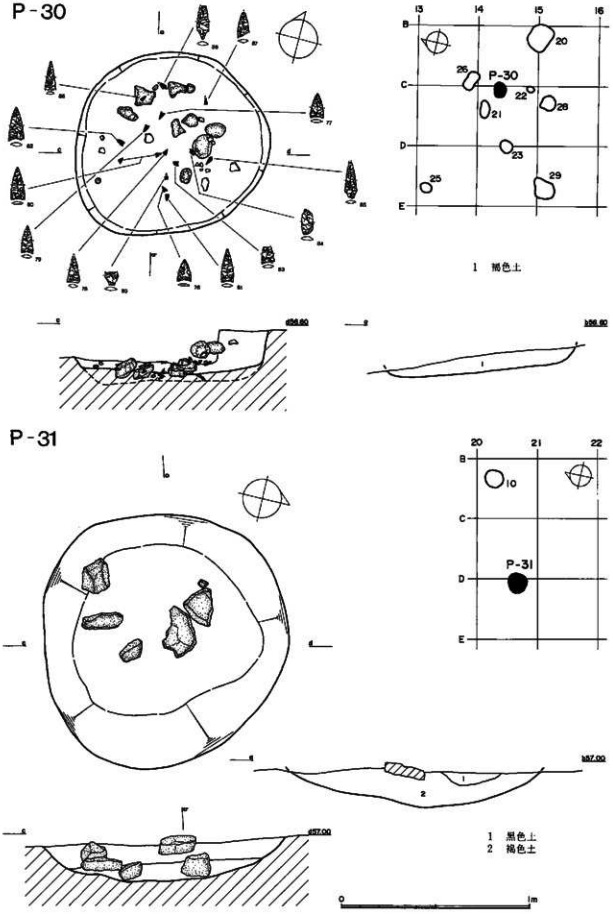
図Ⅲ—53　Ⅳ群土壙(5)・P—21・22



図Ⅲ—54　Ⅳ群土壙(6)・P—26・27



図Ⅲ—55 Ⅳ群土壙(7)・P—28・29



図Ⅲ—56 Ⅳ群土壙(8)・P—30・31

る。65は胴部破片で，平行沈線と鋸歯状の沈線がみられる。

P－26（図Ⅲ－54・61，図版25－4・38）

位置　B－13　**規模**　1.32×0.71/1.13×0.57/0.25m

特徴　二つの土壙がつながったような状況で，平面形は不整形で凹凸がある。壙底は凹凸があり，壁面の傾斜も一定していない。　平面不整形

出土遺物　覆土中から土器25点，石核2点，黒曜石原石2点，Uフレイク2点，フレイク28点，礫20点が出土した。遺物は土壙全体にみられるが，出土レベルは覆土の上部が多い。66・67は黒曜石製のUフレイク，68は黒曜石の円礫素材の石核，69・70は黒曜石の小型の円礫原石である。20点の礫は凝灰質砂岩が1点のみで，他はすべて安山岩の角礫である。安山岩の角礫は，1kg以下が6点で残りは1kg以上，最大6.7kgで，1kg以上のもの13点の平均は3.0kgである。60gの角礫の破片が1点のみ焼けている。　Uフレ・石核　安山岩礫

P－27（図Ⅲ－54・61，図版26－1・38）

位置　F－10　**規模**　0.44×0.42/0.38×0.36/0.18m

特徴　平面形は円形，壙底は平らで，壁面はほぼ垂直に立ち上がる。　平面円形

出土遺物　覆土の上部から土器18点，矢柄研磨器1点が出土した。71はⅡ群1類の壺形土器の胴部，RLの斜行縄文が施されている。72は溶結凝灰岩製の矢柄研磨器の小破片で，片面に浅い溝がみられる。　土器　矢柄研磨器

P－28（図Ⅲ－55・61，図版26－2・38）

位置　C－15　**規模**　1.11×(0.99)/0.98×0.71/0.22m

特徴　北側の一部が木根によって破壊されている。平面形は不整形，壙底，壁面ともに凹凸がある。　平面不整形

出土遺物　覆土および壙底から土器9点，スクレイパー1点，たたき石1点，礫4点が出土した。遺物の大部分は土壙中央部，覆土の上部から出土している。73はⅡ群2類bの深鉢形土器の口縁部，平行沈線とそれを切る縦の短沈線がみられ，口唇断面は切出し形である。74は頁岩製のスクレイパーで，縦長剥片の周縁に粗い二次加工がみられる。75は安山岩製のたたき石で，扁平な礫の周縁に敲打痕が残っている。4点の礫は凝灰質砂岩2点と，安山岩の角礫2点で，最大のものは6.8kgである。　土器　スクレイパー　たたき石

P－29（図Ⅲ－55，図版26－3）

位置　D－15　**規模**　1.73×1.42/1.52×1.13/0.40m

特徴　平面形は不整形，壙底，壁面ともに凹凸がある。　平面不整形

出土遺物　覆土中から土器10点，スクレイパー片1点，フレイク4点，礫7点が出土した。スクレイパー片とフレイクはいずれも黒曜石製である。礫はすべて安山岩で，円礫が1点，他は角礫である。1kg以下が5点，1kg以上が2点（1.0・2.4kg）で，概して小型である。25gの角礫片1点が焼けていた。　スクレイパー　安山岩礫

P－30（図Ⅲ－56・62，図版26－4・38）

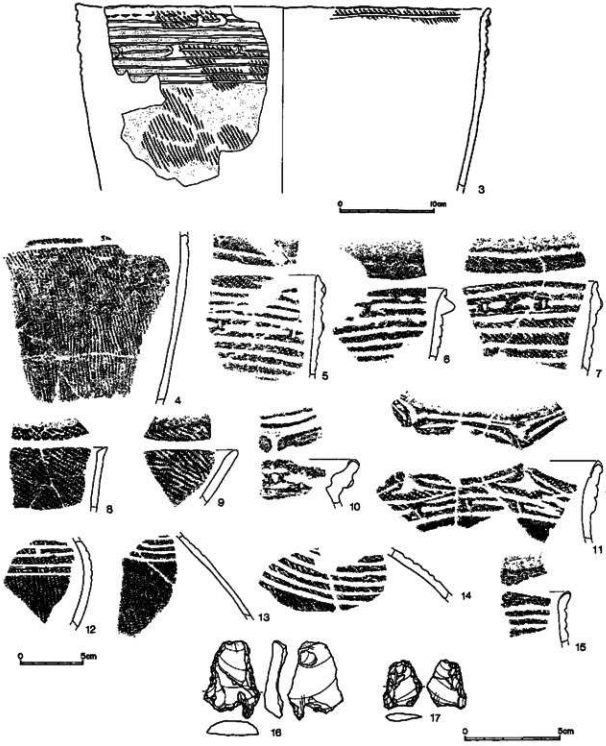
位置　C－14　**規模**　1.05×0.97/0.98×0.92/0.22m

特徴　平面形は円形，壙底は比較的平らで，壁面はほぼ垂直に立ち上がる。　平面円形

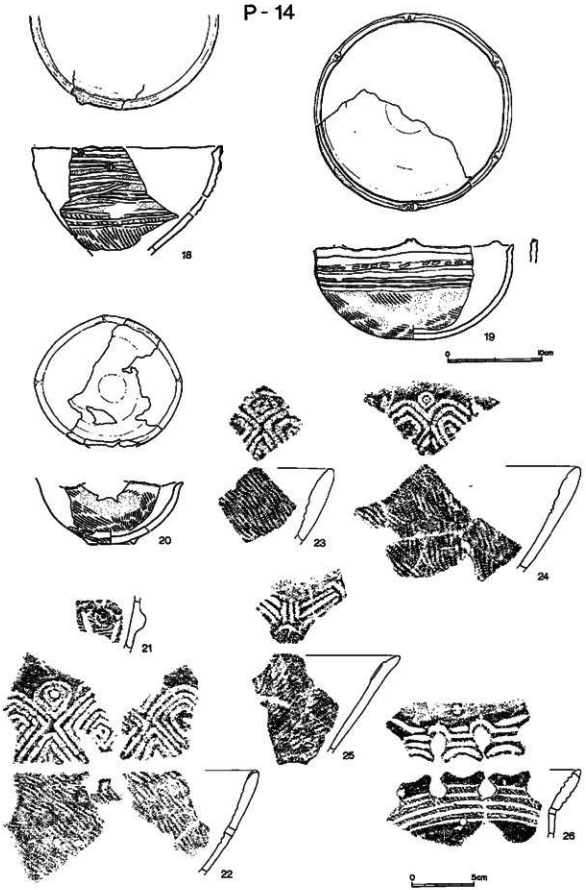
出土遺物　覆土および壙底から土器13点，石鏃14点，フレイク2点，礫10点が出土した。遺物は土壙のほぼ全体に分布する。76～89はすべて黒曜石製の石鏃である。76～83は無茎の三角形鏃，加工の粗いもの（76）もあるが，概して丁寧な二次加工が施されている。84　石鏃

P-10

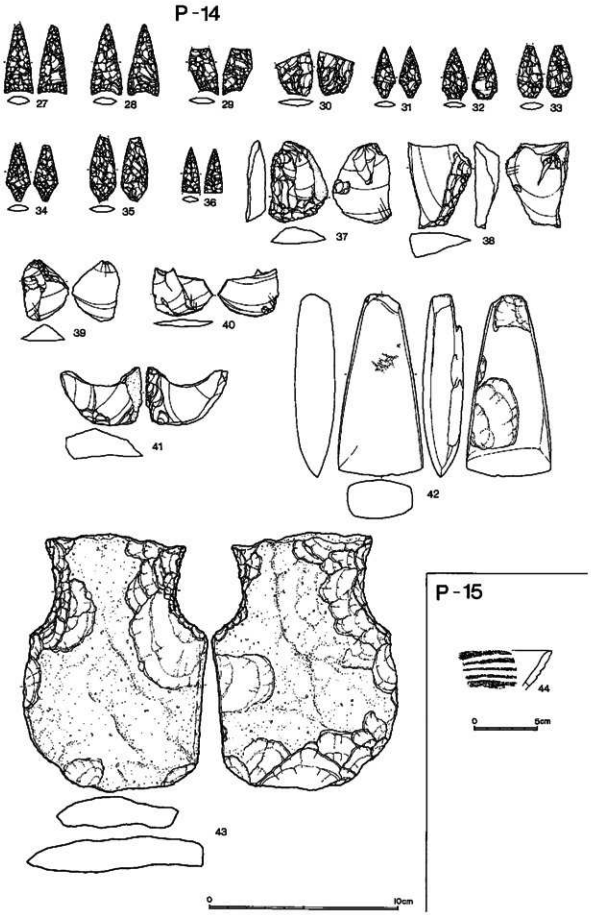
P-12



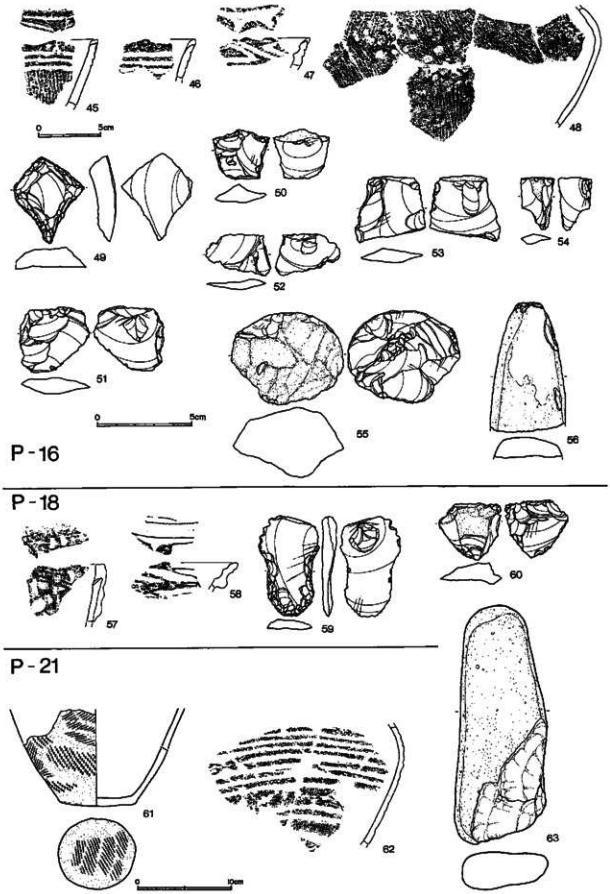
図Ⅲ—57　Ⅳ群土壙(9)・P—10・12遺物



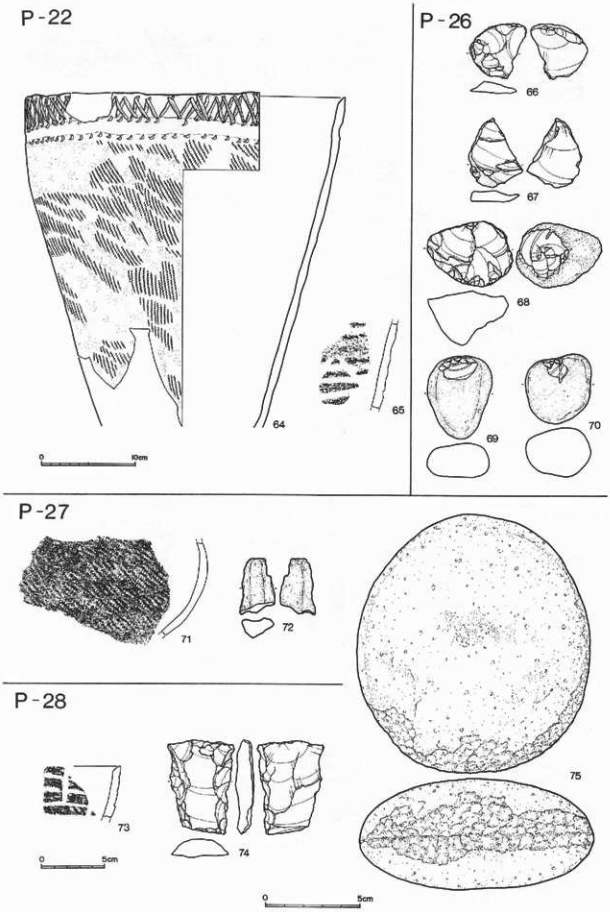
図Ⅲ—58　Ⅳ群土壙00・P—14遺物



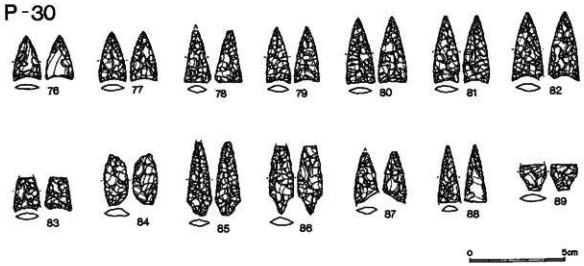
図Ⅲ—59　Ⅳ群土壙(11)・P—14・15遺物



図Ⅲ－60　Ⅳ群土壙02・P－16・18・21遺物



図Ⅲ—61　Ⅳ群土壙(13)・P—22・26～28遺物



図Ⅲ－62　Ⅳ群土壙(14)・P－30遺物

は柳葉形，85～89は欠損品もあるが有茎鏃とみられる。85・86は細身の長身鏃である。10点の礫は凝灰質砂岩1点を除きすべて安山岩である。9点の安山岩は円礫が2点で，他は角礫である。1.6kgの円礫1点を除きすべて1 kg以下の小型礫で，焼けているものなどはない。　安山岩礫

P－31（図Ⅲ－56，図版26－5）

位置　C・D－20　　**規模**　1.34×1.30/0.90×1.01/0.19m

特徴　平面形は円形，全体に皿状で，壙底と壁面の境は明瞭でない。　平面円形

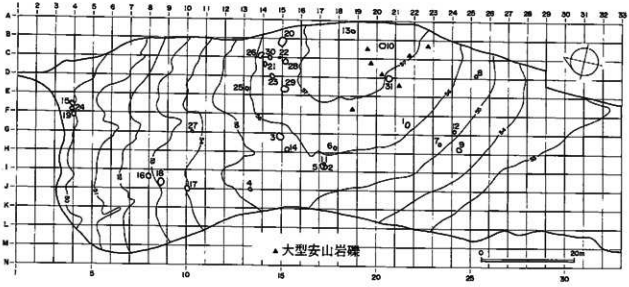
出土遺物　覆土中から土器6点，礫8点が出土した。8点の礫はすべて安山岩の角礫で，650gの小型のもの以外は2 kg以上（5.7・2.5・2.3・2.0kg，4点が接合して5.7kg）である。焼けているものなどはない。　安山岩礫

2　大型安山岩礫

発掘区の最も高い部分，18～23・B～Fラインの区域で，大型の安山岩が7点出土した（図版11－3～5）。7点はいずれも第Ⅰ層からの出土で，心土破砕や耕作によって動かされ，原位置を保ってはいないと考えられる。しかし，7点はいずれも変朽安山岩の円礫で，地山に多く含まれる表面が酸化して黄褐色を呈する安山岩の角礫とは趣を異にしている。肉眼的に観察した段階では擦痕や敲打痕はみられず，石皿や台石として使用された可能性も薄い。円礫の形状は楕円形で，両面に滑沢面があるものもみられるが，ほとんどは小さな凹凸があるあばた状である。重量は17.7（C－19）・16.0（B－21）・13.2（E－18）・11.7（B－22）・11.0（C－20）・10.4（B－19）・8.6（D－21）kgで，平均は12.7kgである。7点の分布域に土壙墓や土壙が特に集中する傾向もなく，配石を積極的に裏付ける証拠はないが，何らかの目的をもって遺跡に運び込まれたものと考えられる。　変朽安山岩　重量　運び込み

3　包含層出土の土器

土器の出土点数は，第Ⅰ層（耕作土）62,752点，第Ⅰb・Ⅱ層10,967点，表採等130点，総計74,181点である。縄文時代中期～晩期の土器がみられるが，中・後期は116点とわずか　総数



図Ⅲ－63　大型安山岩礫分布図

で，その他はすべて晩期のものである。

心土破砕，耕作などによる攪乱が著しく，土器の接合状況は点数の割に悪い。同一個体とみられても接合できないものが多く，包含層においては9個体が復元できたが，全体の形状を知ることができるものはない。

土器の分布状況は調査区中央の高台を中心に環状に密度が高い。縄文時代中・後期の土器は少量なのでⅠ群として一括して扱い，晩期の土器はⅡ群とした。器形，分類，発掘区などは表6を参照願いたい。また，表6の備考の欄に「胎分」と記したものは，胎土分析を行ったものでⅣ2（2）を参照願いたい。

縄文中後期　**Ⅰ群土器**（縄文時代中・後期）（図Ⅲ－64，図版39－1）

中期後葉，後期初頭，後期中葉の3時期のものがみられ，1～3類に分けた。

Ⅰ群1類（中期後葉）1は深鉢形土器の口縁部，外反する口縁の内外面および口唇に縄文がみられる。太いタガ状の粘土紐の貼付帯からみて，一見余市式とみえるが，口縁の外反の状態や繊維を含む胎土などから，柏木川式に近いものと考えられる。

柏木川式

Ⅰ群2類（後期初頭）2・3は縄文のみの深鉢形土器で，3は山形の突起部分である。4・5は深鉢形土器の口縁部に縁下に平行沈線文と口唇に押圧痕がみられる。6～8は深鉢形土器の胴部，縦と横の弧線がみられるもので，同一個体の可能性がある。これらはニセコ式・手稲砂山式に相当するものであろう。

ニセコ式
手稲砂山式

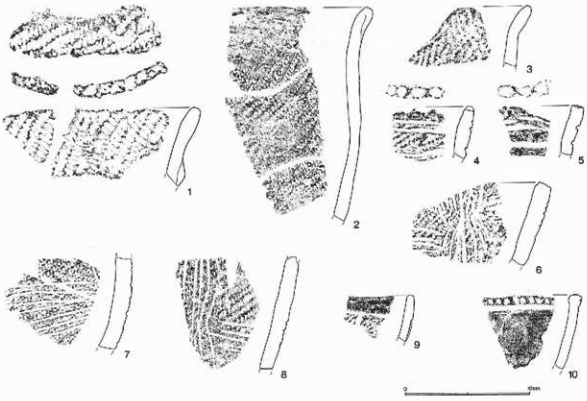
Ⅰ群3類（後期中葉）9・10は深鉢形土器の口縁部，9には沈線文，10には口縁部の肥厚帯に刺突文がみられ，いずれも無文の部分と内面はヘラミガキで調整されている。手稲式，鈴鹿式に相当するものである。

手稲式
鈴鹿式

縄文晩期　**Ⅱ群土器**（縄文時代晩期）

層位的な出土状況がみられなかったので，器種別に分類して他遺跡の同時期の資料などを参考に若干の新旧関係を検討し，1～3類に分けた。さらに深鉢・鉢・浅鉢形土器については道南系（a）と道央系（b）に分けた。道南系の土器は，平行沈線や貼瘤などの文様を主体とし，道央系の土器は刺突文，縄線文，撚糸圧痕文などを主体とするものである。

分　類



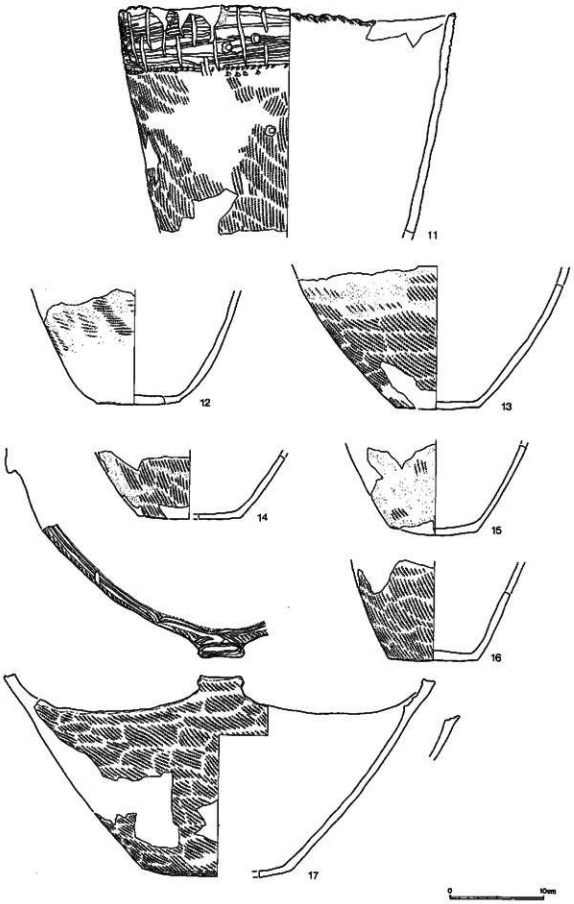
図Ⅲ－64　包含層の土器(1)・中・後期

以下に深鉢・鉢・浅鉢・壺形土器，異形土器，底部のみの順で，さらに道南系（a），道央系（b），1～3類の順で説明する。

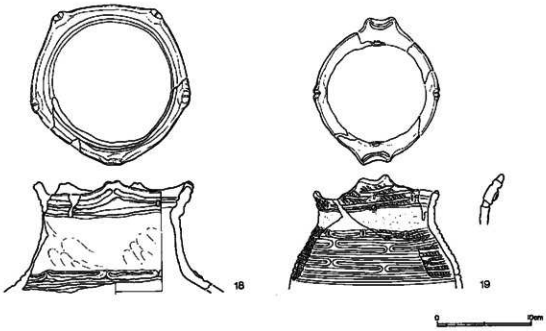
深鉢（図Ⅲ－65・67～70，図版39－2・40・41・42－1）　深鉢形土器

Ⅱ群1類a(20～23)　縦位に近い縄文の地文と浅い沈線がみられるものである。20は口縁部に小突起，口縁外面に3条，内面に1条の沈線がめぐる。小突起内外面には縦位の短沈線を施し，横走沈線と結ぶ。21・23は口唇にヘラ状工具による間隔のあいた押圧痕があるもので，口唇内側に縄文を施し，下位に指頭幅の沈線がめぐる。以上はいずれも口唇断面形が丸味を帯びた切出しナイフ状を呈し，地文はRL縄文である。

Ⅱ群2類a(24～42)　斜行あるいは縦位に近い縄文の地文と深い沈線がみられ，口唇断面形が切出しナイフ状を呈するものである。また，口唇内側に縄文を施したものが多い。24～26は横位に長い貼瘤の中央をヘラ状工具の端部で押圧してB状突起風としたもので，25は2個に分かれた貼瘤にそれぞれ縦位の押圧がみられる。胴部の地文は縦位に近いもの（24）と斜行縄文（26）とがある。26は，胴部から口縁にかけて直線的に開く器形で，口唇にヘラ状工具による細かな刻みがある。地文は太目のRL縄文である。27～29は口縁内側に断面山形の肥厚帯があり，切出しナイフ状の口縁がさらに強調されるものである。27は口唇に山形の突起があり，内外面とも一部が突起内に入り，三叉文風となっている。沈線間にも同種の文様が認められる。すべて口縁文様帯の地文は斜行縄文で，文様帯下位は縦位に近い。30～38は口唇に刻みがあるもので，30～32は貼瘤の中央に竹管状工具による刺突，36は浅い沈線，37・38は沈線を重ねて施文した幅広の沈線などがみられるものである。39～42　三叉文風



図Ⅲ—65　包含層の土器(2)・晩期



図Ⅲ－66　包含層の土器(3)・晩期

は口唇に刻みがなく，口唇断面形がやや丸味を帯びた切出しナイフ状のものである。いずれも口唇内側に縄文がある。

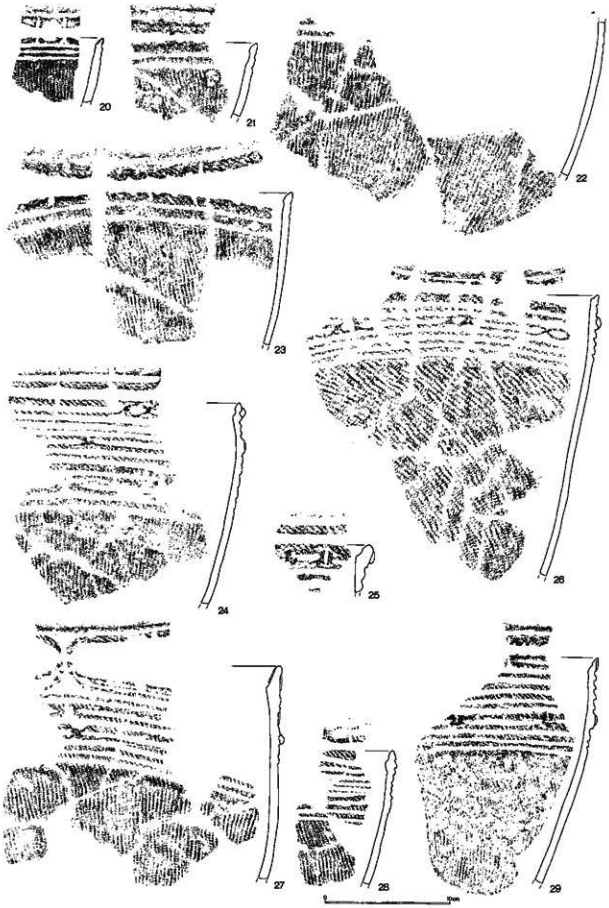
Ⅱ群3類a（43～51）　口唇断面形が尖頭・丸・角形を呈するもので，口唇内面は縄文を磨り消すか無文地である。43・44・48・51は口唇断面形が尖頭形で，48・51は内面に2条の沈線がめぐり，51は細撚りの縄文が地文である。45・47・50は口唇断面形が丸形で，45は内面に沈線がない。46は口唇断面形が角形で，沈線間を磨り消して，口唇内側に2条の沈線をめぐらしている。

Ⅱ群1類b（52～73）　縄線文・爪形文（ヘラ状工具端部による），条痕文などがみられる　縄線・爪形文
もの，52・53は口唇内側に縄線文がみられるもので，52は口唇に小突起，53は縄線上に縦位の短沈線，さらに縄線下位に縄端圧痕がある。どちらも口唇はやや厚味がある。54・55は口縁外面に，縦位の2本1対の貼付隆帯があるもので，口唇部はこの隆帯が小突起を形成する。口縁部は竹管状工具による刺突文と同工具による沈線，さらに，隆帯部にも同様な工具による押圧痕がある。また，55は口唇に縦位の撚糸圧痕がみられる。56～62は口唇に撚糸（56・57）や撚紐（58～62）を縦位に施文したものである。38はこれを施文した際の爪跡が器面に残っている。また，62は口唇外面に撚糸・撚紐ともRが多い。

63～66は縄文の地文のみのもので，地文が縦位に近いもの（44・66），斜行のもの（64・65）とがある。66は口唇内側にも縄文があり，口唇は外反する。

67～69は爪形文がみられるものである。67は指頭によるもの，68・69はヘラ状工具端部　爪形文
の右方向からの押圧によるもので，後者は，指頭幅沈線間に施文したものである。

70～73は条痕文が地文として施されるものである。70・71はRL斜行縄文の地文を磨り消した後に横方向に櫛目状の細い平行沈線を施し，棒状工具による太い沈線を施文する。70は波状沈線の下位に，上下に竹管状工具による右下方向からの刺突文を連れた指頭幅沈線がめぐる。どちらも口唇内側には縦位の撚糸圧痕と棒状工具による短沈線とを交互に施文



図Ⅲ—67　包含層の土器(4)・晩期・深鉢(1)

図Ⅲ—68　包含層の土器(5)・晩期・深鉢(2)

する。72・73は細い沈線が2本1単位に施文（2本が平行）されており，半截竹管状工具によるものと思われる。70・71もこれと同様に半截竹管を束ねたものであろうか。72は角形の口唇に LR 縄文，73は口唇外面に指頭幅沈線がみられる。

Ⅱ群2類b（11・74～88）　指頭幅沈線，短沈線，蛇行沈線，鋸歯状沈線などがみられるものである。

74～76は竹管状工具による刺突文と，指頭幅沈線がみられ，口唇断面形が細長い尖頭形を呈するものである。他の深鉢と比べ異質な感じをうける。74は口縁に縦位の薄く幅の広い貼付帯があり，平行する指頭幅沈線の上下には下方より棒状工具による刺突文を連ねる。75は口唇下位に1条，さらに下位に斜方向の指頭幅沈線がめぐり，沈線間を RL 斜行縄文で埋め，沈線下位に竹管状工具による右下方からの刺突文を連ねる。76は LR 斜行縄文の地文が指頭幅沈線間に残り，この沈線により工字文風の文様を描く。沈線両側に竹管状工具による斜め方向からの刺突文がある。77は口唇外面に指頭による縦位のつまみ痕があるもので，内面は RL 縄文を施す。口縁外面は縦位の波状沈線とこれに沿って縄線文を施す特異な文様である。

工字文風

78～80は口縁外面に縦位の短沈線と，指頭幅沈線がみられるもので，文様帯部は地文の縄文を磨り消している。78は口唇外面を断面山形に肥厚させ，この面に2条の縄線文を施す。肥厚帯は縦位の指頭幅短沈線で区切られ，肥厚帯部の縄線文は棒状工具による短沈線で切られる。機走する太沈線下位は右方向からの竹管状工具による刺突文を連ね，地文は LR 斜行縄文である。79は棒状工具による縦位の短沈線と，2段の指頭幅沈線が，80は横走する指頭幅沈線の上下に下方からの竹管状工具による刺突文がみられる。

81は棒状工具による鋸歯状沈線間に竹管状工具による下方からの刺突文がみられ，下方の指頭幅沈線下位にも同様の刺突文がある。

82・83は RL 斜行縄文の地文に，棒状工具による縦位と斜位の短沈線を施したもので，下位に上下を竹管状工具による刺突文のある指頭幅沈線がめぐる。82は口唇に2個1対の小突起，突起下位に Y 字状の沈線がある。

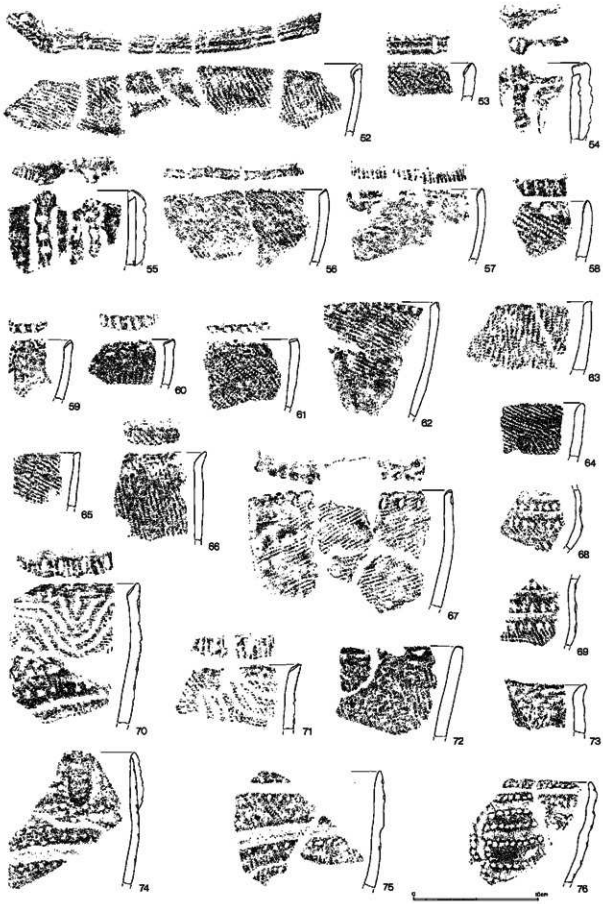
84・85は口唇外面に縦位の短沈線，下位に1条の横走沈線を施す。ともに浅い沈線で，口唇はやや尖頭形を呈し，内面は平らである。84の文様帯部は地文を磨り消し，85は RL 地文を施してはいるが，規則性はない。

86は口唇断面形が切出しナイフ状，口唇内側は撚糸圧痕と棒状工具による短沈線とを交互に施す。外面文様帯は磨消縄文で，口唇下位は横走沈線，次に竹管状工具による右下からの刺突文，さらに蛇行沈線を施す。

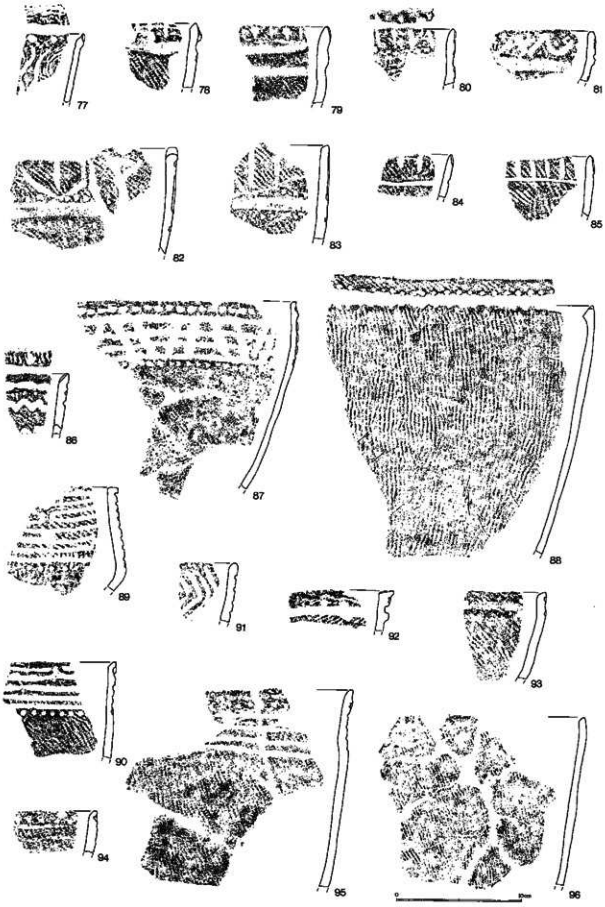
11は口唇の断面形が丸形で，口唇内側は RL の縄文の施文後に指頭による押圧痕を施す。口縁文様帯は地文の縄文を磨り消し，竹管状工具による平行沈線とこれを区切る縦位の短沈線や括弧文を施す。なお，右方向からの刺突文は縦位沈線より先行する。内面には横方向のナデ痕が認められる。

87は口唇断面形が切出しナイフ状に近く，口縁外面の文様は LR 斜行縄文の地文に施される。4段の平行沈線に，2本1組の沈線を鋸歯状に施文する。文様帯上は右からの刺突文で，いずれも施文具は竹管状工具とみられる。

88は口唇内側が山形に肥厚し，ここに縄文を施す。外面は縦位縄文に近く，内外面とも LR 縄文で，口唇は棒状工具により縦位に押圧する。



図Ⅲ—69　包含層の土器(6)・晩期・深鉢(3)



図Ⅲ—70　包含層の土器(7)・晩期・深鉢(4)

Ⅱ群3類b(89～96)　口唇断面が平坦または丸味を帯びた切出しナイフ状を呈するものである。ここにみられる刺突文は2類bより垂直に近い角度で施文される。

89は口唇断面形が角形，口唇外面は肥厚する。文様帯は縄文の地文を磨り消し，棒状工具により沈線を施し，沈線間で工字文を表わしている。文様帯下位は竹管状工具により，やや右方向からの刺突文を連ねる。胴部が強く張り，壺形土器の可能性もある。　工字文

90はRL斜行縄文を磨り消した文様帯に棒状工具による平行沈線を施し，平行沈線の一部を上位の沈線に突出させ，その部位が沈線による三叉文となる。文様帯下位は右斜めから竹管状工具による刺突列を配す。　三叉文

91は口縁外面の無文地に棒状工具による矢羽根状の沈線を施すもので，口唇断面形は丸形で口唇はやや波状を呈す。

92は口唇断面形が角形，口唇平坦面はLR縄文を施す。外面はLR斜行縄文の地文，口唇下位に器面に対し垂直方向からの竹管状工具による刺突文を連ね，下位に同工具による深い沈線を施す。厚手の土器である。

93は外面LR斜行縄文の地文，口唇下位に指頭幅沈線を施し，その上下に竹管状工具による右方向からの刺突文を連ねる。やや肩の張る器形で，口唇はヘラで削る。

94・95は外面口唇下位に右下からの竹管状工具による刺突文を施し，同工具による浅い平行沈線を横走させたもので，文様帯部は縄文を磨り消す。95はLR斜行縄文の地文である。どちらも口唇はヘラ状工具で斜めに削られている。

96も同様な口唇で，LR斜行縄文が施される。

鉢(図Ⅲ－71～74，図版42－2・43・44)　鉢形土器

Ⅱ群1類a(97～107)　胴部に縄文の地文が縦位に近く施文されるもので，沈線文はすべてヘラ状工具が使用される。

97は沈線の幅が狭く，口唇に小突起があり，肩がやや張る器形である。口縁外面文様帯(以下口外帯と表現する)は，沈線を密に施し肩部にA状突起とB状突起を交互に配す。

98～104は沈線の幅が広いもの，98は沈線の間隔がややあいているもので，胴部縄文の地文は横位に施文されている部位がある。99・100は沈線を多重させ幅広の無文帯風としたものである。99はやや肩の張る器形で，口唇に小突起，肩部沈線上に間隔のあいたB状突起がある。この手法は深鉢1類aで認められたものと同じで，横長の貼瘤中央をヘラ状工具端部で押圧したものである。胴部地文はLR縄文である。

101・102は頸部に幅広の無文帯があるもので，どちらも肩が強く張る。101の肩部沈線上にはA状突起が認められる。102はA状突起とB状突起が交互にあり，胴部地文はRL縄文である。

103は口唇に2個一対の小突起があり，突起部内面は縦位の短沈線を横走沈線がつないでいる。外面の平行沈線帯はヘラミガキを施した後に施文されている。

104はRL縄文の地文に2条の沈線と下位に短沈線を連ねる。

105～107は浅い沈線を施したもので，105は口縁外面のRL縄文を磨り消した後に浅い沈線を施し，工字文を描いている。106はRL縄文の地文に平行沈線，107は無文地に2条の沈線を施したものである。　工字文

Ⅱ群2類a(108～124)　地文に斜行縄文を施し，沈線間に縄文が残るものである。

108～113は口外帯のあまり明確で無いもので，108・111・113は貼瘤中央に縦位のヘラ状

工 字 文　工具による押圧が認められ，109・112には沈線による工字文が認められる。いずれも平行沈線が密に入る部位がある。

114～122は口外帯の明確なもので，114は頸部に無文帯があり，肩部にA状突起と沈線による工 字 文 よるメガネ状文様がみられる。116・121は工字文の認められるもので，121にはA状突起と沈線によるメガネ状文様がある。115・118～120を除き，口唇内側の断面は山形に肥厚する。

123・124は山形小突起と，突起内面に沈線があるもので，口縁外面は沈線幅よりも沈線間の方が広い。

Ⅱ群3類a（125～149）　比較的厚手で，口唇の断面形が丸味を帯びているものである。

工 字 文　125は口唇断面形が丸形，無文地に浅い沈線の工字文，上位にA状突起がみられる。

126～133は口唇の断面形が丸味を帯びた切出しナイフ状を呈するもので。126は口唇外面工 字 文 に細い短沈線を連ねた工文字，127は沈線多重による幅広沈線がみられる。131は工字文く三 叉 文 ずれで，三叉文とB状突起が外面に，さらに内面にもB状突起がある。

134は口唇断面が角形を呈するもので，口唇内面には縄文を施し2条の沈線をめぐらす。

135・136は斜行，矢羽根状沈線の入るもので，136は口唇内側の断面形がやや山形に肥厚する。

137・149は突起や把手があるものである。137・138は口唇に山形突起があり，突起部内三 叉 文 面に縦位の短沈線がみられる。139・140は鶏冠状の突起がある。142は把手部側面に三叉文，141は突起部上面が平らで，無文字に沈線のみが施文されている。143は蝶ネジ風の把手で，三 叉 文 把手側面はRL斜行縄文の地文に沈線を施す。突起部下位の口唇外面は沈線による三叉文があり，この下位の沈線上に中央を縦位にヘラ状工具で押圧した貼瘤がみられる。144・145は口唇に山形突起があるもののうち，突起内外面に1条の沈線と突起部先端に刻みのみられるものである。146～149は2個1対の小突起があり，突起部内外面に2個の小突起をつなぐ孤状の沈線，148・149は外面の孤状沈線中間部にA状突起がみられる。

Ⅱ群1類b（150～170）　刺突文，縄線文，条痕文などを施すものである。

150～152は沈線で区切られた文様帯内部を刺突文で埋めるものである。施文具は竹管状工具で右下方から刺突する。沈線も同様の工具と思われる。

153は口縁外面にヘラ状工具による沈線と，下位に棒状工具による浅い平行沈線をめぐらせ，文様帯下部に右側からの竹管状工具による連続刺突文を施す。口唇内側は棒状工具による縦位の押圧痕がある。

154～156は縄線文を施すもので，154は口唇内側，155は口唇の2個1対の突起に貼付されたY字状の隆帯上，156は口唇外面にそれぞれ施文されている。また，155は口唇の2個1対の突起間に直径2 mm程の竹管状工具による器面に対し垂直方向からの刺突文がみられる。

157は口縁外面の磨消帯に浅い平行沈線と蛇行沈線を施す。口唇には刻みを付けた小突起がある。

158～164は縄文の地文のみのもので，158は口唇に指頭による内外面からのつまみ痕。

159・160は口唇内側に撚糸圧痕，160は山形突起がある。161はLR斜行縄文の地文で，口縁内側も同じ縄文を施し，口唇外面に棒状工具による押圧瘤がみられる。162～164は縄文の地文のみが施され，163・164はRL斜行縄文である。いずれも口唇の断面は尖頭形を呈する。

165～167は外面地文に条痕文がみられるもので，縦位の短沈線（165），ヘラ状工具によ

図Ⅲ—71　包含層の土器(8)・晩期・鉢(1)

る沈線と刺突文（166），竹管状工具による刺突文（168・169）を施したものがある。

170は地文の条痕文のみである。

168・169は条痕文を鋸歯状に施している。

Ⅱ群2類b（171～199）　沈線間に刺突文を施すものや，鋸歯状沈線，2本1単位の波状沈線などを施すものである。

171・172は平行沈線間に竹管状工具による刺突文がみられるもので，171は器面に対し垂直方向から，172は右方向から刺突されている。いずれも口唇に刻み目がある。

173～176は沈線による工字文のある屑部に棒状工具による右からの押圧痕があるもので，

工字文　174は口唇に小突起，175は口唇外面に中央を指頭で押圧したB状突起がみられる。

177～182は半截竹管状工具による刺突文を連ねるものである。177・178は同一個体で，口唇外面にLR縄文の地文が残り，同沈線上にB状突起がある。幅広沈線の上下沈線間には右からの刺突文，下位沈線は沈線による工文字がみられる。179は中央を指頭で押圧した

工字文　山形突起がある。180・181は同一個体で，沈線も半截竹管状工具で施文されている。182も沈線が半截竹管状工具で施文され，口唇は指頭による凹みと，同じく指頭による刻み目がみられる。

183・184は同一個体で，直径2 mm程の竹管状工具により施文されている。口縁の2条の平行沈線を中心に上位に1列の刺突文，下位に3列の刺突文を施す。刺突はいずれも器

赤色顔料　面に対し垂直方向からである。また，文様帯のみ赤色顔料が認められる。

185・186は屑の張る器形で，口外帯が形成されている。屑部にA状突起（185）や，右方向からの竹管状工具による刺突文（186）がみられる。186は口外帯下位に浅い指頭幅沈線があり，口唇内側にも縄文が施されている。

187～189は口外帯の発達したもので，いずれも口唇平坦面に縄文を施している。187は口唇外面の中央に棒状工具による刺突のある貼瘤がみられ，指頭幅沈線下位に右方向からの竹管状工具による刺突文を連ねる。188・189は口外帯部に鋸歯状沈線を施したもので，地文はLR縄文である。ヘラ状工具による幅広沈線を施し，沈線間は地文を磨り消して右方向からの竹管状工具による刺突文を連ねる。

190～192はLR撚糸文の地文に平行沈線と，鋸歯状沈線を施す。文様帯下位に半截竹管状工具による右方向からの浅い刺突文，口唇にはヘラ状工具による刻み目がある。口唇内側は山形に肥厚する。同一個体の可能性がある。

193は磨消帯部に浅いヘラ状工具による平行沈線がみられる。山形突起外面はハの字状に隆帯を貼付し，隆帯上面にヘラ状工具端部による刺突文を施す。口唇内側は山形に肥厚し，

三叉文状　突起部内面は三叉文状となる。

195・196は2本1単位の沈線による波状文様を描くものである。195はRL斜行縄文の地文で，口唇の断面形は切出しナイフ状を呈す。196は口唇に小突起があり，地文を磨り消している。どちらもヘラ状工具による施文である。

197は口唇断面が丸形で，外面は斜行縄文の磨消，口唇内面はRL縄文がみられる。

198・199は口唇に太い棒状工具による縦位の押圧がみられるもので，口唇の断面形は切出しナイフ状である。198は口縁外面RL縄文の地文を磨り消し，断面半円形の幅広沈線を施す。199は外面斜行縄文の地文を少し磨り消す。

Ⅱ群3類b（200～212）　口唇の断面形が角形ないし角形に近い形態のものである。また，

図Ⅲ—72　包含層の土器(9)・晩期・鉢(2)

図Ⅲ—73　包含層の土器(Ⅲ)・晩期・鉢(3)

図Ⅲ—74　包含層の土器(11)・晩期・鉢(4)

特異なヘラ状工具による楔形押圧痕のみられるものも含めた。

200は口唇内面に2本1単位の沈線，2個1対の突起部内面には縦位にこれを施文する。突起部外面は2個の突起をつなぐ様にU字状の隆帯を貼付し，上面にヘラ状工具による刻みを付ける。口縁外面は，RL斜行縄文の地文にヘラ状工具による平行沈線，上位の沈線間には垂直方向からの刺突文を施す。2個1対の突起部下位には2個の穿穴がある。

201～204は口唇に棒状工具による縦位押圧痕がみられる。縄文の地文は磨消が多い。201は山形の小突起，203は竹管状工具による沈線と，右からの同工具による刺突文がみられる。

205は口縁外面に指頭幅沈線，その上下に半截竹管状工具による刺突文を連ねる。

206・207は口唇をヘラ状工具で平坦に削り出したもので，地文はLR斜行縄文である。

208・209・211はヘラ状工具による楔形押圧痕がみられるものである。208は無文帯にヘラ状工具による沈線と，同工具端部押圧による横位の楔形圧痕が外面と口縁部内にあるもので，口唇にも同工具による刻みがある。外面下位の沈線下には中央を縦位に押圧した貼瘤がある。209も同様の技法による波状の沈線を施す胴部である。211は口唇に2個1対の小突起，その下位に縦位の橋状把手を付けたものである。把手には平行沈線と右方向からの楔形押圧痕がみられる。口唇内面は小突起部にそれぞれ1個の楔形押圧痕を施し，1条の沈線を介してさらに押圧痕を連ねる。

橋状把手　210・212は橋状把手の一部で，横位の沈線（210）と縦位の沈線（212）がある。

浅鉢形土器　**浅鉢**（図Ⅲ－75～78，図版45～47）

Ⅱ群2類a（213～218・17）　斜行縄文の地文で，口唇内側が山形に肥厚するものである。

213・214は口縁内外面にヘラ状工具による平行沈線がある。地文はRL斜行縄文である。

215～218は外面が縄文のみで，RL（215・216）とLR（217・218）縄文がある。215は山形突起部で，その内側は沈線により三叉文風の文様となる。216は口唇内側の肥厚が顕著なもので，断面は山形というより段状になっている。217は沈線が浅いもので，沈線間の縄文をやや磨り消す。218は口唇の断面形が角形に近く，口唇内側の肥厚が最も顕著なものである。沈線間の縄文は磨り消している。

17は四方に突起があり大きな波状口縁となるもので，外面はRL斜行縄文が施される。口唇の断面形は切出しナイフ状，口唇内側の文様帯部は山形に肥厚している。口唇内側文様帯はRL縄文の地文にヘラ状工具による2条の沈線があり，突起部は斜位に3条の沈線，突起上端面に2条の沈線が入る。底部はゆるやかな丸底である。

Ⅱ群3類a（219～224）　口唇内側の文様帯部があまり肥厚しないものである。

219は小型で，口縁は平縁，山形突起があり，中央にヘラ状工具による縦位の刻み痕がある。口唇内側に外面と同様のRL縄文，下位に太沈線を施す。

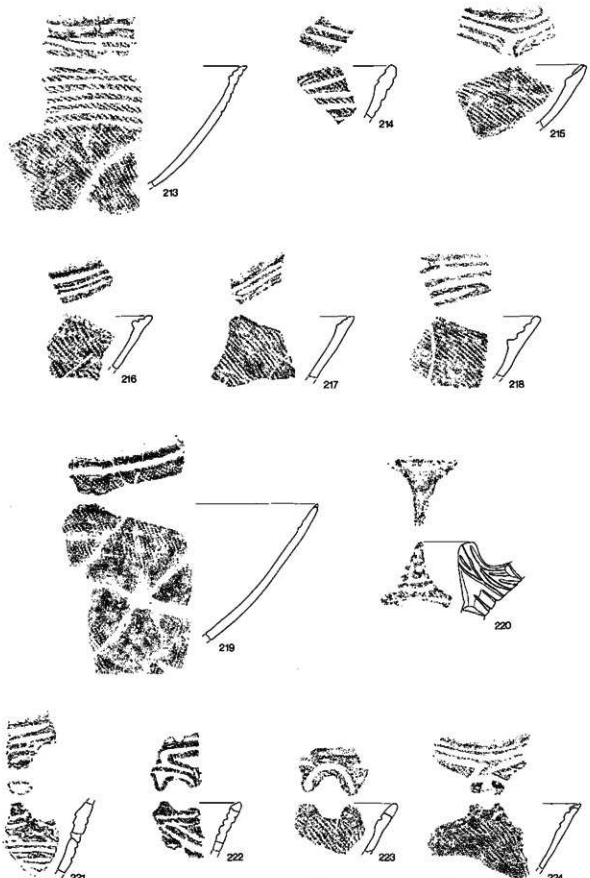
220は蝶ネジ状の把手で，両側面にRL縄文の地文にヘラ状工具による沈線文を描く。

221・223・224は口唇部に2個1対の突起があるもので，突起部の文様は沈線を内外両面に施すもの（221）と内側のみのもの（223・224）がある。

222は3連の小突起があるもので，内面文様は左右対称となる。内面文様は中央突起部は

三叉文　沈線による三叉文，左右の突起部へは中央の三叉文の端部が入る。外面口縁部はヘラ状工具による2条の沈線があり，突起部付近は地文を施さない。突起部下位に2個1対と思われる穿穴がある。

縄線文　**Ⅱ群1類b**（225～237）　口唇に縦位の撚糸圧痕や短沈線のあるもの（225～235）と縄線文



図Ⅲ－75　包含層の土器02・晩期・浅鉢(1)

のあるもの（236・237）である。前者には撚糸圧痕のみのもの（225・226・232～234），短沈線と組み合わされるもの（227～231・235）がある。232は端部が二つに分かれる小突起とその下位に穿穴があり，外面は地文の縄文を磨り消す。233は山形の大きな突起があり，内外面とも無文で突起下位の左右に穿穴がみられる。234は小突起下位のボタン状貼付中央に穿穴がある。また，短沈線と組合わさるものは，短沈線を鋸歯状に施文するもの（228・229・231）が多い。228は文様下位に右方向からの竹管状工具による刺突文もみられる。縄線文をめぐらせるものは，口唇に瘤状小突起を連ねるもの（236）と，巨大な山形突起がみられるもの（237）とがある。236の口唇が山形に肥厚し瘤状小突起内面に縄線文に施文する。237は大型の浅鉢形土器の突起部で，文様帯部は肥厚し，胴部とは段をなしている。左右対称の文様構成で，左右の円形の凹みは指頭大，中央の凹みとの間に縄線文を施す。

縄線文

Ⅱ群2類b（238～264）　縄線文，縦位の短沈線，ボタン状貼付，蛇行沈線，刺突文などがみられるものである。

縄線文　238～255・257は縄線文のみられるもので，共通するのは縄線文を縦位の短沈線で区切ること，口唇内側が山形やカマボコ形に肥厚することである。突起部の文様は各種あり，指頭幅沈線間に半截竹管文（240），竹管文（241）がみられるものや山形突起内面中央にボタン状貼瘤を付けたもの（248・250・254・255），把手となったもの（252）などがある。突起部以外の口縁部内側にもボタン状突起風の文様を付けたもの（249・253）もある。ボタン状貼瘤の施文は縄線文によるうず巻文様がほとんどで，その中央に竹管状工具による刺突を施すものが多い。

256は沈線のみによる文様構成である。

257は山形突起下位で，上位は欠損している。山形突起下位に半円形に粘土紐を貼付け，浅い沈線と縄線が施文されている。貼付帯両側には穿穴がみられる。

258・259は外面山形突起下位に，薄いボタン状貼瘤があるものである。貼瘤外面の文様構成は，中央に竹管状工具による刺突，三方に同工具による短沈線，さらに貼瘤全周を沈線で囲む。円内には縄線文が同心円状に１～２条施文される。口唇内面は半截竹管状工具による押引で縦位短沈線を施す。

三叉文　260は山形突起外面にハの字状に貼付隆帯があるもので，下位の沈線と組合され，三叉文を形成する。貼付隆帯部はヘラ状工具による刻み，口唇の山形突起端部はヘラ状工具による深い刻みがある。

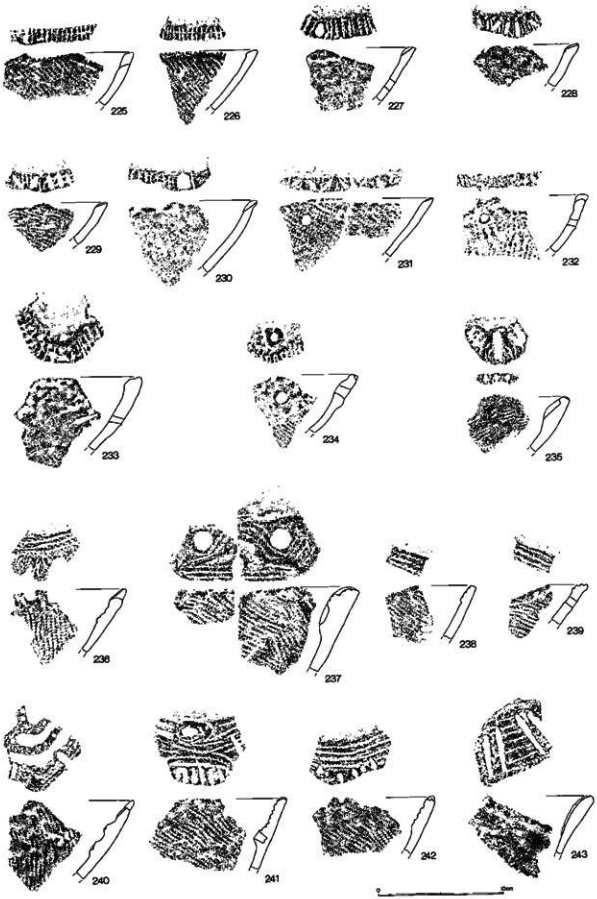
三叉文　261は口唇突起部中央に深い刻みがあり，突起部内面下には三叉文がみられる。

262・263は蛇行沈線と刺突文の構成で，262は山形突起部である。沈線の施文具は，刺突具と同様竹管状工具と思われる。胴部地文はともに細撚りのRL斜行縄文である。

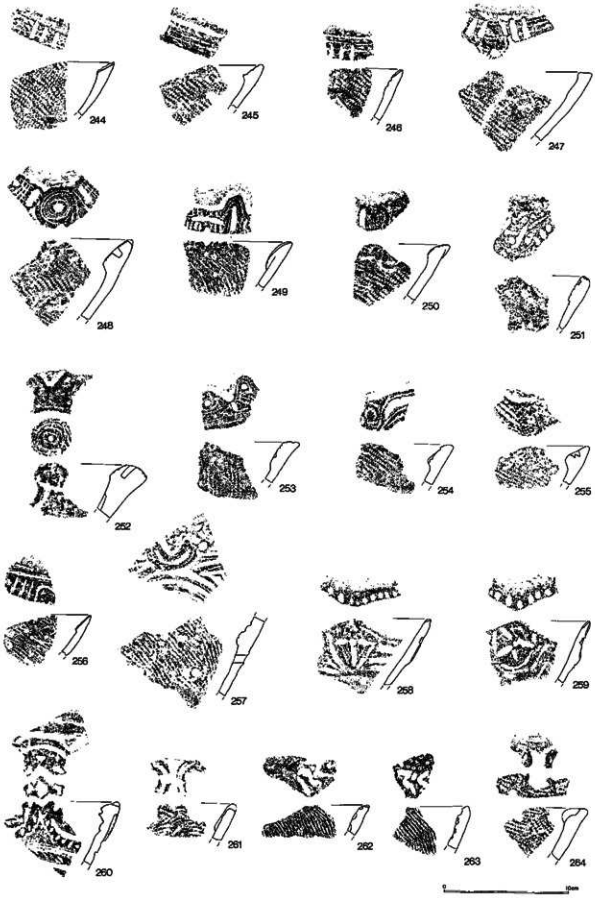
264は突起部をコの字状にして口唇部に縄文を施している。口唇外面には棒状工具による押圧痕がみられる。

Ⅱ群3類b（265～279）　口唇内側の肥厚が少なく，押引き文（265～267）や沈線文（268～279）がみられるものである。押引きのものは，P－14より同種（図Ⅲ－58－22～24）のものが出土している。また，P－14では271と同様のものもみられる。

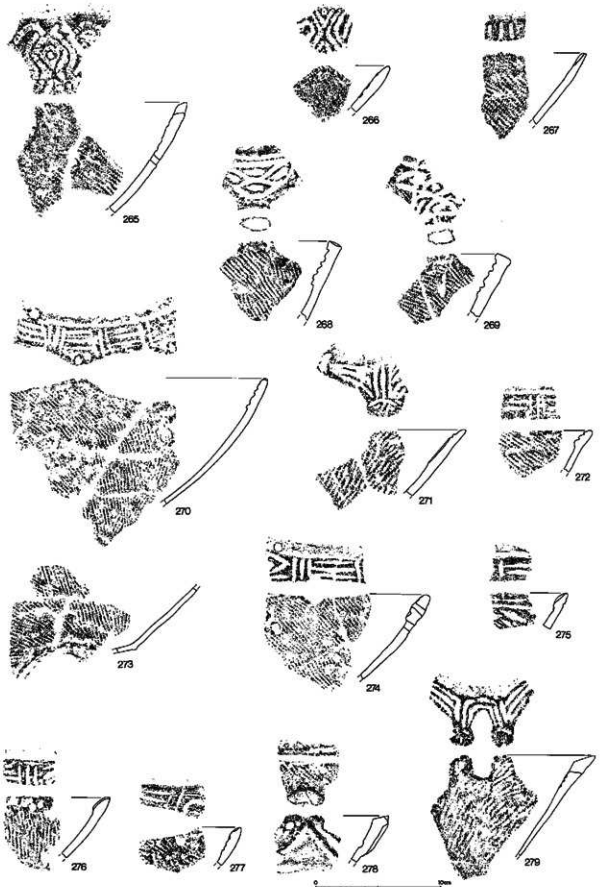
265は山形口縁の一部で，半分が欠損する。文様構成は左右対称，左右それぞれ中央の刺突を中心に半円形の押引き沈線を重ねる手法で，竹管状工具が使用されている。外面は穿穴より上位の地文を磨り消す。



図Ⅲ—76　包含層の土器(13・晩期・浅鉢(2)



図Ⅲ—77　包含層の土器(4)・晩期・浅鉢(3)



図Ⅲ－78　包含層の土器(13・晩期・浅鉢(4)

266は押引きの幅が狭く，外面は無文である。

267は突起間の口縁で，内側に縦位の短い押引き沈線を連ねる。山形突起の文様帯部は肥厚するが，突起間の口縁は肥厚しない。

268・269は山形突起部の上端を平らにしたもので，内側の文様はヘラ状工具による沈線である。269の上下２段の刺突は，ヘラ状工具の尖頭部を回転させている。

270・272～277は口唇内側の文様が，２～３本１単位の横位と縦位の沈線から構成されている。

271・279は同一手法による口縁突起で，271は単独，279は２個１単位の突起である。

278は突起部口唇が平坦で，突起部外面は貼付隆帯がハの字に開く。隆帯上は無文，突起内面にLR縄文，縄文下位に１条の太沈線が施されている。

壺形土器　壺（図Ⅲ－66・79～81，図版28－８・－９・48・49）

壺に関しては，特に道南系と道央系に分類はせず，各々の器形，文様の特色を説明する。

Ⅱ群１類（280～294）　平縁の口縁となるもの。

280・281は精製土器で，外面口縁から肩部にかけて赤色顔料の塗付が認められる。器面は良くヘラミガキされ，光沢もみられるが黒色処理はされていない。

ヘラミガキ

280は口縁部で，口外帯にＢ状突起があり，口縁上面は沈線がめぐる。

281は頸部から肩にかけての破片で，肩部はＡ状突起を短沈線で結び，一見メガネ状文様に見える。３条の平行沈線，矢羽根状文様がみられる。

平縁口縁となるもののうち，無文のもの（282～285）と沈線があるもの（286～291）である。また，口唇内側が肥厚せず無文のもの（292）もある。このうち282・286～288は口唇上面が平坦にされているもので，沈線と口外帯部にＢ状突起があるもの（286），指頭による押圧痕を連続させるもの（287・288）などがある。また，口縁内側に蓋受状の張り出しがあるもの（283～285・289）もある。口外帯下位にＡ状突起を短沈線で結んだメガネ状文様を施すものもある。また，肩部平行沈線の上下に刺突を連ねるもの（293・294）も１類に含めた。

三叉文　**Ⅱ群２類**（18・295～317）　ボタン状貼付のあるもの。三叉文を付けた山形口縁のものである。

295・296は肩部にボタン状貼付があるもので，ボタン状貼付間を縄線でつなぐ。ボタン状貼付中央は竹管状工具による刺突を行い，同心円状に縄線文を施す。

縄線文

297・300はゆるやかな波状口縁で，口縁縄文の地文に平行沈線を施している。300の口唇内外面の沈線は，口唇の形状に沿って波状に施される。

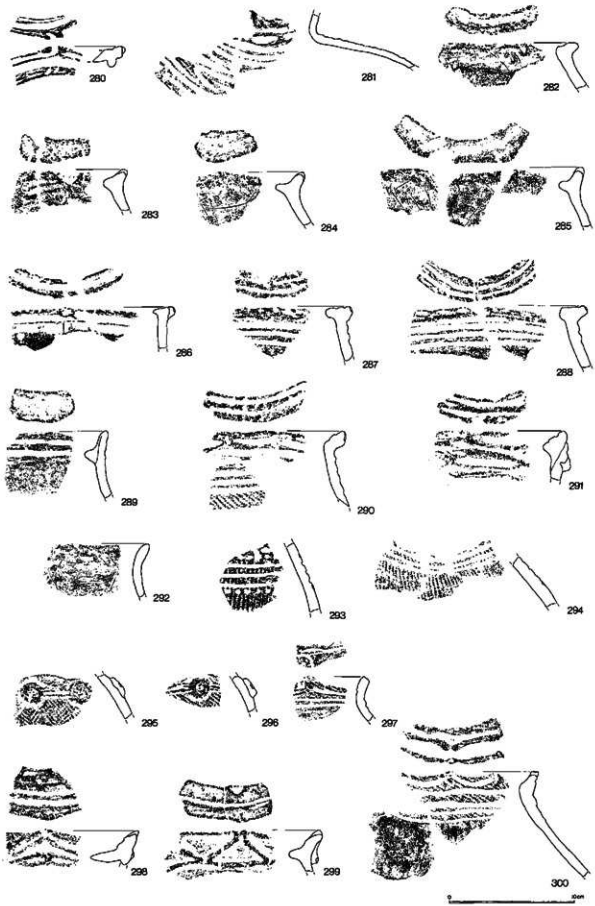
298・299は平縁に近いもので，298は口縁外面に山形沈線を施し，内部に沈線による三叉文を形成する。299は貼付隆線により三叉文を連続させる。三叉文のつなぎ部分はＢ状突起があり，どちらも口縁内側には蓋受状の張り出しがある。

三叉文

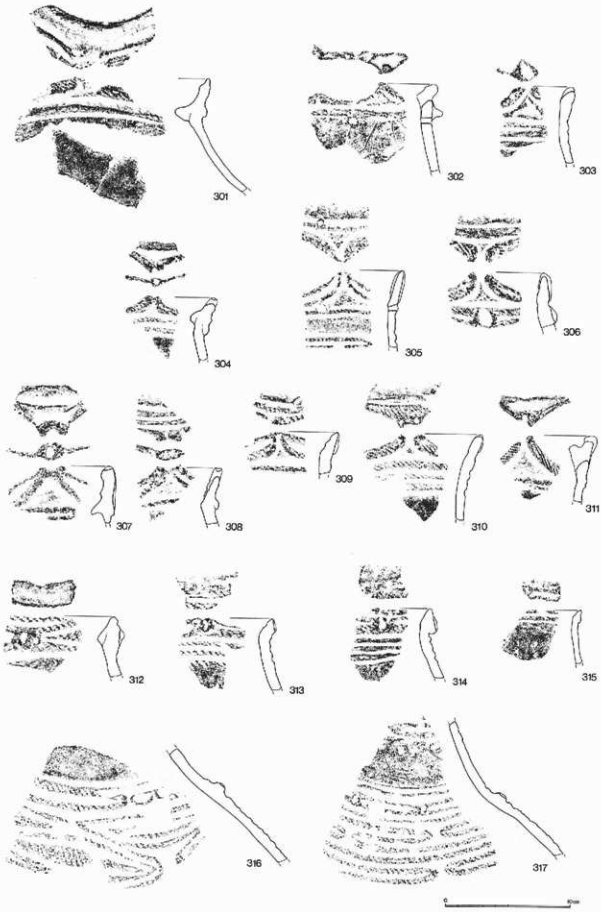
三叉文　18・301～311は山形口縁のもので，山形口縁外面は沈線による三叉文がみられる。突起内面にも三叉文のあるものが多い。

18は山形突起のある口縁で，口外帯は斜行縄文の地文に沈線を施す。口唇外面に山形突起をつなぐ沈線を施し，山形突起下位は沈線による三叉文を形成する。山形突起間の三叉文つなぎ部は中央にヘラ状工具による押圧のあるＢ状突起を付け，山形突起端部はヘラ状工具によりＶ字状に抉る。口唇内側は１条の太沈線を横走させ，沈線下位は山形に肥厚す

三叉文



図Ⅲ—79　包含層の土器(10)・晩期・壺(1)



図Ⅲ—80　包含層の土器(17)・晩期・壺(2)

図Ⅲ—81　包含層の土器(8)・晩期・壺(3)

る。頸部は無文，肩部文様は縄文の地文にヘラ状工具による平行沈線，最上位の沈線上にはA状突起と中央にヘラ状工具による押圧のあるB状突起とを交互に付ける。

301・304は口唇内側に壷受状の張り出しがあるもので，2類では例が少ない。張り出しがないものは口縁内面が平坦なもの（302・303・311）と，沈線を施すものとがある。

三 叉 文　312～314は山形口縁の中間部で，外面に施された三叉文のつなぎ部にB状突起を付けている。312は口縁内面が山形に肥厚するものである。

315は小型の壷口縁で，312～314と同様山形口縁の中間部と思われる。

変形工字文　316は肩部に幅広沈線による磨消で，変形工字文を表現し，文様帯最上位沈線上には，横位で細長の中央をヘラ状工具端部で押圧し二分している。2個1対の突起それぞれ縦位の押圧痕があり，二連のB状突起となっている。

横位連続工字文　317は横位連続工字文を施すもので，上位沈線上にB状突起がある。

工字文くずれ　Ⅱ群3類a（19・318～338）　山形突起に平行沈線を施すものや，2個1対の突起があるものの。あるいは沈線のみで磨消帯のない工字文くずれや，波状沈線を施すものをまとめた。19・318～320は山形突起に平行沈線を施すものである。

19は広口の壷で口唇に大小2対の山形突起がある。大突起部は上端を抉り2個1対の小突起とし，その内面を沈線で結ぶ。外面はヘラ状工具による平行沈線を施し，大突起下位にはヘラ状工具押圧によるB状突起，この下位に穿穴がある。小突起は上端をヘラ状工具

三 叉 文　でV字状に抉り，外面は沈線が突起部に入り小型の三叉文となっている。頸部は無文で，

横位連続工字文　肩から胴にかけてLR斜行縄文の地文にヘラ状工具による横位連続工字文を施し，沈線1段目にはヘラ状工具押圧のB状突起を付ける。内面に赤色顔料の付着が認められる。

工 字 文　318は広口の壷で，小突起がみられ，胴部は横位連続工字文，さらに最上位沈線上にA状突起がみられる。

319は胴の張る壺形土器の口縁で，320は山形突起に2個1対の小突起を付け，これを沈線でつなぎ，突起下位に穿穴がある。

工 字 文　321・322は横位連続工字文を胴部に施したもので，肩の張り出した部位はヘラ状工具による横位押圧痕を連ね，この下位にヘラ状工具押圧のB状突起を付ける。

工字文くずれ　323～327は沈線による工字文くずれの文様で，325は頸部との境のA状突起間に沈線を施したメガネ状の文様が認められる。地文は磨り消しているものが多い。

328～330は平行沈線と波状沈線の間にヘラ状工具による横位押圧痕があるものである。328・329はRL斜行縄文の地文に，330は無文部に文様が施されている。頸部下位にA状突起とヘラ状工具端部押圧によるメガネ状の文様がみられる。また，胴部張出部にも同種の技法による文様が一部認められる。

331・332は波状沈線のくずれた文様で，331はLR縦行縄文の地文に，332はRL斜行縄文の地文にそれぞれ施文されている。

333～338はRL縦位縄文の地文にヘラ状工具による平行沈線と，波状沈線を施すものである。肩部には平行沈線，肩張り出し部には中央ヘラ状工具押圧のB状突起と，短沈線を交

赤色顔料　互に施し，メガネ状の文様としている。底面にも縄文があり，外面には赤色顔料の付着する部位が認められる。

異形土器　**異形**（図Ⅲ－82，図版49）

縄 線 文　Ⅱ群1類b（339）　縄線文と竹管状工具による垂直方向からの刺突文を貼付隆帯に沿って

図Ⅲ－82　包含層の土器(19)・晩期・異形・底部

施す。上面観は長方形で，側面は扇形を呈するものと思われる。拓影は側面端部で，断面形は箱形の1側面である。

Ⅱ群2類b（340～343）

230～342は舟形土器の長軸方向の端部と思われる。　舟形土器

340は無文地で，口縁突起部外面に縦位の貼瘤があり，その左右に口縁に沿って縄線文を施す。貼瘤下位に穿穴があり，この間を同径の棒状工具による沈線で結ぶ。　縄線文

341は340と同種の文様構成であるが，すべて沈線で表わしている。

342は突起の発達したもので，2個1対の突起と思われる。下位に3本1単位のV字状の

沈線がみられる。

343は注口土器の注ぎ口で，平行沈線がみられる。

Ⅱ群3類b（344～348）

平行沈線や波状沈線がみられるもので，344～347は上面観が長円形のもので，舟形あるいはそれに近い器形のものと思われる。突起端部はすべて口縁に沿った横位の棒状工具による押圧痕がある。また，突起部下位には345は除き穿穴がみられる。

348は3本1単位の波状沈線のある胴部で，沈線はヘラ状工具により浅く施される。縄文は認められず，外面に赤色顔料の付着する部位がある。

赤色顔料

底　部

底部（図Ⅲ－82・図版49）

Ⅱ群1類a（349・350）

349は壺形土器底部で，RL縦位縄文の地文にヘラ状工具による1条の沈線がある。底部は高台状になっている。

350は台付の鉢形土器の類の部分である。

Ⅱ群2類（351～354）

351は鉢形土器底部と思われ，底面にB状突起風の支えがあり，棒状工具による沈線を施す。

三叉文

352は鉢あるいは壺形土器底部と思われ，ヘラ状工具による沈線を施し，一部は三叉文となっている。

353は底面RL縄文，354はLR斜行縄文を磨り消し後，断面半円形の沈線を施文する。

Ⅱ群3類（355～360）

355・356は断面半円形の沈線を底部の立ち上がりに2条，底面に同心円状に3条施文する。沈線は全て幅が狭く浅いものである。

ヘラミガキ

357は内外面ともヘラミガキを施し，非常に薄手である。

358～360はともに高台がわずかに高くなり，底部立ち上がり部に浅く幅の広い沈線を3条施す。

4　包含層出土の石器

総　数

2,208点の石器のほか，石核168点，黒曜石の棒状原石5点，Uフレイク897点，フレイク・チップ21,658点，礫・礫片413点などがある。

器　種

出土した石器のうち，剥片石器は1,831点（83%），礫石器は377点（17%）で，剥片石器の占める割合が高い。その内訳は，剥片石器が石鏃，やり先またはナイフ，石錐，つまみ付ナイフ，スクレイパー，楔形石器など，礫石器が石斧，たたき石，すり石，砥石，石鋸，台石などである。このうち剥片石器では，石鏃・スクレイパーが，礫石器では石斧・たたき石が多数を占める。

石　材

石器に使用された石材は，剥片石器では黒曜石が大部分を占め，わずかに頁岩，めのう，チャート，珪岩，安山岩などが，礫石器では緑色泥岩，片岩，安山岩，珪岩，砂岩，凝灰岩などがある。

以下，器種別に記述し，出土地点・計測値・石質等は表7を参照願いたい。

石鏃（1～190）

796点出土した。形態不明の破片を除くと，無茎の三角形鏃（1～48），基部の不明瞭な石鏃（49～88），基部の明瞭な有茎鏃（89～148）に分けられる。また，各形態の製作途中

と思われる未成品（149～190）も出土している。このうち最も多いのは，基部が明瞭な有茎鏃で，全体の約64%を占める。分布はほぼ全域にわたるが，土壙墓および土壙の周辺に多くみられる。

三角形鏃

三角形鏃は，110点中39点が完形で出土し，基部の平坦なもの（1～24）と内湾するもの（25～48）がある。二次加工は入念に施され，尖頭部を鋭利に仕上げたものが多いが，素材面を大きく残しているものもある（2・10・13・15・17・23・24・33・35・39・47）。また，長さは1.40～4.50cmまでの幅があるが，平均長は2.92cmとなり，大型である。石質は，すべて黒曜石である。

五角形・柳葉形・菱形

基部の不明瞭な石鏃は，五角形や柳葉形に近いもの（49～63・83・86・87），菱形を呈するもの（64～82・84・85・88）がある。86はB－15区の第Ⅰ層から出土したもので，尖頭部と基部を欠損しているが，同グリッドから検出されたP－20出土の石鏃（図Ⅲ－83－10）に形態・石材が類似している。石質は，58・86が頁岩，ほかは黒曜石である。

有茎鏃

基部の明瞭な有茎鏃は505点，そのうち完形品は119点である。二次加工は，素材面を残した粗いものが多く，基部の形状は尖っている。長さは1.55～4.09cmの幅があるが，平均長は2.56cmである。144は，両面とも比較的入念に二次加工が施されており，両側縁が波状になっている。147は先端部および基部を欠損しているが，残存する形態から有茎鏃とした。また，86同様，出土位置・形態・石材等からP－20出土の石鏃と酷似するが，接合はしない。石質は，147のみ頁岩，ほかは黒曜石である。

石鏃未成品

石鏃未成品としたものは47点である。分布は，完成品と同様に調査区内全域に散在し，まとまった出土例はない。形態は，完成品に近いものもあるが，多くは剥片の一部を粗く加工しただけである。149～154は，基部の明瞭な有茎鏃で，尖頭部の片側縁は未加工で厚みがある。155は菱形を呈する石鏃と思われるが，これも尖頭部が未加工である。石質は，170・188が頁岩，ほかはすべて黒曜石である。

やり先またはナイフ（191～217）

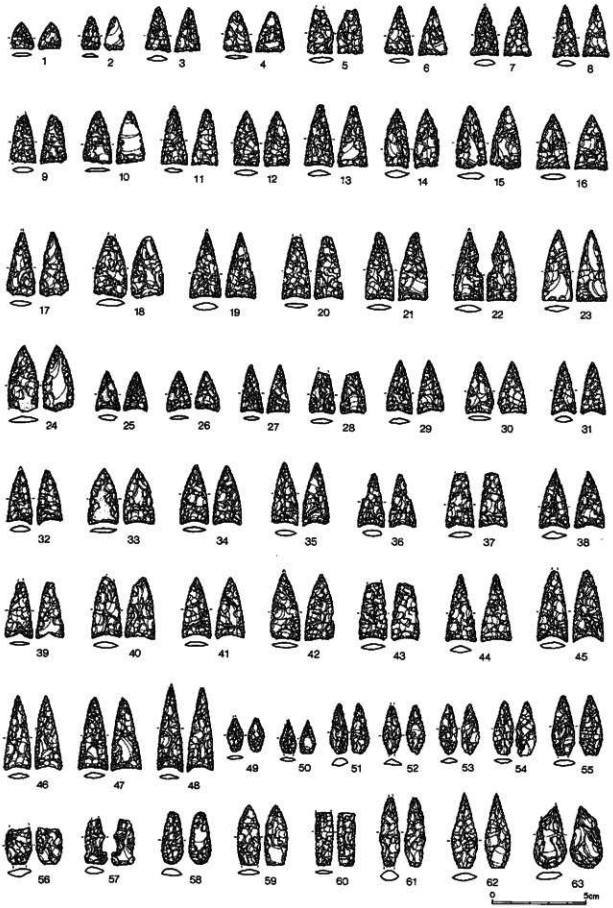
有舌尖頭器

破損品を含め，27点出土した。191は，旧石器時代の有舌尖頭器と思われる。二次加工は両面にみられるが，特に側縁部から先端部にかけて入念に施されている。出土層は耕作土中（第Ⅰ層）であり，第Ⅲ層以下からは同様な石器が1点も出土しなかったことなどから，縄文時代に再利用された可能性もある。

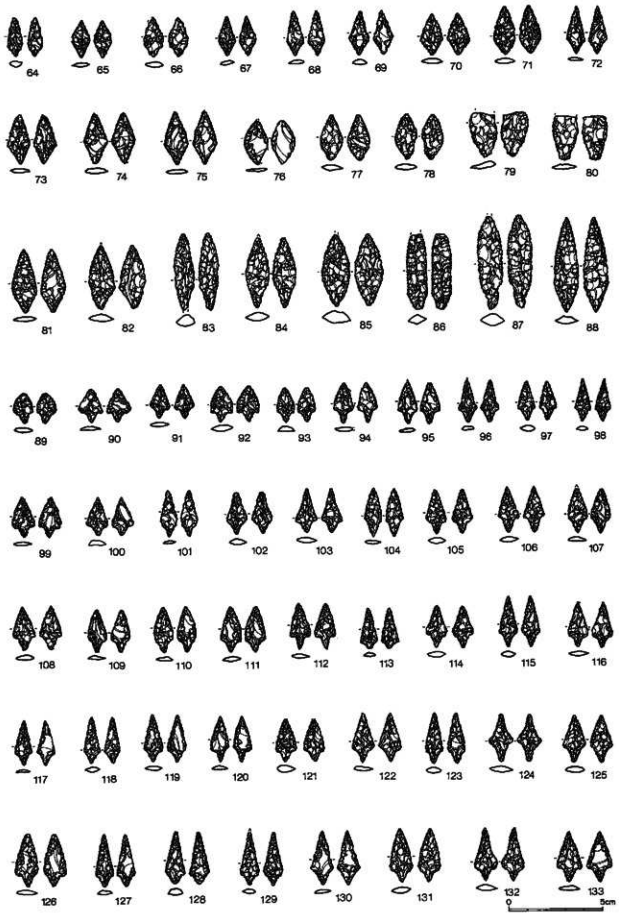
192・193は基部の明瞭なやり先で，かえし部が左右非対称である。194～196は，尖頭部の破片で，幅は狭く，先端は鋭利に仕上げられている。197は先端部と基部を欠損した，かえし部の破片である。198～206は基部破片で，198～202が尖ったタイプ，203～206が幅広のタイプである。207～217は明瞭な基部が認められないもの。211・212は狭長なタイプで，側縁部から尖頭部にかけて入念な二次加工が施されている。213は，上部に浅いノッチがあり，二次加工は両面にみられるが，入念に加工されているのは側縁部のみである。214は幅広の基部または柄部破片，215～217は身部を欠損した形態不明のナイフ破片と思われる。石質は206が珪岩，209がめのう，211が頁岩，ほかは黒曜石である。

石錐（218～239）

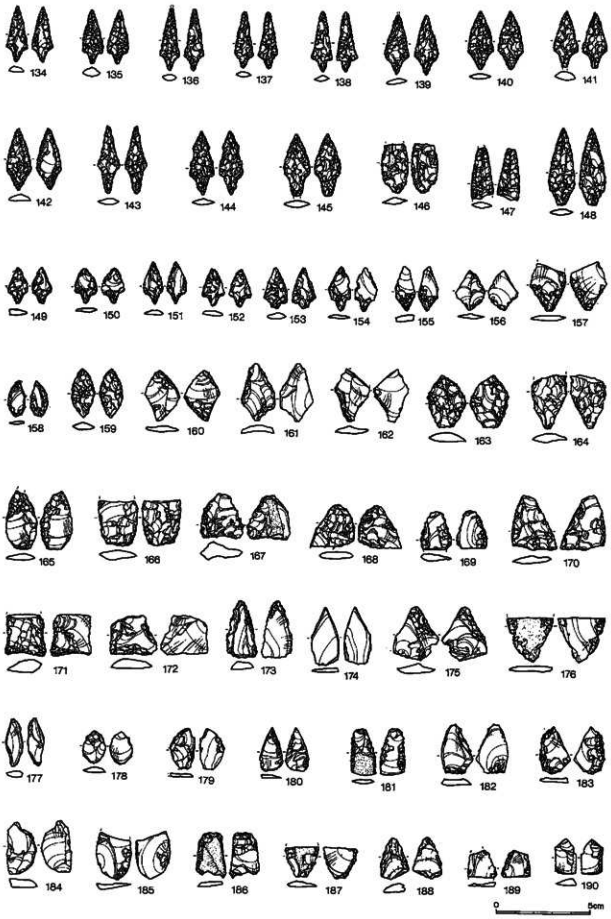
22点出土した。形態は，剥片の一端に刺突部を作出したもの（218～233）と棒状のもの（234～239）がある。前者の二次加工は，218～220が両面，221・232が片面，222～231・233が刺突部の周辺のみに施されている。横断面形は，224のみ方形に近く，ほかは三角形。



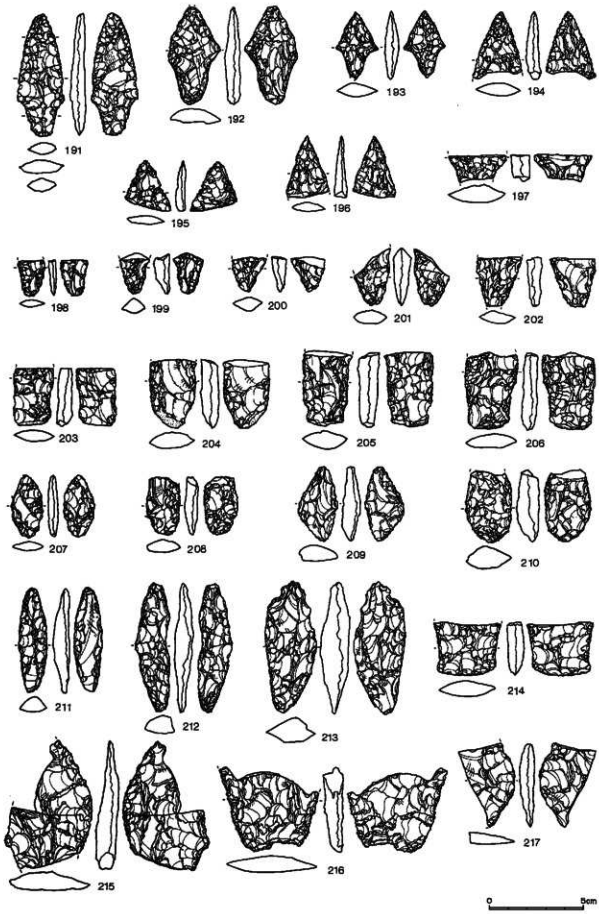
図Ⅲ—83　包含層の石器(1)・石鏃(1)



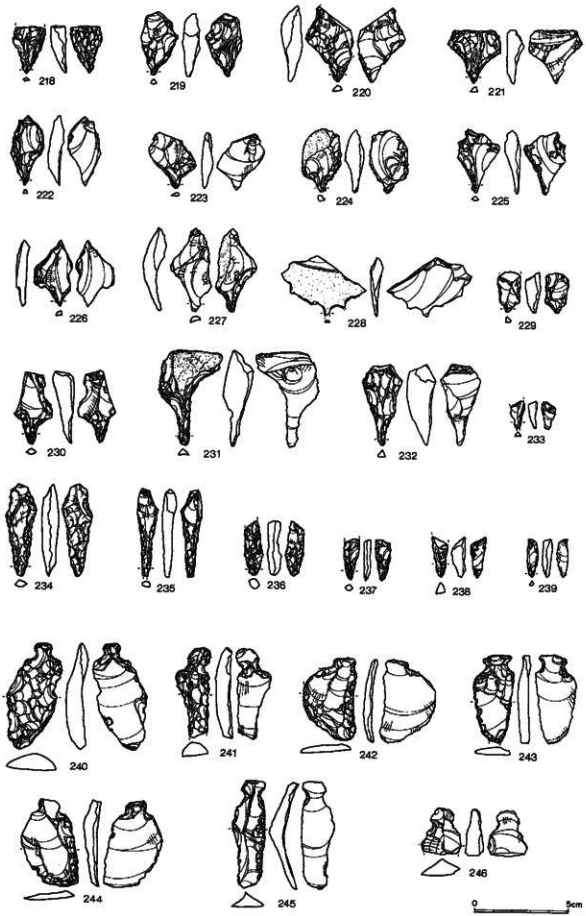
図Ⅲ—84　包含層の石器(2)・石鏃(2)



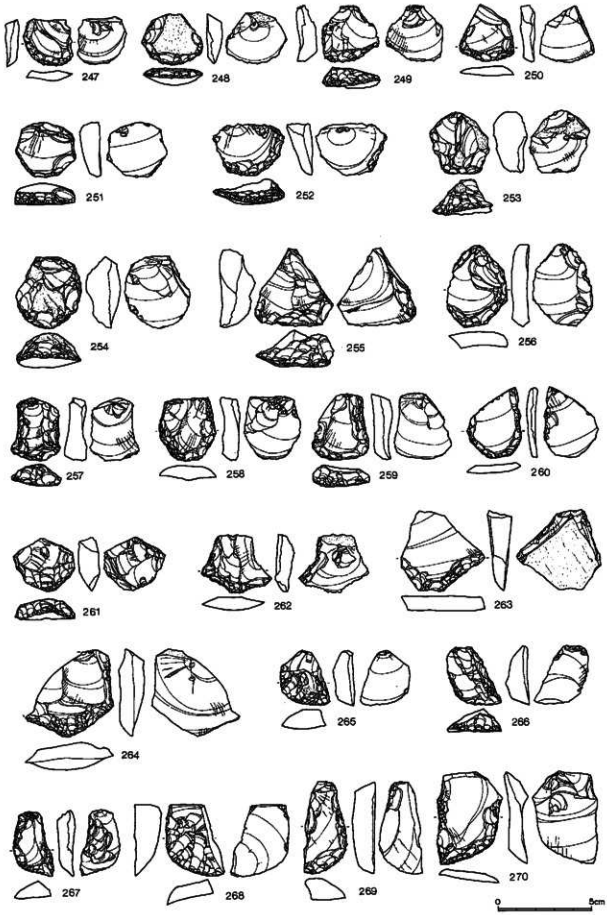
図Ⅲ—85　包含層の石器(3)・石鏃(3)



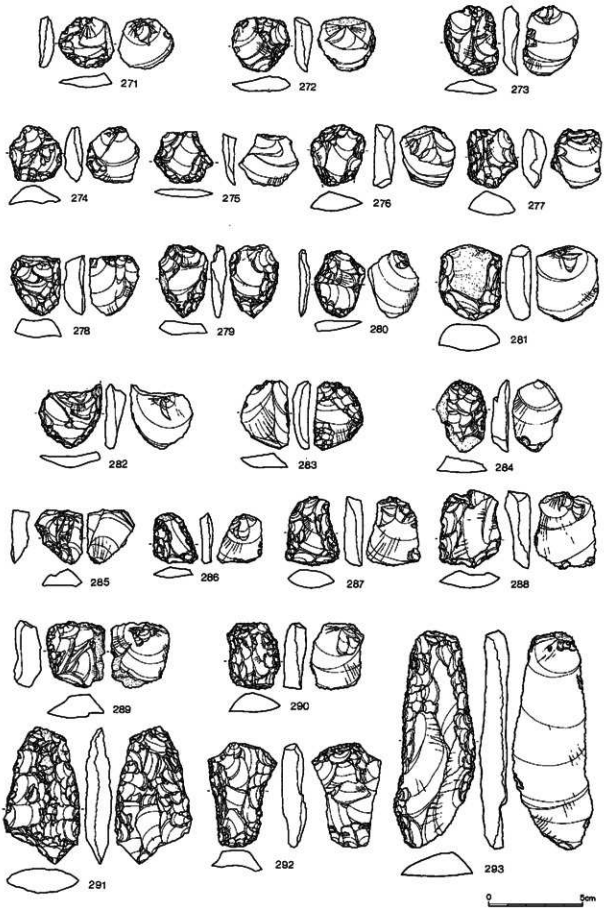
図Ⅲ—86　包含層の石器(4)・やり先・ナイフ



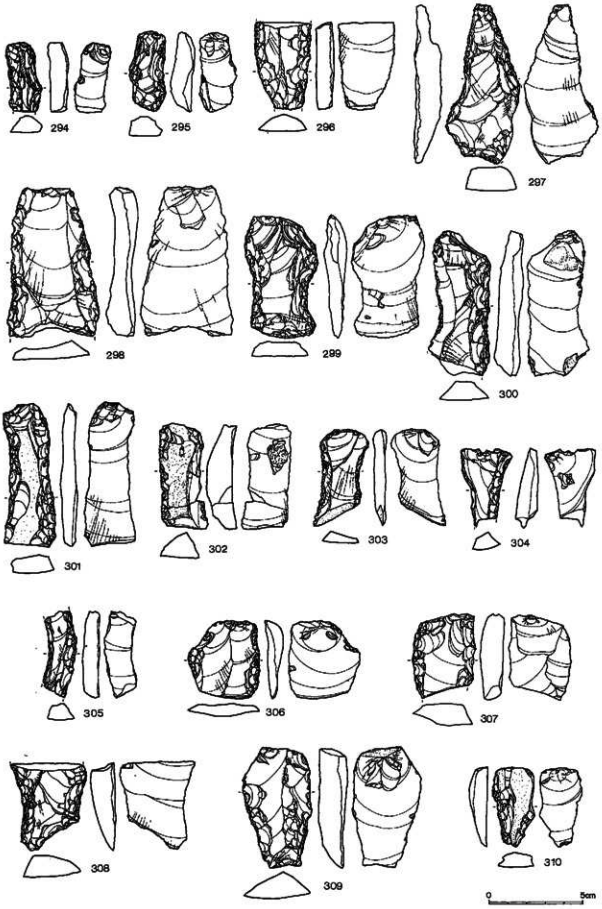
図Ⅲ—87　包含層の石器(5)・石錐・つまみ付ナイフ



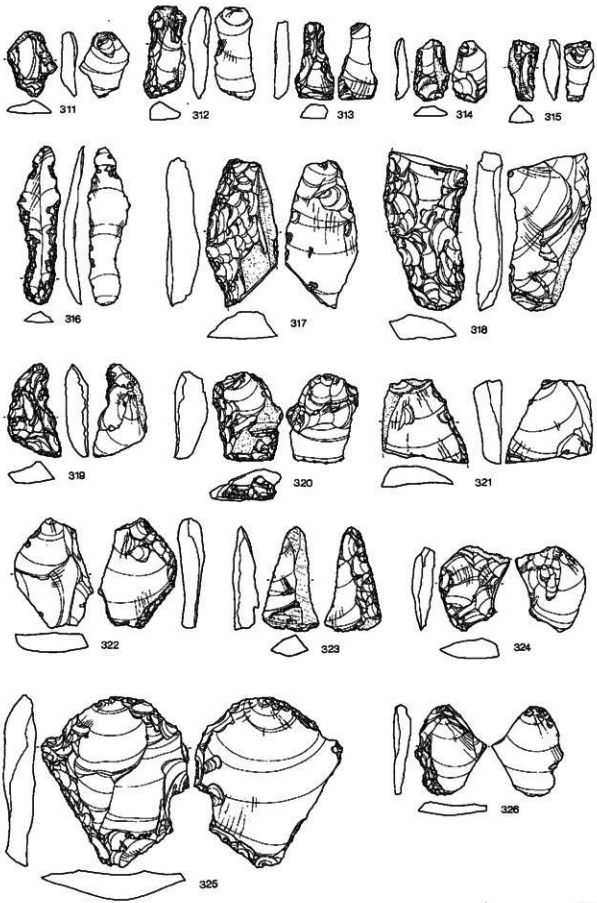
図Ⅲ—88　包含層の石器(6)・スクレイパー(1)



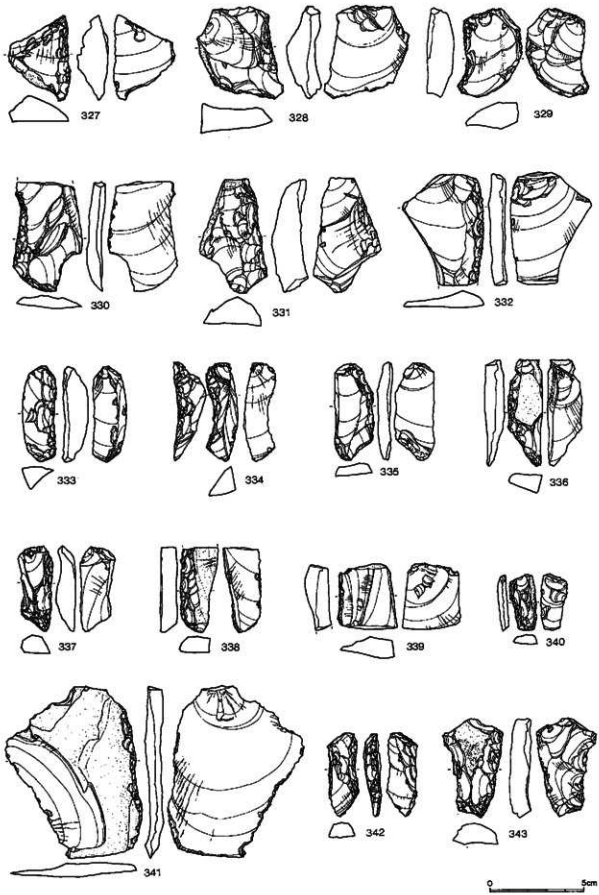
図Ⅲ－89　包含層の石器(7)・スクレイパー(2)



図Ⅲ—90　包含層の石器(8)・スクレイパー(3)



図Ⅲ－91　包含層の石器(9)・スクレイパー(4)



図Ⅲ－92　包含層の石器(10)・スクレイパー(5)

棒状のものは，234～237が両面加工，238が片面加工，239が剥突部周辺のみの加工である。横断面形は，238が三角形，ほかは円形または方形に近い。石質は剥片の一端を加工したもの（218～233）はすべて黒曜石であるが，棒状のものは玄武岩（234～239），頁岩（235），珪岩（236），チャート（238），めのう（239）とバラエティーに富んでいる。

つまみ付ナイフ（240～246）

7点出土したのみである。全点，縦長剥片を素材とし，二次加工はつまみ部以外背面に限られる。240・241は背面全体に二次加工が施され，主要な刃部は右側縁部にもうけられている。横断面は，かまぼこ形である。242～244は背面の周縁に二次加工が施され，これも主要な刃部は右側縁部にある。245は二次加工が背面の右側縁部のみで，入念な刃部を作出している。246はつまみ部の破片で，刃部の形状は不明。石質は240が珪岩，241・246が黒曜石，242～245が頁岩である。

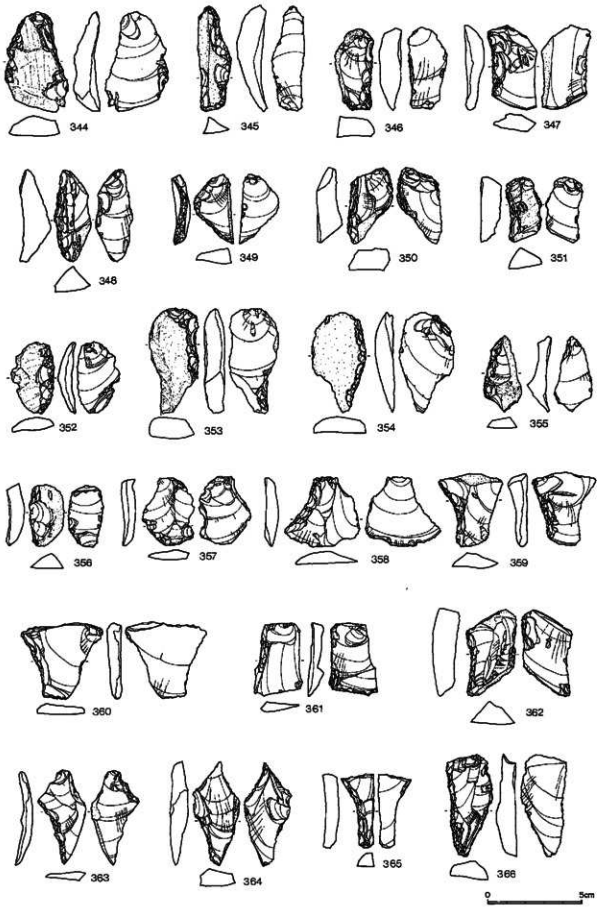
スクレイパー（247～432）

剥片石器のなかでは最も多く，破片を含めると798点ある。形態は，不定形なものが多いため，便宜上，刃部の角度が高いものを掻器（247～270），それ以外を削器（271～421）とし，さらに細分できるものは剥片の形態や刃部の形状で分類した。また，安山岩製のスクレイパー（426～432）については別に掲載した。

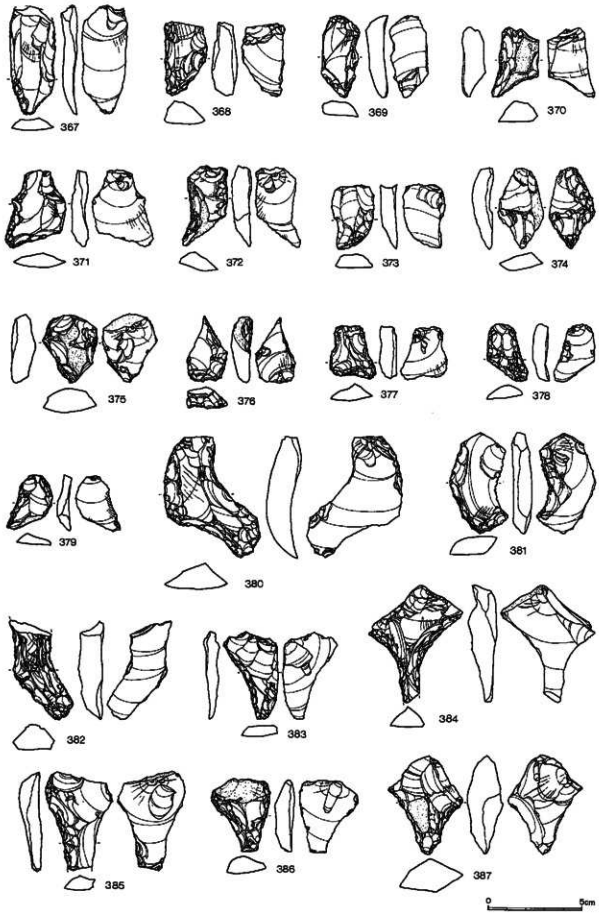
掻器・削器

247～270は，剥片の下端部に刃部をもつ掻器である。二次加工は，刃部のみ入念に施され，素材面を残しているものが多い。刃部の形状は，緩く張り出した円刃状のもの（247～252・254・256～260），平刃状のもの（253・255），凸刃状のもの（261～264），切り出しナイフ状のもの（265～270）に分けられる。石質は265がチャート，266・269が頁岩，268が珪岩，ほかは黒曜石である。

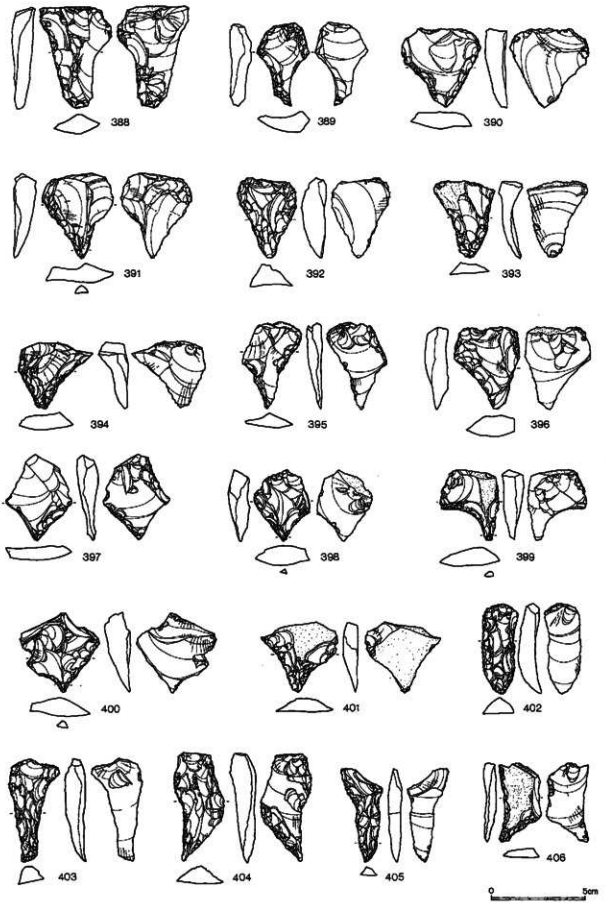
271～290は削器のうち，円形または方形に近い形態のものである。二次加工は283以外背面に施され，腹面にバルブを残しているものが多い。主要な刃部は，周縁あるいは側縁部に作出される。石質は279・282が頁岩，ほかは黒曜石。290～316は縦長剥片を素材とし，主要な刃部が両側縁にある。二次加工は，291・292が両面，ほかは片面の周縁あるいは刃部のみに施される。このうち，最も大型のものは293で，長さ11.5cm，幅4.2cmである。石質は293・298が頁岩，302がめのう，ほかは黒曜石である。317～382は縦長剥片を素材とし，主要な刃部が片側縁にみられるものである。出土した削器のなかでは最も多い形状である。二次加工は，317～320が片面で，ほかは素材の形状をあまり変えず，片側縁に刃部を作出している。このうち，322・323・361・374は腹面に刃部がある。また，原石面を残したままのもの（317～321・323・327・328・331・336・338・339・341・343～356・359・362・370・372・374～376）も多く，素材となった剥片が取られた母岩はあまり大きくないことが考えられる。石質は，321・335・341・360・378が頁岩，ほかは黒曜石である。383～410は縦長剥片を素材とし，主要な刃部が尖頭状になるものである。391・395・397～401などは，石錐としての機能もあると考えられる。二次加工は，背面全体か尖頭部両側縁に施されたものが多く，刃部の横断面は三角形を呈する。397は片側縁部を両面から加工し，刃部を作出したものである。原石面を残しているもの（384～388・393・396・398・399・401・406・409）も多く含まれている。石質は，すべて黒曜石である。411～421は横長剥片を素材とした削器である。主要な刃部は，411～414・417～419が下端部に，415が片側縁部，416が周縁，420・421が両側縁部にある。石質は419がめのう，ほかは黒曜石。422～425は，両



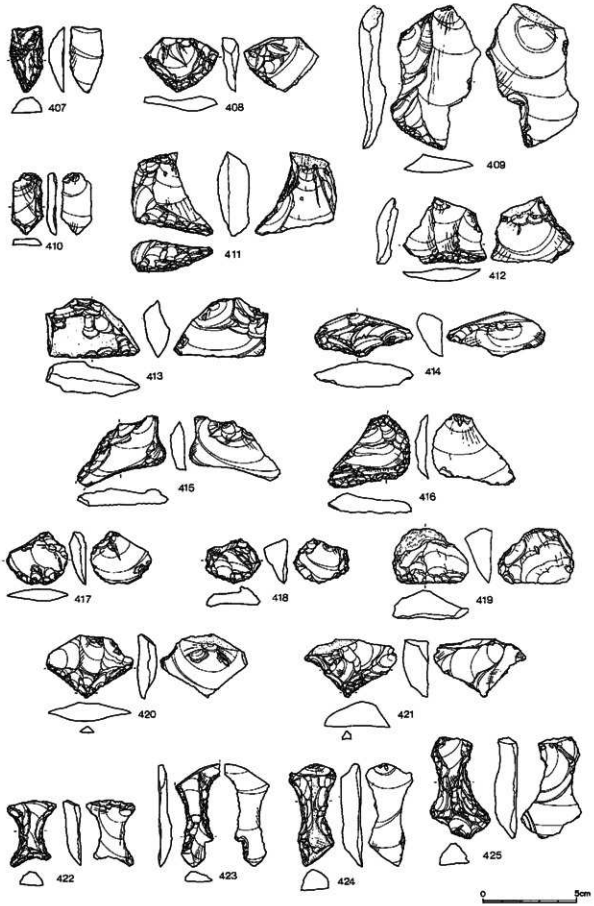
図Ⅲ－93　包含層の石器(1)・スクレイパー(6)



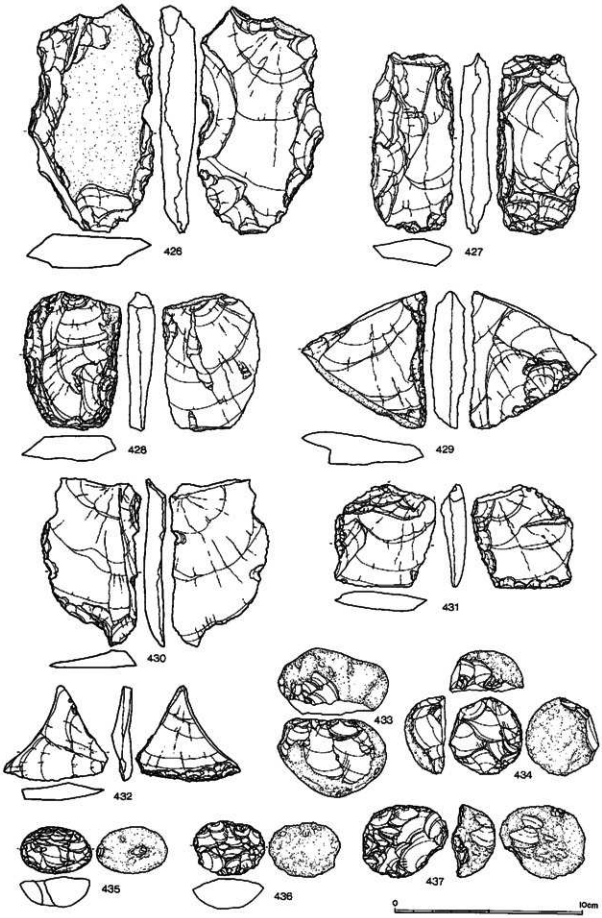
図Ⅲ—94　包含層の石器(12)・スクレイパー(7)



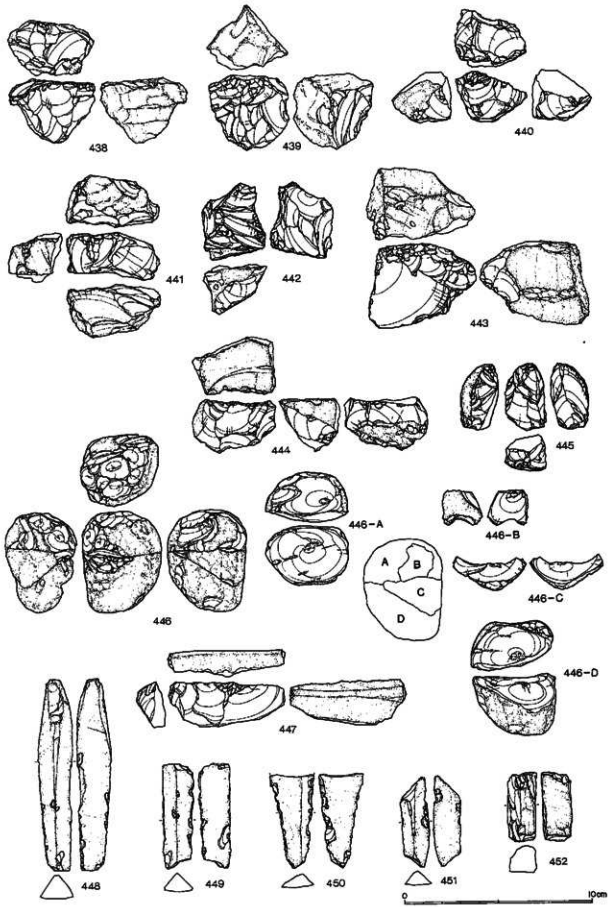
図Ⅲ—95　包含層の石器(13)・スクレイパー(8)



図Ⅲ—96　包含層の石器(14)・スクレイパー(9)



図Ⅲ－97　包含層の石器(8)・スクレイパー(10)・石核(1)



図Ⅲ—98　包含層の石器(16)・石核(2)・原石

側縁部が内湾するものである。二次加工は背面のみで，両側縁部に入念な刃部が作出され，横断面は三角形を呈する。石質はすべて黒曜石。

426～432は，硬質な安山岩製のスクレイパーである。426は背面に原石面の残る縦長剥片の周縁に，粗雑な二次加工が施されている。427は，縦長剥片の両面を粗く二次加工したあと，片側縁部に直線的な刃部を作出している。428は両側縁に刃部がみられるが，二次加工は片面のみである。431・432は，縦長剥片の下端部に主要な刃部がある。　安山岩スクレイパー

石核（433～447）

168点出土している。小型の円礫または角礫が多く，すべて重量は100g以下である。433は，剥片剥離がわずかに行われただけであるが，打面を作出したあと同一方向から剥離されている。434～437は半割に近い状態のものである。438～445は，剥離に規則性がみられない。446は，石核の接合例（A～D）で，台石技法による可能性がある。447は，黒曜石の棒状原石を利用したものである。石質は442のみ頁岩，ほかは黒曜石。　台石技法

棒状原石（447～452）

5点出土した。分布は，P－2・5・11の周辺であることより，本来的には土壙墓内に副葬されていた可能性もある。長さは3.7～10.2cmで，448が最も長い。横断面は，448～451が三角形で，452のみ方形に近い。石質は，白滝産の黒曜石と思われる。　白滝産黒曜石

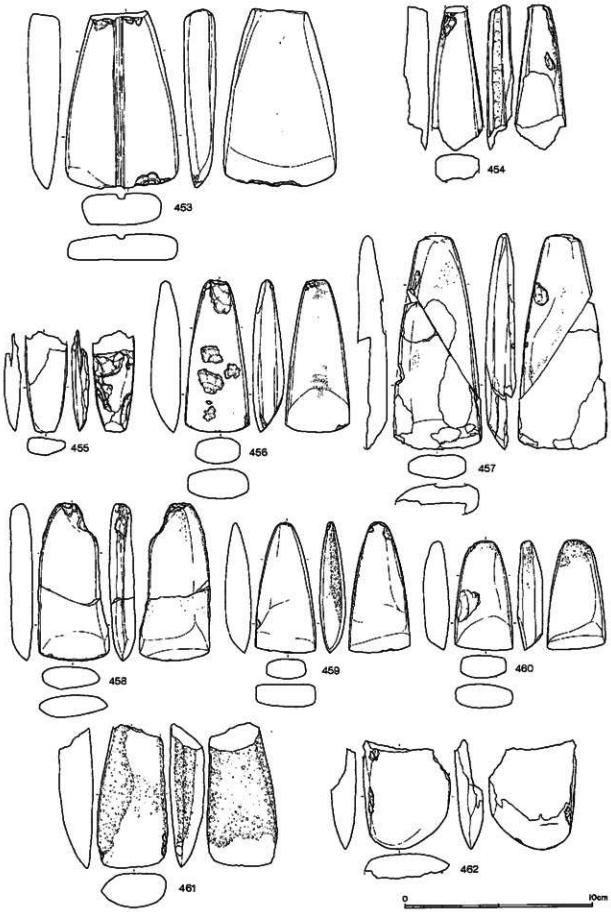
石斧（453～503）

礫石器のなかでは最も多く，破片を含め267点出土した。これらは，刃部の断面形から片刃石斧（453～483）と両刃石斧（487～503）に分けられる。片刃石斧には，各種の大きさのものがあり，長さ5.3cm～10.8cmで，全体に小型である。両刃石斧は，大型で重量感がある。また，石斧未成品3点，石斧原石2点もある。分布は調査区全域に見られるが，石鏃同様に，土壙墓周辺に多く分布する傾向がある。　片刃・両刃

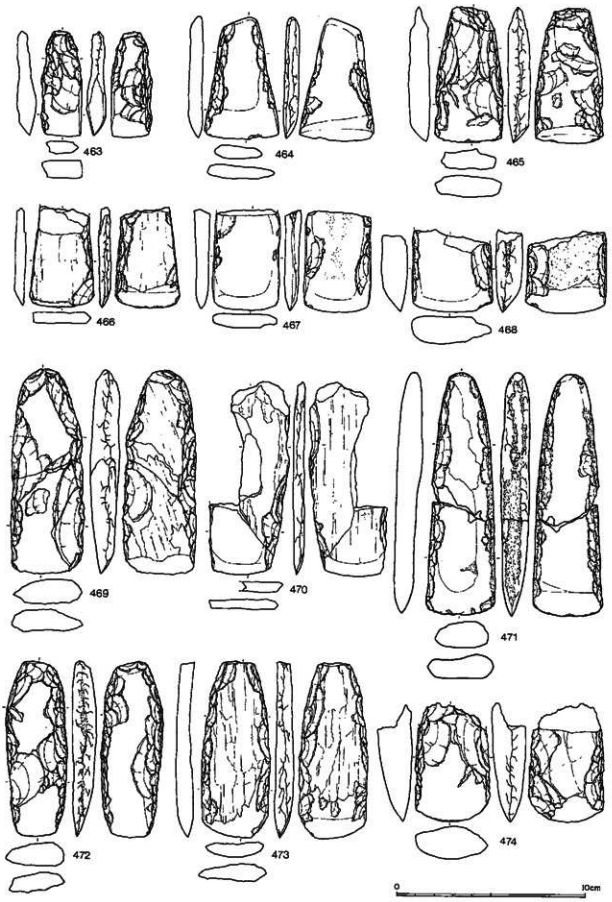
453・454は，片刃で擦切技法がみられる。453は擦切り途中のもので，縦方向の擦切り痕が残っている。石質は2点とも緑色泥岩。455～462は片刃石斧のうち，研磨整形が主体となるものである。462の刃先は傷っている。455は刃部破損後，基部を刃部として転用した可能性がある。石質は，すべて緑色泥岩。463～483は，片刃石斧のうち，剥離整形後に研磨整形が施されたものである。基部は，丸味があるもの（463・469・471・477・478・482）と平らなもの（464・465・470・472・473・481）がある。刃部は463～472が直線的，473～476が丸味がある。480は剥片の再利用と思われ，幅の狭い刃部が研磨整形で作出されている。また，480～483は幅の狭い形状から，石のみの機能をもつものと考えられる。石質は，463・466・467・472・476～480が緑色泥岩，464・465・448～471・473～475・481～483が片岩である。　擦切技法

484～486は，緑色泥岩を素材とした石斧未成品。484は扁平礫の片側縁部に剥離整形が施されている。485は楕円礫の末端に剥離があるだけで，原石同様のもの。486は短冊状の扁平礫を素材とし，片面の両側縁のみ剥離整形されている。3点とも，石質や素材の形状から片刃石斧の未成品と考えられる。

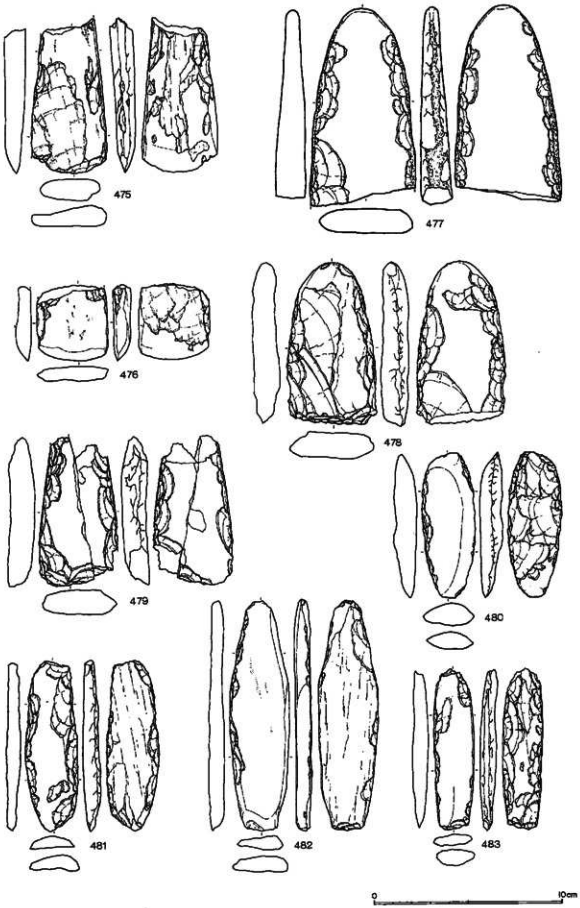
487～491は両刃石斧のうち，横断面が楕円形になるものである。488は側縁部を欠損しているが，全面，研磨整形されている。489は剥離整形後，研磨整形されたもの。490・491は敲打整形後，研磨整形されている。石質は488・489が片岩，ほかは緑色泥岩である。492～498は両刃石斧で，片側縁部のみが平坦に敲打整形されている。基部の形状がわかるものは5点で，すべて尖っている。492・496は敲打整形後，刃部のみ研磨されている。498は細身の



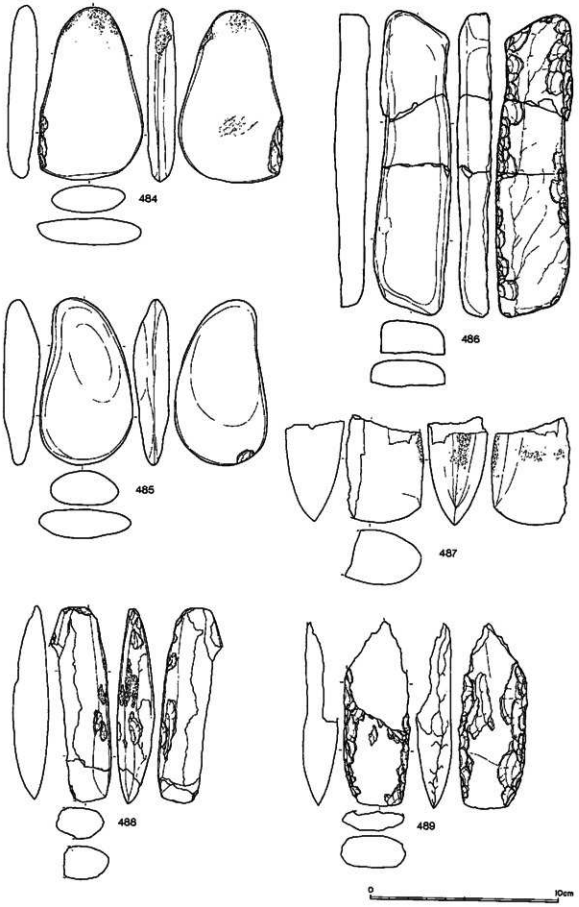
図Ⅲ—99　包含層の石器(17)・石斧(1)



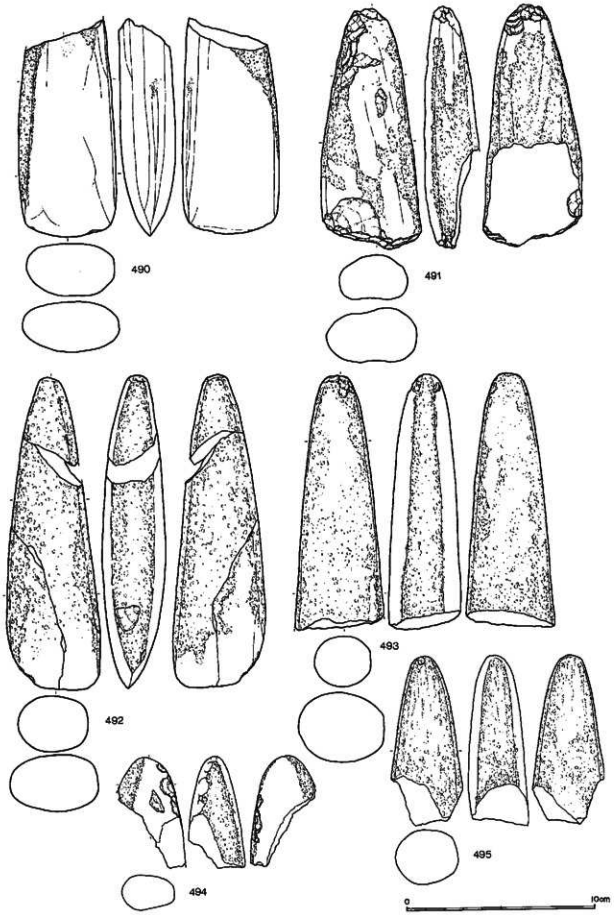
図Ⅲ—100　包含層の石器(Ⅱ)・石斧(2)



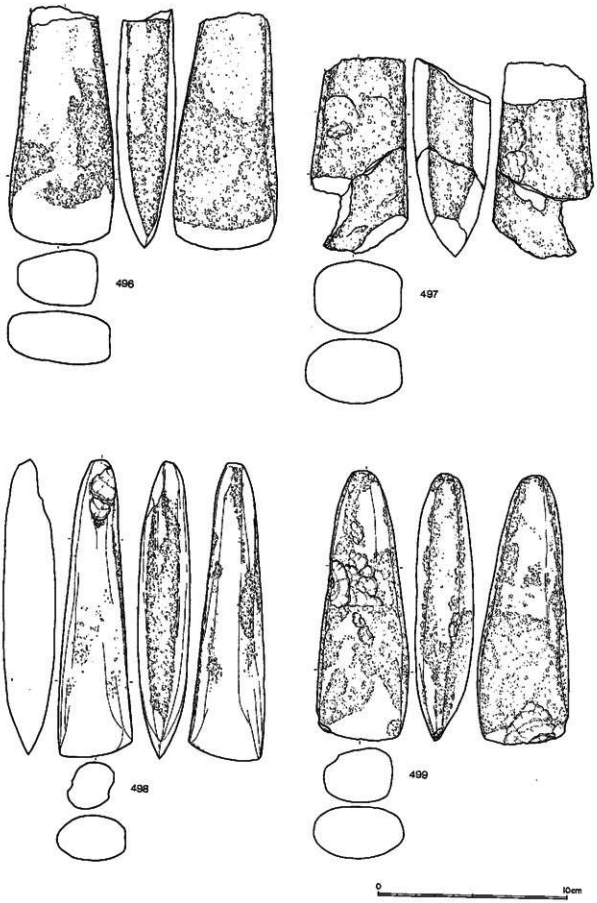
図Ⅲ—101　包含層の石器(9)・石斧(3)



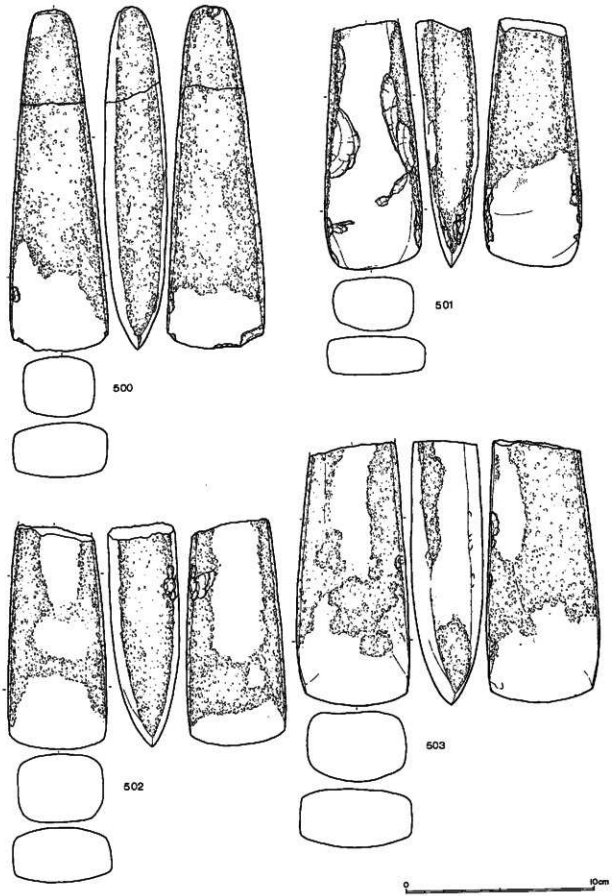
図Ⅲ－102　包含層の石器(30)・石斧(4)



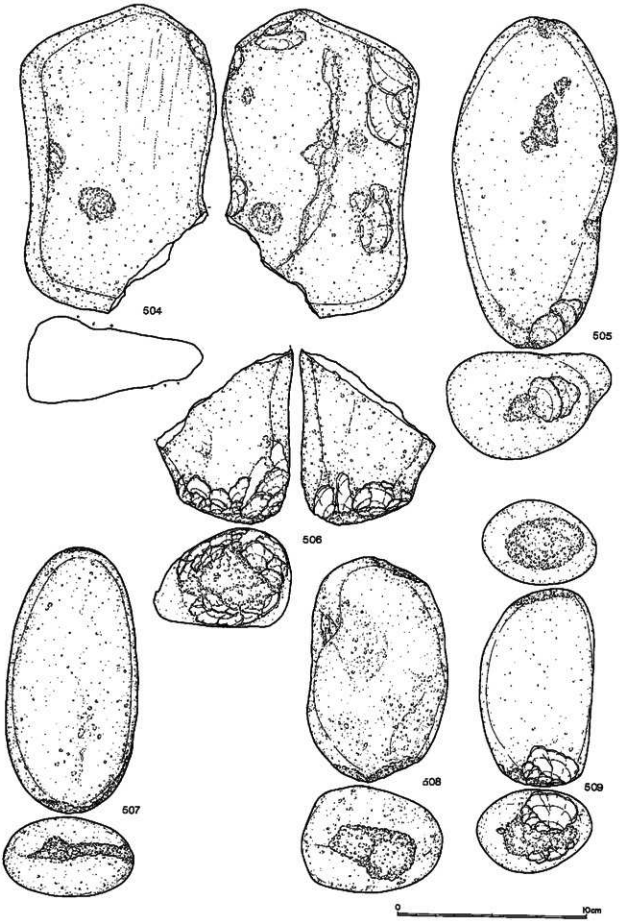
図Ⅲ－103　包含層の石器(2)・石斧(5)



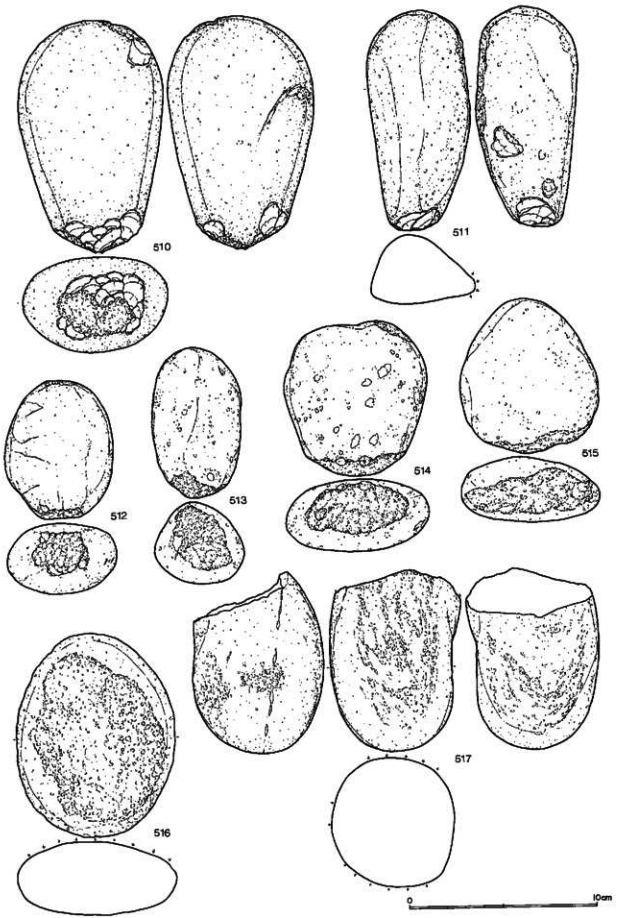
図Ⅲ—104　包含層の石器(24)・石斧(6)



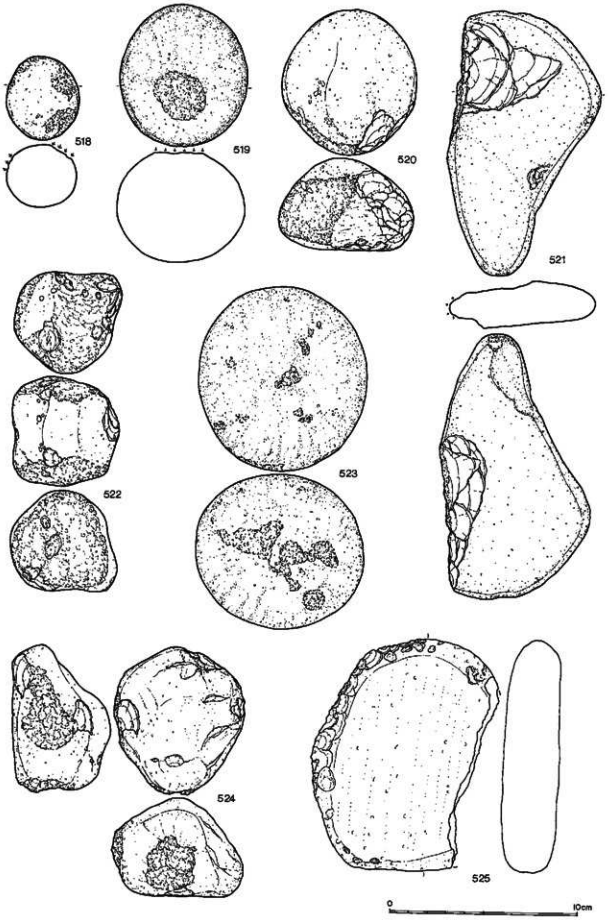
図Ⅲ－105　包含層の石器(23)・石斧(7)



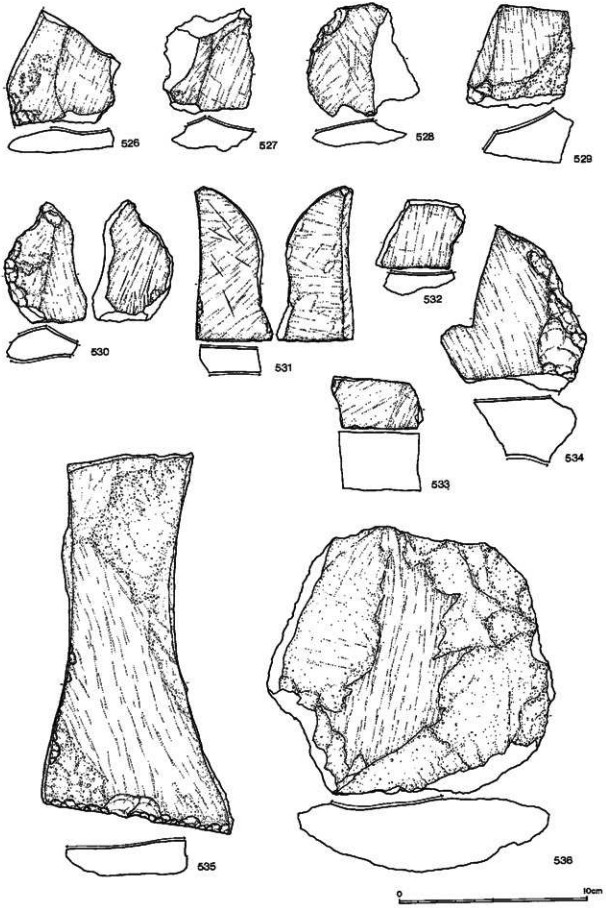
図Ⅲ—106　包含層の石器(4)・たたき石(1)



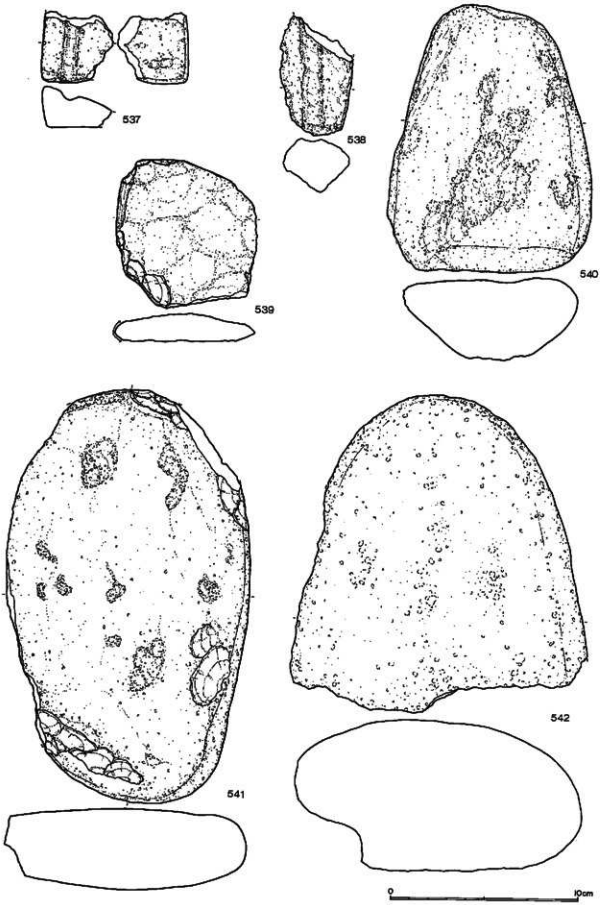
図Ⅲ－107　包含層の石器(25)・たたき石(2)



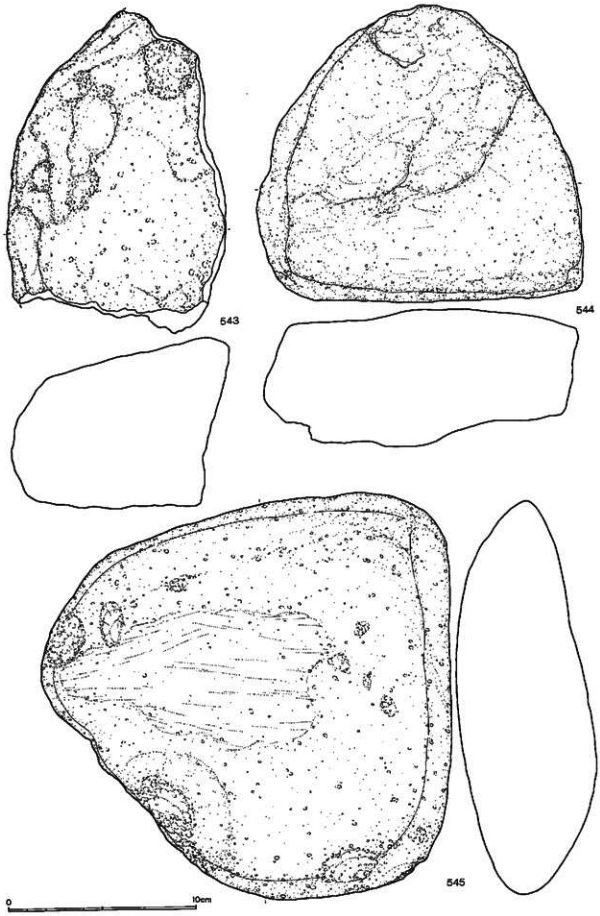
図Ⅲ－108　包含層の石器(26)・たたき石(3)



図Ⅲ—109　包含層の石器(2)・砥石(1)



図Ⅲ－110　包含層の石器(砥・砧石(2)・石鋸・台石(1)



図Ⅲ—111　包含層の石器(9)・台石(2)

両刃石斧で，敲打整形後に研磨が施されている。刃部は，鋭利に仕上げられ，偏っている。石質は，496・498が緑色泥岩，ほかは泥岩に類似した極細粒砂岩。499～503は両刃石斧で，両側縁部が平坦に敲打整形されているものである。基部の形状が分かるものは499・500だけであるが，どちらも尖って丸味がある。500は敲打により，きれいに整形されたあと，刃部を入念に研磨している。501は素材の形状を生かし，両側縁と片面の一部のみ敲打整形されている。重量は，499が345.4g，500が500gで，503が基部を欠損しながらも580gと重量感がある。石質は，499・502が砂岩，500が片麻岩，501・503が緑色泥岩である。

たたき石（504～524）

礫石器のなかでは，石斧に次いで多く，56点出土している。504は安山岩製のくぼみ石で，1点だけ出土した。両面に浅い使用痕が見られる。

505～513は，棒状礫を素材とし，末端に敲打痕がある。508・509は，両端に敲打痕が認められる。石質は505・507・509～511が安山岩，506・508・512・513が珪岩。

514～516は，扁平楕円礫を素材としたもので，514・515は周縁部に，516は腹面に敲打痕が残されている。石質は，514・515が珪岩，516が安山岩。517は破損しており形態が不明だが，全面に僅かな敲打痕がある。石質は泥岩で，横断面形は，円形。

518～520・522～524は，円礫または球状の礫を素材としたものである。いずれも，礫面の一か所ないし二か所に敲打痕が見られる。このうち522は特に，使用痕が顕著である。石質は518が泥岩，519・521・523が安山岩，ほかは珪岩である。521は安山岩製の扁平礫を素材とし，側縁の一部に剥離痕と敲打痕がみられる。

すり石（525）

5点出土しているが，使用痕の顕著なものはなく，1点のみ図示した。525は破損のため形態は不明だが，扁平な礫を素材とし，僅かな使用痕と剥離整形痕が見られる。石質は，安山岩である。

砥石（526～538）

板状の砥石片29点と矢柄研磨器3点が出土している。板状の砥石（526～536）は，細片化したものが多く，形態は不明である。530・531・534は，両面に砥面がある。526・527・529・530・532・534の裏面・536には凹状の砥面がみられるが，ほかは平坦である。石質はすべて凝灰岩で，同一母岩の可能性が強いが，接合はしなかった。

矢柄研磨器（537・538）は，幅8～10mmの溝が1条みられる。537は全面に面取り整形が施されている。石質は，2点とも溶結凝灰岩。　矢柄研磨器

石鋸（539）

安山岩製の扁平礫を素材とし，側縁の一部に擦面がみられる。

台石（540～545）

11点出土した。全点，安山岩製の礫を素材としている。使用痕はあまり顕著ではない。

5　包含層出土の土・石製品

土　偶　土製品は土偶の一部とみられる破片で，包含層中から83点，土壙墓の覆土中から14点が出土している（図Ⅲ－112～114，図版59・60）。文様や胎土の特徴から２個体あるものと考えられる。

１～18および図化していないもの（図版60－２）を含め破片数は90点で，一部のものが接合しているにすぎない。出土している発掘区はＨ－16・17・18，Ｉ－17，Ｊ－14・17・18，Ｋ－19，遺構はＰ－２・11である。分布域は広いが，96点中75点（Ｐ－２・11を含む）がＨ－17から出土している。Ｈ－17に位置するＰ－２・５・11はいずれも土壙墓で，破片が覆土中からも出土していることなどから考えて，この土偶は墓と関係する可能性がある。しかし，土偶全体の形状が不明で，欠損部分も多いことなどから詳細についてはわからない。

登町４　１は最も大きな破片で，この破片および登町４遺跡の出土例（名取・峰山　1968）から全体の形状，大きさを想定した。最大で高さ40cm，幅30cm程度の大きさになる可能性がある。１は右腕と左胸に相当する部分で，平行沈線と渦巻き状の沈線がみられる。渦巻き

乳房表現　は乳房を表現しているものと考えられる。また，裏面および肩部にも平行沈線が施されている。２は小破片であるが，首に近い部分の破片と考えた。３～15および図版60－２の破片は胴部に相当するものと思われるが，両面に文様が施されているようなので部位を決定することができない。３～７・９は片面に平行沈線が数本みられるもので，裏側は剝離面である。10～15は側面の破片と考えられるが，部位は確定できない。11などは左腕に近い部分かもしれない。８・16～18は脚部に相当するようであるが，接合はしない。３・５・

赤色顔料　７～９・10・18の無文部分，10・12・13の沈線の一部に赤色顔料が認められる。表面の摩耗・風化が著しいことからみて，本来は全体に赤色顔料が塗布されていたものと考えられる。

これらの破片でみる限り，整形→ＲＬ縄文の施文→棒状工具による沈線の施文→部分的な縄文の磨消という工程で製作されていることが考えられる。胎土は砂礫を多く含み，他の土器と同様で，特殊なものは使用していない。また，焼成も不良で，厚みが６cmもあることなどから，内部は生焼けであった可能性がある。残存する部分が少ない点や破片が細片化し，表面のみ残っているのはそのためではないだろうか。

19は１～18と少し離れたＩ－21から出土している。厚さや文様が異っているので，別個体

登町４　と思われる。登町４遺跡の出土例（名取・峰山　1968）などと比較して，脚部に相当するものと考えた。大きさは最大で25cm程度になると思われる。１～18と比べるとひとまわり

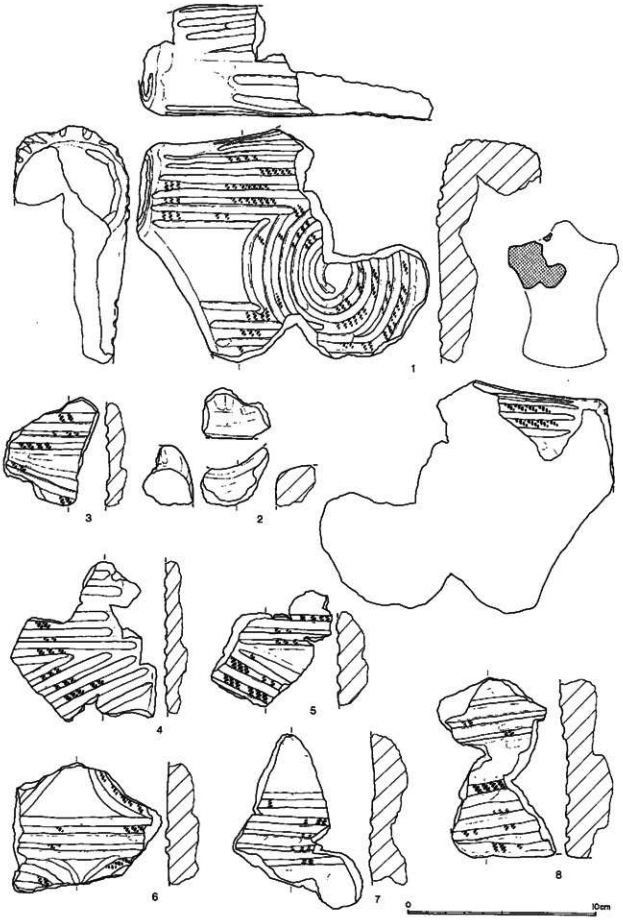
工字文　小型である。文様は１～18と同様，ＲＬ縄文の施文後，沈線が施され，工字文もみられる。胎土は１～18同様，砂礫を多く含むが，焼成は良く硬質である。残存している範囲では，赤色顔料はみられない。

石製品　包含層から出土した石製品は９点である（図Ⅲ－115，図版58－２）

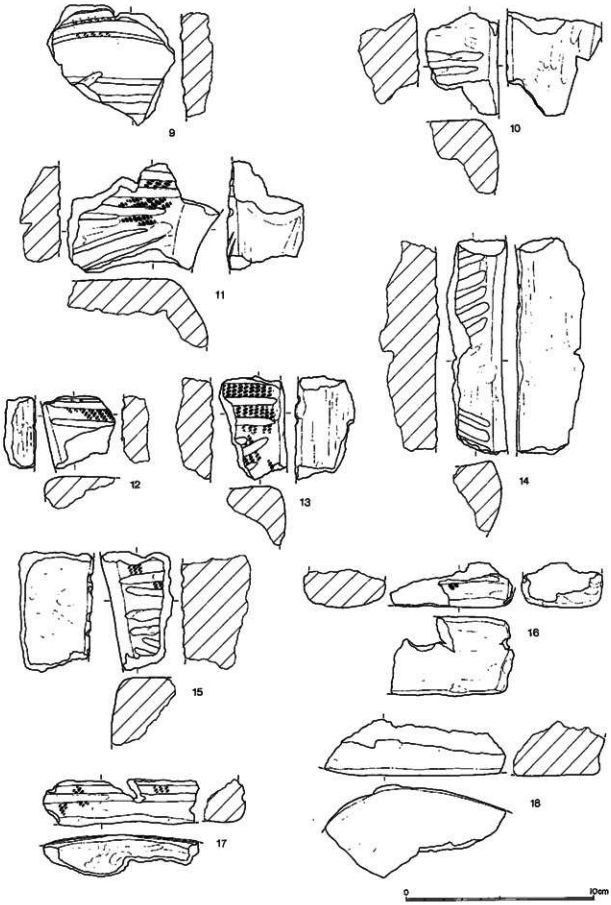
垂　飾　20は剝片の一部に加工を施した黒曜石製の垂飾である。原石の段階からある自然の孔を利用したものと思われ，形態や加工の状態から石器としては機能しないと考え，垂飾に含

かんらん岩玉　めた。21はかんらん岩製の玉，両面は平らで，側面は丸味がある。穿孔は両側と思われる。

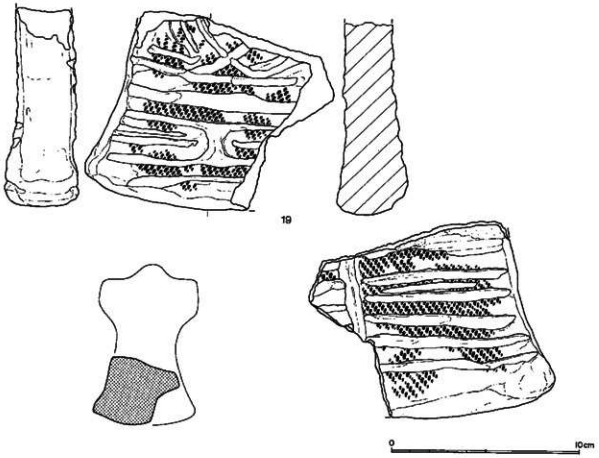
有孔石製品　22・26は有孔の自然石を利用した安山岩の有孔石製品で，加工痕は顕著ではない。23・24は凝灰岩製の有孔石製品で，原石の形状をそのまま生かし，穿孔のみを行っている。穿孔



図Ⅲ－112　包含層の土製品(1)・土偶(1)



図Ⅲ—113　包含層の土製品(2)・土偶(2)



図Ⅲ—114　包含層の土製品(3)・土偶(3)

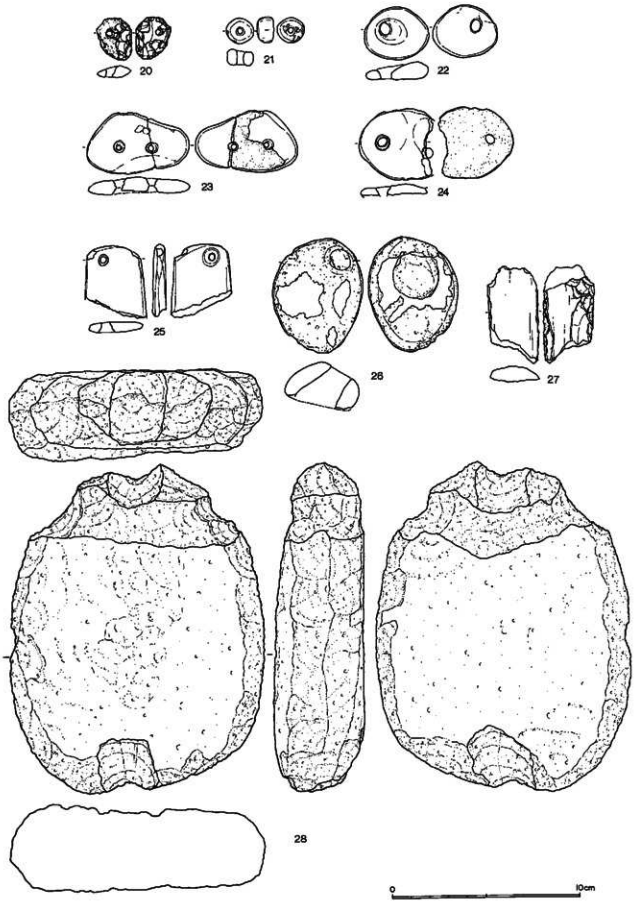
は2ヵ所で，いずれも両側からである。同様のものは千歳市ママチ遺跡（財北海道埋蔵文化財センター　1987）などでみられ，孔の部分から破損しているものが多い。25は蛇紋岩製で，石斧の基部の可能性がある。27は片岩製の石棒の破片で，全体の形状は全くわからない。28は上部にハチ巻状の幅広の溝とそれに直交するように長軸の両端に短い溝がみられる安山岩製の有溝石製品である。素材は扁平な原石を利用しているとみられ，周縁および溝は敲打によって整形されている。機能などは不明であるが，「錘石」とされているもの（杉浦　1988a・b）と同種のものであろう。

ママチ

石棒破片

有溝石製品

「錘石」



図III—115　包含層の石製品

Ⅳ　各種分析、同定

1　環　　境

(1)　栄町5遺跡の古植生について

山　田　悟　郎
(北海道開拓記念館)

1　試料と試料の処理方法

1）試　　料

ここで花粉分析を行なった土壌試料は，遺跡の発掘調査時に，H－12グリッドの南壁から採取したものである。H－12グリッドの南壁の層序は上部から，耕作土（Ⅰ層：17cm，試料No.1），縄文時代晩期の遺物包含層である黒褐色腐植土（Ⅰb層：19cm，試料No.2～4），小礫まじりで赤褐色な赤色風化土壌（Ⅱ層：36cm，試料No.5）で，5点の土壌試料を採取した。　試料採取

2）試料の処理方法

試料の処理にあたっては，風乾した土壌試料500gを下記の順に化学・物理処理を行いプレパラートを作成した。　試料処理

アルカリ処理－水洗－比重分離－水洗－フッ化水素酸処理－水洗－アセトリシス処理－水洗

プレパラートの観察は通常10×（接眼），40×（対物）のレンズを使用して行い，必要に応じて100×（対物）を使用した。同定・計数にあたっては，レンズ下に出現した花粉・胞子を無作為に同定し，1枚のプレパラートで樹木花粉を200個以上数えるまで観察するように務めたが，花粉・胞子の含有数が少なく，各試料をもとに作成した3枚のプレパラート全てを観察しても200個以上数えることができたものはなかった。したがって，各試料から出現した花粉・胞子の出現数を一覧表にして示した。　検　　鏡

2　出現した花粉・胞子

5点の試料から表に示すように，樹木花粉12属1科，草本花粉1属11科，胞子3科，形態分類胞子2種類が検出された。種類・数はともに少ないもので，当時の植生を全て反映したものではなかった。出現した花粉・胞子の内訳および想定される植物は次のとおりである。

樹木；*Abies*（モミ属：トドマツ），*Picea*（トウヒ属：エゾマツ），*Juglans*（オニグルミ属：オニグルミ），*Alnus*（ハンノキ属：ハンノキ・ミヤマハンノキほか），*Betula*（カバノキ属：シラカンバ・ウダイカンバほか），*Quercus*（コナラ亜属：ミズナラ・カシワ・コナラ），*Ulmus*（ニレ属：ハルニレ・オヒョウニレ），*Magnolia*（モクレン属：ホウノキ・コブシ），*Tilia*（シナノキ属：シナノキ・オオバボダイジュ），*Acer*（カエデ属：イタヤカエ

デ・ハウチワカエデほか)，*Rhus*（ウルシ属：ツタウルシほか)，*Phellodendron*（キハダ属：キハダ)，Araliaceae（ウコギ科：ハリギリ・タラノキ・コシアブラほか)

草本：Polygonaceae（タデ属：オオイタドリほか)，Chenopodiaceae（アカザ科：アカザ・シロザ)，Caryophyllaceae（ナデシコ科：ミミナグサ・ウシハコベほか)，Ranunculaceae（キンポウゲ科：カラマツソウ・アキカラマツ)，Cruciferae（アブラナ科：スカシタゴボウ・イヌナズナほか)，Rosaceae（バラ科：ダイコンソウ・キジムシロほか)，Umbelliferae（セリ科：エゾニュウ・オオカサモチほか)，*Artemisia*（ヨモギ属：オオヨモギ)，Carduoideae（キク亜科：アキタブキ・チシマアザミほか)，Cichorioideae（タンポポ亜科：コウゾリナ・イワニガナ)，Gramineae（イネ科：ススキほか)，Liliaceae（ユリ科：マイズルソウ・エンレイソウほか)

胞子：Equisetaceae（トクサ科：スギナほか)，Osmundaceae（ゼンマイ科：ゼンマイ・ヤマドリゼンマイほか)，Lycopodiaceae（ヒカゲノカズラ科：ヒカゲノカズラほか)

形態分類胞子：Monolate type spore（単溝型胞子：シダ類)，Trilite type spore（三溝型胞子：ワラビほか)

縄文時代晩期の遺物包含層であるＩｂ層では花粉・胞子の出現数は少ないが，出現したものの中では *Juglans*，*Alnus*，*Quercus*，*Ulmus*，*Tilia*，Araliaceae，Polygonaceae，Ranunculaceae，*Artemisia*，Gramineae，Monolate type spore が主となった花粉構成となっており，上部の耕作土ではこれに畑地雑草である Chenopodiaceae，Ranunculaceae が加わる。

3　古植生について

遺物包含層からは11属１科の樹木花粉が検出されたが，当時，遺跡周辺に分布していた森林がこれらの樹木のみで構成されていたわけではなく，もっと多くの樹木が繁っていたはずであるが花粉が土壌中には残らなかったと考えるべきであろう。多くの花粉は酸性が強く，空気の流通が比較的良い腐植土中で分解されたことが考えられる。逆に考えれば，検出された11属１科の樹木は確実に遺跡周辺に分布し花粉を生産したといえる。

当時，遺跡の周辺にはオニグルミ，ハンノキ，シラカンバ，ミズナラ，ハルニレ，コブシ，ホウノキ，シナノキ，イタヤカエデ，ハウチワカエデ，ツタウルシ，キハダ，ハリギリ，タラノキなどの落葉広葉樹とトドマツが生育していたことは確かである。

落葉広葉樹

忍路土場

若干地点は異なるが，近くにある縄文時代後期の忍路土場遺跡では，低湿地という花粉の保存には条件が良い環境下ではあったが，26属の樹木花粉が検出されている（山田，1990)。縄文時代後期から晩期にかけて植生が大きく変わるほどの気候変化が今のところないことから，晩期になっても栄町５遺跡周辺に忍路土場遺跡で確認された樹木が生育していたことが考えられる。忍路土場遺跡で得られた資料を加味すれば，これら樹木のほかに，サワシバ，ツノハシバミ，アサダ，クリ，ナナカマド，エゾヤマザクラ，トチノキ，ミズキ，エゾニワトコなども付近に生育したいたことが十分に考えられる。これらの樹木で構成された森林が二次林化していたか否かについては，検出された数少ない花粉構成から推定するのは難しい。しかし，当時の人々にとって豊富な食料資源を提供した恵みの森であったはずである。

二次林化

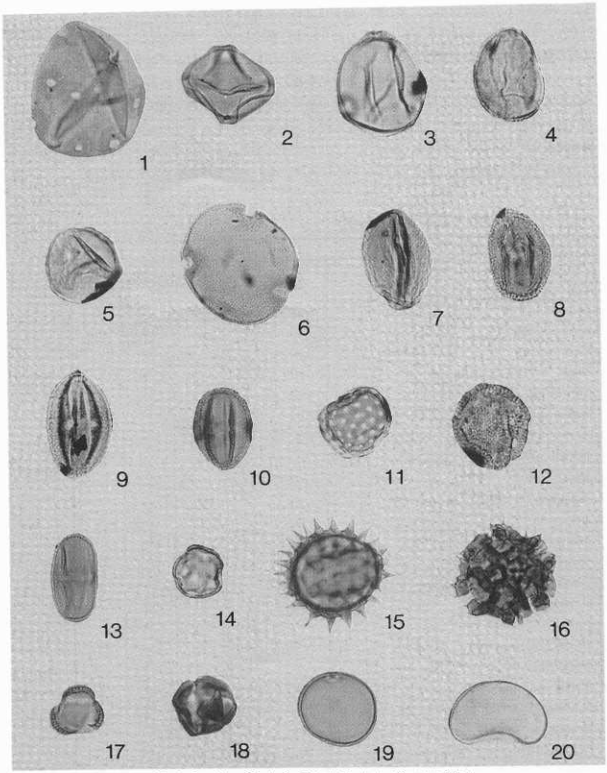
さて，草本花粉・胞子であるが，これももっと多くの草本植物が生育していたはずであ

るが，検出されたのは草本が1属10科，胞子は3科と2種類だけであった。

だが，草本花粉の出現状況をみれば日あたりのよい場所を好む，タデ科，キンポウゲ科，ヨモギ属，イネ科，シダ類が多く出現しているのがわかる。この他にはアブラナ科，バラ科，セリ科，キク亜科，タンポポ亜科，トクサ科などのやはり日あたりのよい場所を好む草本花粉が検出されており，当時，遺跡には日当りのよい場所－森林が伐採された日あたりの良い草地－が存在していたことが考えられる。草地には，現在でも日当りのよい荒れ地や林縁などでみることができるオオイタドリ，オオヨモギ，カラマツソウ，アキカラマツ，ススキ，シダ類が主となりエゾニュウ，アキタブキ，アザミなどをまじえた繁みをつ

表Ⅳ－1　各試料から産出した花粉・胞子

試料 No.	1	2	3	4	5
Abies（モミ属）	2	1	1	－	－
Picea（トウヒ属）	1	－	－	－	－
Juglans（オニグルミ属）	5	3	3	1	－
Alnus（ハンノキ属）	11	9	5	5	2
Betula（カバノキ属）	5	3	4	2	1
Quercus（コナラ亜属）	17	8	9	8	2
Ulmus（ニレ属）	7	5	5	3	－
Magnolia（モクレン属）	1	2	－	－	－
Tilia（シナノキ属）	3	4	3	1	－
Acer（カエデ属）	1	2	1	1	－
Rhus（ウルシ属）	2	1	－	－	－
Phellodendron（キハダ属）	－	2	1	－	－
Araliaceae（ウコギ科）	2	5	3	1	－
Polygonaceae（タデ科）	8	11	9	3	1
Chenopodiaceae（アカザ科）	5	1	－	－	－
Caryophyllaceae（ナデシコ科）	2	－	－	－	－
Ranunculaceae（キンポウゲ科）	13	15	11	9	2
Cruciferae（アブラナ科）	4	2	1	1	－
Rosaceae（バラ科）	1	2	1	－	－
Umbelliferae（セリ科）	5	8	6	2	1
Artemisia（ヨモギ属）	23	34	27	13	3
Cardunoideae（キク亜科）	1	3	3	1	1
Cichorioideae（タンポポ亜科）	1	2	－	－	－
Gramineae（イネ科）	31	45	37	21	9
Liliaceae（ユリ科）	1	1	－	－	－
Equisetaceae（トクサ科）	2	1	－	－	－
Osmundaceae（ゼンマイ科）	3	5	2	2	－
Lycopodiaceae（ヒカゲノカズラ科）	2	3	3	1	1
Monolate type spore（単溝型胞子）	6	11	9	10	5
Trilite type spore（三溝型胞子）	1	3	1	1	2
合　計（個）	166	169	145	88	30



1. *Juglans* No.3 2. *Alnus* No.4 3. *Betula* No.4 4. *Quercus* No.4
5. *Ulmus* No.3 6. *Tilia* No.3 7. *Acer* No.4 8. Araliaceae No.3
9. *Phellodendron* No.3 10. Polygonaceae No.4 11. Chenopodiaceae No.2
12. Caryophyllaceae No.1 13. Umbelliferae No.3 14. Ranunculaceae No.4
15. Carduoideae No.3 16. Cichorioideae No.2 17. *Artemisia* No.4
18. Rosaceae No.3 19. Gramineae No.4 20. Monolate type spore No.4
（倍率は約1000倍）

図IV—1　産出した主な花粉・胞子

くっていた。

さて，このたび花粉分析用の試料を採取した地点は，日あたりの良い台地の縁辺部ではない。したがって，自然の状態では草地が存在する環境ではなく，本来的には上記のような樹木構成からなる森林が分布していたはずである。草地が形成された背景には，人間の活動によった森林の伐採があげられる。それは，生活空間を確保するためであり，住居の構造材を得るため，また薪炭材を確保するためで，その結果として草地が形成されたのである。

森林伐採

耕作土で検出された樹木花粉の構成は遺物包含層で確認されたものと違いはなく，森林の構成は現在と大きく異なっていなかったことを示している。また，耕作土で検出されたアカザ科，ナデシコ科の花粉は，農地として使用されていた際に畑作雑草として繁茂していたものと考えられる。

畑作雑草

4　ま　と　め

栄町５遺跡の縄文時代晩期の遺物包含層からは，11属１科の樹木花粉，１属10科の草本花粉，３科の胞子と，２種類の形態分類胞子が検出された。これらの花粉構成から，遺跡周辺にはミズナラ，オニグルミ，ハンノキ，ハルニレ，シナノキなどを主とした落葉広葉樹林が分布し，遺跡が形成された森林の一角には日あたりよい場所を好む草本類が繁る草地が存在していたことが明かとなった。

落葉広葉樹

参考文献

山田悟郎（1990）「忍路土場遺跡の古植生について」『忍路土場遺跡・忍路５遺跡』㈶北海道埋蔵文化財センター発掘調査報告書第53集，㈶北海道埋蔵文化財センター

2 遺　　物

(1) 栄町5遺跡出土黒曜石の原産地同定および水和層年代測定

奥 水 達 司
(北海道大学理学部地質学鉱物学教室)

1 はじめに

今回，余市町栄町5遺跡より出土した黒曜石について，その原産地同定あるいは年代測定を実施したので報告する。

同定・測定試料

試料は図V－2にした23ヵ所の発掘区から出土した有舌尖頭器，スクレイパー片，フレイクなど31点である(表V－2参照)。1点の有舌尖頭器以外はすべて縄文時代晩期後葉の時期の遺物である。

自然科学的手法

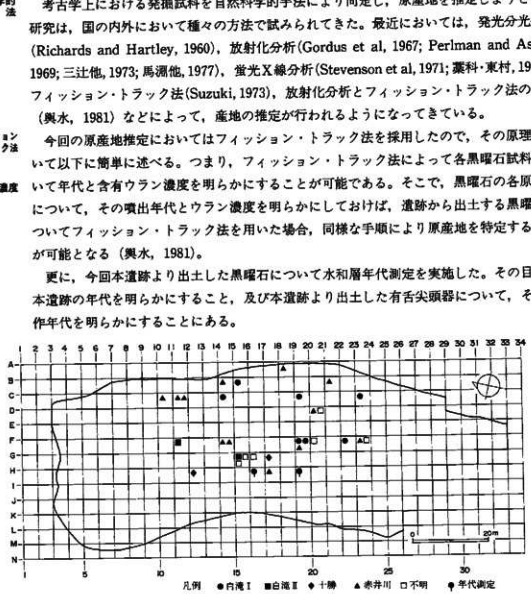
考古学上における発掘試料を自然科学的手法により同定し，原産地を推定しようという研究は，国の内外において種々の方法で試みられてきた。最近においては，発光分光分析(Richards and Hartley, 1960)，放射化分析(Gordus et al, 1967; Perlman and Asaro, 1969; 三辻他, 1973; 馬淵他, 1977)，蛍光X線分析(Stevenson et al, 1971; 藁科・東村, 1973)，フィッション・トラック法(Suzuki, 1973)，放射化分析とフィッション・トラック法の併用(奥水，1981)などによって，産地の推定が行われるようになってきている。

フィッション・トラック法

今回の原産地推定においてはフィッション・トラック法を採用したので，その原理について以下に簡単に述べる。つまり，フィッション・トラック法によって各黒曜石試料について年代と含有ウラン濃度を明らかにすることが可能である。そこで，黒曜石の各原産地について，その噴出年代とウラン濃度を明らかにしておけば，遺跡から出土する黒曜石についてフィッション・トラック法を用いた場合，同様な手順により原産地を特定することが可能となる(奥水，1981)。

ウラン濃度

更に，今回本遺跡より出土した黒曜石について水和層年代測定を実施した。その目的は本遺跡の年代を明らかにすること，及び本遺跡より出土した有舌尖頭器について，その製作年代を明らかにすることにある。



図IV－2　試料の出土位置図

表Ⅳ－2　黒曜石片のフィッション・トラック年代測定結果

No.	Ns(tracks)	ρs(trakc cm^{-2})	Ni(tracks)	ρi(tracks cm^{-2})	Nd(tracks)	ϕ (neutrons cm^{-2})	Age(Ma)	Cw(ppm)	原産地
1	1600	2.20×10^{6}	2500	2.85×10^{4}	3000	6.22×10^{14}	2.89±0.11	2.34	白滝－Ⅰ
2	1500	2.17×10^{6}	2500	2.83×10^{4}	3000	6.22×10^{14}	2.87±0.11	2.32	白滝－Ⅰ
3	1500	2.19×10^{6}	2500	2.83×10^{4}	3000	6.22×10^{14}	2.89±0.11	2.32	白滝－Ⅰ
4	1500	2.22×10^{6}	2500	2.81×10^{4}	3000	6.22×10^{14}	2.95±0.11	2.31	白滝－Ⅰ
5	1500	1.59×10^{6}	2500	3.80×10^{4}	3000	6.35×10^{14}	1.60±0.06	3.06	十　勝
6	1500	2.18×10^{6}	2500	2.87×10^{4}	3000	6.35×10^{14}	2.90±0.11	2.31	白滝－Ⅰ
7	1500	1.62×10^{6}	2500	3.71×10^{4}	3000	6.35×10^{14}	1.67±0.06	2.99	十　勝
9	1600	2.18×10^{6}	2500	2.86×10^{4}	3000	6.18×10^{14}	2.83±0.10	2.36	白滝－Ⅰ
10	1600	2.21×10^{6}	2500	2.86×10^{4}	3000	6.18×10^{14}	2.87±0.11	2.36	白滝－Ⅰ
11	1500	2.19×10^{6}	2500	2.80×10^{4}	3000	6.15×10^{14}	2.89±0.11	2.33	白滝－Ⅰ
13	1500	1.88×10^{6}	2500	3.31×10^{4}	3000	6.27×10^{14}	2.14±0.08	2.70	白滝－Ⅱ
14	1500	1.95×10^{6}	2500	3.36×10^{4}	3000	6.27×10^{14}	2.19±0.08	2.74	白滝－Ⅱ
16	1500	2.84×10^{6}	2500	5.15×10^{4}	3000	6.41×10^{14}	2.12±0.06	4.11	赤井川
17	1500	2.90×10^{6}	2500	5.27×10^{4}	3000	6.41×10^{14}	2.12±0.08	4.20	赤井川
18	1500	2.91×10^{6}	2500	5.11×10^{4}	3000	6.20×10^{14}	2.12±0.08	4.21	赤井川
19	1500	2.85×10^{6}	2500	5.18×10^{4}	3000	6.20×10^{14}	2.05±0.08	4.27	赤井川
20	1500	2.89×10^{6}	2500	5.20×10^{4}	3000	6.20×10^{14}	2.07±0.08	4.29	赤井川
21	1500	2.88×10^{6}	2500	5.10×10^{4}	3000	6.22×10^{14}	2.11±0.08	4.19	赤井川
22	1500	2.93×10^{6}	2500	5.15×10^{4}	3000	6.22×10^{14}	2.13±0.08	4.23	赤井川
23	1500	2.90×10^{6}	2500	5.21×10^{4}	3000	5.22×10^{14}	2.08±0.08	4.40	赤井川
24	1500	2.88×10^{6}	2500	5.32×10^{4}	3000	6.18×10^{14}	2.01±0.08	4.40	赤井川
25	1500	2.88×10^{6}	2500	5.35×10^{4}	3000	6.18×10^{14}	2.00±0.07	4.42	赤井川
26	1500	2.93×10^{6}	2500	5.33×10^{4}	3000	6.18×10^{14}	2.04±0.08	4.41	赤井川
27	1500	2.86×10^{6}	2500	5.32×10^{4}	3000	6.18×10^{14}	2.09±0.07	4.40	赤井川

Ns：自発フィッション・トラック観測数，ρs：自発フィッション・トラック密度，Ni：誘発フィッション・トラック観測数，ρi：誘発フィッション・トラック密度，Nd：標準ガラス中の誘発フィッション・トラック観測数，ϕ：熱中性子線量，Age：噴出年代，Cw：ウラン濃度
東欠番は処理していただめ同定ができなかったもの。Noは表Ⅴ－2と一致する。

2　フィッション・トラック年代とウラン濃度の測定手順および結果

今回，黒曜石のフィッション・トラック年代（噴出年代）およびウラン濃度を明らかにし，これらをもとに原産地を同定した。そこで，これらの測定手順および結果を以下に述べる。

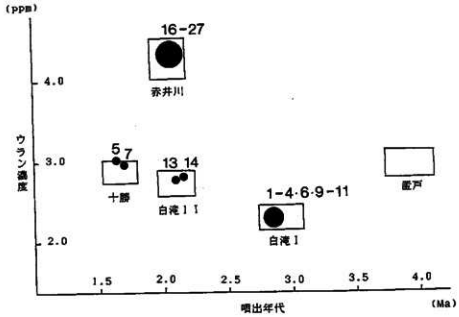
測定手順

Fleischer et al. (1975)に従えば，フィッション・トラック年代（A）とウラン濃度（Cw）は，標準ガラスについての定数が明らかにされている場合には，次の式により算出される。

$$A=\zeta\ (\rho s/\rho i)\ \rho_D$$

$$Cw=k\ (\rho_i/\rho_D)$$

ここで，ρ_sは自発核分裂飛跡密度，ρ_iは誘発核分裂飛跡密度，ρ_Dは標準ガラス中の誘発核分裂飛跡密度，ζおよびkは定数である。なお，熱中性子線量（ϕ）は標準ガラスの定数Bが明らかな場合，$\rho_D=B\phi$より導びかれる。



図IV－3　黒曜石片の分析結果

実際には，同一の黒曜石から2箇の試料を用意し，その1つを標準ガラスとともに立教大学原子力研究所 TRIGA Mark Ⅱ回転試料棚で熱中性子を照射した。その後，これら2箇の黒曜石（一方は自然核分裂飛跡密度用，他方は誘発核分裂飛跡密度用である）を樹脂に包埋し，黒曜石の内面を観察するため研磨した。ついで，48% HF を用いて，23°C で15秒間のエッチングを行い，エッチング表面のレプリカを作り，これを光学顕微鏡下で観察した。

このようにして，北海道内における主要黒曜石原産地として知られる白滝・置戸・十勝・赤井川地域の各々の噴出年代とウラン濃度の関係から，各原産地は既に図IV－3のように識別されている。(興水，1981)。そこで，今回の24試料についても同様や手順で分析を試みた（表IV－2）。

測定結果　その結果，本遺跡に近い原産地である赤井川地域の黒曜石が相当量使用されていること
白滝・赤井川　がわかった。ところが，本遺跡からはるか遠方にある白滝地域の黒曜石も赤井川地域とほぼ用じ程度使用されていることが判明した。もちろん，今回分析した試料は本遺跡から出土した黒曜石の極く一部にすぎない。従って，今回明らかにされた黒曜石の原産地の割合
文化・交易圏　は，本遺跡全体の黒曜石のその割合とは幾分異なるかもしれない。しかし，この結果はその当時の文化圏，交易圏を考える上で，重要な役割を果たすことになろう。

3　水和層年代測定

前述のように原産地の明らかにされた黒曜石24箇のうち1箇については，更に水和層年代測定を実施した。また，本遺跡より出土した有舌尖頭器についても，その製作年代を知る目的で水和層年代測定を実施した。

さて，現在北海道における黒曜石製石器の原産地の主要なものとしては，赤井川，十勝，
検量線　置戸，白滝の四地域が一般に知られている。従って，水和速度に関する検量線についても，やはり原産地ごとに独自のものが明らかにされていなければならない。しかし，今のとこ

表Ⅳ－3　黒曜石の水和層年代測定結果

試　料	測定数	水和層厚 $\bar{x}\pm\sigma(\mu m)$	水和層年代(年 B.P.)	黒曜石産地
H－16	10	3.81±0.08	8100±300	白滝－1
No　1	10	2.05±0.07	2200±200	白滝－1

＊表Ⅳ－2のNo.1の試料を使用。

ろそこまで至っていない。この問題に関しては，各種の放射年代値と水和層年代に関する基礎的データを相互に積み重ねることにより，将来解決されなければならない。そのために，水和層年代測定を実施する際に，試料となる黒曜石の原産地を常に明らかにすることが望ましい。

ところで，KATSUI and KONDO(1976)により求められた"北海道の黒曜石"の検量線は，主に白滝産の黒曜石を材料にしている。そこで，今回原産地が前述のように白滝に求められた黒曜石について水和層年代測定を実施した。従って，今回の実験で用いた検量線については大きな矛盾はないものと判断する。

水和層厚測定のための黒曜石薄片製作は，KATSUI and KONDO (1976) の方法によった。水和層厚の測定は総合倍率1500×の鏡下で直接読みとった。得られた結果は表Ⅳ－3の通りである。なお，有舌尖頭器についてはフィッション・トラック法で原産地が白滝－Ⅰと求められているので，これについても KATSUI and KONDO (1976) の検量線を用いて年代を求めることに問題はないと判断した。その結果も表Ⅳ－3に示す。

文　　献

FLEISCHER, R. L., PRICE, P. B. and WALKER, R. M.(1975)Nuclear Tracks in Solids, Principles and Applications. University of California Press.

GORDUS, A. A., FINK, W. C., HILL, M. E., PURDY, J. C. and WILCOX, T. R.(1967)Identification of the geologic origin of archaeological artifacts. Archaeometry, 10, 87-96.

KATSUI, Y. and KONDO, Y.(1976)Variation in obsidian hydration rates for Hokkaido, northern Japan. Advances in obsidian glass studies(ed. R. E. TAYLOR), 120～140, Neyes Press(New Jersey)

與水遠司：(1967) 石狩低地帯に出土する黒曜石片の原産地，地球科学，35，267～273。

馬淵久夫・野津憲治・堀井　明・不破敬一郎：(1977) 日の出山窯跡瓦の放射化分析，考古学と自然科学，(10)，115～127。

三辻利一ほか9名：(1973) 大阪南部窯址群出土の須恵器の放射化分析－Ⅰ。考古学と自然科学，(10) 115～127。

PERLMAN, I. and ASARO, F：1969)Pottery analysis by neutron activation. Archaeometry, 11, 21～52.

RICHARDS, E. E. and HARTLEY, K. F.：(1960)Spectrographic Analysis of Romano British Pottery. Nature, 185, 194～196

STEVENSON, D. P., STROSS, F. H. and HEIZER, R. F：(1971)An evolution of x-ray fluorescence analysis as a method for correlating obsidian artifacts with source location. Archaeometry, 13, 17～25

SUZUKI, M：(1973)Chronology of Prehistoric cuman activity in Kanto, Japan. J. Fac. Sci., Univ. Tokyo. Ser. V, IV, 241～318

藁科哲男・東村武信：(1973) 螢光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定。考古学と自然科学，(6)，33～42

(2) 栄町5遺跡出土土器の胎土分析

1 はじめに

晩期後葉

栄町5遺跡では約10万点の遺物が出土し，そのうちの75%が土器片であった。土器は縄文時代中・後期のものが若干みられるが，そのほとんどは縄文時代晩期後葉の時期に属するものである。遺跡は耕作による攪乱が著しく層位的に土器を把えることは不可能であった。したがって，土器は深鉢・鉢・浅鉢・壺・異形などの器形ごとに文様の特徴を検討し，若干の新旧関係がみられることから1～3類に分け，さらに道南系（a）と道央系（b）に分類した。壺形土器の一部については，一見しただけで他のものとは全く異なる良質の胎土を使用し，他から搬入されたのではないかとみられるものもあった。搬入土器の識別，さらに器形や分類ごとの胎土の特徴などを明らかにするため，胎土に含まれる極細粒砂分の一次鉱物組成を調べた。

搬入土器

一次鉱物組成

2 試料と試料の処理

試料数

試料は，深鉢から20点，鉢から18点，浅鉢から12点，及び壺から9点を任意に選び分析に供した。土器の説明は第Ⅲ章に述べられているが，土器の説明Noと供試土器の試料Noとは一致している。

処理手順

試料の処理は上條(1983)の方法に準じ，次の手順で行った。試料の乾燥→約10g を鉄製乳鉢にて粉砕→1 N の HCl 中で超音波洗浄→クエン酸ナトリウム・ハイドロサルファイトナトリウム・炭酸水素ナトリウムによる脱鉄処理→水洗→乾燥→篩分け→極細粒砂分（粒径1/8－1/16mm)についてカナダバルサムを封入剤としてプレパラート作成→偏光顕微鏡下で黒雲母を除き200粒以上を検鏡→各鉱物・生物起源粒の粒数%を求める。黒雲母の量比については，黒雲母粒数とこれを除いた検鏡粒数との比を求めた。

みかけ比重

また，土器の物性の一つとして，みかけ比重を測定した。

3 結果と若干の考察

土器胎土の一次鉱物組成・みかけ比重を表Ⅳ－4に示す。各試料とも鉱物組成は単純である。重鉱物が少なく，主に斜長石と火山ガラスから成る。火山ガラスの形態は，各試料とも，泡壁が ridge をなして曲線状に走るものがほとんどを占める。みかけ比重は2.3－2.9で，2.5－2.6のものが多い。生物起源粒（珪藻・プラントオパール・海綿骨針）を含むものが認められる。これらの試料を，主要構成鉱物である斜長石と火山ガラスの量比，及黒生物起源粒の有無によって以下の胎土型に分類した。

生物起源粒

胎土型分類

Ⅰ型：生物起源粒を含まず，主に斜長石と火山ガラスから成るもの。斜長石と火山ガラスの量比から次の亜型を設ける。

Ⅰa型：斜長石＞火山ガラス（量比1.5－3：1．試料 No.28・47・94・140・219・220・279)

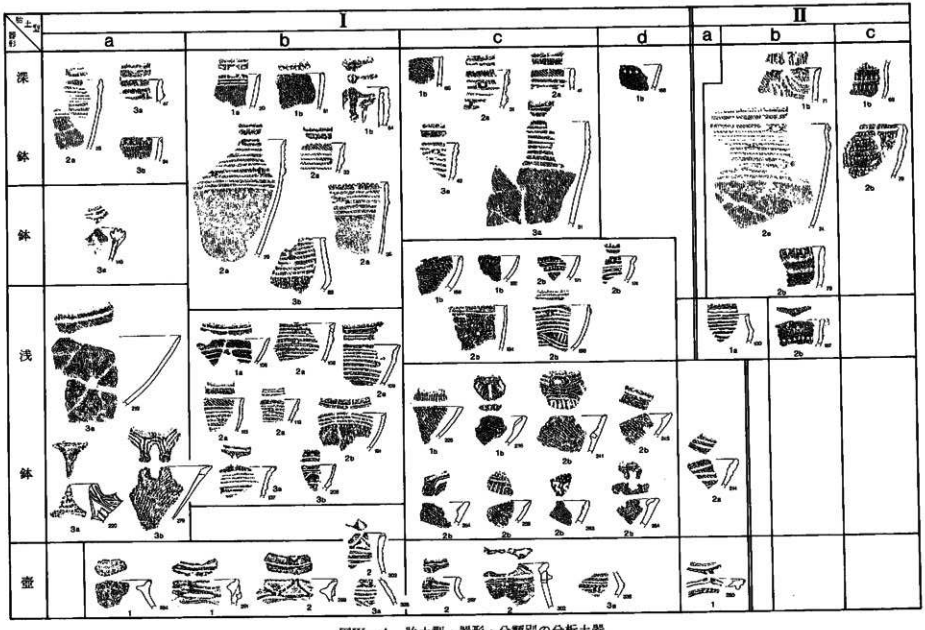
Ⅰb型：斜長石≒火山ガラス（量比1：1－1.5，1－1.5：1．試料 No.20・29・33・36・54・61・89・105・108・109・115・119・137・191・208・284・291・299・303・328)

Ⅰc型：斜長石＜火山ガラス（量比1：1.5－3．試料 No.31・41・43・51・65・158・162・171・174・184・196・226・235・241・245・254・256・263・264・297・302・336)

表Ⅳ－4　土器胎土の一次鉱物組成

（粒数%，数値1/8－1/16mm，黒雲母の量比算出法は本文参照）

番号	器形	分類	黒鉱物	石英	ジルコン	斜長石	黒雲母	角閃石	斜方輝石	単斜輝石	ジルコン	不透明鉱物	火山ガラス	陸源	マグマ・マイニル	海綿骨針	火山ガラス	胎土型
20	深鉢	Ⅱ1a	4.6	0.5	－	50.9	－	4.6	－	－	－	－	44.0	－	－	－	2.51	Ⅰb
24	〃	Ⅱ2a	4.4	－	－	39.6	－	4.0	－	－	0.4	－	54.2	1.3	0.4	－	2.47	Ⅱb
28	〃	〃	5.2	1.5	－	59.2	－	5.2	－	－	－	－	34.1	－	－	－	2.32	Ⅰa
29	〃	〃	2.4	－	－	46.6	－	2.4	－	－	－	－	51.0	－	－	－	2.37	Ⅰb
31	〃	〃	4.3	－	－	36.5	－	3.1	－	－	1.2	59.1	－	－	－	－	2.51	Ⅰc
33	〃	〃	6.1	0.5	－	45.3	(0.5)	6.1	－	－	－	－	47.6	－	－	－	2.56	Ⅰb
36	〃	〃	3.3	0.5	－	53.1	－	2.3	－	－	0.5	0.5	43.2	－	－	－	2.30	Ⅰb
41	〃	〃	2.6	－	－	32.6	(0.4)	2.6	－	－	－	－	64.4	－	－	－	2.33	Ⅰc
43	〃	Ⅱ3a	5.2	0.4	－	38.0	－	4.8	－	－	－	0.4	56.5	－	－	－	2.46	Ⅰc
47	〃	〃	6.2	0.4	－	39.7	(0.4)	4.4	－	－	－	1.8	33.6	－	－	－	2.53	Ⅰa
51	〃	〃	3.5	－	－	39.1	－	3.1	0.4	－	－	－	57.4	－	－	－	2.33	Ⅰc
54	〃	Ⅱ1b	3.7	1.4	－	48.2	－	3.2	－	－	－	0.5	46.8	－	－	－	2.65	Ⅰb
61	〃	〃	3.6	0.9	－	42.8	－	3.6	－	－	－	－	52.7	－	－	－	2.36	Ⅰb
65	〃	〃	5.6	－	－	35.7	－	5.6	－	－	－	－	58.6	－	－	－	2.42	Ⅰc
69	〃	〃	3.5	－	－	37.5	－	3.0	－	－	0.5	－	57.5	1.0	－	0.5	2.65	Ⅱc
71	〃	〃	2.8	0.8	－	24.7	(0.4)	2.8	－	－	－	－	23.9	31.1	－	16.3	2.33	Ⅱb
76	〃	Ⅱ2b	3.8	0.3	－	26.1	(0.3)	3.1	0.7	－	－	－	67.8	0.3	1.4	－	2.63	Ⅱc
79	〃	〃	2.3	0.9	－	50.5	(0.5)	2.3	－	－	－	－	44.0	0.9	－	0.9	2.34	Ⅱb
89	〃	Ⅱ3b	3.9	0.4	－	51.6	－	3.1	0.4	－	－	0.4	44.1	－	－	－	2.54	Ⅰb
94	〃	〃	7.2	0.4	－	61.9	－	6.3	－	－	－	0.9	30.5	－	－	－	2.58	Ⅰa
100	鉢	Ⅱ1a	8.6	1.7	－	63.7	－	5.6	1.3	0.4	－	1.3	22.2	2.6	0.4	0.9	2.45	Ⅱa
105	〃	〃	8.7	0.4	－	47.4	－	6.5	－	－	－	2.2	43.5	－	－	－	2.35	Ⅰb
108	〃	Ⅱ2a	7.1	0.4	－	51.0	－	2.5	－	0.4	－	4.2	41.4	－	－	－	2.54	Ⅰb
109	〃	〃	1.9	0.5	－	46.6	－	1.9	－	－	－	－	51.0	－	－	－	2.39	Ⅰb
115	〃	〃	4.0	0.5	－	48.0	－	3.0	－	－	－	1.0	47.5	－	－	－	2.41	Ⅰb
119	〃	〃	6.7	－	－	47.4	－	6.3	－	－	－	0.4	45.9	－	－	－	2.63	Ⅰb
137	〃	Ⅱ3a	5.3	－	－	53.3	－	3.3	－	－	－	2.0	41.4	－	－	－	2.69	Ⅰb
140	〃	〃	10.2	0.8	－	55.5	－	5.7	－	－	－	4.5	33.5	－	－	－	2.55	Ⅰa
158	〃	Ⅱ1b	1.4	－	－	29.0	－	1.4	－	－	－	－	69.7	－	－	－	2.45	Ⅰc
162	〃	〃	3.8	－	－	39.0	－	3.0	0.4	－	－	0.4	57.1	－	－	－	2.43	Ⅰc
168	〃	〃	4.4	－	－	23.8	－	2.9	0.5	－	－	1.0	71.9	－	－	－	2.40	Ⅰd
171	〃	Ⅱ2b	1.1	0.4	－	38.0	－	1.1	－	－	－	－	60.5	－	－	－	2.35	Ⅰc
174	〃	〃	4.2	0.4	－	30.0	－	2.5	－	0.4	－	1.3	65.4	－	－	－	2.59	Ⅰc
184	〃	〃	2.9	－	－	36.8	－	2.9	－	－	－	－	60.3	－	－	－	2.76	Ⅰc
187	〃	〃	2.3	－	－	35.9	－	1.4	－	－	－	0.9	51.4	5.0	－	5.5	2.38	Ⅱb
191	〃	〃	4.1	0.4	－	47.9	－	4.1	－	－	－	－	47.5	－	－	－	2.53	Ⅰb
196	〃	〃	6.5	0.5	－	37.1	－	5.0	0.5	－	－	1.0	55.9	－	－	－	2.47	Ⅰc
208	〃	Ⅱ3b	8.7	0.5	－	47.0	－	5.5	－	－	－	3.2	43.8	－	－	－	2.61	Ⅰb
214	浅鉢	Ⅱ2a	2.5	－	－	18.8	－	1.7	－	－	－	0.8	78.8	－	－	－	2.41	Ⅰd
219	〃	Ⅱ3a	5.7	0.4	－	60.7	－	5.7	－	－	－	－	33.2	－	－	－	2.53	Ⅰa
220	〃	〃	2.8	0.5	－	29.8	－	2.3	－	－	－	0.5	67.0	－	－	－	2.59	Ⅰa
226	〃	Ⅱ1b	4.4	0.9	－	32.2	－	4.4	－	－	－	－	62.6	－	－	－	2.48	Ⅰc
235	〃	〃	5.0	0.8	－	26.4	－	3.8	－	－	0.4	0.8	67.9	－	－	－	2.60	Ⅰc
241	〃	Ⅱ2b	5.1	0.5	－	36.2	－	3.6	0.5	0.5	－	0.5	58.4	－	－	－	2.41	Ⅰc
245	〃	〃	4.1	2.5	－	37.1	(1.7)	3.3	－	－	0.4	0.4	56.3	－	－	－	2.67	Ⅰc
254	〃	〃	3.7	0.4	－	36.7	(0.4)	2.9	－	－	－	0.8	59.2	－	－	－	2.54	Ⅰc
256	〃	〃	7.7	1.0	－	33.7	－	5.3	－	－	－	2.4	57.7	－	－	－	2.48	Ⅰc
263	〃	〃	5.4	－	－	32.1	(0.4)	4.6	0.4	－	－	0.4	62.6	－	－	－	2.54	Ⅰc
264	〃	〃	8.1	1.8	－	30.9	－	2.6	－	2.6	－	2.9	59.2	－	－	－	2.70	Ⅰc
279	〃	Ⅱ3b	5.6	0.9	－	62.0	(0.9)	5.2	－	－	－	0.4	31.4	－	－	－	2.70	Ⅰa
280	壺	Ⅱ1	0.4	－	－	4.4	(0.4)	0.4	－	－	－	－	94.8	－	－	－	2.30	Ⅰd
284	〃	〃	9.6	0.8	－	37.4	－	6.7	0.4	0.8	－	1.7	52.1	－	－	－	2.62	Ⅰb
291	〃	〃	5.7	－	－	44.7	－	3.9	－	－	－	1.8	49.6	－	－	－	2.86	Ⅰb
297	〃	Ⅱ2	10.1	0.7	－	35.9	－	7.2	－	－	－	2.9	53.3	－	－	－	2.58	Ⅰc
299	〃	〃	3.2	0.3	－	39.5	－	2.6	0.3	－	－	0.3	57.0	－	－	－	2.58	Ⅰb
302	〃	〃	5.9	－	－	35.6	－	1.5	－	－	－	4.4	58.5	－	－	－	2.60	Ⅰc
303	〃	〃	5.6	－	0.4	41.1	－	4.4	－	－	－	1.2	52.8	－	－	－	2.59	Ⅰb
328	〃	Ⅱ3a	8.3	1.0	－	45.4	(0.5)	5.9	－	－	－	24	45.4	－	－	－	2.57	Ⅰb
336	〃	〃	9.6	－	－	35.0	－	7.3	－	0.4	－	1.9	55.4	－	－	－	2.58	Ⅰc



図IV—4　胎土型・器形・分類別の分析土器

Ⅰd型：斜長石≪火山ガラス（量比1：3＜，試料 No.168・214・280）

Ⅱ型：物起源粒を含むもの。Ⅰ型と同様に，斜長石と火山ガラスの量比から次の亜型を設ける（量比基準はⅠ型に同じ）。

Ⅱa型：斜長石＞火山ガラス（試料 No.100）

Ⅱb型：斜長石≒火山ガラス（試料 No.24・71・79・187）

Ⅱc型：斜長石＜火山ガラス（試料 No.69・76）

試料はⅠb型とⅠc型に属するものが多い。器種，胎土型，みかけ比重との間には明瞭な相関関係は認められないようであるが，浅鉢にはⅠc型の胎土から成るものが比較的多い。胎土型Ⅰdのうち，試料 No.280は胎土に土器片を含み，極細粒砂分ではほとんど火山ガラスから成る特異な土器である。

今回の分析結果では，生物起源粒の有無により大きく二つの胎土型に分類することができた。この二つの型は，斜長石と火山ガラスの量比から，さらに亜型に分類可能である。

円心目珪藻（今回，同定は行っていない）や海綿骨針を含む胎土は，土器の原材料として海成の泥質堆積物を使用したと推定される。生物起源粒を含む胎土は，土器の原材料採取地を推定する上で重要であろう。全試料において火山ガラスが含まれることから，海成，非海成堆積物に関らず，火山砕屑物の一次・二次堆積物を土器の原材料にしたと考えられる。本遺跡周辺には凝灰質の堆積物が広く発達しているので，原材料を附近から採取した可能性は高いであろう。今後，土器の胎土分析においては，胎土及び遺跡周辺の堆積物に含まれる微化石の研究を進めることが，重要な課題の一つとなるであろう。

海綿骨針

火山ガラス

引用文献

上條朝宏（1983）：胎土分析Ⅰ．加藤晉平・小林達雄・藤本　強編「縄文文化の研究　5」270pp.，雄山閣出版：pp. 47－67.

（花岡正光・長沼　孝）

Ⅴ まとめ

1 有舌尖頭器

H－16区の第Ⅰ層から有舌尖頭器が出土している。層位的な裏付けや関連遺物はみられないが，形態や加工の状況からは旧石器時代の石器と考えられる。 旧石器

大きさは，長さ6.4cm，幅2.5cm，厚さ0.8cm，重さは9.9gである。身部の両側はわずかに内湾するが，左右対称ではない。また，両側縁には擦痕はない。正面の剥離は比較的深く行われているが，舌部の右側に素材面が残っている。裏面は身部の中央に素材面が残り，身部の両側縁から先端にかけては比較的浅い細かな剥離が，そして舌部は深い大きな剥離がみられる。

石質は黒曜石で，正面右側，身部と舌部の境あたりに直径3 mm程の流紋岩の球果がみられる。

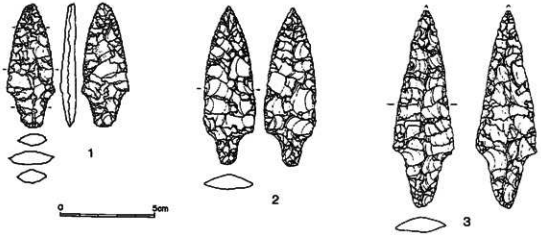
フィッション・トラック法を用いた原産地同定では白滝Ⅰと判明し，水和層年代測定では，8,100±300年 B. P. という結果が得られた（Ⅳ2 (1) 参照）。 白滝産黒曜石

道内で出土している有舌尖頭器と比較すると，先端に丸味がある点や舌部が幅広で大きい点などから，「祝梅型」といわれているもの（横山 1986）に類似する。「祝梅型」については未成品の可能性もあり，また，形態上の特徴が明確化していないという指摘（杉浦 1987）もある。 「祝梅型」

縄文時代の遺跡の調査で単独に近い出土という点からみると，登別市川上B（㈶北海道埋蔵文化財センター 1983）（図Ⅴ－1－3）・小樽市忍路土場（㈶北海道埋蔵文化財センター 1989）（図Ⅴ－1－2）遺跡などの例がある。川上B遺跡のものは，原産地が白滝Ⅰの黒曜石で，8,200±300年 B. P.という水和層年代が得られている（奥水・勝井 1986）。当遺跡のものと黒曜石の原産地は同じで，年代も近似している。 川上B 忍路土場

今回の出土をどのように理解するかについては，二つのことが考えられる。

一つは，調査区内に同時期の遺跡が存在し，少ない遺物量の上に縄文時代の遺跡と重復していたため，遺物が払散してしまったという考え方である。近くの小樽市忍路土場遺跡でも出土していることからみれば，周辺の丘陵上に遺跡が存在する可能性はある。



図Ⅴ－1 柴町5・忍路土場・川上B遺跡出土の有舌尖頭器

もう一つは，黒曜石の原石の採取と同様の感覚で，他の遺跡で採取されて当遺跡に持ち込まれたという考えである。千歳市ママチ遺跡でも旧石器の掻器（財北海道埋蔵文化財センター　1987　p92，図Ⅲ－67－102）が出土している例もある。

ママチ

いずれにしても今後，近辺の遺跡を発掘するにあたっては，この種の石器にも十分注意を払う必要がある。

2　土　　壙

31基の土壙（図Ⅴ－2）は，形態や遺物の出土状況の特徴からⅠ～Ⅳ群の四つのグループに分けたが，そのうち性格が明らかなのはⅠ群の土壙墓と考えられるものだけである。Ⅰ群については出土遺物を含めてその特徴を，Ⅱ・Ⅲ群についてはその類例などを検討したい。

土壙墓

Ⅰ群土壙（土壙墓）　6基の土壙墓の大きさや出土遺物を整理すると表Ⅴ－1のようになる。平面形は楕円形，大きさは確認面で長径1.43～1.97m，短径0.97～1.67m，平均すると1.58×1.28mとなり，比較的大型である。深さは，耕作による削平と確認状況の違いなどで一定していないが，平均すると20cm程度である。本来的には倍の40～50cm程度はあったものと考えられる。

ベンガラ

ベンガラはP－5・11・20の3基から確認できた。確認できたといっても，ブロック状で，壙底および覆土中において一面にみられたという訳ではない。したがって地山自体が赤褐色で，ベンガラと非常に似ている色であったことからみて，壙底および覆土中のブロックを見落している可能性もある。本来的にはベンガラが壙底部付近に敷かれていたものと考えられる。

歯エナメル質

人骨は全く発見できなかったが，P－5で歯のエナメル質部分を確認できた。したがって，

屈葬

P－5の頭位は北東と考えられる。墓壙の大きさなどから考えて，屈葬で埋葬されたものとみられる。

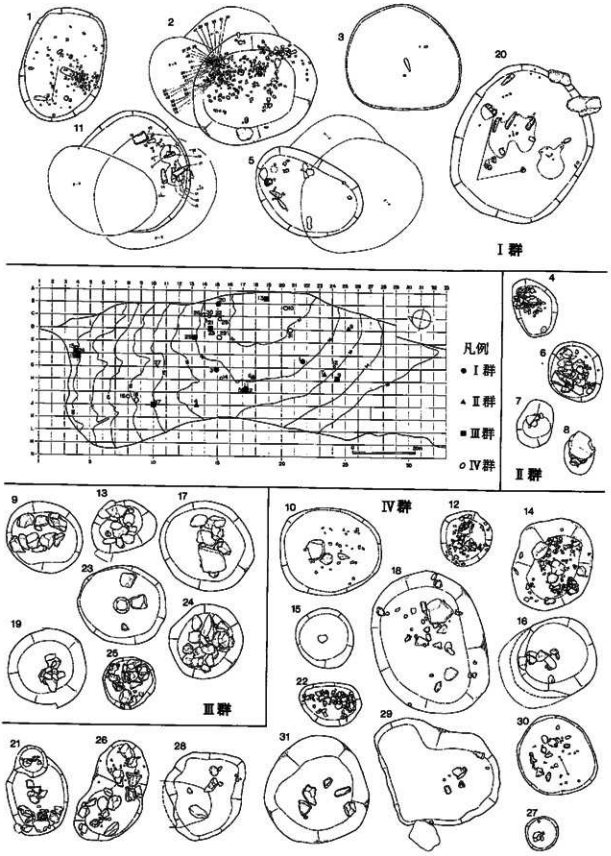
覆土の状況は，耕作や心土破砕による撹乱が著しかったので，十分な検討をすることができなかった。また，腐植土がほとんどないため，平面形の確認も非常に困難であった。

ママチ埋め戻し

したがって，千歳市ママチ遺跡（財北海道埋蔵文化財センター　1987）の土壙墓の覆土のように，人為的な埋め戻しのメルクマークとなる地山ブロックの存在などを確認することはできなかった。しかし，逆に壙底や壁面と近似する覆土が，人為的な埋め戻しの証拠といえるかもしれない。

表Ⅴ－1　土壙墓一覧

遺構	発掘区	平面形	規模（m）確認面／横底面			深さ	出土遺物 土器	出土遺物 石器等	出土遺物 計	ベンガラ	人骨	頭位	長軸方向
P－1	F－21	楕円形	1.44× 1.03	1.34× 0.97		0.20	32	石鏃5・石錐1・スクレイパー13・石斧9・石斧原石1・たたき石1・石核1・Uフレイク10・フレイク119・礫1・石製品1	162				N－75°－W
2	H－17	〃	1.59× 1.35	1.20× 0.97		0.36	297	石鏃49・やり先・ナイフ1・石錐2・スクレイパー4・石斧7・矢柄研磨器1・石核2・Uフレイク10・フレイク238・土製品13	117				N－25°－W
3	G－14	〃	1.52× 1.37	1.47× 1.32		0.08	0	石斧1・フレイク1・石製品2	4				N－5°－W
5	H－17	〃	1.43× 0.97	1.30× 0.78		0.10	27	石鏃2・スクレイパー1・石錐剥離品1・石斧2・たたき石1・石核2・黒石1・Uフレイク1・フレイク8・礫2	21	○	歯	北東	N－25°－E
11	H－17	〃	1.45×(0.62)	1.32×(0.57)		0.18	6	石鏃8・やり先・ナイフ1・石斧9・石斧未成品1・フレイク5・土製品1・石製品50	75	○			N－45°－E
20	B－14・15	〃	1.97× 1.67	1.79× 1.50		0.28	69	石鏃13・やり先・ナイフ3・スクレイパー2・石錐未成品1・石斧片1・石斧7・たたき石2・矢柄研磨器4・石核1・Uフレイク43・フレイク281・抽出原石2	133	○			N－60°－W
			平均 1.56×1.28／1.40×1.11			0.20	計 431	石鏃77・やり先・ナイフ5・石錐3・スクレイパー20・石斧片1・石斧未成品2・石斧35・石斧未成品1・石斧原石1・たたき石4・矢柄研磨器5・石核6・黒石1・抽出原石2・Uフレイク63・フレイク236・礫3・土製品14・石製品53	512				



図Ⅴ－2　土壙集成図

副葬品　遺物の大部分は覆土から出土し，心土破砕による移動，損傷をうけているものが多く，埋葬時の原位置かどうか判断しかねるものもある。しかし，土器片や小型のフレイクを除いてそのほとんどは副葬品と考えられる。覆土中および墳口に副葬する状況はママチ遺跡で十分確認されている。

土器　土器は破片の状態で覆土中から出土しているものばかりで，大きなものではP－5の台付鉢形土器の台部のみで，副葬といえるかどうかわからない。

石器　石器は石鏃，石錐，やり先・ナイフ，スクレイパー，石斧，石斧未成品，石斧原石，たたき石，矢柄研磨器，石器未成品，石核，棒状原石，Uフレイク，フレイクと各種あり，墓壙によって組み合わせが異なる。

石鏃　石鏃は77点，無茎の三角形鏃は54点，有茎鏃は14点，不明は9点である。三角形鏃は大型のものが多く，まとまって出土しているP－2の完成品の長さをみると，2.1～4.0cmの幅があるが，平均は3.3cmである。有茎鏃も長さをみると，1.4～4.5cmの幅がある。大型のものは細身の長身鏃である。また，石質をみると，三角形鏃がすべて黒曜石であるのに対し，有茎鏃の大型のものは頁岩が多い。また，出土状況をみると，三角形鏃はP－2のようにまとまって出土するのに対し，有茎の長身鏃はP－20のように間隔をおいて出土している。P－20の長身鏃の茎部にアスファルト状の付着物が残っていることなどから考えて，矢柄が着いていた可能性がある。

石錐　石錐は3点，棒状のものと剥片の一部に刺突部を作出したものの二種類がある。

やり先・ナイフ　やり先・ナイフは5点，すべて両面加工のナイフである。P－11の出土例のように靴形に近いものもある。

スクレイパー　スクレイパーは20点，剥片の片面に加工を施したものが多い。P－1出土の安山岩製のものは，この時期の特徴的なもので，富良野市無頭川（杉浦　1988a）・斜里町内藤（金盛・村井　1981）遺跡などの道東北部の同時期の遺跡で多数出土している。

石斧　石斧は35点，一部欠損しているものもあるが，本来は完形品が副葬されたものであろう。大きく片刃と両刃に分けられ，片刃が多い。片刃のものは大・小様々で，刃部も切刃状から丸味のあるものまで各種ある。おそらく横斧として機能したものと思われる。擦切製とみられるものも数点あるが，大部分は原石の形状を生かし，剥離・敲打整形後，研磨されている。刃部の破損は少なく，片面（後主面側）に使用痕とみやられる縦方向の擦痕がみられるものが多い。石質は緑色泥岩が多く，砂岩と片岩が若干ある。両刃石斧は完形品8点でみると，長さは16.5～24.5cm，平均19.2cm，重さは383.9～980g，平均650.5gと，大型で重量感のあるものが多い。形態は乳棒状に近いが，右側縁（前主面）が平坦になっているという特徴がある。これは着柄を意識した整形と考えられる。全面敲打整形後，刃部を中心に研磨されている。刃部の破損はほとんどなく，刃先（刃縁）がわずかに磨滅している程度で，使用痕も顕著ではない。石質は砂岩が多く，他に緑色泥岩と片麻岩がある。これらの石斧については，包含層の完形品を含めて，稿を改めて検討したいと考えている。

石斧未成品・原石　石斧未成品と原石が各1点ずつある。いずれも石質は緑色泥岩である。

たたき石　たたき石は4点，石質は珪岩と安山岩，敲打痕は原石のほぼ全周にあるものと棒状礫の一端ないし両端にみられるものがある。

矢柄研磨器　矢柄研磨器は5点，うちP－20出土の完形品の2点はセットとして使用されたものと考えられる。また，側面の凹凸が一致することなどから，板状の素材を縦割りにして製作され

たとみられる。石質は溶結凝灰岩で，形状，製作方法，石材など千歳市ママチ遺跡の出土例（㈶北海道埋蔵文化財センター　1987）などと酷似する。 ママチ

石器未成品は2点，いずれも石質は頁岩で，両面に粗い加工が施されている。両側縁は波状を呈し，刃部といえる状況ではない。両面加工のナイフの代用品的なものではないかと考えられる。 石器未成品

石核は6点，石質は黒曜石，原石が角礫のものが2点，円礫のものが3点，棒状のものが1点で，角礫・円礫は赤井川産，棒状は白滝産とみられる。 石核

棒状原石は2点，石核のものを加えると3点出土している。側縁の一部に剥離または擦痕がみられるだけで，大きな加工は施されていない。 棒状原石

Uフレイク，フレイクは278点，不定形の剥片が大部分で，打点側の残っているものをみると，打面は大きく，原石の自然面を利用し，さらに打点に傷のみられるものが多いという特徴がある。 フレイク

土製品は土偶の破片が14点，同一個体とみられる破片が出土し，一部は接合している。この土偶は，埋葬儀礼と関連する可能性があるが，詳細はわからない。 土偶

石製品は53点，垂飾が3点，玉が50点である。垂飾2点と玉50点は丁寧な加工が施されたかんらん岩・滑石製のもので，垂飾1点は砂岩製で加工の痕跡は明瞭でない。 石製品

以上，墓壙や副葬品の特徴を整理したが，その状況は道央部では千歳市ママチ（㈶北海道埋蔵文化財センター　1987）・梅川3（大谷・田村　1986）遺跡，道北部では東神楽町沢田の沢遺跡（斉藤　1981）などの土壙墓と類似している。おそらく，これらの土壙墓の様子は道央から道北にかけての縄文時代晩期後葉の墓制の一つとして把えられ，続縄文時代へつながっていくものと考えられる。 ママチ　梅川3　沢田の沢

Ⅱ群土壙　壺形土器が出土しており，P－8ではほぼ完形のものが斜めの状態でみられた。さらに，土器内部には大型の白滝産の黒曜石が5点意識的に入れられていた。 白滝産黒曜石

壺形土器が小型の土壙から出土している例は，千歳市美沢1（北海道教育委員会　1978）・梅川3（大谷・田村　1986）遺跡，三石町旭町1遺跡（㈶北海道埋蔵文化財センター　1981）などがあり，さらに単独出土としては馬追丘陵発見の4例（野村　1967・1980）などがある。これらの壺形土器は大洞A～A′の時期で，その性格は壺棺（野村　1967・1980），祭祀遺構（㈶北海道文化財センター　1981）などが考えられているが，いずれも決定的な状況証拠や分析結果は得られていない。 美沢1　梅川3・旭町1　馬追丘陵　壺棺

以上のことから，完形に近い壺形土器の土壙からの出土や単独の発見などは，日常生活に係わるものというより，特殊な性格が考えられ，壺棺，祭祀遺構などが想定できる。また，P－8のように意識的に遺物を入れる状況から，埋納という可能性も考えられる。P－8の土器内の大型フレイクが，副葬品なのか埋納されてそのまま放置されたものなのかは，現時点では判断できない。現在，土器内外の土壌の残存脂肪酸分析を行っているので，判断の参考になるのではないかと思われる。また，P－8以外のⅡ群土壙のように破片で出土しているケースも注意し，類例を増やして検討する必要がある。 埋納　脂肪酸分析

Ⅲ群土壙　礫がまとまって出土している土壙は縄文時代～続縄文時代の各時期にみられ，その性格もバラエティーに富んでいる可能性がある。土壙の状況や礫の数・大きさ・出土状況・受熱の有無などを細かく比較検討しなければならない。したがって当遺跡の場合も一括して考えることはできないかもしれないが，いくつかの特徴は指摘できる。土壙の形状

は円形に近く，礫は覆土中からの出土が多く，礫以外の遺物は非常に少い。また，覆土は人為的な埋め戻しの痕跡が認められるものが，ほとんどない。礫の大部分は安山岩の角礫で，加工は全くない。さらに受熱のみられるものは，ほんの一部にすぎない。

以上のことから，当遺跡のⅢ群土壙は，墓や蒸し焼き用のピットなどの可能性は薄いと考えられる。しかし具体的にその性格を示すことは困難である。

3　Ⅱ群（縄文時代晩期）土器

本遺跡から出土した土器の諸特徴についてはすでに述べたとおりである。中・後期の土器は出土点数が少ないので，ここでは晩期の各類における特色と，編年的位置について述べる（図Ⅴ－3）。

Ⅱ群1類　道南系（a）の特色は浅い沈線と縦位縄文である。このうち深鉢形土器はやや古くなる可能性がある。鉢形土器は細い沈線がみられ，太い沈線の連続施文はP－4出土の壺形土器（図Ⅲ－39－1）にみられ，これには爪形文（ヘラ状工具）が認められる。

爪形文

道央系（b）はこれよりやや広く深い指頭幅沈線を施文する深鉢形土器（図Ⅲ－69－68・69）に同種の爪形文様が認められる。条痕文は深鉢・鉢形土器に認められ，縦位の短沈線，刺突文，貼付隆帯，指頭幅沈線，蛇行沈線などが施文される。浅鉢形土器における縄線文は短沈線によって細かく区切られないものをまとめた。これらの突起部は肥厚するが他の口縁部はあまり肥厚しない。2類の短沈線で区切られるものも，これらと重複する可能性がある。しかし，短沈線を施文するものは突起部以外の口縁が山形に肥厚する特色があり区別出来る。壺形土器は平縁で，壺受状の張り出しが特徴的である。また図Ⅲ－76－280のB状突起は口縁外面文様帯（口外帯）にあり，これと相合するのが図Ⅲ－71－102の鉢形土器で，この時期の決め手になると思われる。

Ⅱ群2類　道南系（a）・道央系（b）とも地文は斜行縄文が主体である。

道南系（a）の沈線は深いものとなり，明らかにヘラ状工具のものが多い。口縁内側の断面形が山形に肥厚するものが多く，それは浅鉢において顕著である。深鉢形土器の貼瘤には中央を竹管状工具で器面に対し垂直に刺突したものがある。壺形土器において多く認められる突起下位の三叉文が他の器種にも認められ，異形突起部下位にも付される。

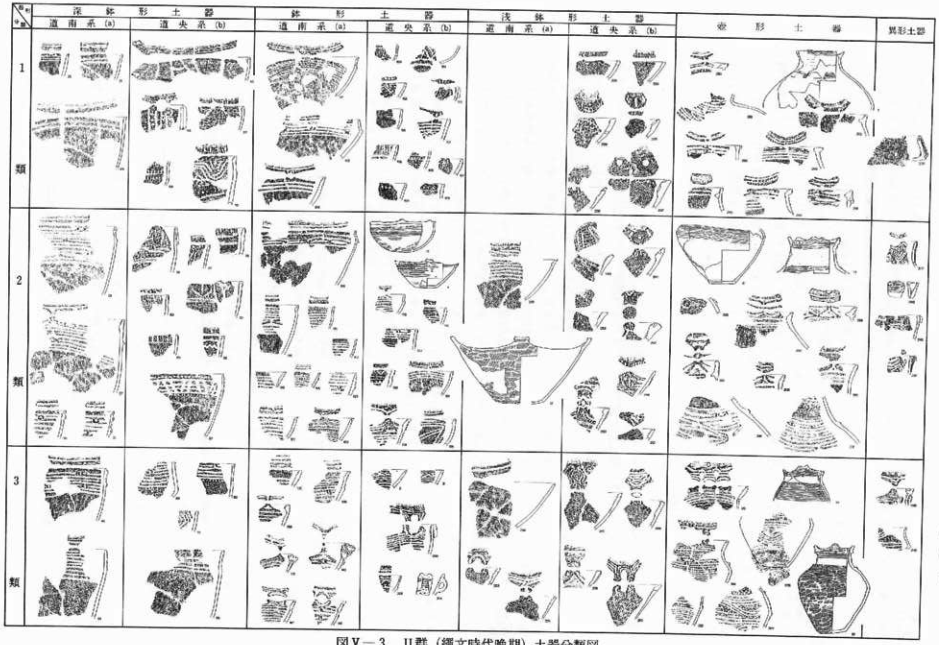
三叉文

道央系（b）は深鉢形土器において口唇の断面形が細い尖頭形になるもの（図Ⅲ－69－74）がみられる。この形態はⅢ類bの深鉢形土器や浅鉢形土器の一部に引き継がれる。図Ⅲ－69－74の深鉢形土器などに施される指頭幅沈線はP－14出土の鉢形土器（図Ⅲ－58－19）にも認められる。深鉢形土器の縦位の短沈線は格子状や鋸歯状へと変わり，鉢形土器などにも認められる。鉢形土器の沈線間は横の刺突と押圧とがある。浅鉢形土器においては縄線文とボタン状貼付が認められ，これは壺形土器（図Ⅲ－79－295・296）にも付される。また浅鉢形土器（図Ⅲ－77－258）の外面に付されるものもある。この時期は図Ⅲ－67－240深鉢・図Ⅲ－71－114の鉢・P－6出土図Ⅲ－39－6の壺形土器などが決め手となる。

Ⅱ群3類　口唇の断面形が丸味のある尖頭形や角形が多く，厚手となるものが多い。口縁の内側は肥厚せず平らなものが多い。壺形土器においては山形突起部の文様が平行沈線を主体とする。図Ⅲ－78－279の浅鉢・図Ⅲ－74－200の鉢形土器は内面文様が似ており，P－14では図Ⅲ－78－265・279の浅鉢形土器と同様のものが共伴している。

聖山

これらの諸特徴から他遺跡と対比させると，1類のうちaは七飯町聖山遺跡（芹沢　1979）



図V－3　II群（縄文時代晩期）土器分類図

駒里・湯の里5　豊栄・志美　湯の里6　タンネトウ・志美　尾白内・氷川　大洞A式

に，bは千歳市駒里遺跡下層（石川　1979），2類のうちaは知内町湯の里5遺跡（㈶北海道埋蔵文化財センター　1985），bは追分町豊栄（佐藤　1980），石狩町志美第1遺跡（石橋ほか　1979），3類のうちaは知内町湯の里6遺跡（㈶北海道埋蔵文化財センター　1985），bは長沼町タンネトウ（野村　1977），石狩町志美第1遺跡（石橋ほか　1979）などに類例が認められる。なお，それぞれの時期の前後が重複していることはいうまでもない。3類以降は道南系（a）は森町尾白内遺跡（千代ほか　1981），道央系（b）は新冠町氷川遺跡（愛下ほか　1975）の出土例にそれぞれつながるものと思われる。また，1類～3類の時期を東北北部の編年に対比されると，1類は大洞C_2式末～A式初頭に，2類は大洞A式中頃，3類は大洞A式後半からA′式にかかるぐらいと思われ，栄町5遺跡の場合，大洞A式相当の遺跡と考えるのが妥当であろう。

4　黒曜石の原産地

黒曜石原産地

道内における黒曜石の主要な原産地は，白滝，置戸，十勝，赤井川の4ヵ所である。そのうち，当遺跡に最も近い赤井川の原産地は当遺跡の南方約20km，明治鉱山付近・土木沢上流といわれている（近堂　1985）。したがって，当遺跡出土の黒曜石の石器の大部分も赤井川産の原石を利用していると考えるのが自然である。しかし，出土遺物を観察すると，フレイク類には赤井川産が多いものの，石器類については白滝産と思われるものが意外に多いという状況であった。このことは同時期の千歳市のママチ（㈶北海道埋蔵文化財センター　1987）・美々2（㈶北海道埋蔵文化財センター　1986）・梅川3（大谷・田村　1986）遺跡の調査と黒曜石の原産地分析（蒿科・東村　1986a・b 1987）などから予想されることであった。上記の3遺跡の分析は任意に抽出した100点の石器について行ったのみで，大まかな傾向や特殊な棒状原石の産地などは把えることができたが，全体の状況の把握にまではいたらなかった。理化学的な分析では試料の数などに限界があり，さらに破壊しなければならない場合もある。したがって，今回はまず肉眼的な分類を行い，次に各グループについて数点づつフィッション・トラック法による産地同定を実施した（Ⅳ2(1)参照）。

ママチ　美々2・梅川3　棒状原石

産地同定を行った30点の資料（図Ⅴ－4）の観察は表Ⅴ－2のとおりである。肉眼的な分類は原石の形状・風化面の特徴，流理構造・流紋岩の状況，色調，透明感などを比較して行った。それぞれの多少や強弱は絶対的な基準を設けたわけではなく，相対的な比較に基づくものである。A～Jの10種類に分けた原石の特徴は以下のとおりである。

肉眼的分類　相対的比較

A：角礫，礫面は褐色でザラザラ，黒色に暗赤褐色または暗赤褐色に黒色が縞・網状の模様が混じる，いわゆる花十勝，透明感は弱い。

花十勝

B：角礫，礫面は褐色でザラザラ，黒色に灰色の縞あるいは黒色の雲状の模様，透明感は強いものもある。

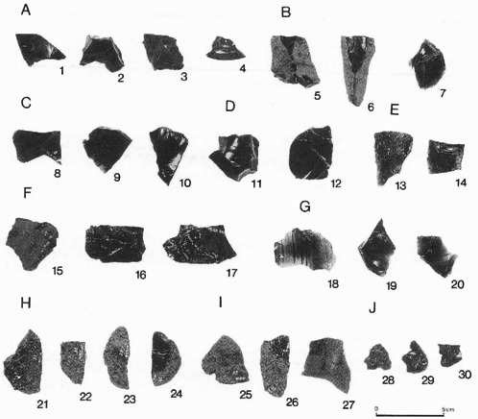
C：角礫，礫面は黒色または灰黒色でザラザラまたは光沢あり，黒色の雲状ないし黒色に灰色の網状の模様，透明感は弱い。

D：角礫？B・Cに比べ縞が少ない，黒色に灰色の網状模様が若干，透明感がない。

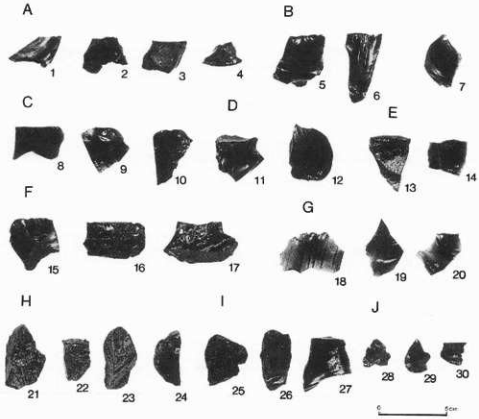
E：角礫？，縞模様はなく全体に流紋岩粒が均一に散らばっている，いわゆる梨はだ，黒色の雲状の模様，透明感は強い。

梨はだ

F：角礫，礫面は少しザラザラ，流紋岩粒は少ない，縞模様はなし，流紋岩粒が点在または偏在，透明感はない。



↑ 表
↓ 裏



図Ⅴ－4　原産地同定黒曜石

表V－2　原産地同定黒曜石観察表

資料No.	分類	原石の状況 円礫	角礫	礫面はか特徴	流理構造の発達、流紋岩の状況 粒 多	粒 少	粒 無	縞 多	縞 少	縞 無	特徴	色調	透明感 強	透明感 弱	透明感 無	グリッド	層位	分析結果
1	A		○	褐色、ザラザラ			○	○			黒色に暗赤褐色の縞模様、花十勝	暗赤褐色まじり黒色		○		H-19	I	白滝I
2	〃		?				○			○	黒色に暗赤褐色の網目状模様、花十勝、No1と類似	〃		○		C-19	〃	〃
3	〃		○				○	○			暗赤褐色に黒色の網目状模様、花十勝	黒色まじり暗赤褐色			○	C-23	II	〃
4	〃		?				○	○			赤褐色に黒色の斑点、白色の網目状模様、花十勝	黒色まじり赤褐色			○	C-14	I	〃
5	B		○	褐色、ザラザラ			○	○			黒色に灰色の縞わずかNo5に近い	黒色		○		G-17	〃	十勝
6	〃		○	〃　〃			○	○			黒色に灰色の縞、No5に近い	〃		○		F-19	〃	白滝I
7	〃		○	〃　〃			○			○	黒色の雲状の模様	〃	○			H-12	〃	十勝
8	C		?				○	○			〃	〃		○		F-20	〃	(蛍)
9	〃		○	黒色、光沢あり				○			〃	〃		○		B-15	〃	白滝I
10	〃		○	灰黒色、ザラザラ			○			○	黒色に灰色の網目状模様わずか	〃			○	F-19	〃	〃
11	D		?				○			○		〃			○	F-22	〃	〃
12	〃		?				○			○	黒色に灰色の網目状模様わずか	〃			○	D-20	〃	(蛍)
13	E		?			○				○	全体に粒が均一に散らばっている、黒色の雲状の模様	〃	○			F-11 (351)	〃	白滝II
14	〃		?			○				○	〃	〃	○			G-15 (470)	II	〃
15	F		○	少しザラザラ		○				○	粒点在	〃			○	F-23	I	(蛍)
16	〃		○	〃		○				○	粒、縞状に偏在、No15より多い	〃			○	H-17	〃	赤井川
17	〃		○	〃		○				○	〃　No16より粒が大きい	〃			○	C-10	〃	〃
18	G		○	光沢あり		○		○			黒色と灰色が縞状	〃	○			F-14	〃	〃
19	〃		○	わずかにザラザラ			○	○			〃	〃	○			B-21	〃	〃
20	〃		○	〃			○	○			〃	〃	○			A-18	〃	〃
21	H		○	〃	○					○	粒全体、部分的に縞状	灰色まじり黒色			○	C-11	〃	〃
22	〃	○		ザラザラ	○					○	〃	〃			○	D-20	〃	〃
23	〃	○		〃	○					○	粒が縞状に偏在	〃			○	F-14	〃	〃
24	I	○		〃		○		○			粒は点在、灰色の細い縞	黒色			○	F-23	〃	〃
25	〃	○		〃		○				○	〃　〃	〃		○		B-14	〃	〃
26	〃	○		〃		○		○			〃　〃	〃		○		F-19	〃	〃
27	〃		○	わずかにザラザラ		○		○			〃　〃	〃		○		C-11	〃	〃
28	J	○		ザラザラ		○				○	黒色と灰黒色の縞	灰黒色			○	G-16	〃	(蛍)
29	〃	○		〃		○				○	〃	〃			○	G-15	〃	〃
30	〃	?				○				○	〃	〃			○	〃	II	〃

G：角礫，礫面は少しザラザラまたは光沢あり，流紋岩粒は少なく，ないものもある，全面縞模様，黒色に灰色の縞模様，透明感は強い。

H：円礫・角礫，礫面はザラザラ，縞模様は少ない，流紋岩粒は全体・部分的に縞状または偏在，透明感はない。

I：円礫・角礫，礫面はザラザラ，流紋岩粒は少ない，縞模様は多い，流紋岩粒は点在，灰色の細い縞模様あり，透明感は弱い。

J：円礫，礫面はザラザラ，流紋岩粒は少ない，縞模様は少ない，黒色に灰黒色の縞模様，色調は灰黒色，透明感はない。

以上の10種類の原産地については，当初A～Eは白滝，F～Iは赤井川，Jは赤井川ないし名寄・旭川という予想をたてた。

分析の結果は，Aは4点すべて白滝I，Bは2点が十勝，1点が白滝I，Cは2点が白滝I，1点は焼けているため不明，Dは1点が白滝I，1点は焼けているため不明，Eは2点とも白滝II，Fは2点が赤井川，1点は焼けているため不明，Gの3点，Hの3点，Iの4点はすべて赤井川，Jの3点はすべて焼けているため不明であった。

予想と異っていたのはBだけで，他は概ね予想通りであった。しかし，原石も場所によって模様や透明感が異なり，さらに石鏃などに加工されると，識別が困難な状況となる。したがって，分析例以外の図示した石器については，A，B－D，E，F－Iの四つのグループに分けた。Aはいわゆる花十勝で白滝I，B－Dは白滝Iが多いが十勝のものもある。Eは梨はだで白滝II，F－Iは赤井川ということになる。四つの分類は一覧表の石質のところにobs. A，obs. B－D，obs. E，obs. F－Iという形で示したが，識別できなかったものも多い。識別できなかったものは，透明感があり，縞ないし雲状の模様のあるもので，B・CまたはGの可能性がある。Gは流紋岩がほとんどなく，白滝産のものに似ている。

花十勝
梨はだ

6基の土壙墓と包含層から出土した黒曜石製の遺物を分類した結果は表Ⅴ－3のとおりである。土壙墓をみると，石器の約半数は白滝・十勝産で，フレイクになると逆に赤井川産が半数近くなる。仮に不明のものがすべて赤井川産と考えると，白滝・十勝産対赤井川産は石器では47対53，フレイクでは25対76となる。いずれも赤井川産が多いが，石器ではほぼ同数である。包含層をみると，白滝・十勝産は赤井川産の2.4倍であるが，不明のものをすべて赤井川産と考えると，割合は逆転し，赤井川産は白滝・十勝産の1.5倍となる。不明なものをどちらに含めるかによって割合が大きく変わるが，赤井川産以外の白滝・十勝産のものがかなりの割合で利用されていることは確かである。また，土壙墓における石器とフレイクの産地の逆転は，分類を行わなかった多くの石器・フレイク類にもみられる傾向である。これは原石または石器・剥片の遺跡への持ち込み方の相違と考えられる。A・E・B－Dについては棒状原石を除いて石核がほとんどみられず，原石・石核とフレイクの大部分がF－Iであることから，白滝・十勝産は石器または剥片の形で，赤井川産は原石の形で遺跡に持ち込まれ，石器製作が行われたといえる。また，赤井川産の原石は白滝・十勝産の原石に比べ小型で，大型の石器，例えば両面加工のナイフなど，を作る素材としての剥片が得られないということも赤井川産の石器が少い理由の一つである。稀に赤井川の大型フレイクがみられるが，それは黒色のガラス質部分より灰色の流紋岩の方が多いもので，石器製作が困難な素材といえる。赤井川産の大型の原石では流紋岩の割合が非常に多

表Ⅴ－3　黒曜石分類集計表

原産地 / 出土場所		A（白滝1）	B－D（白滝1・十勝）	E（白滝3）	F－I（赤井川）	不　明	計
土壙墓	石器	33	10	4	8	45	100
	フレイク	12	11	2	41	35	101
包含層		46	118	0	68	177	409
計		91	139	6	117	257	610

く，小型の角礫や円礫では流紋岩が小さく，含む割合も少いという特徴は，土木沢における原石の採取で確認することができた。

肉眼による黒曜石の原産地の識別作業は，限界もあり，客観性に欠ける点もある。しかし，出土遺物全点の理化学的な分析はまず不可能といえるので，理化学的な分析と連携した肉眼的な識別作業を重ねていく必要がある。そして，確実性の高いものと低いものを識別していくことによって，ある程度の傾向は把えることが可能と考えられる。

成果と課題　今回の作業で，いわゆる花十勝や梨はだの黒曜石は従来の所見どおり白滝産ということが確認できた。また，流紋岩の粒の有無や模様・透明感の相違などを基準に，赤井川産と，白滝・十勝産の識別もある程度は可能となった。しかし，赤井川産でもFなどは流紋岩粒のない部分はB－Dと酷似し，Gなどは透明感が強く，流紋岩粒をほとんど含んでいない。つまり赤井川産のものの中にも白滝や他の産地のものに酷似した良質の原石があることも今後，原産地の識別にあたっては，考慮しなければならない。また，白滝産と十勝産の識別，さらに今回の分析ではみられなかった置戸産の識別も今後の課題である。

5　遺跡の特徴

柴町5遺跡は，旧石器，縄文時代中・後期の遺物がわずかにみられるが，縄文時代晩期後葉，大洞A式の時期の遺跡ということができる。遺構は31基の土壙が発見され，形態・遺物の出土状況の特徴などからⅠ～Ⅳ群の四つのグループに分けられるが，時期はいずれも縄文時代晩期後葉と考えられる。隣接する西崎山ストーンサークル群と関連するものは発見されなかった。

墓　域　6基のⅠ群土壙は土壙墓と考えられることから，遺跡は墓域としての性格をもっていたことが考えられる。壺形土器を出土したⅡ群土壙は，壺棺，祭祀，埋納などの機能が考えられ，土壙墓と関連する可能性がある。礫が出土したⅢ群土壙は，Ⅰ・Ⅱ群とは異なり日常生活に関わるもののようであるが，性格は不明である。

住居跡の存在　住居跡は確認できなかったが，存在していた可能性はある。この時期の住居跡は不定形で掘り込みもしっかりしていないという特徴がある。遺跡は耕作・心土破砕によって上部が全面撹乱されており，住居跡が壊滅してしまった可能性がある。この時期の遺跡で多数発見される焼土や焼獣骨が全く発見されていないのもそのためかもしれない。

タンネトウ・ヌサマイ文化　土壙墓は副葬品などの特徴から，道央から道東北部の同時期の土壙墓と関連性が強く，おそらく亀ヶ岡文化に対比させると「タンネトウL・ヌサマイ文化」とでも呼べる（長沼1987・大沼　1986）在地の文化を荷った人々によって作られたものと考えられる。

在地文化　また，白滝産の黒曜石を多用し，副葬・埋納するのもこの文化の特色で，当遺跡の場合も例外ではない。P－8の壺形土器内から出土した白滝産の大型フレイクはその好例である。

壺形土器の土壙からの出土や単独の発見については，壺棺，祭祀，埋納などの性格が考えられるが，いずれの場合も決定できる十分な状況証拠は得られていない。仮に野村1967・1980のように壺棺の可能性が強いということであれば，それは東北地方における大洞Ａ式にはじまる幼児・胎児を対象とする甕棺葬（林　1965）と無縁ではないであろう。

壺棺葬

そうであれば，在地的な土壙墓と非在地・亀が岡的な壺棺の共存ということになる。つまり，柴町５遺跡は東北地方・道南の亀が岡文化と道東・道北の在地文化の接点である道央地帯の晩期後葉の状況を示す好例といえそうである。いずれにしろ，壺棺については状況証拠の検討や化学的な分析を行い，明確化していく必要がある。

文化の接点

引用・参考文献

愛下　淳・橋本　普・吉沢弘道・田部　淳　1975　『氷川遺跡』　新冠町教育委員会

石川　徹　1979　「駒里遺跡」　「ママチ高台遺跡」　『統千歳遺跡』　千歳市教育委員会

石橋孝夫・清水雅男・藤田　登・田戈雅彦　1979　『SHIBISIUSU Ⅱ　石狩湾新港地域開発区埋蔵文化財発掘調査報告』　石狩町教育委員会

猪木孝男・垣見俊弘　1954　５万分の１地質図幅「小樽西部」　および同説明書　北海道開発庁

大谷敏三・田村俊之　1986　『梅川３遺跡における考古学的調査』　千歳市文化財調査報告書Ⅻ千歳市教育委員会

大沼忠春　1986　「北海道における縄文晩期から続縄文文化への変遷」　『日本考古学協会昭和61年度大会　研究発表要旨』　日本考古学協会

大場利夫・重松和男　1977　「北海道後志支庁余市町西崎山遺跡４区調査報告」　『北海道考古学』　第13輯　北海道考古学会

小樽市教育委員会　1985　『忍路11遺跡』

金盛典夫・村田良介　1981　「第Ⅱ部　内藤遺跡」　『斜里町文化財調査報告Ⅰ－須藤遺跡・内藤遺跡発掘調査報告書－』　斜里町教育委員会

清野謙次　1969　「後志国余市郡余市町谷部字大谷地貝塚」　『日本貝塚の研究』　岩波書店

河野広道　1958a　『先史時代』　『小樽市史』　1

河野広道　1958b　「小樽・余市附近の重要史跡」　『北海道学芸大学考古学研究会連絡紙』８

興水達司・勝井義雄　1986　「１　登別市川上Ｂ遺跡出土の有舌尖頭器の水和層年代」　『川上Ｂ遺跡Ｃ地区』　(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第27集

駒井和愛　1953　「余市附近のストーンサークル，環状列石墓　其他」　『余市』　余市町役場・余市郷土史研究会

駒井和愛　1959　『音江』　慶友社

近堂裕弘　1985　「北海道・東北地域の黒曜石研究」　『考古学ジャーナル』No244　ニュー・サイエンス社

斉藤　傑　1981　『東神楽町沢田の沉遺跡発掘報告』　東神楽町教育委員会

佐々木清一・北川秀男・松野　正・近堂裕弘・佐久間敏雄　1964　「北海道の古土壌」　『第四紀研究』　第３巻第４号　第四紀研究会

佐藤一夫　1980　「北海道勇払郡追分町豊栄１遺跡発掘調査報告書」　『追分町の埋蔵文化財』追分町教育委員会

佐藤利雄　1977　「余市町登川沈域丘陵より出土の石神について」　『北海道考古学』　第13輯北海道考古学会

佐原　真　1977　「石斧論－横斧から縦斧へ－」『考古学論集－慶祝松崎寿和先生六十三歳論文集－』　松崎寿和先生退官記念事業会

杉浦重信　1987　『東麓印郷１・２遺跡』　富良野市文化財調査報告第３輯　富良野市教育委員会

杉浦重信　1988a　『無頭川遺跡』　富良野市文化財調査報告第４輯　富良野市教育委員会

杉浦重信　1988b　「鮭石とチョウザメ」　『季刊考古学』　25　雄山閣出版

須藤　隆　1970　「青森県下北郡大畑町二枚橋出土の土器・石器について」　『考古学雑誌』第50巻

第2号　日本考古学会
芹沢長介編　1979　『神下遺山遺跡』　七飯町教育委員会
千代　肇・三浦孝一・石本省三・長谷部一弘・山田悟郎・西本豊弘　1981　『尾白内一縄文遺跡の調査報告一』　森町教育委員会
長沼　孝　1987　「千歳市ママチ遺跡出土墓壙上発見の縄文晩期の土面」『考古学ジャーナル』№272　ニュー・サイエンス社
名取武光・峰山　巌　1968　「登の土偶とホリカップの土偶」　『北海道の文化』　15　北海道文化財保護協会
西田彰三　1932　「北海道の石器時代」　『北海道郷土史研究』
登郷土誌作成委員会　1986　「登町の先史時代」　『登郷土誌』　余市町登町区会
野村　崇　1967　「馬追丘陵発見の三個の土器」　『北海道考古学会』　第3輯　北海道考古学会
野村　崇　1977　『長沼町幌内タンネトウ遺跡の発掘調査』　空知地方史研究協議会
野村　崇　1980　「馬追丘陵出土の壺形土器」　『考古風土記』　5
林　謙作　1965　「縄文文化の発展と地域性　2東北」　『日本の考古学』Ⅱ　縄文時代　河出書房新社
北海道教育委員会　1978　『美沢川流域の遺跡群Ⅱ』
㈶北海道埋蔵文化財センター　1983 a　『川上B遺跡』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書第13集
㈶北海道埋蔵文化財センター　1983 b　『旭町1遺跡』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書第10集
㈶北海道埋蔵文化財センター　1985　『湯の里遺跡群』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書第18集
㈶北海道埋蔵文化財センター　1986　『美沢川流域の遺跡群Ⅸ』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書第24集
㈶北海道埋蔵文化財センター　1987　『ママチ遺跡Ⅲ』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書第36集
㈶北海道埋蔵文化財センター　1989　『忍路土場遺跡・忍路5遺跡』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書第53集
松下　亘　1973　「北海道余市町大浜中遺跡の遺物一特に一括出土した青磁について一」　『北海道考古学』第9輯　北海道考古学会
峰山　巌・久保武夫　1965　『西崎山』　郷土研究7　余市町教育委員会・余市町郷土研究会
余市町教育研究所編集委員会　1982　「余市の先史文化」　『余市文教発達史』　余市郷土史第3巻
横山英介　1986　「北海道の有舌尖頭器」　『考古学ジャーナル』　№258　ニュー・サイエンス社
藤科哲男・東村武信　1986 a　「第二節　梅川3遺跡出土の黒曜石遺物の原材産地分析」　『梅川3遺跡における考古学的調査』　千歳市文化財調査報告書XII
藤科哲男・東村武信　1986 b　「8　美々2遺跡出土の黒曜石遺物の原材産地分析」　『美沢川流域の遺跡群　Ⅸ』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書第24集
藤科哲男・東村武信　1987　「(2)　ママチ遺跡出土の黒曜石遺物の石材産地分析」　『ママチ遺跡Ⅲ』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書第36集

表1　土壙一覧

遺構	発掘区	平面形	規模(m) 開口面	規模(m) 底面	深さ	出土遺物 上層	出土遺物 石器等	出土遺物 計	分類
P－1	F-21	楕円形	1.44 × 1.03	1.34 × 0.97	0.20	32	石錐3、石鏃1、スクレイパー13、石斧3、剥離石1、たたき石1、石核1、U字フレイク10、フレイク115、剥1、石製品1	162	I
2	H-17	〃	1.59 × 1.35	1.20 × 0.97	0.36	297	石錐49、やり先・ナイフ7、石鏃2、スクレイパー4、石斧1、矢柄研磨棒1、石核2、U字フレイク105、フレイク985、先製品13	117	〃
3	G-14	〃	1.52 × 1.37	1.47 × 1.32	0.08	0	石斧1、フレイク1、石製品2	4	〃
4	J-13	〃	0.74 × 0.54	0.62 × 0.42	0.13	196	石鏃1、石核1、剥1	3	II
5	H-17	〃	1.43 × 0.97	1.30 × 0.78	0.10	27	石錐2、スクレイパー1、石製品2、U字2、たたき石1、石核2、原石1、U字フレイク3、フレイク8、剥2	21	I
6	G-17	〃	0.80 × 0.71	0.68 × 0.58	0.18	83	フレイク3、剥15	18	II
7	G-23	〃	0.59 × 0.44	0.32 × 0.34	0.28	11	フレイク1	1	〃
8	C-25	〃	0.49 × 0.38	0.20 × 0.13	0.18	5	フレイク8、剥2	10	〃
9	G-24	〃	0.98 × 0.86	0.85 × 0.71	0.31	0	石錐1、剥剥石器1、剥10	12	III
10	B-20	〃	1.24 × 1.10	1.19 × 1.03	0.26	45	フレイク11、剥4	15	IV
11	H-17	〃	1.45 ×(0.62)	1.32 ×(0.57)	0.18	6	石錐3、やり先・ナイフ1、石斧8、石製品1、フレイク3、上製品1、石製品50	75	I
12	F-24	円形	(0.71)× 0.65	(0.55)× 0.50	0.19	203	スクレイパー1、Uフレイク2、フレイク24、剥7	34	IV
13	A-18	楕円形	0.83 × 0.62	0.54 × 0.41	0.12	3	スクレイパー1、たたき石1、フレイク7、剥13	22	III
14	G-15	〃	1.22 × 0.99	0.86 × 0.55	0.35	168	石錐10、スクレイパー3、石斧1、剥剥1、U字フレイク3、フレイク16、剥11	43	IV
15	E-3	円形	0.77 × 0.71	0.58 × 0.60	0.21	1	剥2	2	〃
16	I-7-8	楕円形	(1.00)× 0.99	0.82 × 0.74	0.40	143	スクレイパー1、石斧1、Uフレイク5、フレイク21、原石1、剥14	43	〃
17	I-8-10 I-9-10	円形	1.20 × 1.09	1.01 × 0.88	0.50	19	石錐5、フレイク15、剥14	33	III
18	I-8	楕円形	1.82 × 1.40	1.50 × 1.02	0.35	34	スクレイパー1、フレイク15、剥28	44	IV
19	F-3・4	円形	1.00 × 0.99	0.71 × 0.67	0.59	0	剥12	12	III
20	B-14-15	楕円形	1.97 × 1.67	1.79 × 1.50	0.28	69	石錐13、やり先・ナイフ3、石斧剥成品1、石斧1、たたき石4、剥剥原料4、石核1、Uフレイク42、フレイク55、剥原料12	133	I
21	C-14	〃	1.12 × 0.76	1.01 × 0.63	0.16	98	石斧1、剥剥1、フレイク13、剥18	33	IV
22	C-14	〃	0.79 × 0.56	0.65 × 0.43	0.14	166	フレイク14、剥1	15	〃
23	C-14 D-14	楕円形	1.12 × 1.00	1.00 × 0.86	0.38	1	フレイク1、剥3	4	III
24	E-3	円形	0.97 × 0.89	0.72 × 0.62	0.24	0	剥石1、剥17	18	〃
25	D-13	〃	0.66 × 0.65	0.57 × 0.54	0.13	8	石錐1、石斧1、フレイク8、剥21	31	〃
26	B-13	不整形	1.32 × 0.71	1.13 × 0.57	0.25	25	石核2、原石2、Uフレイク2、フレイク28、剥20	54	IV
27	F-10	円形	0.44 × 0.42	0.38 × 0.36	0.18	18	矢柄研磨器1	1	〃
28	C-15	不整形	1.11 ×(0.99)	0.98 × 0.71	0.22	9	スクレイパー1、たたき石1、剥4	6	〃
29	D-15	〃	1.73 × 1.42	1.52 × 1.13	0.40	10	スクレイパー1、フレイク4、剥7	12	〃
30	C-14	円形	1.05 × 0.97	0.98 × 0.92	0.22	13	石錐14、フレイク2、剥10	26	〃
31	C-20 D-20	〃	1.34 × 1.30	0.90 × 1.01	0.19	6	剥8	8	〃

表2　土壙掲載実測土器一覧

※検合状況(　)内は点数

掲載	図版	番号	遺構	器種	大きさ(cm) 器高	口径	底径	最大径	分類	検合破片数	検合状況	備考
II－20	27	1	P－5	台付鉢	(4.4)	－	9.3	9.3	II 1 a	1	No. 8	
II－39	〃	1	P－4	壺	(18.9)	15.2	－	35.0	II 1	49	No. 1, 3, 4, 5, 8, 9, 10, 19, 21, 24, 26, 27, 28, 29, 41, 36, 40, 47, 48, 49, 84, 85, 86	
〃	〃	4	P－8	鉢	9.2	20.4	7.3	20.4	II 2 b	16	No.15, 23, 34, 25, 26, 29, 42	
〃		5	〃	深鉢	(14.1)	－	10.0	(24.1)	II 2	10	No.27, 34, 37, 38, 43	
〃	27	6	〃	壺	(18.7)	－	8.5	28.7	〃	34	No.17, 19, 20, 21, 31, 32, 33	
II－40	〃	9	P－7	〃	(17.0)	－	－	31.2	II 1	10	No.1、2、4、8	
〃	〃	10	P－8	〃	29.1	13.2	8.4	23.5	II 3	2		
II－57	37	3	P－12	深鉢	(18.6)	43.3	－	43.3	II 2 a	20	No.ナシ (20)	
II－58	28	18	P－14	鉢	(11.0)	20.0	－	20.0	II 3 a	9	No7(23), 75(6), 76	
〃	〃	19	〃	浅鉢	10.5	21.0	4.0	21.0	II 2 b	20	No. 9(3), 10(2), 11(6), 12(7), 13(2)	
〃	〃	20	〃	〃	(6.5)	15.5	4.8	15.5	〃	14	No.23(5), 59, 60, 9(15), No.ナシ(2)	
II－60		61	P－21	深鉢	(10.3)	－	8.2	－	II 2	22	No.16, 17, 18(2), 19(4), 21, 22(3), 23, No ナシ(9)	
II－61	28	64	P－22	〃	(34.2)	33.8	－	33.8	II 2 b	60	No 2－9, 11, 13, 14, 16, 18－21, 23－28, 30, 35, 45, 48, 53－55, 59, 62, 65－76, 78－84, No.ナシ(5), 85－91(14)(特定)	

表3　土壙掲載拓本土器一覧

掲載	図版	番号	遺構	器種	分類	層位	備考	掲載	図版	番号	遺構	器種	分類	層位	備考	掲載	図版	番号	遺構	器種	分類	層位	備考
II－4	29	1	P－1	壺	II 3 b	黒土	No.45	II－12	31	5	P－2	鉢	II 3 a	黒土		II－2	31	10	P－2	鉢	II 3 b	黒土	
II－12	31	1	P－2	鉢	II 1 b	〃		〃	〃	6	〃	〃	〃	〃	No.174	〃	〃	11	〃	〃	〃	〃	No.171
〃	〃	2	〃	〃	II 2 a	〃	No.151	〃	〃	7	〃	壺	II 3	〃	No.177	〃	〃	12	〃	〃	〃	〃	No.83
〃	〃	3	〃	〃	II 3 a	〃		〃	〃	8	〃	鉢	II 3 b	〃	No.77	II－20	32-3	2	P－5	〃	II 1 b	〃	No.11
〃	〃	4	〃	〃	〃	〃	No.76	〃	〃	9	〃	〃	〃	〃		II－30	34-2	1	P－20	浅鉢	〃	〃	

神話	図版	番号	遺構	器種	分類	層位	備考
Ⅱ-38	34	2	2	P-20	浅鉢	Ⅱ2b	覆土
〃	〃	3	〃	鉢	Ⅱ3a	〃	
Ⅱ-39	36-2	7	P-6	深鉢	Ⅱ2	〃	No.36
Ⅱ-57	36-4	1	P-10	〃	Ⅱ2a	〃	No.26.29
〃	〃	2	〃	壺	Ⅱ2	〃	No.16
〃	37	4	P-12	深鉢	Ⅱ2a	〃	
〃	〃	5	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	6	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	7	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	8	〃	〃	Ⅱ2b	〃	
〃	〃	9	〃	鉢	〃	〃	
〃	〃	10	〃	壺	Ⅱ2	〃	

神話	図版	番号	遺構	器種	分類	層位	備考
Ⅱ-57	37	11	P-12	壺	Ⅱ2	覆土	
〃	〃	12	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	13	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	14	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	15	〃	〃	〃	〃	
Ⅱ-58	〃	21	P-14	深鉢	Ⅱ1b	〃	No.67
〃	〃	22	〃	浅鉢	Ⅱ3b	〃	No.35.94
〃	〃	23	〃	〃	〃	〃	No.49
〃	〃	24	〃	〃	〃	〃	No.30.37 41.42
〃	〃	25	〃	〃	〃	〃	No.84
〃	〃	26	〃	壺	Ⅱ3	〃	No.3.5 (139.140)

神話	図版	番号	遺構	器種	分類	層位	備考
Ⅱ-60	38	45	P-16	鉢	Ⅱ2a	覆土	
〃	〃	46	〃	〃	Ⅱ3a	〃	
〃	〃	47	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	48	〃	壺	Ⅱ3	〃	7-(3) No.7.140
〃	〃	57	P-18	深鉢	Ⅱ1b	〃	No.31
〃	〃	58	〃	壺	Ⅱ2	〃	No.24
〃	〃	62	P-21	〃	〃	〃	No.22.25.26 (200.201)
Ⅱ-61	〃	65	P-22	深鉢	Ⅱ2b	〃	No.37
〃	〃	71	P-27	壺	Ⅱ1	〃	No 4
〃	〃	73	P-28	深鉢	Ⅱ2b	〃	No. 1

表4　土壙掲載石器一覧

神話	図版	番号	遺構	名称	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
Ⅱ-4	29	2	P-1	石鏃	覆2	3.2 × 1.3 × 0.3	1.0	Obs.A	No54
〃	〃	3	〃	〃	〃	3.6 × 1.5 × 0.3	1.5	〃	No49
〃	〃	4	〃	〃	〃	(1.8)×(1.6)× 0.4	(1.2)	〃 A	No42
〃	〃	5	〃	〃	〃	(1.7)×(1.2)×(0.3)	(0.8)	〃 A	No48
〃	〃	6	〃	〃	〃	3.6 × 1.2 × 0.4	1.2	〃 F-1	No53
〃	〃	7	〃	石鏃	〃	4.3 × 3.0 × 1.0	9.6	〃	No62
〃	〃	8	〃	スクレイパー	〃	3.2 × 3.0 × 0.5	4.9	〃 A	No68
〃	〃	9	〃	〃	〃	6.9 × 3.5 × 1.7	28.4	〃 F-1	No106.108
〃	〃	10	〃	〃	〃	4.6 × 2.9 × 1.3	10.3	〃 A	No74
〃	〃	11	〃	〃	〃	4.0 × 3.7 × 1.3	11.6	〃 B-D	No114
〃	〃	12	〃	〃	〃	4.0 × 4.0 × 1.0	14.2	〃 B-D	No93
〃	〃	13	〃	〃	〃	5.2 × 4.9 × 1.2	22.4	〃 A	No84
〃	〃	14	〃	〃	〃	2.4 × 2.3 × 0.4	2.2	〃	No15
〃	〃	15	〃	〃	〃	3.7 × 2.7 × 0.6	4.7	〃 A	No115
〃	〃	16	〃	〃	〃	1.5 × 1.8 × 0.5	0.9	〃 A	No97
〃	〃	17	〃	〃	〃	9.7 × 3.6 × 1.5	37.9	Sh.	No71
〃	〃	18	〃	〃	〃	10.4 × 8.0 × 2.5	167.2	And.	
〃	〃	19	〃	〃	〃	7.4 × 8.1 × 1.7	168.9	〃	
Ⅱ-5	〃	20	〃	Ⅱフレイク	〃	3.1 × 2.1 × 0.5	3.4	Obs.A	No23
〃	〃	21	〃	〃	〃	2.4 × 2.0 × 0.5	2.6	〃	No100
〃	〃	22	〃	〃	〃	2.3 × 2.4 × 0.5	2.6	〃 A	No29
〃	〃	23	〃	〃	〃	(2.1)× 2.2 × 0.5	(1.9)	〃	No96
〃	〃	24	〃	〃	〃	3.6 × 3.6 × 1.1	10.6	〃 A	No70
〃	〃	25	〃	〃	〃	3.0 × 3.3 × 0.6	5.7	〃	No115
〃	〃	26	〃	〃	〃	4.3 × 3.0 × 0.6	8.4	〃 A	No13
〃	〃	27	〃	〃	〃	4.2 × 3.2 × 0.7	7.0	〃 A	No110
〃	〃	28	〃	〃	〃	4.2 × 4.3 × 0.9	12.2	〃 B-D	No98
〃	〃	29	〃	フレイク	〃	3.5 × 3.4 × 0.9	8.6	〃 A	No95
〃	〃	30	〃	〃	〃	3.6 × 4.8 × 1.1	15.1	〃 F-1	No92
〃	〃	31	〃	〃	〃	2.8 × 4.6 × 1.0	9.0	〃	No98
〃	〃	32	〃	〃	〃	5.5 × 6.8 × 1.3	40.5	〃 F-1	No66
〃	〃	33	〃	〃	〃	4.5 × 5.6 × 1.2	27.4	〃 F-1	No85
〃	〃	34	〃	〃	〃	6.4 × 4.0 × 1.0	35.0	〃 F-1	No112
〃	〃	35	〃	〃	〃	5.4 × 4.3 × 1.5	30.2	〃 B-D	No84
〃	〃	36	〃	〃	〃	5.0 × 2.9 × 0.9	8.2	〃 F-1	No61.103
〃	〃	37	〃	〃	〃	1.5 × 2.3 × 0.4	1.9	〃	No111
〃	〃	38	〃	〃	〃	2.9 × 2.3 × 0.6	3.2	〃 F-1	No35
〃	〃	39	〃	〃	〃	2.6 × 4.1 × 0.6	6.3	〃	No104
〃	〃	40	〃	〃	〃	3.4 × 2.2 × 0.7	3.2	〃 F-1	No102
〃	〃	41	〃	〃	〃	3.9 × 2.5 × 0.6	6.2	〃 F-1	No38
〃	〃	42	〃	〃	〃	3.8 × 2.9 × 0.7	7.3	〃 F-1	No80
〃	〃	43	〃	〃	〃	3.7 × 2.5 × 0.7	4.8	〃 F-1	No25

神話	図版	番号	遺構	名称	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
Ⅱ-5	29	44	P-1	フレイク	覆2	3.5 × 3.5 × 0.7	8.2	Obs.F-1	No33
〃	〃	45	〃	〃	〃	4.4 × 2.4 × 1.3	10.2	〃 F-1	No57
〃	〃	46	〃	〃	〃	3.3 × 3.4 × 0.6	5.2	〃 F-1	No28
〃	〃	47	〃	〃	〃	4.2 × 3.8 × 0.3	2.9	〃 A	No25.56.63
〃	〃	48	〃	〃	〃	3.7 × 3.5 × 0.4	3.7	〃	No76
〃	〃	49	〃	〃	〃	3.3 × 3.9 × 0.4	4.7	〃 F-1	No94
〃	〃	50	〃	〃	〃	3.8 × 5.4 × 1.0	17.0	And.	
〃	〃	51	〃	〃	〃	5.4 × 3.8 × 1.7	32.4	Obs.F-1	No65
〃	〃	52	〃	〃	〃	4.2 × 3.9 × 1.0	14.6	〃 F-1	No51
〃	〃	53	〃	〃	〃	3.7 × 3.1 × 0.8	11.7	〃 F-1	No77
〃	〃	54	〃	〃	〃	4.7 × 3.7 × 1.4	25.3	〃 F-1	No41
〃	〃	55	〃	〃	〃	7.0 × 4.7 × 1.5	43.9	〃 F-1	No60.105
〃	〃	56	〃	〃	〃	5.4 × 6.2 × 1.2	30.6	〃 F-1	No4 11.19.69
〃	〃	57	〃	〃	〃	3.8 × 2.6 × 0.4	4.8	〃 F-1	No109
〃	〃	58	〃	〃	〃	4.3 × 1.6 × 0.4	3.2	〃	No21
〃	〃	59	〃	〃	〃	3.5 × 1.9 × 0.4	2.2	And.	No101
〃	〃	60	〃	〃	〃	3.6 × 3.5 × 0.5	7.1	Obs.A	No72
〃	〃	61	〃	〃	〃	4.7 × 2.3 × 0.9	11.4	〃 F-1	No75
〃	〃	62	〃	〃	〃	5.0 × 3.7 × 0.5	11.0	〃 F-1	No79.83
〃	〃	63	〃	〃	〃	2.4 × 3.8 × 0.3	3.3	〃	No69
〃	〃	64	〃	〃	〃	3.9 × 3.1 × 0.4	5.2	〃 A	No73
〃	〃	65	〃	〃	〃	4.8 × 7.5 × 1.4	35.6	〃 F-1	No10.116
〃	〃	66	〃	〃	〃	6.5 × 5.2 × 1.9	51.2	〃 F-1	No82.85
〃	〃	67	〃	〃	〃	5.0 × 4.1 × 0.9	18.4	〃 F-1	No27.68.81
〃	〃	68	〃	石核	〃	6.7 × 6.6 × 5.2	180.5	〃 F-1	No87
Ⅱ-7	30	69	〃	石斧	〃	6.8 × 2.5 × 0.9	28.4	Gr-Mscf.	
〃	〃	70	〃	〃	〃	9.1 × 2.8 × 1.4	63.7	〃	
〃	〃	71	〃	〃	〃	7.3 × 4.7 × 1.1	68.3	〃	
〃	〃	72	〃	〃	〃	(9.0)× 3.9 × 2.2	(152.2)	〃	No47.55
〃	〃	73	〃	〃	〃	(8.3)× 3.4 × 1.2	(43.9)	Sch.	
〃	〃	74	〃	〃	〃	18.8 × 4.6 × 2.6	348.8	Gr-Mscf.	
〃	〃	75	〃	〃	〃	(12.2)× 4.1 × 3.7	(372.6)	Sa.	
Ⅱ-8	〃	76	〃	〃	〃	18.7 × 5.0 × 3.8	380.0	〃	No46
〃	〃	77	〃	〃	〃	16.5 × 5.0 × 3.8	530.0	Gmt.	
Ⅱ-9	〃	78	〃	石斧破片	〃	19.1 × 8.3 × 4.9	1258.0	Gr-Mscf.	No52
〃	〃	79	〃	たたき石	〃	5.3 × 5.4 × 5.3	217.9	Qua.	No50
〃	〃	80	〃	乗石台	〃	3.6 × 2.6 × 0.6	6.8	Sa.	No51
Ⅱ-10	31	13	P-2	石鏃	覆土	(2.5)× 1.3 × 0.3	(1.1)	Obs.	①
〃	〃	14	〃	〃	〃	3.1 × 1.3 × 0.4	1.3	〃	②
〃	〃	15	〃	〃	〃	3.2 × 1.3 × 0.3	1.1	〃	No98
〃	〃	16	〃	〃	〃	3.2 × 1.3 × 0.4	1.2	〃	No65
〃	〃	17	〃	〃	〃	3.1 × 1.4 × 0.3	1.1	〃	No149

検出	図版	番号	遺構	名称	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考	検出	図版	番号	遺構	名称	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
E2-12	31	38	P-2	石鏃	覆土	3.4 × 1.2 × 0.3	1.2	Obs.		E2-34	31	76	P-2	Uフレイク	覆土	3.0 × 2.6 × 0.5	2.9	Obs.E	No.188
〃	〃	19	〃	〃	〃	3.6 × 1.7 × 0.3	1.2	〃	No.153	〃	〃	77	〃	〃	〃	5.6 × 2.3 × 0.4	6.4	And.	No.32
〃	〃	20	〃	〃	〃	(3.3)× 1.4 × 0.4	(1.5)	〃	No.12	〃	〃	78	〃	〃	〃	4.3 × 2.2 × 0.7	5.1	Obs.	No.111
〃	〃	21	〃	〃	〃	(2.6)× 1.5 × 0.3	(0.9)	〃 A	No.90	〃	〃	79	〃	フレイク	〃	2.3 × 2.8 × 0.6	3.0	〃	No.195
〃	〃	22	〃	〃	〃	(3.4)× 1.5 × 0.3	(1.3)	〃 A	No.146	〃	〃	80	〃	〃	〃	3.0 × 1.7 × 0.8	3.1	〃	No.138
〃	〃	23	〃	〃	〃	(3.3)×(1.5)× 0.4	(1.8)	〃	No.141	〃	〃	81	〃	〃	〃	3.1 × 3.5 × 0.3	1.9	sh.	No.189
〃	〃	24	〃	〃	〃	2.6 × 1.5 × 0.4	1.1	〃	No.140	〃	〃	82	〃	〃	〃	2.5 × 3.5 × 0.8	6.8	Obs.P-1	No.198
〃	〃	25	〃	〃	〃	2.6 × 1.5 × 0.3	0.9	〃	No.119	〃	〃	83	〃	〃	〃	2.1 × 3.5 × 1.8	13.3	〃 F-1	No.21
〃	〃	26	〃	〃	〃	3.5 × 1.5 × 0.4	1.8	〃	No.145	〃	〃	84	〃	〃	〃	3.8 × 4.8 × 1.4	19.8	〃 B-D	No.19
〃	〃	27	〃	〃	〃	3.3 × 1.5 × 0.3	1.4	〃	No.118	〃	〃	85	〃	Uフレイク	〃	4.7 × 3.7 × 0.6	9.2	〃	No.97
〃	〃	28	〃	〃	〃	3.4 ×(1.4)× 0.3	(1.0)	〃 A	⑦	〃	〃	86	〃	フレイク	〃	11.1 × 9.8 × 1.7	202.6	〃	No.199
〃	〃	29	〃	〃	〃	3.2 × 1.5 × 0.3	1.6	〃	No.128	〃	〃	87	〃	〃	〃	1.8 × 3.4 × 0.8	4.5	〃	No.1
〃	〃	30	〃	〃	〃	3.4 × 1.7 × 0.3	1.7	〃 A	No.129	〃	〃	88	〃	〃	〃	2.8 × 3.6 × 1.1	4.9	Sh.	
〃	〃	31	〃	〃	〃	3.5 × 1.8 × 0.3	1.9	〃 A	No.114	〃	〃	89	〃	〃	〃	3.3 × 3.4 × 0.9	9.2	Obs.E	No.105
〃	〃	32	〃	〃	〃	3.4 × 1.6 × 0.3	1.9	〃 A	No.102	E2-15	32-1	90	〃	石斧	〃	13.7 × 4.2 × 1.2	88.1	Gr.Mud.	No.169 A-15-1
〃	〃	33	〃	〃	〃	3.4 × 1.6 × 0.3	1.8	〃	No.95	〃	〃	91	〃	〃	〃	11.0 × 2.3 × 1.5	67.8	〃	No.147
〃	〃	34	〃	〃	〃	(3.3)× 1.7 × 0.4	(1.9)	〃 A	No.121	〃	〃	92	〃	〃	〃	9.3 × 3.1 × 1.3	71.8	〃	No.28
〃	〃	35	〃	〃	〃	3.6 × 1.7 × 0.3	1.7	〃	No.143	〃	〃	93	〃	〃	〃	8.9 × 3.2 × 0.8	39.2	〃	No.26
〃	〃	36	〃	〃	〃	3.7 × 1.7 × 0.4	2.0	〃 A	⑥	〃	〃	94	〃	〃	〃	13.4 × 5.2 × 2.4	229.1	Sa.	No.200
〃	〃	37	〃	〃	〃	(3.6)× 1.8 × 0.4	(2.1)	〃 A	No.107	〃	〃	95	〃	〃	〃	9.8 × 5.9 × 1.5	113.0	Gr.Mud.	No.160
〃	〃	38	〃	〃	〃	3.9 × 1.8 × 0.3	1.8	〃 A	No.125	〃	〃	96	〃	天狗岩製品	〃	15.9)× 7.0 × 2.6	(85.7)	Wr-Tu	No.142.144
〃	〃	39	〃	〃	〃	4.6 × 1.8 × 0.3	1.8	〃	No.122	E-18	32-2	1	P-3	フレイク	廃棄	(3.3)× 3.5 × 1.2	(13.4)	Obs.E	No.3
〃	〃	40	〃	〃	〃	2.1 × 1.6 × 0.3	0.7	〃	No.91	〃	〃	2	〃	石斧	〃	17.4 × 4.2 × 1.9	176.0	Gr.Mud	No.2
〃	〃	41	〃	〃	〃	2.8 × 1.8 × 0.3	1.4	〃 A	No.117	〃	〃	3	〃	重錘品	〃	2.7 × 1.8 × 1.0	7.1	Per.	No.1
〃	〃	42	〃	〃	〃	2.8 × 1.6 × 0.3	1.5	〃 A	No.175	〃	〃	4	〃	〃	〃	4.3 × 2.1 × 1.4	18.8	Tu.	No.4
〃	〃	43	〃	〃	〃	3.6 × 1.9 × 0.4	1.9	〃	No.106	E-20	32-3	3	P-5	石鏃	覆土	3.5 × 1.5 × 0.3	1.4	Obs.A	
〃	〃	44	〃	〃	〃	3.6 × 1.7 × 0.4	1.8	〃	No.113	〃	〃	4	〃	〃	〃	(2.6)×(1.1)× 0.3	(0.7)	sh.	No.21
〃	〃	45	〃	〃	〃	3.5 × 1.7 × 0.3	1.7	〃	No.87	〃	〃	5	〃	スクレイパー	〃	4.1 × 2.8 × 0.8	9.8	Obs.B-D	No.6
〃	〃	46	〃	〃	〃	3.2 × 1.8 × 0.3	1.9	〃 A	No.27	〃	〃	6	〃	Uフレイク	〃	2.3 × 2.3 × 0.9	4.0	〃 F-4	No.7
〃	〃	47	〃	〃	〃	(3.1)× 1.7 × 0.3	(1.6)	〃 A	No.120	〃	〃	7	〃	石器未成品	〃	14.9 × 5.1 × 3.2	235.4	sh.	No.1
〃	〃	48	〃	〃	〃	3.5 × 1.5 × 0.3	1.9	〃 A	No.115	〃	〃	8	〃	石核	〃	7.3 × 9.5 × 7.3	520.0	Obs.P-1	No.16
〃	〃	49	〃	〃	〃	(3.4)× 1.7 × 0.3	(2.0)	〃 A	No.126	〃	〃	9	〃	〃	〃	18.2 × 5.3 × 4.5	407.1	〃 B-D	No.15
E-13	〃	50	〃	〃	〃	(3.1)× 2.9 × 0.4	(2.0)	〃 A	No.93	E-21	33-1	10	〃	石斧	〃	17.1 × 5.4 × 3.8	540.0	Gr.Mud.	No.0
〃	〃	51	〃	〃	〃	3.5 × 1.7 × 0.3	2.0	〃	No.130	〃	〃	11	〃	〃	〃	17.2 × 4.6 × 2.5	381.9	Sa.	No.4
〃	〃	52	〃	〃	〃	3.6 × 1.8 × 0.3	2.2	〃 A	No.109	〃	〃	12	〃	たたき石	〃	5.3 × 5.7 × 4.3	254.3	Qua.	
〃	〃	53	〃	〃	〃	3.5 × 2.1 × 0.5	3.6	〃 A	No.103	〃	32-3	13	〃	凹石	〃	11.6 ×11.8 × 9.6	487.1	And.	
〃	〃	54	〃	〃	〃	3.9 × 1.9 × 0.5	3.6	〃	No.101	E-24	33-2	1	P-11	石鏃	〃	(2.4)× 1.4 × 0.3	(0.9)	Obs.	No.7
〃	〃	55	〃	〃	〃	3.3 ×(1.5)× 0.3	(1.2)	〃 A	No.202	〃	〃	2	〃	〃	〃	(2.9)× 1.5 × 0.3	(1.0)	〃	No.5
〃	〃	56	〃	〃	〃	(3.0)× 1.8 × 0.3	(1.8)	〃 A	No.116	〃	〃	3	〃	〃	〃	(3.1)× 1.7 × 0.3	(1.6)	〃 A	No.8
〃	〃	57	〃	〃	〃	(2.0)×(1.2)× 0.2	(0.5)	〃	No.99	〃	〃	4	〃	〃	〃	3.1 × 0.9 × 0.4	0.8	Sh.	No.14
〃	〃	58	〃	〃	〃	(0.9)×(0.9)× 0.3	(0.3)	〃	⑤	〃	〃	5	〃	〃	〃	4.2 × 1.2 × 0.3	1.5	Obs.	No.70
〃	〃	59	〃	〃	〃	(2.3)× 1.8 × 0.3	(1.4)	〃	No.96	〃	〃	6	〃	やや丸ーナイフ	〃	13.2 × 5.1 × 1.2	76.8	〃 B-D	No.10-11 F-2-25
〃	〃	60	〃	〃	〃	(0.9)× 1.4 × 0.3	(0.4)	〃 A	⑤	〃	〃	7	〃	フレイク	〃	2.3 × 2.1 × 0.3	1.2	〃	No.15
〃	〃	61	〃	〃	〃	(2.0)× 1.4 × 0.3	(0.8)	〃	No.81	〃	〃	8	〃	〃	〃	2.0 × 3.0 × 1.1	5.8	〃	No.8
〃	〃	62	石鏃	〃	〃	5.2 × 0.8 × 0.7	4.5	Sh.	No.194	〃	〃	9	〃	石斧	〃	9.1 × 2.2 × 1.9	36.8	Gr.Mud.	No.13
〃	〃	63	〃	〃	〃	3.0 × 2.3 × 0.8	4.2	Qua.	No.139	〃	〃	10	〃	〃	〃	12.2 × 5.9 × 1.9	242.5	〃	No.2
〃	〃	64	スクレイパー	〃	〃	7.0 × 4.1 × 1.4	39.0	Sh.	No.134	〃	〃	11	〃	〃	〃	12.8 × 5.3 × 1.5	152.6	〃	No.49
〃	〃	65	〃	〃	〃	2.8 × 1.9 × 0.8	2.6	Obs.	No.168	〃	〃	12	〃	〃	〃	10.3 × 4.7 × 1.2	95.0	〃	No.3
〃	〃	66	〃	〃	〃	13.3 × 7.9 × 2.2	133.3	〃 E	No.87.130.139 137.151.156	E-25	〃	13	〃	〃	〃	12.1 × 3.6 × 1.5	108.0	〃	No.47
〃	〃	67	〃	〃	〃	7.8 × 7.5 × 2.0	67.7	〃 B-D	No.92.100.107 108.127	〃	〃	14	〃	〃	〃	17.5 × 6.7 × 2.3	488.6	〃	No.45
〃	〃	68	石鏃	〃	〃	5.6 × 3.6 × 1.0	24.5	〃 F-1	No.124	〃	〃	15	〃	石斧未成品	〃	(14.9)× 9.5 × 3.0	1540.0	〃	No.1
〃	〃	69	〃	〃	〃	5.8 × 4.3 × 1.3	35.9	〃 F-1	No.86	〃	33-2	16	〃	石斧	〃	(10.0)× 5.7 × 3.1	(285.5)	〃	No.12
〃	〃	70	Uフレイク	〃	〃	2.4 × 4.1 × 0.7	4.6	sh.	No.133	E-26	34-1	17	〃	〃	〃	22.4 × 5.6 × 4.2	900.0	Sa.	No.19
〃	〃	71	〃	〃	〃	2.9 × 4.8 × 0.9	9.1	Obs.A	No.104	〃	〃	18	〃	〃	〃	17.6 × 5.3 × 3.1	450.4	〃	No.48
E-14	〃	72	〃	〃	〃	4.1 × 7.6 × 0.7	24.6	〃 E	No.135	E-27	〃	19	〃	玉	〃	0.8 × 0.8 × 0.4	0.2	Per.	No.20
〃	〃	73	〃	〃	〃	4.4 × 5.5 × 0.5	16.5	〃 E	No.136	〃	〃	20	〃	〃	〃	0.5 × 0.8 × 0.6	0.4	〃	No.24
〃	〃	74	〃	〃	〃	4.5 × 4.4 × 1.2	17.0	sh.	No.88.182	〃	〃	21	〃	〃	〃	0.8 × 0.8 × 0.5	0.3	〃	No.25
〃	〃	75	〃	〃	〃	3.5 × 4.2 × 0.6	8.8	Obs.E	No.112	〃	〃	22	〃	〃	〃	0.8 × 0.8 × 0.3	0.2	〃	No.26

掘区	層位	番号	遺構	名称	材質	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
E-27	34-1	23	P-11	石	燧石	0.8 × 0.8 × 0.5	0.3	Per.	No27
〃	〃	24	〃	〃	〃	0.8 × 0.8 × 0.5	0.4	〃	No28
〃	〃	25	〃	〃	〃	0.9 × 0.9 × 0.5	0.4	〃	No29
〃	〃	26	〃	〃	〃	0.8 × 0.8 × 0.6	0.5	〃	No30
〃	〃	27	〃	〃	〃	0.9 × 0.8 × 0.5	0.4	〃	No31
〃	〃	28	〃	〃	〃	0.9 × 0.9 × 0.6	0.6	〃	No32
〃	〃	29	〃	〃	〃	0.9 × 0.9 × 0.5	0.5	〃	No33
〃	〃	30	〃	〃	〃	0.9 × 0.9 × 0.6	0.4	〃	No43
〃	〃	31	〃	〃	〃	0.9 × 0.9 × 0.4	0.3	〃	No44
〃	〃	32	〃	〃	〃	0.8 × 0.8 × 0.5	0.3	〃	No54
〃	〃	33	〃	〃	〃	0.8 × 0.8 × 0.4	0.2	〃	No57
〃	〃	34	〃	〃	〃	0.8 × 0.8 × 0.4	0.2	〃	No58
〃	〃	35	〃	〃	〃	0.9 × 0.9 × 0.4	0.2	〃	No59
〃	〃	36	〃	〃	〃	0.9 × 0.8 × 0.2	0.3	〃	No60
〃	〃	37	〃	〃	〃	0.9 ×(0.8)× 0.4	(0.2)	〃	No61
〃	〃	38	〃	〃	〃	(0.7)×(0.9)× 0.5	(0.2)	〃	No62
〃	〃	39	〃	〃	〃	0.8 × 0.8 × 0.4	0.2	〃	No69
E-30	34-2	4	P-20	石	鎌	2.4 × 1.3 × 0.3	0.6	Obs.	
〃	〃	5	〃	〃	〃	(1.9)× 1.1 × 0.3	(0.8)	Sh.	
〃	〃	6	〃	〃	〃	1.4 × 0.9 × 0.3	0.3	Obs.	
〃	〃	7	〃	〃	〃	2.2 × 1.1 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	8	〃	〃	〃	2.5 × 0.9 × 0.3	0.5	〃	No9
〃	〃	9	〃	〃	〃	2.5 × 1.2 × 0.5	0.8	〃	
〃	〃	10	〃	〃	〃	(4.0)× 1.2 × 0.5	(1.8)	Sh.	No38
〃	〃	11	〃	〃	〃	(4.5)× 1.2 × 0.3	(1.2)	〃	No35
〃	〃	12	〃	〃	〃	(2.1)× 1.1 × 0.4	(1.0)	〃	No12
〃	〃	13	〃	〃	〃	(2.3)× 1.3 × 0.4	(1.0)	〃	No34
〃	〃	14	〃	〃	〃	(2.3)× 1.3 × 0.5	(1.5)	〃	No27
〃	〃	15	〃	〃	〃	(0.8)× 0.6 × 0.3	(0.1)	〃	
〃	〃	16	〃	〃	〃	(1.1)× 0.8 × 0.3	(0.2)	〃	
〃	〃	17	〃	ヤセ型ナイフ	〃	14.0 × 4.6 × 1.1	77.5	〃 B-D	
〃	〃	18	〃	〃	〃	5.5 × 2.9 × 1.1	17.8	〃 B-D	
〃	〃	19	〃	〃	〃	7.2 × 3.0 × 0.9	17.7	Obs.A	
〃	〃	20	〃	スクレイパー	〃	1.9 × 2.2 × 0.7	2.4	〃 F-1	
〃	〃	21	〃	石器未成品	〃	16.0 × 5.7 × 3.8	351.5	Sh.	
〃	35	22	〃	フレイク	〃	1.7 × 1.7 × 1.5	4.4	Obs.	No10
〃	〃	23	〃	〃	〃	2.8 × 4.0 × 1.1	12.5	〃 F-1	No23
〃	〃	24	〃	Uフレイク	〃	2.8 × 2.0 × 0.4	2.6	〃 F-1	
〃	〃	25	〃	〃	〃	2.5 × 3.0 × 0.7	3.6	〃 A	
〃	〃	26	〃	〃	〃	2.8 × 3.9 × 0.6	4.1	〃 F-1	No28
〃	〃	27	〃	フレイク	〃	2.3 × 3.3 × 0.7	3.9	〃 F-1	No30
〃	〃	28	〃	Uフレイク	〃	3.0 × 3.2 × 0.6	4.5	〃 F-1	
〃	〃	29	〃	〃	〃	4.3 × 2.4 × 0.5	5.6	〃 F-1	
〃	〃	30	〃	〃	〃	3.1 × 2.9 × 0.5	4.3	〃	
〃	〃	31	〃	〃	〃	3.7 × 2.3 × 0.5	4.1	〃	
E-31	〃	32	〃	〃	〃	4.0 × 2.4 × 0.5	3.1	〃	
〃	〃	33	〃	〃	〃	4.7 × 2.9 × 0.6	6.8	〃 F-1	
〃	〃	34	〃	〃	〃	4.3 × 3.0 × 0.4	4.7	〃	
〃	〃	35	〃	〃	〃	4.6 × 3.2 × 2.6	6.9	〃 B-D	No24
〃	〃	36	〃	〃	〃	5.6 × 2.6 × 0.7	9.6	〃 B-D	
〃	〃	37	〃	〃	〃	5.1 × 3.4 × 1.1	13.4	〃	
〃	〃	38	〃	〃	〃	4.7 × 3.4 × 0.4	7.4	〃	
〃	〃	39	〃	〃	〃	5.3 × 3.5 × 0.4	7.4	〃	No1
〃	〃	40	〃	〃	〃	5.7 × 3.7 × 0.8	13.3	〃	
〃	〃	41	〃	〃	〃	5.6 × 4.3 × 0.8	15.5	〃 B-D	
〃	〃	42	〃	〃	〃	5.4 × 4.1 × 1.2	21.8	〃 B-D	
〃	〃	43	〃	〃	〃	5.2 × 2.7 × 0.7	12.8	〃 A	
〃	〃	44	〃	〃	〃	4.0 × 4.5 × 0.8	16.2	〃	

掘区	層位	番号	遺構	名称	材質	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
E-31	35	45	P-20	Uフレイク	頁土	3.5 × 3.9 × 0.5	4.9	Obs.F-1	No22
〃	〃	46	〃	〃	〃	3.5 × 3.6 × 0.4	8.2	〃	
〃	〃	47	〃	〃	〃	3.8 × 3.9 × 1.0	10.9	Sh.	
〃	〃	48	〃	〃	〃	3.7 × 4.1 × 0.6	8.3	Obs.B-D	
〃	〃	49	〃	〃	〃	3.8 × 4.7 × 0.6	8.8	〃	
〃	〃	50	〃	〃	〃	4.3 × 3.5 × 1.1	14.3	〃 F-1	
〃	〃	51	〃	〃	〃	4.6 × 4.5 × 1.3	21.1	〃 B-D	
〃	〃	52	〃	〃	〃	4.7 × 5.1 × 0.8	16.2	Sh.	
〃	〃	53	〃	〃	〃	5.7 × 5.0 × 1.2	23.3	Obs.B-D	
〃	〃	54	〃	〃	〃	5.5 × 7.7 × 1.0	34.0	〃 B-D	No18
〃	〃	55	〃	〃	〃	5.5 × 3.3 × 0.4	5.2	〃	
〃	〃	56	〃	〃	〃	2.8 × 3.5 × 0.3	2.6	〃 F-1	
〃	〃	57	〃	〃	〃	4.0 × 2.7 × 0.6	6.3	〃 F-1	No29
〃	〃	58	〃	〃	〃	4.3 × 3.3 × 0.6	7.6	〃 F-1	
〃	〃	59	〃	〃	〃	4.3 × 2.6 × 0.5	4.7	〃 A	
〃	〃	60	〃	〃	〃	2.5 × 3.2 × 0.4	4.0	〃	
〃	〃	61	〃	〃	〃	2.9 × 2.2 × 0.7	5.0	〃	
〃	〃	62	〃	〃	〃	2.3 × 3.9 × 0.7	6.6	〃	
〃	〃	63	〃	フレイク	〃	2.2 × 1.4 × 0.3	0.9	〃	No8
〃	〃	64	〃	Uフレイク	〃	3.3 × 3.4 × 0.3	4.1	〃	
〃	〃	65	〃	フレイク	〃	3.3 × 2.8 × 0.3	1.7	〃	No31
〃	〃	66	〃	〃	〃	3.1 × 2.6 × 0.4	2.8	Sh.	No14
〃	〃	67	〃	石	核	3.5 × 2.6 × 2.5	22.4	Obs.F-1	
〃	〃	68	〃	石	斧	9.5 × 3.8 × 0.9	52.9	Gr-Mud	
〃	〃	69	〃	〃	〃	13.1 × 5.6 × 2.4	242.8	〃	
〃	〃	70	〃	〃	鎌成	15.8 × 6.3 × 2.1	277.3	〃	Tuff Gr-Mud Sh. Per. F-1
〃	〃	71	〃	〃	〃	24.5 × 5.7 × 4.4	590.0	〃	No13
〃	〃	72	〃	〃	頁土	19.3 × 5.5 × 4.5	560.0	Cal.	No11
〃	〃	73	〃	〃	〃	(9.3)×(3.3)×12.4)	81.3	Sa.	No32
E-34	36-1	74	〃	矢柄研磨器	〃	13.7 × 5.6 × 2.5	121.4	We-Tu	No19,20,21
〃	〃	75	〃	〃	鎌成	15.7 × 5.2 × 3.9	169.1	〃	No4
〃	〃	76	〃	〃	頁土	(7.7)× 5.4 × 1.8	(61.8)	〃	No25
〃	〃	77	〃	〃	〃	9.5 × 5.6 × 1.8	46.9	〃	No5,26
〃	〃	78	〃	たたき石	〃	7.5 × 6.8 × 4.9	275.8	Qua.	No2
〃	〃	79	〃	〃	〃	11.5 × 4.9 × 5.5	381.8	Amf.	
〃	〃	80	〃	伸縮軸石	〃	5.1 × 2.4 × 0.6	16.7	Obs.B-D	
〃	〃	81	〃	〃	鎌成	16.7 × 3.0 × 1.5	119.8	〃 B-D	No7
E-39	36-2	2	P-4	石	鎌	2.1 × 1.2 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	3	〃	石	核	2.7 × 4.5 × 2.7	37.8	Agm.	No43
〃	〃	8	P-6	フレイク	〃	3.4 × 4.1 × 1.1	19.8	Sh.	No44
〃	〃	11	P-8	〃	〃	6.8 × 6.1 × 1.6	43.3	Obs.B-D	No7
〃	〃	12	〃	〃	〃	6.7 × 6.7 × 1.4	42.9	〃 B-D	No6
〃	〃	13	〃	〃	〃	7.5 × 9.8 × 2.0	86.4	〃 B-D	No5
〃	〃	14	〃	〃	〃	13.4×10.6 × 2.0	203.4	〃 A	No4
〃	〃	15	〃	〃	〃	9.7 × 6.9 × 1.4	37.7	〃 B-D	No3
〃	〃	16	〃	〃	〃	1.1 × 0.7 × 0.2	0	〃	
E-47	36-3	1	P-9	石	鎌	(2.7)× 1.3 × 0.4	(1.1)	〃	
〃	〃	2	〃	既形石器	〃	2.2 × 2.2 × 0.7	3.2	〃	
〃	〃	3	P-12	スクレイパー	〃	3.2 × 2.7 × 0.8	6.1	〃 F-1	
〃	〃	4	〃	たたき石	〃	10.2 × 5.9 × 5.5	540.0	Qua.	No4
〃	〃	5	P-17	石器未成品	〃	3.6 × 1.2 × 0.6	2.2	Obs.	
〃	〃	6	P-24	台	石	16.2 ×12.6 × 5.2	1,600.0	Amf.	No4
〃	〃	7	P-25	石	鎌	2.6 × 1.1 × 0.3	0.6	Obs.	No1
G-57	37	16	P-12	スクレイパー	〃	4.1 × 2.9 × 0.8	8.4	〃	
〃	〃	17	〃	Uフレイク	〃	2.6 × 2.1 × 0.4	2.1	〃	
E-59	〃	27	P-14	石	鎌	(3.6)× 1.5 × 0.4	(1.8)	〃	No20
〃	〃	28	〃	〃	〃	3.8 × 1.7 × 0.3	1.8	〃	No36
〃	〃	29	〃	〃	〃	(2.4)× (1.5)× 0.3	(1.1)	〃	No74

時期	図版	番号	遺構	名 称	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石 質	備 考
Ⅱ-59b	37	30	P-34	石 鏃	表土	(2.0)×2.4×0.4	(1.7)	Obs.	No33
〃	〃	31	〃	〃	〃	2.7×1.2×0.3	0.6	〃	No20
〃	〃	32	〃	〃	〃	(2.7)×1.3×0.3	(0.9)	〃	No29
〃	〃	33	〃	〃	〃	(2.8)×1.4×0.4	(1.3)	〃	No35
〃	〃	34	〃	〃	〃	(2.9)×1.2×0.3	(0.9)	〃	No30
〃	〃	35	〃	〃	〃	(3.4)×1.4×0.4	(1.7)	〃	No44
〃	〃	36	〃	〃	〃	(2.3)×1.0×0.3	(0.6)	Sh.	No32
〃	〃	37	〃	スクレイパー	〃	4.3×3.1×1.0	12.8	Obs.	No18
〃	〃	38	〃	〃	〃	4.6×3.3×1.3	17.3	〃 B-D	No16
〃	〃	39	〃	Uフレイク	〃	3.2×2.5×0.9	4.6	〃	No52
〃	〃	40	〃	〃	〃	2.5×3.2×0.4	3.0	〃	No49
〃	〃	41	〃	〃	〃	3.9×4.3×1.5	16.1	〃 E	No31
〃	〃	42	〃	石 斧	〃	9.6×4.5×2.1	130.4	Gr-Mud.	No2
〃	〃	43	〃	磨 製	〃	15.7×9.8×1.9	280.5	And.	No1
Ⅱ-60	38	49	P-38	スクレイパー	黄土	4.6×3.8×1.3	14.2	Obs.B-D	
〃	〃	50	〃	Uフレイク	〃	2.5×3.0×1.0	6.0	〃 B-D	
〃	〃	51	〃	〃	〃	3.4×3.7×0.8	10.3	〃 B-D	
〃	〃	52	〃	〃	〃	2.2×3.4×0.5	3.0	〃	
〃	〃	53	〃	〃	〃	3.4×3.7×0.9	9.3	〃 B-D	
〃	〃	54	〃	〃	〃	2.8×1.8×0.5	2.0	〃	
〃	〃	55	〃	環 石	〃	4.9×5.9×3.7	91.1	〃 F-1	No7
〃	〃	56	〃	石 斧	〃	(6.8)×4.6×1.1	(51.2)	Gr-Mud.	No10
〃	〃	59	P-38	スクレイパー	〃	5.3×3.2×0.7	10.4	Obs.	No1
〃	〃	60	〃	フレイク	〃	3.0×3.3×1.1	6.4	〃	No34

時期	図版	番号	遺構	名 称	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石 質	備 考
Ⅱ-60	38	63	P-21	錐 器	表土	12.7×4.9×2.0	192.8	And.	No6
Ⅱ-61	〃	66	P-26	Uフレイク	〃	2.9×3.0×0.6	4.9	Obs.	No24
〃	〃	67	〃	〃	〃	3.7×2.9×0.6	6.0	〃 F-1	No16
〃	〃	68	〃	石 槍	〃	3.5×4.5×2.9	35.5	〃 F-1	No14
〃	〃	69	〃	環 石	〃	4.4×3.4×1.8	33.1	〃 F-1	No7
〃	〃	70	〃	〃	〃	3.7×3.5×2.6	37.4	〃 F-1	No29
〃	〃	72	P-27	矢柄研磨器	〃	3.0×1.9×1.0	1.7	Wr-Tu	
〃	〃	74	P-38	スクレイパー	〃	5.0×3.5×1.0	16.6	Sh.	No8
〃	〃	75	〃	たたき石	〃	13.7×12.4×5.9	1,450.0	And.	No3
Ⅱ-62	〃	76	P-30	石 鏃	〃	2.3×1.5×0.2	0.6	Obs.	No24
〃	〃	77	〃	〃	〃	2.6×1.4×0.3	0.9	〃	No17
〃	〃	78	〃	〃	〃	(2.8)×1.4×0.4	(1.2)	〃	No20
〃	〃	79	〃	〃	〃	2.9×1.3×0.3	1.0	〃	No18
〃	〃	80	〃	〃	〃	3.4×1.5×0.3	1.3	〃	No4.22
〃	〃	81	〃	〃	〃	3.5×1.4×0.3	1.4	〃	No25
〃	〃	82	〃	〃	〃	3.6×1.6×0.4	1.8	〃	No5
〃	〃	83	〃	〃	〃	(3.8)×1.4×0.3	(0.8)	〃	No22
〃	〃	84	〃	〃	〃	2.7×1.3×0.5	1.6	〃 F-1	No31
〃	〃	85	〃	〃	〃	(3.8)×1.3×0.4	(1.5)	〃 A	No26
〃	〃	86	〃	〃	〃	(3.6)×1.3×0.5	(1.8)	〃	No10
〃	〃	87	〃	〃	〃	(2.7)×1.2×0.3	(0.8)	〃	No13
〃	〃	88	〃	〃	〃	(3.0)×1.1×0.3	(1.0)	〃	No7
〃	〃	89	〃	〃	〃	(1.4)×1.4×0.4	(0.7)	〃	No23

表5　包含層掲載実測土器一覧

時期	図版	番号	発掘区	器種	大きさ(cm) 器高	口径	底径	胴径	分類	接合個所数	接合状況	備考
Ⅱ-65	28	11	E-11 / E-12	縄紋	(23.5)	35.2	—	35.2	Ⅱ2b	96	Ⅰ-3点　Ⅰ-92点　Ⅱ-1点	
〃		12	L-9	〃	(12.0)	—	8.9	(21.9)		12	Ⅱ-12点	
〃		13	D-26	〃	(15.0)	—	8.8	(29.0)		56	Ⅰ-56点	
〃		14	B-16	〃	(7.2)	—	10.7	(20.3)		6	Ⅱ-6点	
〃		15	A-18	〃	(9.5)	—	9.1	(19.0)		8	Ⅰ-8点	
〃		16	A-18 / A-19	〃	(10.5)	—	9.3	(18.3)		20	Ⅰ-14点　Ⅰ-16点	
〃	28	17	G-11	浅鉢	21.2	44.6	15.6	44.6	Ⅱ2a	30	Ⅰ-16点　Ⅱ-15点	
Ⅱ-66	〃	18	C-8	壺	(11.7)	17.7	—	(22.2)	Ⅱ2	7	Ⅱ-7点	
〃		19	D-13	〃	(12.0)	13.3×15.4	—	(18.4)	Ⅱ3a	12	Ⅰ-12点	

表6　包含層掲載拓本土器一覧

時期	図版	番号	発掘区	遺構	分類	層位	備考	時期	図版	番号	発掘区	遺構	分類	層位	備考	時期	図版	番号	発掘区	遺構	分類	層位	備考
Ⅱ-64	39-1	1	G-16	環状	Ⅰ1	Ⅰ	2点	Ⅱ-67	40	27	F-24	環状	Ⅱ2a	Ⅰ,撹乱	13点	Ⅱ-68	40	44	J-13/14	環状	Ⅱ3a	Ⅰ	5点
〃	〃	2	F-9	〃	Ⅰ2	Ⅰ,Ⅰb	3点	〃	〃	28	D-22	〃	〃	Ⅰ	4点 粉分	〃	〃	45	J-16	〃	〃		
〃	〃	3	M-6	〃	〃	Ⅱ		〃	〃	29	F-24	〃	〃	撹乱	粉分	〃	〃	46	F-10	〃	〃	Ⅰb	
〃	〃	4	G-9	〃	〃	Ⅰb		Ⅱ-68	〃	30	D-11	〃	〃	Ⅱ		〃	〃	47	G-24	〃	〃	Ⅰ	粉分
〃	〃	5	H-9	〃	〃	Ⅰ		〃	〃	31	G-18	〃	〃	Ⅰ	粉分	〃	〃	48	J-12	〃	〃	〃	4点
〃	〃	6	K-11	〃	〃	〃	2点	〃	〃	32	C-12	〃	〃	〃		〃	〃	49	J-14	〃	〃	〃	2点
〃	〃	7	H-12	〃	〃	Ⅰb	2点	〃	〃	33	C-15	〃	〃	粉分		〃	〃	50	J-15	〃	〃	Ⅱ	
〃	〃	8	I-10	〃	〃	Ⅱ		〃	〃	34	D-10	〃	〃	〃		〃	〃	51	K-12	〃	〃	Ⅰ	4点 粉分
〃	〃	9	D-12	〃	Ⅰ3	Ⅰ		〃	〃	35	B-13	〃	〃	〃		Ⅱ-69	41	52	J-15	〃	Ⅱ1b	〃	5点
〃	〃	10	M-6	〃	〃	Ⅱ		〃	〃	36	F-16	〃	〃	撹乱	粉分	〃	〃	53	E-23	〃	〃	Ⅱ	
Ⅱ-67	39-2	20	F-8	〃	Ⅱ1a	〃	粉分	〃	〃	37	F-14	〃	〃	Ⅱ		〃	〃	54	H-12	〃	〃	Ⅰ	粉分
〃	〃	21	D-22	〃	〃	Ⅰ	2点	〃	〃	38	H-18	〃	〃	Ⅰ		〃	〃	55	K-13/14	〃	〃	〃	2点
〃	〃	22	I-11	〃	〃	〃	9点	〃	〃	39	G-23	〃	〃	Ⅱ	3点	〃	〃	56	G-7/8	〃	〃	〃	2点
〃	〃	23	D-22 / D-23	〃	〃	Ⅰ,Ⅱ	6点	〃	〃	40	G-24	〃	〃	〃		〃	〃	57	H-14	〃	〃	〃	3点
〃	〃	24	I-11	〃	Ⅱ2a	Ⅰ	浅鉢,粉分	〃	〃	41	J-15	〃	〃	Ⅰ,Ⅱ	2点 粉分	〃	〃	58	G-15	〃	〃	Ⅱ	
〃	〃	25	G-11	〃	〃	Ⅱ		〃	〃	42	J-15	〃	〃	Ⅰ	2点	〃	〃	59	K-14	〃	〃	Ⅰ	
〃	40	26	G-17	〃	〃	Ⅰ,Ⅱ	24点	〃	〃	43	B-21	〃	Ⅱ3a	Ⅰ	粉分	〃	〃	60	E-23	〃	〃	Ⅱ	

神	国	認版	番号	発掘区	形態	分	期	層	位	備考
Ⅱ-69	41	51	G-16	浅鉢	Ⅱ1b		Ⅱ	粉分		
〃	〃	62	C-21	〃	〃		〃	3点		
〃	〃	63	H-12	〃	〃		Ⅰb	2点		
〃	〃	64	L-19	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	65	H-12	〃	〃		Ⅰ	粉分		
〃	〃	66	H-14	〃	〃		〃			
〃	〃	67	J-19	〃	〃		〃	8点		
〃	〃	68	F-13	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	69	F-12	〃	〃		Ⅰb	粉分		
〃	〃	70	G-20	〃	〃		Ⅰ	2点		
〃	〃	71	G-21	〃	〃		〃	7点、粉分		
〃	〃	72	H-14	〃	〃		〃	2点		
〃	〃	73	H-12	〃	〃		〃			
〃	〃	74	H-12	〃	Ⅱ2b		Ⅰ、Ⅰb	2点		
〃	〃	75	J-12	〃	〃		Ⅰ	3点		
〃	〃	76	D-11	〃	〃		〃	2点、粉分		
Ⅱ-70	〃	77	J-14	〃	〃		〃			
〃	〃	78	C-21	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	79	A-19	〃	〃		Ⅰ	粉分		
〃	〃	80	J-12	〃	〃		〃			
〃	〃	81	J-10	〃	〃		〃	2点		
〃	〃	82	H-22	〃	〃		Ⅱ	2点		
〃	〃	83	D-22	〃	〃		Ⅰ	3点		
〃	〃	84	J-18	〃	〃		〃			
〃	〃	85	G-10	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	86	D-29	〃	〃		撹乱			
〃	42-1	87	H-19	〃	〃		Ⅱ	8点		
〃	〃	88	G-15	〃	〃		〃			
〃	〃	89	C-22	〃	Ⅱ3b		Ⅰ	3点、粉分		
〃	〃	90	F-19	〃	〃		〃			
〃	〃	91	H-13	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	92	G-13	〃	〃		Ⅰb			
〃	〃	93	D-19	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	94	H-13	〃	〃		Ⅰ	粉分		
〃	〃	95	D-19	〃	〃		Ⅱ	5点		
〃	〃	96	G-8	〃	〃		Ⅰ	8点		
Ⅱ-71	42-2	97	D-22、D-23	〃	Ⅱ1a		Ⅰ、Ⅱ	16点		
〃	〃	98	E-14	〃	〃		Ⅱ	4点		
〃	〃	99	G-17	〃	〃		〃			
〃	〃	100	G-17	〃	〃		〃	粉分		
〃	〃	101	G-21	〃	〃		〃	9点		
〃	〃	102	K-14	〃	〃		Ⅰ	9点		
〃	〃	103	J-13	〃	〃		Ⅱ	3点		
〃	〃	104	C-13	〃	〃		Ⅰ	2点		
〃	〃	105	F-11	〃	〃		〃	2点、粉分		
〃	43	106	K-11	〃	〃		〃	4点		
〃	〃	107	B-14	〃	〃		〃			
〃	〃	108	G-14	〃	Ⅱ2a		〃	粉分		
〃	〃	109	J-8	〃	〃		〃	粉分		
〃	〃	110	D-24	〃	〃		〃	2点		
〃	〃	111	B-11	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	112	J-16	〃	〃		Ⅰ	2点		
〃	〃	113	G-9	〃	〃		〃			
〃	〃	114	E-9、G-14	〃	〃		Ⅰ、Ⅰb	12点		
〃	〃	115	D-10	〃	〃		Ⅱ	粉分		
〃	〃	116	D-24	〃	〃		Ⅰ、Ⅱ	3点		
〃	〃	117	G-15	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	118	F-9	〃	〃		Ⅰb			

神	国	認版	番号	発掘区	形態	分	期	層	位	備考
Ⅱ-72	43	119	B-12	鉢	Ⅱ2a		Ⅰ	粉分		
〃	〃	120	D-11	〃	〃		撹乱			
〃	〃	121	H-17	〃	〃		Ⅰ	2点		
〃	〃	122	C-11	〃	〃		〃			
〃	〃	123	F-13	〃	〃		〃			
〃	〃	124	C-11	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	125	H-4	〃	Ⅱ3a		Ⅰ	2点		
〃	〃	126	I-20	〃	〃		〃			
〃	〃	127	G-16	〃	〃		〃			
〃	〃	128	C-12	〃	〃		〃			
〃	〃	129	F-13	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	130	J-14	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	131	G-10	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	132	K-12	〃	〃		〃	5点		
〃	〃	133	G-10	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	134	C-9	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	135	G-15	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	136	B-13	〃	〃		〃	2点		
〃	〃	137	G-14	〃	〃		〃	粉分		
〃	〃	138	A-17	〃	〃		〃			
〃	〃	139	J-16	〃	〃		〃			
〃	〃	140	J-16	〃	〃		〃	粉分		
〃	〃	141	H-17	〃	〃		〃			
〃	〃	142	E-19	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	143	J-19	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	144	D-15	〃	〃		〃			
〃	〃	145	C-20	〃	〃		〃			
〃	〃	146	C-19	〃	〃		〃			
〃	〃	147	E-17	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	148	E-14	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	149	B-11	〃	〃		〃			
Ⅱ-73	44	150	G-12	〃	Ⅱ1b		〃			
〃	〃	151	F-10	〃	〃		Ⅰb	2点		
〃	〃	152	J-15	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	153	G-14	〃	〃		〃			
〃	〃	154	F-27	〃	〃		〃			
〃	〃	155	F-9	〃	〃		Ⅰb			
〃	〃	156	B-15	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	157	B-14	〃	〃		〃			
〃	〃	158	D-11	〃	〃		〃	粉分		
〃	〃	159	G-14	〃	〃		〃			
〃	〃	160	G-14	〃	〃		〃			
〃	〃	161	B-14	〃	〃		〃			
〃	〃	162	G-14	〃	〃		〃	粉分		
〃	〃	163	G-15	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	164	J-12	〃	〃		Ⅰ	3点		
〃	〃	165	C-21	〃	〃		〃			
〃	〃	166	J-16	〃	〃		〃			
〃	〃	167	B-10	〃	〃		〃			
〃	〃	168	I-10	〃	〃		Ⅱ	粉分		
〃	〃	169	I-10	〃	〃		〃			
〃	〃	170	E-22	〃	〃		〃			
〃	〃	171	K-19	〃	Ⅱ2b		Ⅰ	粉分		
〃	〃	172	C-13	〃	〃		〃			
〃	〃	173	B-12	〃	〃		〃			
〃	〃	174	G-14	〃	〃		〃	粉分		
〃	〃	175	G-14	〃	〃		〃			
〃	〃	176	G-14	〃	〃		〃			

神	国	認版	番号	発掘区	形態	分	期	層	位	備考
Ⅱ-73	44	177	L-10	鉢	Ⅱ2b		Ⅰ		2点	
〃	〃	178	L-10	〃	〃		Ⅱ		2点	
〃	〃	179	H-12	〃	〃		Ⅰb			
〃	〃	180	J-17	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	181	J-17	〃	〃		〃			
〃	〃	182	F-10	〃	〃		Ⅰb			
〃	〃	183	C-11	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	184	C-13	〃	〃		〃		8点、粉分	
Ⅱ-74	〃	185	G-16、H-19	〃	〃		Ⅰ、Ⅱ		2点	
〃	〃	186	B-20	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	187	F-21	〃	〃		Ⅱ		粉分	
〃	〃	188	F-13	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	189	C-8	〃	〃		〃			
〃	〃	190	E-14	〃	〃		〃		2点	
〃	〃	191	E-14	〃	〃		〃		5点、粉分	
Ⅱ-74	44	192	E-16、E-14	鉢	〃		Ⅰ		2点	
〃	〃	193	G-17	〃	〃		〃			
〃	〃	194	G-22	〃	〃		〃			
〃	〃	195	F-24	〃	〃		〃			
〃	〃	196	F-24	〃	〃		撹乱		粉分	
〃	〃	197	G-14	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	198	G-17	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	199	J-16	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	200	B-21	〃	Ⅱ3b		〃		3点	
〃	〃	201	H-12	〃	〃		Ⅰb			
〃	〃	202	F-10	〃	〃		〃			
〃	〃	203	B-13	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	204	J-13	〃	〃		〃			
〃	〃	205	C-12	〃	〃		〃			
〃	〃	206	G-8	〃	〃		Ⅱ		3点	
〃	〃	207	G-7	〃	〃		Ⅰ		2点	
〃	〃	208	I-18	〃	〃		〃		粉分	
〃	〃	209	H-17	〃	〃		〃			
〃	〃	210	H-17	〃	〃		〃			
〃	〃	211	H-17	〃	〃		〃			
〃	〃	212	H-17	〃	〃		〃			
Ⅱ-75	45	213	D-21	浅鉢	Ⅱ2a		〃		4点	
〃	〃	214	B-14	〃	〃		Ⅱ		粉分	
〃	〃	215	G-17	〃	〃		〃		2点	
〃	〃	216	A-14	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	217	J-10	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	218	F-15	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	219	G-10	〃	Ⅱ3a		〃		8点、粉分	
〃	〃	220	K-19	〃	〃		〃		粉分	
〃	〃	221	K-20	〃	〃		〃			
〃	〃	222	J-18	〃	〃		〃			
〃	〃	223	G-16	〃	〃		〃			
〃	〃	224	B-17	〃	〃		〃			
Ⅱ-75	〃	225	F-6	〃	Ⅱ1b		〃			
〃	〃	226	F-9	〃	〃		Ⅰb		粉分	
〃	〃	227	D-20	〃	〃		Ⅰ			
〃	〃	228	J-10	〃	〃		〃			
〃	〃	229	A-14	〃	〃		Ⅱ			
〃	〃	230	F-8	〃	〃		Ⅰb			
〃	〃	231	H-14	〃	〃		Ⅰ		2点	
〃	〃	232	G-13	〃	〃		Ⅰb			
〃	〃	233	G-6	〃	〃		Ⅰ			
〃	45	234	H-13	〃	〃		〃			

掃	図	図版	番号	発掘区	器種	分	類	層	位	備考	掃	図	図版	番号	発掘区	器種	分	類	層	位	備考	掃	図	図版	番号	発掘区	器種	分	類	層	位	備考
Ⅱ-75	46	235	H-14	浅林	Ⅱ 1 b		I		粘分		Ⅱ-78	47	277	A-17	浅林	Ⅱ 3 b		1				Ⅱ-81	49	319	A-14	金	Ⅱ 3		1		
〃	〃	236	C-11	〃	〃	〃					〃	〃	278	G-17	〃	〃	〃					〃	〃	320	G-20	〃	〃	Ⅱ				
〃	〃	237	F-15 G-15	〃	〃	〃		2.点			〃	〃	279	G-15	〃	〃	Ⅰ b		粘分			〃	〃	321	D-4	〃	〃	Ⅰ b				
〃	〃	238	A-17	〃	Ⅱ 2 b						Ⅱ-79	48	280	G-17	金	Ⅱ 1		I	粘分			〃	〃	322	D-4	〃	〃	〃				
〃	〃	239	C-12	〃	〃	Ⅱ					〃	〃	281	F-14 G-14	〃	〃	Ⅰ.Ⅱ		5.点			〃	〃	323	H-17	〃	〃	Ⅰ				
〃	〃	240	G-16	〃	〃	I					〃	〃	282	J-14	〃	〃	I					〃	〃	324	G-15	〃	〃	〃				
〃	〃	241	D-11	〃	〃	〃		粘分			〃	〃	283	B-14 B-15	〃	〃	〃		2.点			〃	〃	325	H-16	〃	〃	〃				
〃	〃	242	D-4	〃	〃	Ⅰ b					〃	〃	284	B-15	〃	〃	〃		粘分			〃	〃	326	B-19	〃	〃	Ⅱ		2.点		
〃	〃	243	K-18	〃	〃	I					〃	〃	285	B-15	〃	〃	Ⅰ.Ⅱ		3.点			〃	〃	327	B-19 C-18	〃	〃	Ⅰ.Ⅱ		9.点		
Ⅱ-77	〃	244	C-10	〃	〃	Ⅱ					〃	〃	286	H-12	〃	〃	I					〃	〃	328	G-14	〃	〃	〃		粘分		
〃	〃	245	E-12	〃	〃	〃		粘分			〃	〃	287	J-18	〃	〃	〃					〃	〃	329	G-15	〃	〃	〃		6.点		
〃	〃	246	K-12	〃	〃	I					〃	〃	288	G-14 H-14	〃	〃	〃		2.点			〃	〃	330	H-17	〃	〃	〃		3.点		
〃	〃	247	E-12	〃	〃	Ⅱ		2.点			〃	〃	289	F-8	〃	〃	Ⅱ					〃	〃	331	G-24	〃	〃	Ⅱ				
〃	〃	248	B-15	〃	〃	I					〃	〃	290	D-6	〃	〃	I		2.点			〃	〃	332	H-17	〃	〃	I				
〃	〃	249	G-14	〃	〃	〃					〃	〃	291	G-15	〃	〃	〃		粘分			〃	〃	333	H-15	〃	〃	〃				
〃	〃	250	K-20	〃	〃	〃					〃	〃	292	K-11	〃	〃	〃					〃	〃	334	B-15	〃	〃	Ⅱ		2.点		
〃	〃	251	J-16	〃	〃	〃					〃	〃	293	G-13	〃	〃	Ⅰ b					〃	〃	335	B-15	〃	〃	I				
〃	〃	252	H-14	〃	〃	〃					〃	〃	294	G-13 K-14	〃	〃	I		4.点			〃	〃	336	H-16	〃	〃	〃		粘分		
〃	〃	253	K-11	〃	〃	〃					〃	〃	295	G-13	〃	Ⅱ 2		〃				〃	〃	337	B-15	〃	〃	Ⅱ				
〃	〃	254	F-14	〃	〃	粘分					〃	〃	296	G-13	〃	〃	I					〃	〃	338	B-14 B-15	〃	〃	Ⅰ.Ⅱ		12.点		
〃	〃	255	H-17	〃	〃	〃					〃	〃	297	B-16	〃	〃	〃		粘分			Ⅱ-82	〃	339	F-13	鳳形	Ⅰ b		I		
〃	〃	256	A-14	〃	〃	粘分					〃	〃	298	H-13	〃	〃	〃					〃	〃	340	B-15	〃	Ⅱ 2 b		Ⅰ.Ⅱ		3.点	
〃	〃	257	E-17	〃	〃	Ⅱ					〃	〃	299	I-10	〃	〃	Ⅱ		粘分			〃	〃	341	F-10	〃	〃	Ⅰ b				
〃	47	258	H-12	〃	〃	I					〃	〃	300	D-12 D-13	〃	〃	I		2.点			〃	〃	342	D-11	〃	〃	I				
〃	〃	259	H-12	〃	〃	Ⅰ b					Ⅱ-80	〃	301	D-8	〃	〃	Ⅱ		3.点			〃	〃	343	H-17	〃	〃	〃				
〃	〃	260	G-10	〃	〃	Ⅱ					〃	〃	302	G-8	〃	〃	〃		2.点 粘分			〃	〃	344	G-16	〃	Ⅱ 3 b		〃			
〃	〃	261	J-16	〃	〃	I					〃	〃	303	B-14	〃	〃	I		粘分			〃	〃	345	F-11	〃	〃	〃				
〃	〃	262	G-14	〃	〃	〃					〃	〃	304	C-10	〃	〃	〃					〃	〃	346	B-15	〃	〃	〃				
〃	〃	263	G-14	〃	〃	粘分					〃	〃	305	G-23	〃	〃	Ⅱ					〃	〃	347	B-14 B-15	〃	〃	〃		2.点		
〃	〃	264	C-20	〃	〃	粘分					〃	〃	306	H-13	〃	〃	I					〃	〃	348	C-16	〃	〃	〃		Ⅰ.Ⅱ		2.点
Ⅱ-78	〃	265	H-19	〃	Ⅱ 3 b	Ⅰ.Ⅱ		2.点			〃	〃	307	I-10	〃	〃	Ⅱ					〃	〃	349	H-23	成都	Ⅰ 1 a		1			
〃	〃	266	H-17	〃	〃	I					〃	〃	308	C-12	〃	〃	〃					〃	〃	350	F-10	〃	〃	Ⅰ b				
〃	〃	267	G-15	〃	〃	〃					〃	〃	309	F-16	〃	〃	I					〃	〃	351	B-14	〃	Ⅱ 2		1			
〃	〃	268	F-8	〃	〃	〃					〃	〃	310	C-5	〃	〃	〃		2.点			〃	〃	352	F-16	〃	〃	Ⅱ		2.点		
〃	〃	269	F-17	〃	〃	〃		2.点			〃	〃	311	G-13	〃	〃	〃					〃	〃	353	F-12	〃	〃	Ⅰ b				
〃	〃	270	B-18	〃	〃	Ⅰ.Ⅱ		6.点			〃	〃	312	F-22	〃	〃	〃					〃	〃	354	H-11	〃	〃	I				
〃	〃	271	G-15	〃	〃	I		2.点			〃	〃	313	B-8	〃	〃	〃		2.点			〃	〃	355	K-11	〃	Ⅱ 3		〃			
〃	〃	272	A-17	〃	〃	〃		2.点			〃	〃	314	J-18	〃	〃	〃					〃	〃	356	G-14	〃	〃	〃				
〃	〃	273	B-18	〃	〃	Ⅱ		8.点			〃	〃	315	B 13	〃	〃	〃					〃	〃	357	J-14	〃	〃	〃				
〃	〃	274	B-14 B-15	〃	〃	Ⅰ.Ⅱ		3.点			〃	〃	316	D-30	〃	〃	〃		4.点			〃	〃	358	F-11	〃	〃	〃		2.点		
〃	〃	275	B-13	〃	〃	I					〃	〃	317	F-24	〃	〃	機械					〃	〃	359	D-12	〃	〃	〃				
〃	〃	276	C-12	〃	〃	Ⅱ					Ⅱ-81	49	318	G-14 H-14	〃	Ⅱ 3		I	7.点			〃	〃	360	J-18	〃	〃	Ⅱ				

表7　包含層掲載石器一覧

掃図	図版	番号	発掘区	名	称	層位	長	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石	質	備	考	掃図	図版	番号	発掘区	名	称	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石	質	備	考
Ⅱ-83	50-1	1	E-23	石	鏃	Ⅱ		1.4×1.2×0.2	0.4	Obs.A				Ⅱ-83	50-1	13	G-20	石	鏃	I	(3.3)×1.6×0.3	(1.4)	Obs.A			
〃	〃	2	B-29	〃		I		1.7×1.0×0.2	0.3	〃				〃	〃	14	H-17	〃		〃	3.1×1.3×0.4	1.5	〃			
〃	〃	3	I-20	〃		〃		2.3×1.3×0.3	0.7	〃				〃	〃	15	J-18	〃		〃	3.4×1.6×0.3	1.7	〃			
〃	〃	4	G-22	〃		〃		2.2×1.5×0.2	0.7	〃				〃	〃	16	B-24	〃		〃	2.9×1.7×0.4	1.2	〃 A			
〃	〃	5	C-16	〃		〃		(2.4)×1.4×0.3	(1.2)	〃 A				〃	〃	17	G-15	〃		〃	(3.3)×(1.5)×0.3	(1.4)	〃			
〃	〃	6	C-20	〃		Ⅱ		2.5×1.5×0.3	0.9	〃				〃	〃	18	H-17	〃		〃	(3.3)×1.7×0.4	(2.0)	〃 A			
〃	〃	7	G-18	〃		I		(2.5)×1.4×0.3	(0.9)	〃				〃	〃	19	F-20	〃		Ⅱ	(3.5)×1.6×0.4	(1.8)	〃 A			
〃	〃	8	H-17	〃		〃		2.7×1.4×0.3	0.8	〃				〃	〃	20	B-29	〃		I	(3.3)×1.5×0.3	(1.3)	〃 A			
〃	〃	9	C-13	〃		Ⅱ		(2.5)×(1.3)×0.3	(0.9)	〃				〃	〃	21	D-22	〃		Ⅱ	3.7×1.5×0.3	1.4	〃 A			
〃	〃	10	F-21	〃		I		2.7×1.5×0.2	0.8	〃 A				〃	〃	22	F-20	〃		〃	(2.7)×1.5×0.4	(1.7)	〃 A			
〃	〃	11	F-19	〃		〃		(2.9)×1.4×0.3	(1.0)	〃				〃	〃	23	E-18	〃		〃	3.8×1.6×0.4	1.6	〃 A			
〃	〃	12	H-17	〃		〃		2.9×1.3×0.3	1.2	〃				〃	〃	24	H-17	〃		I	3.5×1.6×0.4	2.0	〃 A			

神話	図版	番号	地図区	名 称	種別	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石 質	備 考
B-83	50-1	33	C-13	石 斧	I	2.1 × 1.3 × 0.4	0.7	Obs.	
〃	〃	34	D-13	〃	〃	2.1 × 1.0 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	35	G-18	〃	II	2.5 × 1.2 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	36	G-13	〃	I	(2.2)× 1.3 × 0.3	(0.9)	〃 A	
〃	〃	37	F-34	〃	II	2.8 × 1.4 × 0.3	0.9	〃 A	
〃	〃	38	J-17	〃	〃	2.8 × 1.5 × 0.3	0.9	〃 A	
〃	〃	39	B-12	〃	I	2.8 × 1.3 × 0.3	0.9	〃	
〃	〃	40	H-13	〃	〃	(2.8)× 1.3 × 0.3	(0.8)	〃 A	
〃	〃	41	D-21	〃	〃	2.9 × 1.6 × 0.2	1.2	〃	
〃	〃	42	A-18	〃	〃	3.1 × 1.4 × 0.3	1.0	〃	
〃	〃	43	B-13	〃	〃	3.3 × 1.4 × 0.3	1.4	〃 A	
〃	〃	44	H-16	〃	〃	2.8 × 1.4 × 0.3	0.9	〃	
〃	〃	45	F-24	〃	〃	(2.8)× 1.5 × 0.3	(1.2)	〃	
〃	〃	46	F-29	〃	〃	(2.9)× 1.6 × 0.4	(1.3)	〃 A	
〃	〃	47	D-12	〃	〃	(3.0)× 1.5 × 0.3	(1.0)	〃 A	
〃	〃	48	C-13	〃	〃	(3.2)× 1.5 × 0.4	(1.7)	〃	
〃	〃	49	C-14	〃	〃	3.2 × 1.5 × 0.3	1.2	〃	
〃	〃	50	J-19	〃	〃	(3.5)×(1.6)× 0.3	(1.7)	〃 A	
〃	〃	51	F-21	〃	〃	(3.6)× 1.5 × 0.3	(1.5)	〃	
〃	〃	52	G-20	〃	〃	3.5 × 1.6 × 0.4	1.6	〃 A	
〃	〃	53	G-15	〃	〃	(3.8)× 1.6 × 0.4	(1.8)	〃 A	
〃	〃	54	A-17	〃	〃	3.9 × 1.4 × 0.5	1.6	〃	
〃	〃	55	G-20	〃	II	3.9 × 1.6 × 0.3	1.6	〃 A	
〃	〃	56	A-17	〃	I	(4.5)× 1.4 × 0.3	(1.4)	〃	
〃	〃	57	F-7	〃	〃	(1.8)× 0.9 × 0.3	(0.3)	〃	
〃	〃	58	G-13	〃	〃	(1.8)× 0.9 × 0.3	(0.4)	〃	
〃	〃	59	H-14	〃	〃	(2.7)× 1.0 × 0.5	(1.5)	〃	
〃	〃	60	C-20	〃	II	(2.5)× 1.0 × 0.4	(0.7)	〃	
〃	〃	61	H-20	〃	I	2.7 × 1.0 × 0.4	0.9	〃	
〃	〃	62	J-17	〃	〃	2.9 × 1.1 × 0.3	0.8	〃	
〃	〃	63	D-21	〃	〃	3.1 × 1.2 × 0.4	1.2	〃	
〃	〃	64	C-12	〃	〃	(1.9)× 1.4 × 0.4	(1.2)	〃	
〃	〃	65	G-11	〃	II	(2.0)× 1.2 × 0.4	(1.2)	〃	
〃	〃	66	C-11	〃	I	(2.8)× 1.1 × 0.3	(1.0)	Sh.	
〃	〃	67	F-12	〃	II	(3.2)× 1.2 × 0.4	(1.0)	Obs.	
〃	〃	68	H-18	〃	I	(2.8)× 0.9 × 0.2	(0.8)	〃	
〃	〃	69	C-20	〃	II	(3.6)× 1.1 × 0.6	(2.0)	〃	
〃	〃	70	G-14	〃	I	(4.0)× 1.4 × 0.5	(2.1)	〃 F-1	
〃	〃	71	I-19	〃	〃	(3.2)× 1.7 × 0.5	(2.9)	〃	
B-84	50-2	72	J-14	〃	〃	2.0 × 0.8 × 0.3	0.4	〃 A	
〃	〃	73	H-19	〃	〃	2.0 × 0.9 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	74	J-12	〃	〃	(2.0)× 1.0 × 0.3	(0.4)	〃	
〃	〃	75	J-12	〃	〃	2.1 × 0.9 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	76	D-5	〃	〃	2.3 × 0.9 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	77	J-12	〃	II	2.3 × 1.0 × 0.4	0.6	〃	
〃	〃	78	G-14	〃	〃	2.2 × 1.2 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	79	F-12	〃	I	2.5 × 1.1 × 0.4	0.8	〃	
〃	〃	80	B-13	〃	〃	2.5 × 1.0 × 0.2	0.4	〃	
〃	〃	81	H-17	〃	〃	2.6 × 1.2 × 0.3	0.7	〃	
〃	〃	82	F-9	〃	〃	2.6 × 1.2 × 0.3	0.7	〃	
〃	〃	83	E-4	〃	〃	2.8 × 1.2 × 0.3	0.8	〃 A	
〃	〃	84	D-21	〃	〃	(2.3)×(1.3)× 0.3	(0.6)	〃	
〃	〃	85	C-24	〃	II	2.4 × 1.1 × 0.3	0.8	〃	
〃	〃	86	C-9	〃	I	2.3 × 1.1 × 0.3	0.7	〃	
〃	〃	87	G-15	〃	〃	(2.3)×(1.4)× 0.4	(1.0)	〃	
〃	〃	88	J-16	〃	〃	(2.3)× 1.4 × 0.4	(1.1)	〃	
〃	〃	89	G-19	〃	〃	3.3 × 1.3 × 0.3	1.0	〃	
〃	〃	90	J-19	〃	〃	(3.4)× 1.4 × 0.4	(1.4)	〃	

神話	図版	番号	地図区	名 称	種別	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石 質	備 考
B-84	50-2	91	D-11	石 斧	I	(4.0)× 1.0 × 0.7	(2.4)	Obs.F-1	
〃	〃	92	G-18	〃	〃	(3.7)× 1.2 × 0.5	(1.9)	〃	
〃	〃	93	F-15	〃	〃	(3.8)× 1.5 × 0.7	(3.2)	〃	
〃	〃	94	B-15	〃	〃	(3.9)× 1.0 × 0.5	(2.3)	Sh.	
〃	〃	95	C-16	〃	〃	(4.8)× 1.3 × 0.6	(3.2)	Obs.	
〃	〃	96	G-13	〃	I b	4.9 × 1.3 × 0.4	2.1	〃 F-1	
〃	〃	97	I-16	〃	II	1.6 × 1.0 × 0.3	0.3	〃	
〃	〃	98	I-9	〃	I	1.8 × 1.3 × 0.2	0.4	〃	
〃	〃	99	I-8	〃	〃	1.8 × 1.0 × 0.2	0.4	〃	
〃	〃	100	A-15	〃	〃	1.9 × 1.2 × 0.3	0.5	〃	
〃	〃	101	I-7	〃	〃	1.8 × 1.0 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	102	A-16	〃	〃	2.1 × 1.0 × 0.3	0.5	〃	
〃	〃	103	I-18	〃	II	(2.2)× 1.0 × 0.3	(0.4)	〃	
〃	〃	104	F-11	〃	I	(2.3)× 1.0 × 0.3	(0.4)	〃	
〃	〃	105	I-17	〃	〃	2.6 × 0.9 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	106	D-11	〃	II	2.2 × 0.8 × 0.3	0.3	〃	
〃	〃	107	J-16	〃	I	2.1 × 1.2 × 0.2	0.4	〃	
〃	〃	108	B-7	〃	〃	2.0 × 1.1 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	109	H-12	〃	II	2.4 × 0.9 × 0.2	0.4	〃	
〃	〃	110	I-12	〃	I	2.2 × 1.0 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	111	B-17	〃	〃	2.3 × 1.1 × 0.3	0.5	〃	
〃	〃	112	B-19	〃	〃	2.6 × 0.9 × 0.3	0.5	〃	
〃	〃	113	J-16	〃	〃	2.3 × 1.0 × 0.3	0.5	〃	
〃	〃	114	D-8	〃	〃	2.4 × 1.1 × 0.4	0.6	〃	
〃	〃	115	B-16	〃	〃	(2.3)× 1.0 × 0.3	(0.5)	〃	
〃	〃	116	D-11	〃	〃	2.3 × 1.2 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	117	B-15	〃	〃	2.2 × 1.0 × 0.2	0.4	〃	
〃	〃	118	H-12	〃	〃	2.4 × 1.0 × 0.3	0.5	〃	
〃	〃	119	H-14	〃	〃	2.4 × 1.1 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	120	J-17	〃	II	2.4 × 1.1 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	121	I-19	〃	〃	2.1 × 1.0 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	122	J-15	〃	I	2.2 × 1.1 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	123	J-14	〃	〃	2.7 × 1.0 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	124	I-13	〃	〃	2.3 × 1.0 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	125	I-9	〃	II	2.3 × 0.9 × 0.2	0.2	〃	
〃	〃	126	H-19	〃	I	2.5 × 0.8 × 0.3	0.5	〃	
〃	〃	127	I-15	〃	〃	2.5 × 1.0 × 0.3	0.5	〃	
〃	〃	128	F-17	〃	II	2.4 × 1.0 × 0.3	0.4	〃	
〃	〃	129	A-15	〃	I	2.2 × 1.1 × 0.4	0.7	〃	
〃	〃	130	H-20	〃	II	2.6 × 1.2 × 0.4	0.8	〃	
〃	〃	131	F-9	〃	I	2.7 × 0.9 × 0.4	0.6	〃 A	
〃	〃	132	A-18	〃	〃	2.6 × 1.3 × 0.4	0.6	〃	
〃	〃	133	G-17	〃	機械	2.5 × 1.2 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	134	A-21	〃	I	2.8 × 1.1 × 0.3	0.7	〃	
〃	〃	135	G-16	〃	〃	2.8 × 1.0 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	136	D-20	〃	〃	2.8 × 1.0 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	137	B-20	〃	〃	(2.8)× 1.0 × 0.3	(0.6)	〃	
〃	〃	138	J-5	〃	〃	2.9 × 1.2 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	139	B-13	〃	〃	2.8 × 1.2 × 0.4	0.9	〃	
〃	〃	140	K-16	〃	〃	2.8 × 1.2 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	141	C-13	〃	〃	2.6 × 1.3 × 0.3	0.7	〃	
B-85	51-1	142	J-16	〃	〃	2.9 × 1.1 × 0.3	0.6	〃	
〃	〃	143	G-16	〃	〃	2.8 × 1.1 × 0.5	1.2	〃	
〃	〃	144	J-18	〃	〃	(3.3)× 1.0 × 0.3	(0.7)	〃	
〃	〃	145	G-21	〃	〃	3.0 × 1.0 × 0.3	0.7	〃	
〃	〃	146	J-18	〃	〃	3.1 × 1.0 × 0.4	0.8	〃	
〃	〃	147	J-8	〃	〃	3.1 × 1.3 × 0.3	1.0	〃	
〃	〃	148	G-23	〃	〃	3.1 × 1.4 × 0.4	1.1	〃 A	

神社	図版	番号	発掘区	名 称	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石 質	備 考	神社	図版	番号	発掘区	名 称	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石 質	備 考
II-85	51-1	141	G-16	石 鏃	I	2.9 × 1.3 × 0.4	1.1	Obs.		II-86	52-1	199	H-18	ウロコ状ピット	I	(2.1) × 1.6 × 0.8	(2.2)	Obs.	
〃	〃	142	A-16	〃	〃	3.2 × 1.2 × 0.3	1.0	〃		〃	〃	200	G-17	〃	〃	(1.8) × 1.8 × 0.8	(1.8)	〃 B-D	
〃	〃	143	G-17	〃	II	3.5 × 1.2 × 0.4	0.9	〃		〃	〃	201	F-20	〃	〃	(3.0) × 1.9 × 0.9	(4.9)	〃	
〃	〃	144	G-16	〃	〃	3.3 × 1.3 × 0.4	1.2	〃 A		〃	〃	202	J-16	〃	〃	(2.6) × 2.4 × 0.8	(4.1)	〃 A	
〃	〃	145	F-18	〃	〃	3.2 × 1.4 × 0.4	1.4	〃		〃	〃	203	G-13	〃	I b	(3.0) × 2.1 × 0.8	(6.6)	〃 B-D	
〃	〃	146	H-17	〃	I	(2.6) × 1.5 × 0.5	(1.8)	〃		〃	〃	204	H-13	〃	〃	(3.5) × 2.5 × 1.0	(9.3)	〃 F-1	
〃	〃	147	B-15	〃	〃	(2.7) × 1.2 × 0.4	(1.1)	Sh.		〃	〃	205	B-23	〃	I	(4.0) × 2.6 × 1.1	(11.4)	〃 B-D	
〃	〃	148	G-19	〃	〃	4.1 × 1.4 × 0.4	2.1	Obs.		〃	〃	206	I-12	〃	I	(4.0) × 2.8 × 0.8	(12.0)	Qua.	
〃	〃	149	D-20	〃	〃	1.9 × 1.0 × 0.3	0.4	〃	中央底	〃	〃	207	E-11	〃	〃	3.3 × 1.7 × 0.5	2.5	Obs.F-1	
〃	〃	150	D-19	〃	〃	1.9 × 1.2 × 0.2	0.4	〃 A	〃	〃	〃	208	D-23	〃	〃	3.1 × 1.8 × 0.7	3.4	〃	
〃	〃	151	C-18	〃	〃	2.3 × 1.0 × 0.2	0.4	〃	〃	〃	〃	209	C-18	〃	〃	3.9 × 2.1 × 0.9	6.7	Aga.	
〃	〃	152	C-12	〃	〃	(2.0) × 1.2 × 0.2	(0.4)	〃	〃	〃	〃	210	H-20	〃	〃	(3.8) × 2.5 × 1.2	(10.8)	Obs.F-1	
〃	〃	153	D-11	〃	II	2.1 × 1.2 × 0.3	0.7	〃	〃	〃	〃	211	B-15	〃	〃	5.5 × 1.5 × 0.9	6.2	Sh.	
〃	〃	154	D-18	〃	I	2.3 × 1.2 × 0.2	0.5	〃 A	〃	〃	〃	212	I-17	〃	II	6.8 × 1.8 × 0.9	9.2	Obs.	
〃	〃	155	F-7	〃	II	2.3 × 1.0 × 0.4	0.7	〃	〃	〃	〃	213	K-26	〃	I	7.0 × 2.7 × 1.4	19.3	〃 F-1	
〃	〃	156	B-16	〃	I	2.2 × 1.5 × 0.5	0.8	〃	〃	〃	〃	214	I-17	〃	II	(2.8) × 3.5 × 0.9	(8.8)	〃 A	
〃	〃	157	H-18	〃	〃	(2.9) × 1.9 × 0.4	(1.4)	〃	〃	〃	〃	215	B-20	〃	I	6.8 × (4.5) × 1.0	(23.8)	〃 A	
〃	〃	158	B-19	〃	〃	1.8 × (0.9) × 0.1	(0.3)	〃	〃	〃	〃	216	D-14	〃	〃	(4.5) × 5.3 × 1.1	(20.6)	〃 A	
〃	〃	159	B-18	〃	〃	2.5 × 1.2 × 0.4	0.9	〃	〃	〃	〃	217	A-14	〃	〃	(4.5) × (3.0) × 0.8	(6.8)	〃 B-D	
〃	〃	160	B-17	〃	〃	2.2 × 2.1 × 0.4	1.7	〃	〃	II-87	52-1	218	J-14	石 鏃	〃	(2.5) × 1.7 × 0.8	(3.1)	〃 F-1	
〃	〃	161	A-26	〃	〃	3.0 × 1.7 × 0.4	1.8	〃 B-D	〃	〃	〃	219	B-12	〃	〃	3.3 × 2.0 × 0.9	4.5	〃	
〃	〃	162	F-22	〃	〃	(2.8) × 1.8 × 0.4	(1.6)	〃	〃	〃	〃	220	G-16	〃	〃	4.0 × (2.5) × 1.1	(6.1)	〃 B-D	
〃	〃	163	D-12	〃	II	2.8 × 2.9 × 0.5	2.5	〃	〃	〃	〃	221	C-19	〃	〃	2.8 × 2.8 × 0.9	4.6	〃 A	
〃	〃	164	A-16	〃	I	(2.9) × 1.9 × 0.5	(2.2)	〃	〃	〃	〃	222	A-22	〃	〃	3.7 × 1.7 × 0.8	3.6	〃 B-D	
〃	〃	165	I-17	〃	〃	(3.1) × 1.7 × 0.5	(1.7)	〃 A	〃	〃	〃	223	H-17	〃	〃	3.0 × 2.5 × 0.6	2.3	〃 F-1	
〃	〃	166	B-14	〃	〃	(2.6) × 2.0 × 0.6	(2.9)	〃 A	〃	〃	〃	224	I-22	〃	〃	3.3 × 2.1 × 1.0	5.2	〃 F-1	
〃	〃	167	E-15	〃	〃	2.4 × 2.3 × 1.0	3.8	〃	〃	〃	〃	225	I-18	〃	〃	3.3 × 2.2 × 0.9	3.3	〃 F-1	
〃	〃	168	H-19	〃	〃	2.3 × 2.1 × 0.3	1.6	〃	〃	〃	〃	226	J-21	〃	〃	3.5 × 2.0 × 0.5	2.9	〃 B-D	
〃	〃	169	D-8	〃	〃	(2.0) × 1.5 × 0.3	(1.2)	〃	〃	〃	〃	227	J-18	〃	〃	4.4 × 2.1 × 1.1	5.2	〃 F-1	
〃	〃	170	F-22	〃	〃	2.9 × 2.3 × 0.5	1.8	Sh.	〃	〃	〃	228	C-20	〃	〃	(3.1) × 4.5 × 0.6	(4.3)	〃	
〃	〃	171	G-25	〃	〃	(2.0) × 2.2 × 0.7	(3.6)	Obs.B-D	〃	〃	〃	229	F-9	〃	〃	(2.1) × 1.2 × 0.8	(1.7)	〃 F-1	
〃	〃	172	D-12	〃	II	2.1 × 2.5 × 0.5	2.6	〃 B-D	〃	〃	〃	230	K-19	〃	〃	3.8 × 2.0 × 1.2	6.0	〃 B-D	
〃	〃	173	H-20	〃	I	3.0 × 1.6 × 0.4	2.1	〃 B-D	〃	〃	〃	231	L-8	〃	II	5.0 × 3.4 × 1.5	12.4	〃 B-D	
〃	〃	174	F-20	〃	II	3.1 × 1.5 × 0.2	1.1	〃	〃	〃	〃	232	A-23	〃	I	4.3 × 2.1 × 1.5	9.3	〃 B-D	
〃	〃	175	F-23	〃	I	2.7 × 2.3 × 0.6	3.0	〃	〃	〃	〃	233	H-17	〃	〃	(1.4) × 0.7 × 0.5	(0.4)	〃 F-1	
〃	〃	176	J-15	〃	〃	(2.3) × 2.5 × 0.4	(2.3)	〃 F-1	〃	〃	〃	234	F-23	〃	〃	4.8 × 1.6 × 0.9	6.8	Ba.	
〃	〃	177	E-16	〃	II	2.5 × 0.9 × 0.4	0.8	〃	〃	〃	〃	235	K-5	〃	〃	(4.0) × 1.1 × 0.7	(2.5)	Sh.	
〃	〃	178	E-12	〃	I	1.7 × 1.2 × 0.3	0.4	〃 A	〃	〃	〃	236	K-10	〃	〃	(2.9) × 1.0 × 0.7	(2.1)	Qua.	
〃	〃	179	H-17	〃	〃	2.1 × 1.3 × 0.2	0.5	〃	〃	〃	〃	237	B-16	〃	II	(2.2) × 0.8 × 0.4	(0.7)	Ba.	
〃	〃	180	K-20	〃	〃	2.3 × 1.2 × 0.2	0.6	〃	〃	〃	〃	238	C-12	〃	〃	(2.2) × 0.8 × 0.7	(1.1)	Cha.	
〃	〃	181	I-9	〃	〃	2.4 × 1.3 × 0.3	0.9	〃	〃	〃	〃	239	B-10	〃	〃	2.1 × 0.6 × 0.5	0.6	Aga.	
〃	〃	182	G-14	〃	〃	2.6 × 1.6 × 0.4	1.4	〃	〃	〃	〃	240	G-17	ウロコ状ピット	I	5.8 × 2.9 × 1.0	13.4	Qua.	
〃	〃	183	A-16	〃	〃	2.4 × 1.9 × 0.3	1.2	〃	〃	〃	〃	241	C-4	〃	〃	(4.8) × 1.8 × 0.8	(5.8)	Obs.F-1	
〃	〃	184	H-17	〃	〃	2.7 × 1.6 × 0.4	1.8	〃	〃	〃	〃	242	J-15	〃	〃	4.3 × 2.8 × 0.4	5.7	Sh.	
〃	〃	185	J-15	〃	〃	(2.4) × 1.9 × 0.4	(1.3)	〃	〃	〃	〃	243	G-14	〃	〃	(4.7) × 2.1 × 0.6	(4.8)	〃	
〃	〃	186	K-18	〃	〃	2.4 × 1.6 × 0.4	1.6	〃	〃	〃	〃	244	H-26	〃	II	4.7 × 2.0 × 0.8	7.0	〃	
〃	〃	187	H-17	〃	II	(1.8) × 1.8 × 0.3	(1.0)	〃	〃	〃	〃	245	I-20	〃	〃	5.7 × 1.7 × 0.8	5.4	〃	
〃	〃	188	A-18	〃	I	2.2 × 1.5 × 0.4	1.2	Sh.	〃	〃	〃	246	J-17	〃	〃	(2.5) × 2.1 × 0.9	(3.1)	Obs.	
〃	〃	189	G-14	〃	〃	(1.5) × 1.5 × 0.2	(0.3)	Obs.	〃	II-88	52-2	247	D-4	スリムピット	〃	2.5 × 2.6 × 0.6	4.0	〃 F-1	
〃	〃	190	H-22	〃	〃	1.9 × 1.1 × 0.3	0.6	〃	〃	〃	〃	248	L-9	〃	〃	2.7 × 3.0 × 0.9	7.3	〃 B-D	
II-86	38	191	H-16	ウロコ状ピット	〃	6.4 × 2.5 × 0.8	9.9	〃	〃	〃	〃	249	A-26	〃	〃	3.1 × 3.0 × 1.1	8.0	〃 F-1	
〃	51-2	192	H-13	〃	〃	5.1 × 2.7 × 0.8	8.4	〃 F-1	〃	〃	〃	250	B-7	〃	〃	2.8 × 2.9 × 0.8	6.4	〃 B-D	
〃	〃	193	C-10	〃	〃	(3.5) × 2.2 × 0.7	(3.1)	〃 F-1	〃	〃	〃	251	B-13	〃	〃	3.2 × 2.9 × 1.1	11.4	〃 B-D	
〃	〃	194	G-16	〃	II	(3.6) × 2.6 × 0.7	(5.1)	〃	〃	〃	〃	252	G-18	〃	〃	2.9 × 3.7 × 1.1	10.3	〃 F-1	
〃	〃	195	D-19	〃	I	2.7 × 2.4 × 0.5	2.1	〃	〃	〃	〃	253	J-18	〃	〃	3.4 × 3.3 × 1.9	14.6	〃	
〃	〃	196	J-18	〃	〃	(3.3) × 2.3 × 0.7	(3.0)	〃 F-1	〃	〃	〃	254	G-18	〃	〃	3.8 × 3.3 × 1.8	21.3	〃 A	
〃	〃	197	G-16	〃	〃	(1.4) × 3.1 × 1.0	(4.3)	〃 B-D	〃	〃	〃	255	F-9	〃	〃	3.9 × 4.3 × 2.3	22.1	〃 B-D	
〃	〃	198	K-11	〃	〃	(1.8) × 1.4 × 0.4	(0.9)	〃 B-D	〃	〃	〃	256	B-15	〃	〃	4.3 × 3.2 × 0.9	14.0	〃 B-D	

時代	遺構	番号	型式	名称	種別	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
II-86	52-2	257	K-20	スタレイパー	I	3.3 × 2.7 × 1.0	7.9	Obs.B-D	
〃	〃	258	F-15	〃	〃	3.4 × 3.1 × 0.9	9.6	〃 B-D	
〃	〃	259	B-23	〃	〃	3.6 × 3.0 × 1.0	9.9	〃 B-D	
〃	〃	260	G-9	〃	I	3.4 × 3.0 × 0.5	6.2	〃 A	
〃	〃	261	G-14	〃	〃	2.5 × 2.8 × 1.0	6.9	〃 B-D	
〃	〃	262	H-8	〃	〃	3.5 × 3.1 × 0.9	7.4	〃 B-D	
〃	〃	263	G-16	〃	II	4.3 × 4.4 × 1.3	17.1	〃 A	
〃	〃	264	K-20	〃	I	5.4 × 3.4 × 1.3	22.3	〃 B-D	
〃	〃	265	K-18	〃	〃	2.8 × 3.0 × 1.1	8.8	Che.	
〃	〃	266	K-18	〃	〃	3.6 × 2.2 × 1.0	7.5	Sh.	
〃	〃	267	K 13	〃	〃	3.6 × 2.0 × 0.9	5.5	Obs.	
〃	〃	268	H-20	〃	II	4.1 × 3.1 × 0.9	12.0	Qua.	
〃	〃	269	G-18	〃	I	4.8 × 2.3 × 1.2	14.0	Sh.	
〃	〃	270	H 16	〃	II	5.1 × 3.4 × 1.3	16.1	Obs.F-1	
II-89	〃	271	L-25	〃	I	2.8 × 2.7 × 0.7	5.4	〃	
〃	〃	272	F-17	〃	〃	2.8 × 3.0 × 0.8	7.2	〃 B-D	
〃	〃	273	H-11	〃	〃	3.8 × 2.8 × 0.8	8.6	〃 B-D	
〃	〃	274	F-7	〃	〃	2.8 × 3.0 × 1.0	6.8	〃 F-1	
〃	〃	275	G-9	〃	〃	2.8 × 3.1 × 0.7	4.3	〃 B-D	
〃	〃	276	F-3	〃	〃	(3.1)× 2.8 × 1.0	(10.6)	〃 B-D	
〃	〃	277	J-11	〃	〃	3.1 × 2.7 × 1.2	9.5	〃 B-D	
〃	〃	278	G-14	〃	〃	3.1 × 2.7 × 1.0	9.1	〃 F-1	
〃	〃	279	G-18	〃	〃	2.9 × 2.7 × 0.7	7.4	Sh.	
〃	〃	280	K-19	〃	II	3.5 × 2.6 × 0.5	5.1	Obs.B-D	
〃	〃	281	F-16	〃	I	3.9 × 3.3 × 1.2	19.1	〃 F-1	
〃	〃	282	G-15	〃	〃	4.0 × 3.1 × 0.7	6.2	Sh.	
〃	〃	283	D-10	〃	〃	3.6 × 2.6 × 0.8	7.5	Obs.	
〃	〃	284	E-22	〃	〃	3.8 × 2.6 × 0.9	7.8	〃 F-1	
〃	〃	285	A-15	〃	〃	2.9 × 2.5 × 0.9	5.7	〃	
〃	〃	286	J-18	〃	〃	2.3 × 2.5 × 0.7	4.4	〃 B-D	
〃	〃	287	D-12	〃	〃	3.7 × 2.9 × 0.9	10.7	〃 B-D	
〃	〃	288	K-14	〃	〃	4.0 × 3.4 × 1.2	14.6	〃 F-1	
〃	〃	289	G-14	〃	〃	3.5 × 3.3 × 1.2	14.8	〃	
〃	〃	290	J-13	〃	II	3.5 × 2.6 × 1.1	11.5	〃 B-D	
〃	〃	291	I-5	〃	I	7.2 × 4.0 × 1.3	33.9	〃 B-D	
〃	〃	292	K-6	〃	II	5.5 × 3.6 × 1.2	21.8	〃 A	
〃	〃	293	G-16	〃	I	11.5 × 4.2 × 1.3	61.4	Sh.	
II-90	〃	294	E-15	〃	〃	(3.7)× 1.8 × 1.0	(7.2)	Obs.B-D	
〃	〃	295	K-23	〃	〃	4.2 × 2.1 × 1.1	10.0	〃 B-D	
〃	〃	296	G-15	〃	II	(4.7)× 3.0 × 0.9	(14.6)	〃 B-D	
〃	〃	297	F-19	〃	I	8.4 × 3.6 × 1.3	38.8	〃 B-D	
〃	〃	298	L-22	〃	〃	(8.6)× 4.9 × 1.5	(51.5)	Sh.	
〃	53-1	299	C-12	〃	II	6.5 × 3.9 × 1.1	26.6	Obs.B-D	
〃	〃	300	H-16	〃	I	(7.7)× 3.1 × 1.5	(25.9)	Sh.	
〃	〃	301	C-14	〃	〃	7.5 × 2.7 × 0.9	20.3	Obs.B-D	
〃	〃	302	J-18	〃	〃	5.3 × 2.5 × 1.5	21.2	Aga.	
〃	〃	303	G-10	〃	〃	4.8 × 2.6 × 0.6	7.9	Obs.B-D	
〃	〃	304	A-15	〃	〃	(4.1)× 2.8 × 0.8	(8.1)	〃 B-D	
〃	〃	305	A-14	〃	〃	(4.6)× 1.9 × 1.0	(7.6)	〃 B-D	
〃	〃	306	J-12	〃	〃	4.1 × 3.8 × 0.8	11.1	〃 B-D	
〃	〃	307	B-17	〃	〃	(4.2)× 3.3 × 1.2	(13.9)	〃 B-D	
〃	〃	308	G-8	〃	II	(4.8)× 4.0 × 1.2	(18.8)	〃 B-D	
〃	〃	309	L-22	〃	I	6.5 × 3.8 × 1.5	30.0	〃 B-D	
〃	〃	310	G-21	〃	〃	4.2 × 2.3 × 1.0	8.7	〃	
II-91	〃	311	J-16	〃	〃	3.6 × 2.3 × 0.7	5.3	〃 B-D	
〃	〃	312	G-20	〃	〃	4.5 × 2.2 × 1.0	9.2	〃 F-1	
〃	〃	313	E-19	〃	II	4.1 × 2.1 × 0.8	6.7	〃 B-D	
〃	〃	314	J-17	〃	I	3.2 × 1.8 × 0.6	3.6	〃 F-1	

時代	遺構	番号	型式	名称	種別	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
II-91	53-1	315	J-16	スタレイパー	I	3.2 × 1.5 × 0.9	3.6	Obs.F-1	
〃	〃	316	J-20	〃	II	8.3 × 2.2 × 0.7	9.6	〃 B-D	
〃	〃	317	B-11	〃	I	(7.6)× 3.9 × 1.7	(45.9)	〃 B-D	
〃	〃	318	K-14	〃	〃	(8.4)× 4.3 × 1.4	(51.3)	〃 B-D	
〃	〃	319	E-21	〃	〃	5.0 × 2.9 × 1.3	13.8	〃 B-D	
〃	〃	320	B-20	〃	〃	4.8 × 3.7 × 1.5	24.5	〃 A	
〃	〃	321	D-8	〃	〃	(4.2)× 4.4 × 1.5	(23.8)	Sh.	
〃	〃	322	A-14	〃	II	5.8 × 4.0 × 1.4	23.4	Obs.A	
〃	〃	323	F-24	〃	I	5.5 × 3.1 × 1.2	14.4	〃	
〃	〃	324	F-12	〃	〃	4.5 × 3.6 × 1.2	15.9	〃	
〃	〃	325	L-8	〃	〃	9.0 × 7.5 × 1.7	105.6	〃 B-D	
〃	〃	326	F-20	〃	II	4.8 × 3.8 × 0.8	12.9	〃 B-D	
II-92	〃	327	F-21	〃	I	4.4 × 2.2 × 1.7	14.7	〃 F-1	
〃	〃	328	J-13	〃	〃	5.7 × 4.2 × 1.6	29.6	〃 B-D	
〃	〃	329	F-21	〃	〃	4.7 × 3.4 × 1.4	21.3	〃	
〃	〃	330	G-21	〃	II	(5.8)× 3.8 × 0.7	(15.0)	〃 B-D	
〃	〃	331	J-8	〃	I	6.1 × 3.6 × 1.8	24.8	〃 B-D	
〃	〃	332	I-9	〃	〃	(5.9)× 4.3 × 0.9	(21.3)	〃 B-D	
〃	〃	333	I-18	〃	〃	5.0 × 1.6 × 1.2	9.6	〃	
〃	〃	334	F-7	〃	〃	5.2 × 1.7 × 1.9	9.4	〃	
〃	〃	335	D-21	〃	〃	5.1 × 2.1 × 0.6	8.4	Sh.	
〃	53-2	336	G-14	〃	〃	5.6 × 1.8 × 1.1	9.4	Obs.B-D	
〃	〃	337	D-11	〃	〃	4.5 × 1.8 × 1.0	8.0	〃 B-D	
〃	〃	338	F-13	〃	〃	4.5 × 1.9 × 0.9	10.4	〃 B-D	
〃	〃	339	F-18	〃	〃	3.5 × 3.1 × 1.2	14.5	〃 F-1	
〃	〃	340	J-16	〃	〃	3.8 × 1.4 × 0.5	2.3	〃	
〃	〃	341	G-15	〃	〃	9.2 × 6.9 × 0.8	48.8	Sh.	
〃	〃	342	E-24	〃	〃	4.3 × 1.8 × 1.0	6.8	Obs.F-1	
〃	〃	343	F-22	〃	〃	5.1 × 3.1 × 1.1	17.0	〃	
II-93	〃	344	D-20	〃	〃	5.4 × 3.2 × 1.2	19.3	〃 F-1	
〃	〃	345	A-17	〃	〃	5.5 × 1.5 × 1.3	9.6	〃 F-1	
〃	〃	346	B-15	〃	〃	4.3 × 2.0 × 1.1	11.0	〃 F-1	
〃	〃	347	D-11	〃	〃	4.5 × 2.5 × 1.0	10.8	〃 B-D	
〃	〃	348	G-17	〃	〃	4.8 × 2.8 × 1.4	10.1	〃 F-1	
〃	〃	349	A-17	〃	〃	3.7 × 2.0 × 0.8	5.6	〃	
〃	〃	350	F-20	〃	〃	4.3 × 2.3 × 1.3	10.5	〃 F-1	
〃	〃	351	E-21	〃	〃	3.4 × 1.8 × 1.0	5.0	〃	
〃	〃	352	C-13	〃	〃	3.8 × 2.3 × 0.9	5.9	〃 F-1	
〃	〃	353	A-9	〃	〃	5.6 × 2.6 × 1.3	17.4	〃 F-1	
〃	〃	354	A-15	〃	〃	5.3 × 2.9 × 0.9	11.0	〃 F-1	
〃	〃	355	K-22	〃	〃	4.0 × 2.0 × 1.1	5.3	〃 F-1	
〃	〃	356	A-18	〃	〃	3.3 × 1.8 × 0.8	5.5	〃 F-1	
〃	〃	357	C-13	〃	〃	2.9 × 3.6 × 0.6	5.8	〃 F-1	
〃	〃	358	E-24	〃	II	3.7 × 4.0 × 0.7	8.2	〃 A	
〃	〃	359	B-19	〃	I	3.8 × 3.4 × 1.0	8.4	〃 F-1	
〃	〃	360	E-22	〃	〃	4.0 × 4.3 × 0.6	6.2	Sh.	
〃	〃	361	J-14	〃	〃	3.8 × 2.5 × 0.7	5.6	Obs.B-D	
〃	〃	362	E-20	〃	〃	4.9 × 3.1 × 1.3	15.0	〃 F-1	
〃	〃	363	F-21	〃	〃	4.9 × 2.5 × 0.8	4.8	〃 B-D	
〃	〃	364	A-9	〃	〃	5.5 × 2.4 × 0.9	9.4	〃 B-D	
〃	〃	365	A-19	〃	〃	3.9 × 1.8 × 0.7	3.2	〃 B-D	
〃	〃	366	C-12	〃	〃	5.5 × 2.6 × 1.0	11.6	〃 B-D	
II-94	〃	367	B-24	〃	II	(5.7)× 2.4 × 0.9	(10.7)	〃 B-D	
〃	〃	368	L-5	〃	I	3.8 × 2.3 × 1.3	11.0	〃 B-D	
〃	〃	369	H-19	〃	〃	4.3 × 1.9 × 1.1	8.8	〃 B-D	
〃	〃	370	E-22	〃	〃	3.8 × 2.7 × 1.2	9.1	〃	
〃	〃	371	K-20	〃	〃	4.3 × 2.9 × 0.8	8.5	〃 B-D	
〃	〃	372	F-22	〃	〃	4.4 × 2.6 × 0.7	6.3	〃 F 1	

時期	型式	番号	地域記	名 称	種位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石 質	備 考
II-94	53-2	373	E-17	スクレイパー	I	3.4 × 2.2 × 0.9	7.5	Obs.B-D	
〃	〃	374	G-17	〃	I	4.4 × 2.5 × 0.8	8.7	〃 F-I	
〃	〃	375	E-21	〃	〃	3.5 × 2.9 × 1.3	12.6	〃 B-D	
〃	〃	376	A-20	〃	〃	3.4 × 2.2 × 1.0	6.6	〃 B-D	
〃	〃	377	C-18	〃	〃	2.9 × 2.4 × 0.8	5.1	〃 F-I	
〃	〃	378	G-14	〃	〃	3.2 × 2.2 × 0.7	4.3	Sh.	
〃	〃	379	E-20	〃	〃	3.1 × 2.0 × 0.7	3.2	Obs.	
〃	〃	380	H-18	〃	〃	6.9 × 3.9 × 1.3	31.0	〃 B-D	
〃	〃	381	J-17	〃	〃	5.2 × 3.2 × 0.9	15.3	〃 B-D	
〃	〃	382	F-17	〃	II	(5.8)× 2.5 × 1.3	(16.3)	〃 B-D	
〃	〃	383	L-9	〃	I	4.7 × 2.8 × 0.6	6.0	〃 B-D	
〃	〃	384	G-4	〃	II	(6.2)× 5.0 × 1.5	(23.1)	〃 B-D	
〃	〃	385	C-13	〃	I	(3.4)× 5.3 × 0.9	(14.1)	〃 B-D	
〃	〃	386	J-19	〃	〃	3.9 × 3.1 × 1.1	30.2	〃	
〃	〃	387	A-22	〃	〃	5.2 × 4.0 × 1.7	39.2	〃 B-D	
II-95	〃	388	B-15	〃	II	5.5 × 3.8 × 1.4	17.4	〃 B-D	
〃	54-1	389	F-7	〃	I	4.4 × 2.8 × 1.3	9.3	〃 F-I	
〃	〃	390	C-15	〃	II	4.2 × 4.1 × 1.3	15.3	〃 B-D	
〃	〃	391	B-15	〃	〃	4.4 × 3.7 × 1.6	12.3	〃 F-I	
〃	〃	392	I-18	〃	I	4.2 × 3.1 × 1.1	11.7	〃 B-D	
〃	〃	393	B-16	〃	〃	4.2 × 3.2 × 1.2	8.0	〃 F-I	
〃	〃	394	J-14	〃	〃	3.7 × 3.7 × 1.3	11.4	〃 B-D	
〃	〃	395	L-9	〃	〃	4.8 × 3.0 × 0.9	7.3	〃 F-I	
〃	〃	396	L 9	〃	〃	4.3 × 3.4 × 1.1	14.0	〃 B-D	
〃	〃	397	J-16	〃	〃	4.0 × 3.5 × 1.1	11.5	〃 B-D	
〃	〃	398	A-22	〃	II	3.2 × 2.8 × 1.1	9.6	〃 B-D	
〃	〃	399	C-13	〃	I	3.1 × 3.7 × 1.1	9.4	〃 B-D	
〃	〃	400	A 16	〃	〃	3.8 × 3.5 × 1.4	15.2	〃 B-D	
〃	〃	401	C-18	〃	〃	3.5 × 4.0 × 0.7	8.4	〃 B-D	
〃	〃	402	G-8	〃	〃	4.8 × 1.9 × 0.9	8.1	〃 F-I	
〃	〃	403	G-16	〃	〃	5.5 × 2.7 × 0.9	8.9	〃 B-D	
〃	〃	404	B-14	〃	〃	5.8 × 2.7 × 1.3	13.4	〃 B-D	
〃	〃	405	H-6	〃	〃	5.1 × 2.1 × 0.7	4.8	〃 B-D	
〃	〃	406	F-21	〃	〃	4.2 × 2.2 × 0.6	5.6	〃 F-I	
II-96	〃	407	F-8	〃	II	3.4 × 1.8 × 0.8	4.5	〃 B-D	
〃	〃	408	B-13	〃	〃	2.9 × 3.9 × 0.8	7.0	〃 B-D	
〃	〃	409	D-12	〃	〃	7.6 × 4.3 × 1.5	28.2	〃 B-D	
〃	〃	410	H-8	〃	I	3.3 × 1.6 × 0.5	3.1	〃 B-D	
〃	〃	411	E-19	〃	〃	4.7 × 4.2 × 1.7	21.3	〃 F-I	
〃	〃	412	L-8	〃	〃	4.5 × 3.6 × 0.9	11.4	〃 B-D	
〃	〃	413	A-19	〃	〃	4.8 × 3.2 × 1.9	21.8	〃 B-D	
〃	〃	414	F-8	〃	II	5.2 × 2.5 × 1.5	12.4	〃 B-D	
〃	〃	415	A-21	〃	I	2.8 × 5.1 × 0.8	8.9	〃 B-D	
〃	〃	416	A-18	〃	〃	3.3 × 4.6 × 0.7	7.9	〃 F-I	
〃	〃	417	A-17	〃	〃	3.1 × 2.6 × 0.8	5.3	〃 J	
〃	〃	418	C-7	〃	〃	2.2 × 2.9 × 1.2	6.1	〃 B-D	
〃	〃	419	I-22	〃	I	4.0 × 3.0 × 1.4	14.4	Aga.	
〃	〃	420	C-10	〃	〃	3.3 × 4.6 × 1.0	10.6	Obs.B-D	
〃	〃	421	C-10	〃	〃	3.2 × 4.9 × 1.4	16.0	〃 B-D	
〃	〃	422	F-7	〃	〃	3.4 × 2.8 × 0.8	5.4	〃 B-D	
〃	〃	423	B-14	〃	〃	3.5 × 2.3 × 0.6	4.8	〃 B-D	
〃	〃	424	J-19	〃	〃	5.3 × 2.5 × 1.0	11.5	〃 B-D	
〃	〃	425	J-19	〃	〃	5.3 × 3.1 × 1.1	15.0	〃 A	
II-97	〃	426	D 13	〃	〃	11.9 × 6.7 × 1.9	171.8	And.	
〃	〃	427	B-12	〃	〃	9.5 × 4.3 × 1.4	62.0	〃	
〃	〃	428	B-20	〃	〃	7.2 × 5.0 × 1.3	62.1	〃	
〃	〃	429	H-13	〃	〃	6.7 × 7.3 × 1.8	68.5	〃	
〃	〃	430	G-8	〃	〃	9.1 × 5.2 × 1.9	43.9	〃	

時期	型式	番号	地域記	名 称	種位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石 質	備 考
II-97	54-1	432	B-18	スクレイパー	I	5.7 × 5.2 × 1.2	39.8	And.	
〃	〃	433	G-21	〃	〃	4.5 × 5.5 × 0.9	17.4	〃	
〃	54-2	433	C-11	石 核	〃	4.1 × 5.8 × 3.5	94.4	Obs.F-I	
〃	〃	434	J-16	〃	〃	4.1 × 3.9 × 2.2	34.8	〃 F-I	
〃	〃	435	H-4	〃	〃	2.5 × 3.8 × 1.6	15.1	〃 F-I	
〃	〃	436	I-21	〃	〃	2.9 × 3.8 × 1.5	15.8	〃 F-I	
〃	〃	437	G-19	〃	〃	3.8 × 4.5 × 2.3	34.3	〃 F-I	
II-98	〃	438	B-13	〃	〃	3.4 × 4.6 × 2.9	30.9	〃 F-I	
〃	〃	439	B-17	〃	〃	4.0 × 4.2 × 3.4	34.8	〃 F-I	
〃	〃	440	L-9	〃	〃	2.7 × 3.1 × 2.6	22.0	〃 F-I	
〃	〃	441	B-16	〃	〃	2.7 × 5.0 × 2.5	29.8	〃 F-I	
〃	〃	442	H-16	〃	〃	4.0 × 3.4 × 2.6	28.1	Sh.	
〃	〃	443	G-14	〃	〃	4.3 × 5.7 × 3.8	81.1	Obs.	
〃	〃	444	F-20	〃	〃	2.8 × 4.4 × 2.8	32.1	〃	
〃	〃	445	K-13	〃	〃	3.5 × 2.1 × 1.9	14.9	〃	
〃	〃	446	C-19	〃	〃	5.4 × 4.2 × 3.7	93.0	〃 F-I	
〃	〃	447	I-9	〃	〃	2.3 × 6.2 × 1.4	25.0	〃 B-D	
〃	〃	448	H-13	棒状礫 石	〃	10.2 × 1.8 × 1.2	23.4	〃 B-D	
〃	〃	449	I-19	〃	〃	5.5 × 1.8 × 1.0	9.4	〃 B-D	
〃	〃	450	G-18	〃	〃	5.0 × 2.3 × 0.7	6.9	〃 B-D	
〃	〃	451	G-15	〃	〃	4.8 × 1.5 × 0.7	4.6	〃 B-D	
〃	〃	452	G-17	〃	〃	3.7 × 1.5 × 1.4	12.3	〃 B-D	
II-99	55-1	453	D-15	石 斧	〃	9.2 × 6.0 × 1.6	189.5	Gr-Mud.	
〃	〃	454	C-28	〃	〃	7.6 × 2.7 × 1.3	37.6	〃	
〃	〃	455	D-22	〃	〃	5.4 × 2.2 × 1.0	14.1	〃	
〃	〃	456	E-16	〃	〃	8.0 × 3.4 × 1.5	62.5	〃	
〃	〃	457	H-13	〃	〃	11.2 × 4.6 × 1.2	49.2	〃	
〃	〃	458	H-16	〃	〃	8.2 × 3.8 × 1.2	60.4	〃	
〃	〃	459	C-18	〃	II	6.9 × 3.2 × 1.2	48.8	〃	
〃	〃	460	C-14	〃	I	5.7 × 3.1 × 1.3	41.2	〃	
〃	〃	461	J-16	〃	〃	7.6 × 3.7 × 1.8	82.8	〃	
〃	〃	462	C-12	〃	II	5.4 × 4.5 × 1.3	61.6	〃	
II-100	〃	463	C-20	〃	I	5.5 × 2.1 × 1.0	17.4	〃	
〃	〃	464	C-19	〃	〃	6.4 × 4.0 × 0.8	33.0	Sch.	
〃	〃	465	G-21	〃	〃	7.1 × 3.6 × 1.2	55.4	〃	
〃	〃	466	H-20	〃	〃	5.3 × 3.4 × 0.6	19.6	Gr-Mud.	
〃	〃	467	K-13	〃	〃	5.3 × 3.5 × 0.7	25.7	〃	
〃	〃	468	G-21	〃	II	4.3 × 4.2 × 1.4	44.0	Sch.	
〃	〃	469	C-7	〃	I	10.7 × 3.9 × 1.3	108.3	〃	
〃	〃	470	G-14	〃	〃	10.1 × 3.9 × 0.5	36.8	〃	
〃	〃	471	K-25	〃	〃	12.8 × 3.7 × 1.4	64.5	〃	
〃	〃	472	C-21	〃	〃	9.3 × 3.2 × 1.2	60.0	Gr-Mud.	
〃	〃	473	G-14	〃	〃	9.3 × 3.6 × 0.9	52.2	Sch.	
〃	55-2	474	E-11	〃	〃	(6.3)× 4.9 × 1.7	(59.8)	〃	
II-101	〃	475	F-7	〃	〃	(6.1)× 4.0 × 1.2	(58.7)	〃	
〃	〃	476	H-12	〃	〃	(4.8)× 3.8 × 0.9	(23.4)	Gr-Mud.	
〃	〃	477	C-8	〃	〃	(10.4)× 5.6 × 1.3	(142.3)	〃	
〃	〃	478	B-26	〃	〃	8.6 × 4.7 × 1.4	88.8	〃	
〃	〃	479	H-25	〃	〃	7.8 × 4.2 × 1.3	68.5	〃	
〃	〃	480	E-19	〃	I	7.7 × 2.8 × 1.2	36.0	〃	
〃	〃	481	J-21	〃	〃	9.1 × 2.6 × 0.8	27.6	Sch.	
〃	〃	482	H-19	〃	II	12.2 × 3.2 × 0.8	54.9	〃	
〃	〃	483	J-25	〃	I	8.5 × 2.1 × 0.5	24.0	〃	
II-102	〃	484	J-19	〃	〃	9.1 × 5.5 × 1.4	118.7	Gr-Mud.	東北出
〃	〃	485	E-14	〃	〃	8.8 × 4.9 × 1.8	116.3	〃	東北
〃	〃	486	B-25	〃	〃	16.1 × 3.9 × 1.7	273.5	〃	東北出
〃	〃	487	I1-9	〃	〃	(5.7)× 4.1 × 2.8	(89.3)	〃	
〃	〃	488	B-18	〃	II	10.3 ×(2.8)× 1.8	(75.5)	Sch.	

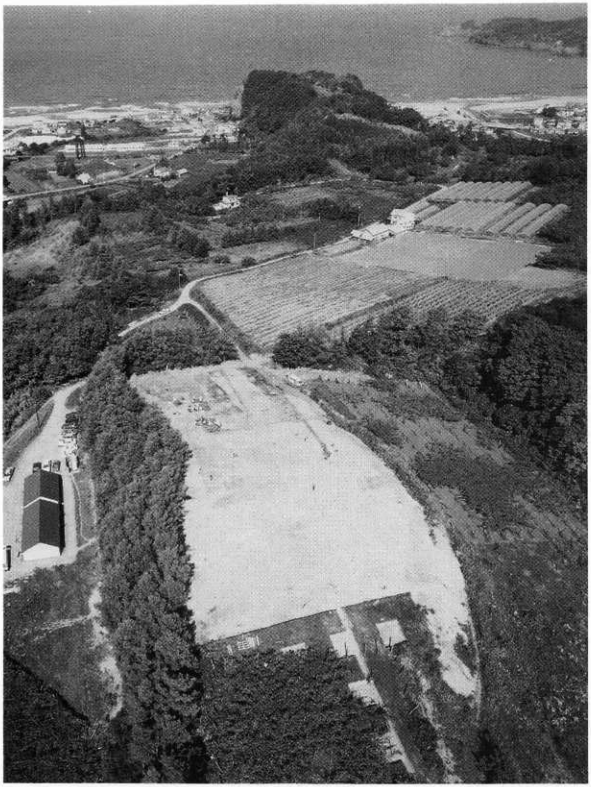
神武	図版	番号	実測図	名称	種位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
Ⅱ-102	55-2	489	D-28	石斧	Ⅰ	9.8×3.5×1.7	186.6	Sch.	
Ⅱ-108	〃	490	D-18	〃	〃	11.3×5.1×2.7	388.1	Gr-Mud.	
〃	56-1	491	E-17	〃	〃	(12.7)×5.2×2.9	(347.9)	〃	
〃	〃	492	K-7	〃	〃	16.5×5.0×3.1	408.4	Sa.	
〃	〃	493	B-15	〃	〃	(13.4)×4.7×2.7	(380.4)	〃	
〃	〃	494	磨石	〃	〃	6.0×3.0×1.8	57.4	〃	
〃	〃	495	H-13	〃	Ⅱ b	9.0×3.8×2.8	137.6	〃	
Ⅱ-110	〃	496	C-7	〃	Ⅰ	(12.5)×5.5×2.9	(365.5)	Gr-Mud.	
〃	〃	497	C-20	〃	〃	(10.4)×5.1×3.8	(305.5)	Sa.	
〃	〃	498	J-9	〃	Ⅱ	15.8×3.9×2.4	250.3	Gr-Mud.	
〃	〃	499	J-17	〃	Ⅰ	14.3×4.8×2.8	345.4	Sa.	
Ⅱ-105	〃	500	C-7	〃	〃	18.2×5.2×3.2	508.0	Gnt.	
〃	〃	501	C-7	〃	〃	(13.1)×5.2×3.0	(345.7)	Mud.	
〃	〃	502	C-7	〃	〃	(12.0)×5.2×3.6	(449.3)	Sa.	
〃	〃	503	C-7	〃	〃	(13.9)×6.0×3.7	(588.0)	Gr-Mud.	
Ⅱ-106	56-2	504	F-12	たたき石	〃	16.3×10.4×4.6	860.8	And.	
〃	〃	505	E-4	〃	〃	17.5×8.7×5.6	1,000.0	〃	
〃	〃	506	D-20	〃	〃	(9.3)×7.2×5.2	(389.0)	Qua.	
〃	〃	507	K-11	〃	〃	14.1×2.0×4.2	540.0	Ant.	
〃	〃	508	F-9	〃	〃	11.9×7.4×5.7	890.0	Qua.	
〃	〃	509	J-14	〃	〃	10.5×6.0×4.4	420.0	And.	
Ⅱ-107	〃	510	G-21	〃	Ⅱ	12.4×7.7×5.0	690.0	〃	
〃	〃	511	G-15	〃	Ⅰ	11.6×5.3×3.6	210.0	〃	
〃	57-1	512	G-13	〃	Ⅱ b	7.3×5.8×3.7	220.0	Qua.	
〃	〃	513	F-4	〃	Ⅰ	8.0×4.8×4.4	210.0	〃	
〃	〃	514	A-19	〃	Ⅱ	8.1×7.6×3.9	320.0	〃	
〃	〃	515	C-26	〃	Ⅰ	8.2×7.3×3.4	260.0	〃	
〃	〃	516	K-17	〃	Ⅱ	10.8×8.5×4.1	400.0	And.	
〃	〃	517	A-21	〃	Ⅰ	9.6×7.0×6.9	640.0	Mud.	

神武	図版	番号	実測図	名称	種位	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
Ⅱ-106	57-1	518	B-18	たたき石	Ⅰ	4.4×3.9×3.3	76.5	Mud.	
〃	〃	519	E-17	〃	Ⅱ	7.5×6.8×5.8	380.0	And.	
〃	〃	520	C-18	〃	Ⅰ	7.7×7.2×4.8	360.0	Qua.	
〃	〃	521	C-20	〃	Ⅱ	14.0×8.0×2.7	310.0	And.	
〃	57-2	522	G-16	〃	〃	5.8×5.7×5.3	260.0	Qua.	
〃	〃	523	G-14	〃	〃	9.8×8.9×8.1	950.0	And.	
〃	〃	524	B-13	〃	Ⅰ	7.8×6.9×5.2	340.0	Qua.	
〃	〃	525	J-15	すり石	〃	12.8×9.8×3.1	451.4	And.	
Ⅱ-109	〃	526	K-24	敲石	〃	6.1×6.0×1.2	54.7	Tu.	
〃	〃	527	G-16	〃	〃	5.5×4.6×1.8	39.5	〃	
〃	〃	528	G-17	〃	〃	6.0×5.9×1.5	35.7	〃	
〃	〃	529	G-20	〃	〃	5.4×5.6×2.7	72.8	〃	
〃	〃	530	H-22	〃	〃	6.4×4.3×1.7	42.8	〃	
〃	〃	531	C-22	〃	〃	7.2×4.8×1.4	69.4	〃	
〃	〃	532	C-10	〃	〃	3.6×4.7×1.2	21.8	〃	
〃	〃	533	D-9	〃	〃	2.7×4.8×2.7	56.5	〃	
〃	〃	534	K-9	〃	〃	8.8×7.7×3.3	151.4	〃	
〃	〃	535	B-15	〃	〃	20.2×10.1×1.7	335.5	〃	
〃	〃	536	G-17	〃	〃	14.1×15.2×3.9	795.0	〃	
Ⅱ-110	〃	537	E-22	火熱痕礫	〃	3.7×3.8×2.2	15.6	We-Tu.	
〃	〃	538	D-15	〃	〃	16.3×3.9×2.8	(33.0)	〃	
〃	〃	539	A-9	石錘	〃	7.5×7.8×1.5	112.4	Tu.	
〃	58-1	540	M-7	台石	〃	14.1×10.9×4.3	560.0	And.	
〃	〃	541	B-9	〃	〃	21.8×12.5×4.3	1,500.0	〃	
〃	〃	542	I-7	〃	〃	16.8×15.8×8.1	2,590.0	〃	
Ⅱ-111	〃	543	B-14	〃	横臼	17.2×11.6×11.6	2,000.0	〃	
〃	〃	544	H-17	〃	Ⅱ	13.6×12.2×7.2	2,500.0	〃	
〃	〃	545	E-23	〃	〃	21.7×21.5×7.3	4,500.0	〃	

表8　包含層掲載土製品・石製品一覧

神武	図版	番号	名称	大きさ 長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石質	種位	遺構・発掘区	備考
Ⅱ-112	59	1	土偶片	(12.3)×(15.5)×(6.1)	(371.6)		Ⅰ	P 2-24・H-17	
〃	〃	2	〃	(3.1)×(3.6)×(2.7)	(13.7)		〃	H-16	
〃	〃	3	〃	(5.7)×(5.1)×(1.3)	(20.6)		〃	H-17	赤色顔料付着
〃	〃	4	〃	(8.5)×(7.7)×(1.2)	(45.7)		〃	P 2・H-17	
〃	〃	5	〃	(6.1)×(6.5)×(1.7)	(34.3)		〃	H-17	赤色顔料付着
〃	〃	6	〃	(6.9)×(7.9)×(1.8)	(82.3)		〃	H-17	
〃	〃	7	〃	(9.3)×(6.9)×(2.1)	(59.7)		Ⅰ・Ⅱ	H-17・I-17・J-17	赤色顔料付着
〃	〃	8	〃	(9.6)×(6.4)×(2.9)	(99.7)		Ⅰ	H-17	〃
Ⅱ-113	〃	9	〃	(6.4)×(6.7)×(1.7)	(54.5)		〃	H-17	〃
〃	〃	10	〃	(5.4)×(3.9)×(5.1)	(58.2)		〃	P 2-176, 178・H-17	〃
〃	〃	11	〃	(5.8)×(8.0)×(4.1)	(74.4)		〃	H-17	
〃	〃	12	〃	(3.8)×(3.9)×(1.7)	(17.6)			P 2-82	赤色顔料付着
〃	〃	13	〃	(5.5)×(3.6)×(13.1)	(36.3)		Ⅰ	K-19	〃
〃	〃	14	〃	(11.3)×(3.2)×(3.6)	(103.9)		〃	P 2-187・H-17	〃
〃	〃	15	〃	(6.3)×(3.8)×(4.0)	(70.1)		〃	H-17	〃
〃	60-1	16	〃	(2.4)×(6.5)×(4.3)	(42.2)		〃	H-17	
〃	〃	17	〃	(2.5)×(8.3)×(2.2)	(30.9)		〃	H-17・I-17	
〃	〃	18	〃	(3.0)×(9.5)×(4.8)	(82.9)		〃	H-17	赤色顔料付着
Ⅱ-114	〃	19	〃	(10.0)×(12.3)×(3.9)	(381.0)		〃	I-21	
Ⅱ-115	58-2	20	敲磨	2.2×1.8×0.6	2.7	Obs.	〃	G-16-4	
〃	〃	21	〃	1.4×1.4×1.9	1.9	Ta.	〃	H-19-5	
〃	〃	22	有孔石製品	2.8×3.4×0.9	8.7	And.	〃	J-17-6	
〃	〃	23	〃	3.2×5.4×0.8	11.4	Tu.	Ⅱ	D-20-3	
〃	〃	24	〃	3.7×(3.9)×0.5	(7.4)	〃	Ⅰ	A-19-1	
〃	〃	25	〃	(3.8)×3.2×0.6	(13.0)	Ser.	Ⅱ	F-23-7	
〃	〃	26	〃	6.0×4.8×2.4	58.5	And.	Ⅰ	B-21-2	
〃	〃	27	石棒片	(5.2)×(2.7)×(0.8)	13.7	Sch.	〃	B-20-1	
〃	〃	28	有溝石製品	13.4×17.4×4.9	1,210.0	And.	Ⅱ	G-12-1	

写　真　図　版

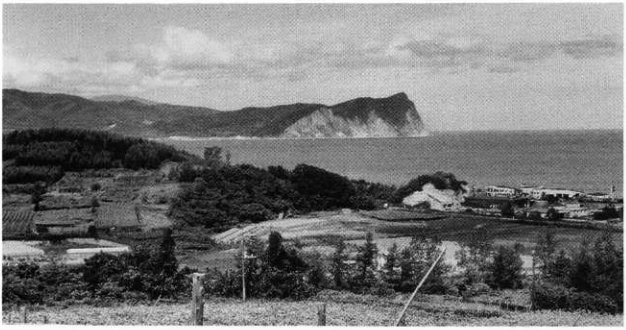


1　遺跡近景（RCヘリコプターより，南から）

図版 2　西崎山ストーンサークル群(1)

1　第1区（道指定史跡、南から）

2　昭和25年調査時の第1区（駒井　1959より複写）



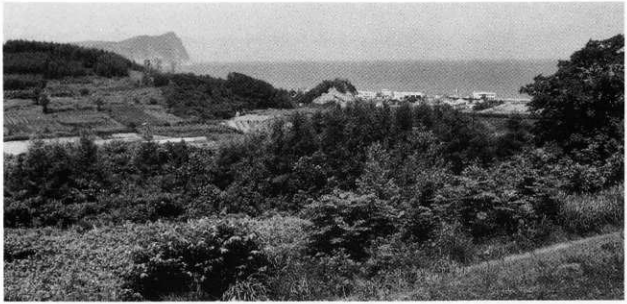
1　第1区西側からシリパ岬方面を見る（東から）

2　第2区（北から）

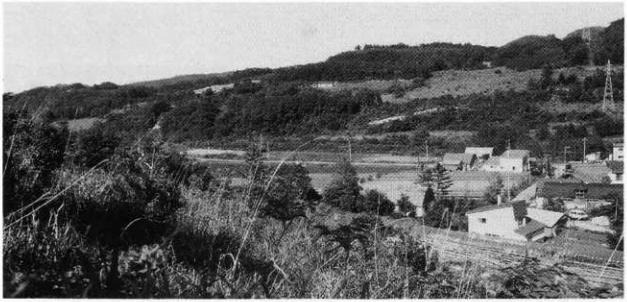
図版 4　西崎山ストーンサークル群(3)

1　第3区1群（北から）

2　第3区2群（南から）



1　遺跡西側からシリパ岬方面を見る（東から）



2　遺跡遠景（春都別村緑・南西から）

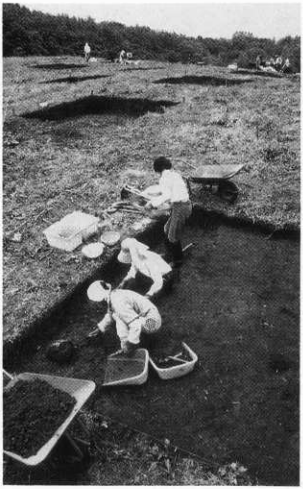
3　遺跡近景（東から）

図版 6　調査前の状況

1　調査区北側（南から）

2　調査区南側（北から）

1　調査区北側（南東から）

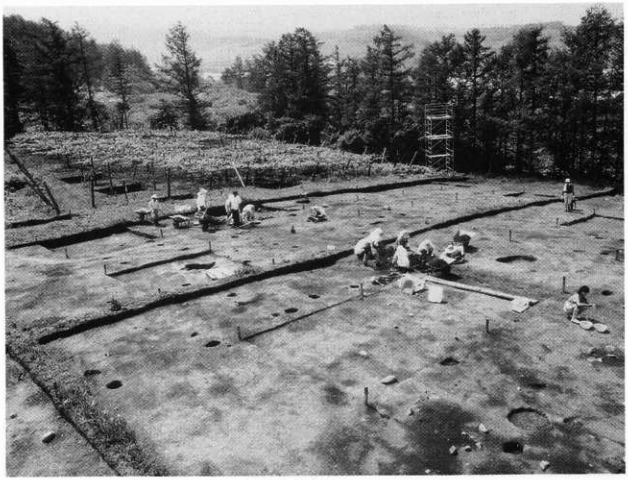


2　調査区北側（北西から）

3　調査区南側（北東から）

図版 8　包含層調査

1　調査区北側（南東から）



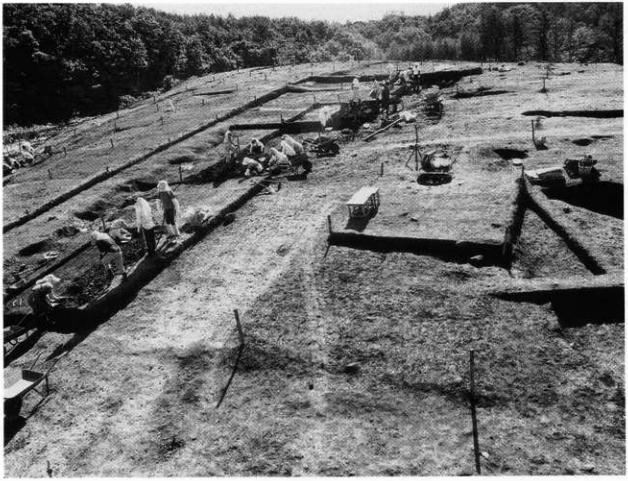
2　調査区南側（北東から）

1　土壙墓の調査（南から）

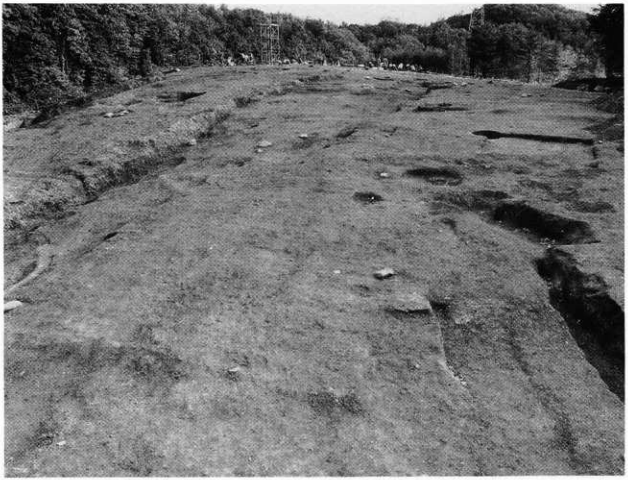
2　調査状況（南から）

3　土壙の調査（北から）

図版 10　北側沢部分の調査

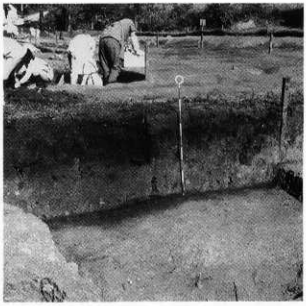


1　包含層調査（北西から）

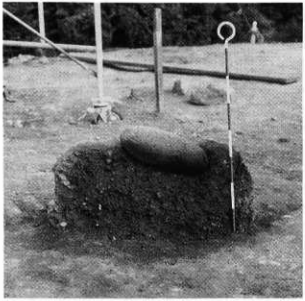


2　全景（北西から）

1　花粉分析試料採取状況（南西から）



2　花粉分析試料採取地点土層（南から）



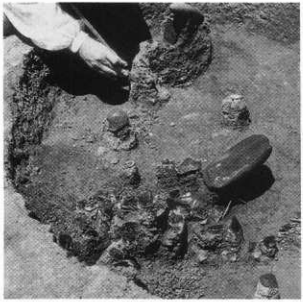
3　大型安山岩礫・B－19（西から）

4　大型安山岩礫・C－20（西から）

5　大型安山岩礫・調査区南側（北東から）

図版 12　Ⅰ群土壙(1)・P－1

1　遺物・土層断面（北東から）



2　遺物（南から）

3　全景（南西から）

1　土層断面（南西から）

2　全景（南から）

3　遺物（北から）

4　遺物（東から）

図版 14　Ⅰ群土壙(3)・P－3

1　遺物（北東から）

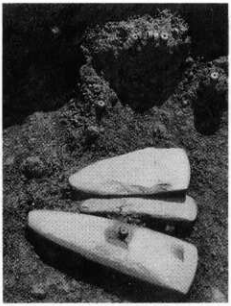
2　全景（南西から）

1　遺物（南から）

2　歯エナメル質（南西から）

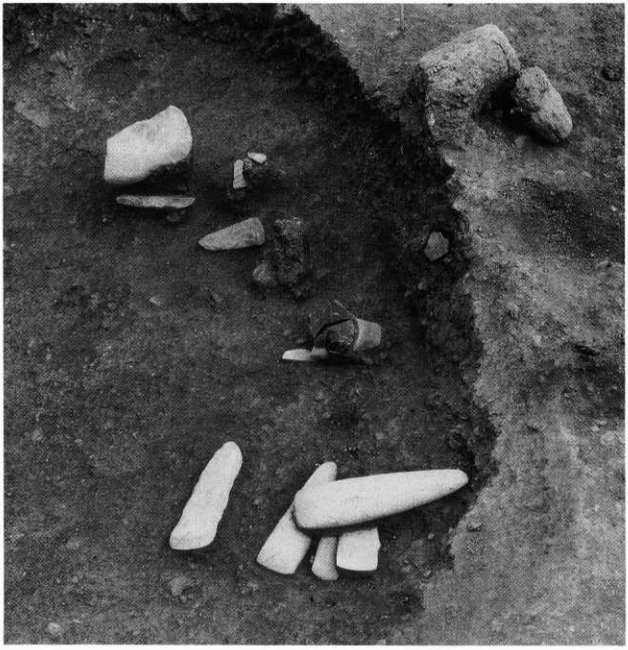
3　全景（南西から）

図版 16　Ⅰ群土壙(5)・P－11



1　遺物（北から）

2　土層断面（北東から）



3　遺物（西から）

1　遺物（北西から）

2　土層断面〔南東から〕

3　遺物〔南東から〕

1　P－4遺物（西から）

2　P－4全景（西から）

3　P－7遺物（南西から）

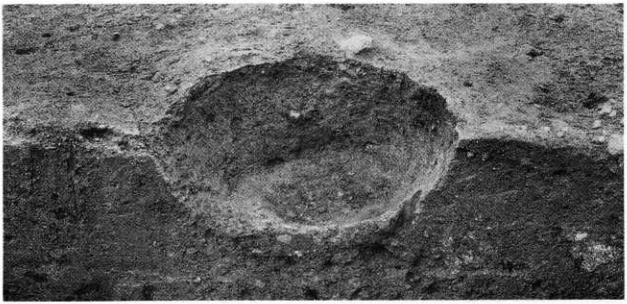
1　遺物・土層断面（南から）

2　全景（南から）

3　遺物（南から）

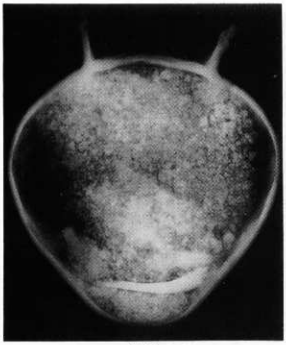
1　遺物（南西から）

2　遺物・土層断面（南から）

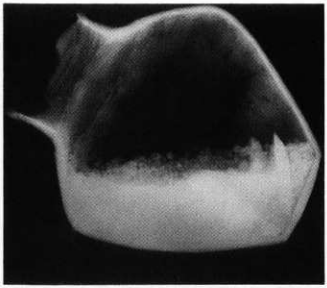


3　全景（南から）

1　土器内のフレイク



2　X線写真（上面）



3　X線写真（側面）

図版 22　Ⅲ群土壙(1)

1　P－9全景（南西から）

2　P－13全景（北西から）

3　P－13遺物（北西から）

4　P－17遺物（北西から）

5　P－17全景（北西から）

1　P－19遺物（西から）

2　P－23遺物（北から）

3　P－24遺物（北西から）

4　P－24全景（北西から）

5　P－25遺物（北から）

6　P－25全景（北から）

図版 24　Ⅳ群土壙(1)

1　P－10土層断面・遺物（南東から）

2　P－10全景（南西から）

3　P－12遺物（南西から）

4　P－14全景（南から）

5　P－15遺物（北から）

6　P－16全景（南東から）

1　P－18遺物（西から）

2　P－21遺物（北から）

3　P－22遺物（北から）

4　P－26遺物（北から）

図版 26　Ⅳ群土壙(3)

1　P－27遺物（南から）

2　P－28遺物（南西から）

3　P－29遺物（南から）

4　P－30遺物（西から）

5　P－31遺物（南から）

2　P－4の土器（図Ⅲ－39－1）

1　P－5の土器（図Ⅲ－20－1）

3　P－6の土器（図Ⅲ－39－4）

4　P－6の土器（図Ⅲ－39－5）

6　P－8の土器（図Ⅲ－40－10）

5　P－7の土器（図Ⅲ－40－9）

図版 28　復元土器(2)

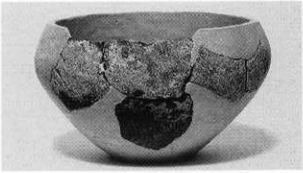
1　P－14の土器（図Ⅲ－58－18）

2　P－14の土器（図Ⅲ－58－19）

3　P－14の土器（図Ⅲ－58－20）

7　包含層の土器（図Ⅲ－65－17）

8　包含層の土器（図Ⅲ－66－18）

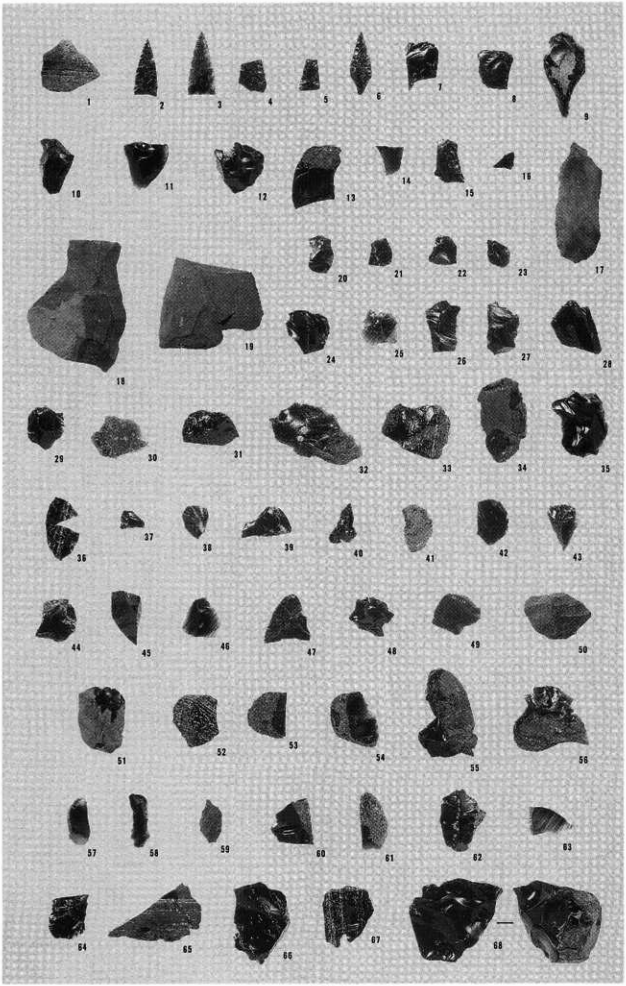


4　P－16の土器（図Ⅲ－60－48）

5　P－22の土器（図Ⅲ－61－64）

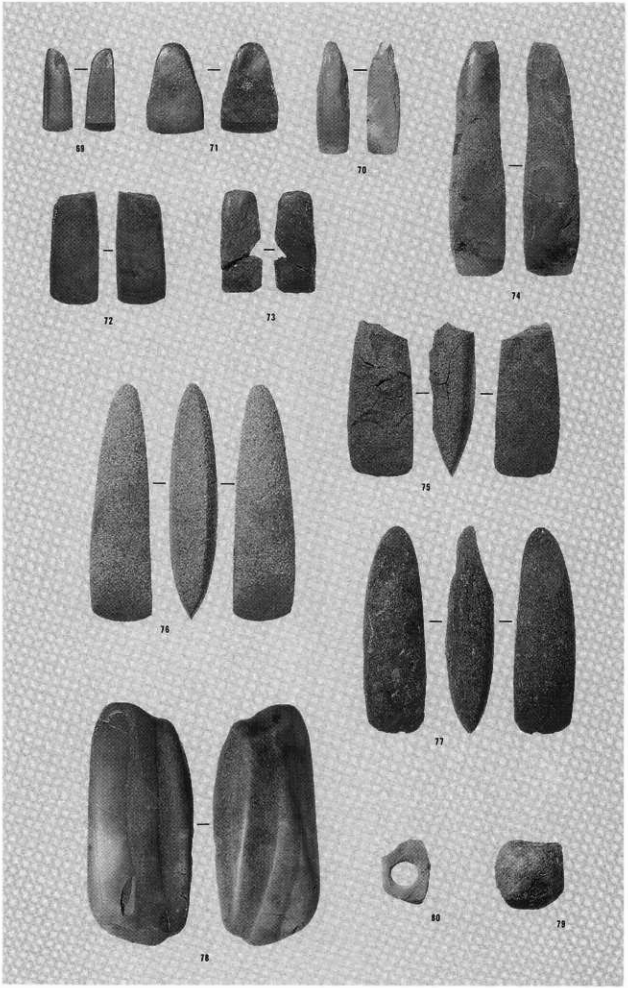
6　包含層の土器（図Ⅲ－65－11）

9　包含層の土器（図Ⅲ－66－19）

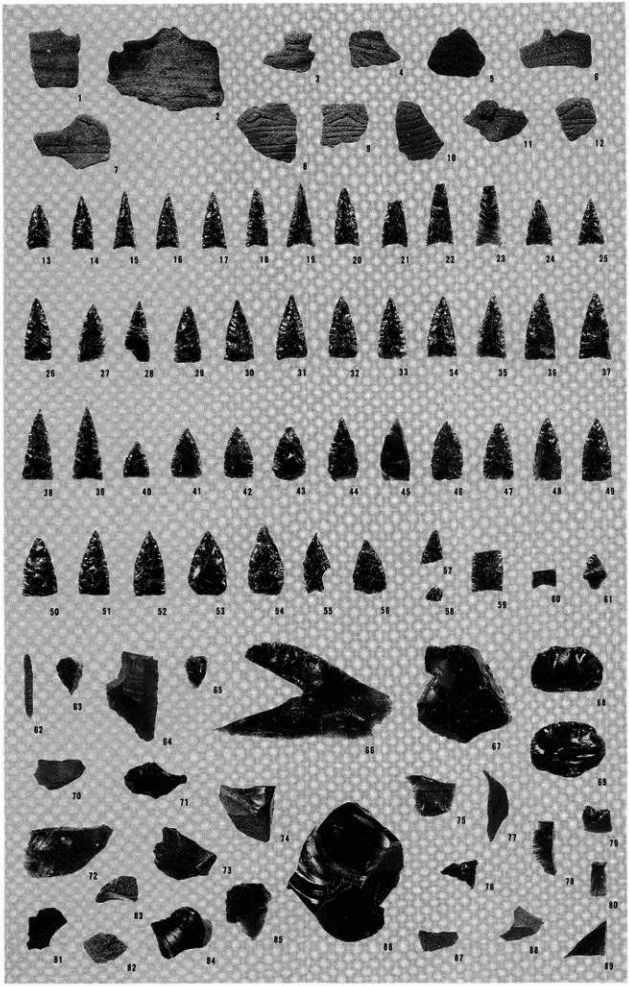


1　P－1の遺物(1) (1/2・1/3)

図版 30　遺構の遺物(2)

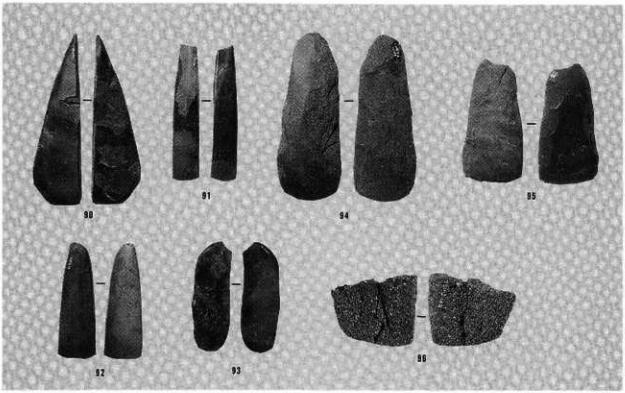


1　P－1の遺物(2)（1/2・1/3）



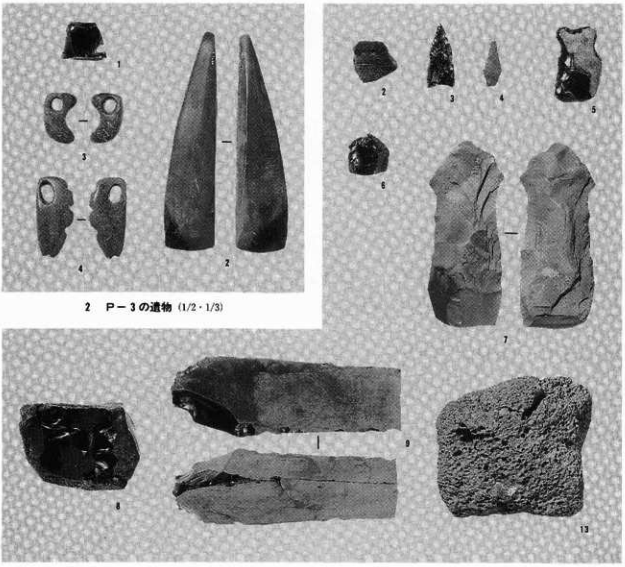
1　P－2の遺物(1)（1/2・1/3）

図版 32　遺構の遺物(4)

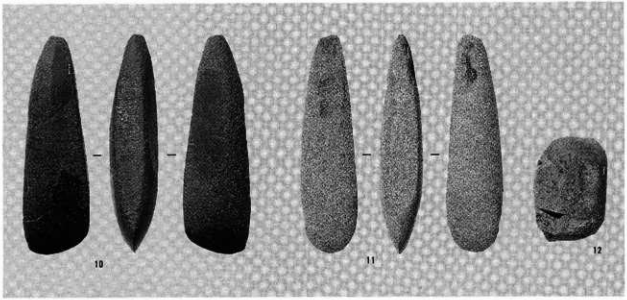


1　P－2の遺物(2) (1/3)

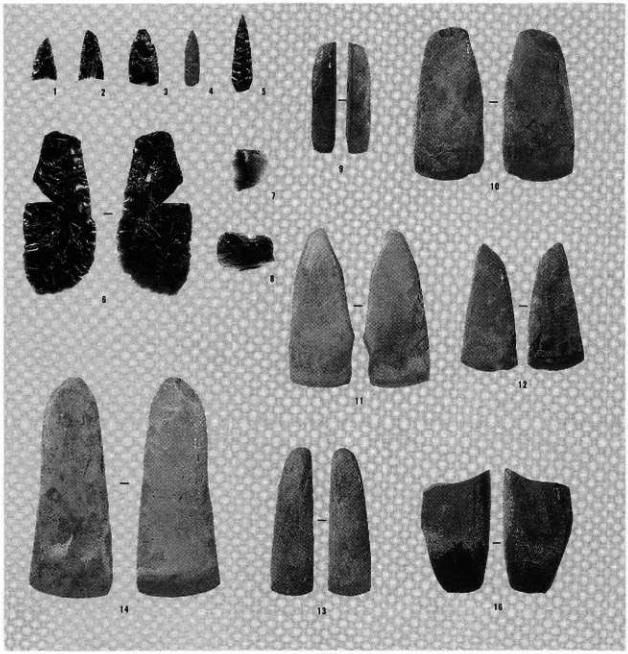
2　P－3の遺物 (1/2・1/3)



3　P－5の遺物(1) (1/2・1/3)

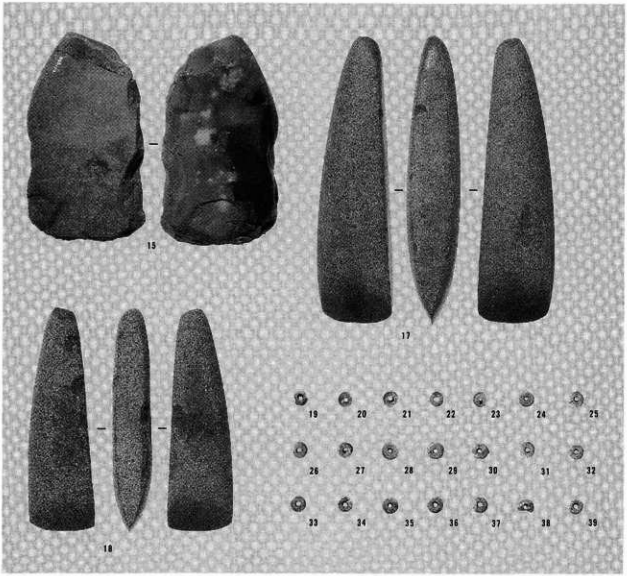


1　P－5の遺物(2) (1/3)

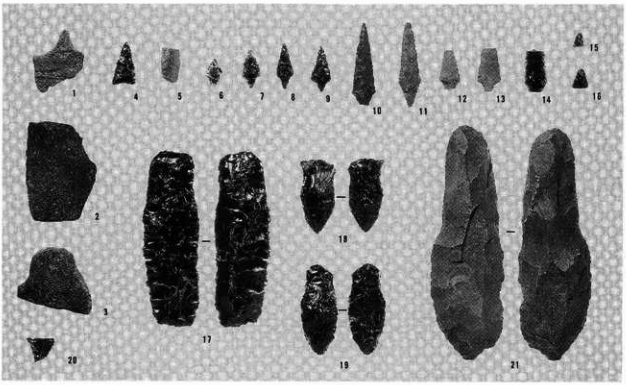


2　P－11の遺物(1) (1/2・1/3)

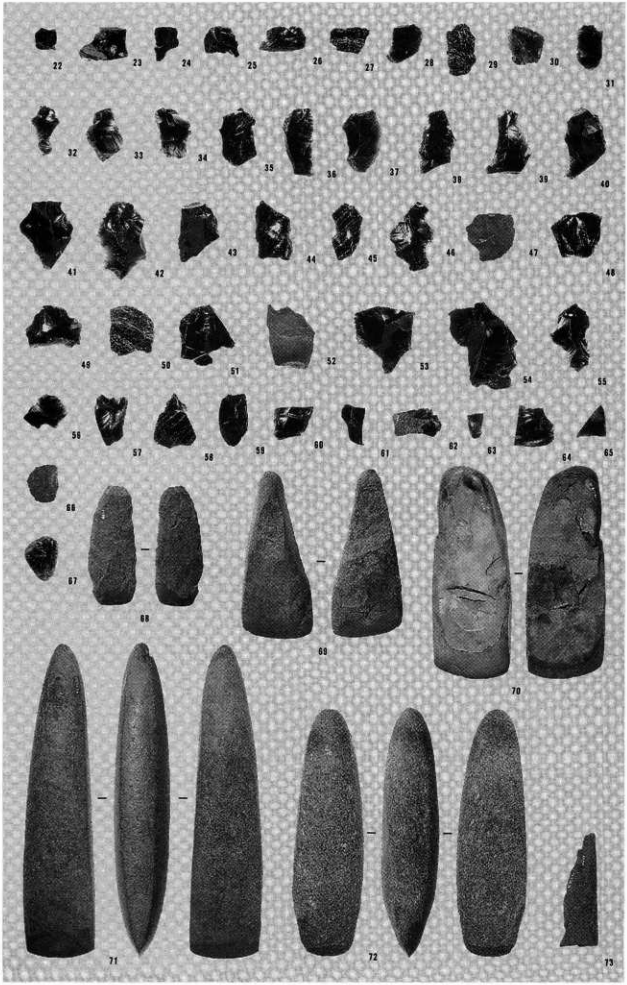
図版 34　遺構の遺物(6)



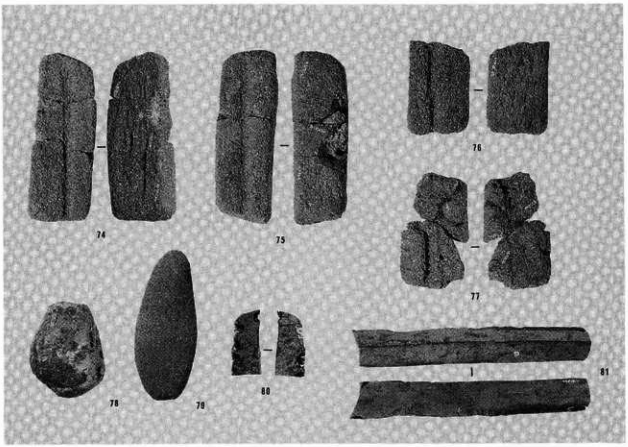
1　P－11の遺物(2)（1/2・1/3）



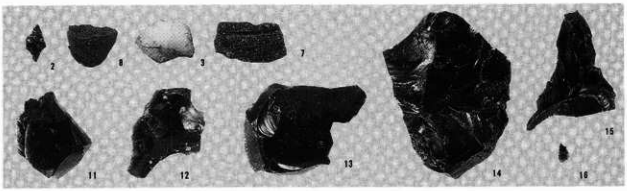
2　P－20の遺物(1)（1/2・1/3）


22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73

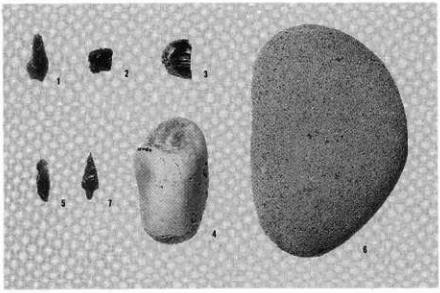
1　P－28の遺物(2) (1/3)



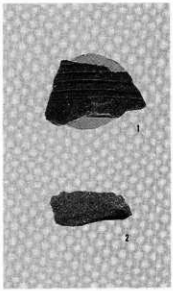
1　P－20の遺物(3) (1/3)



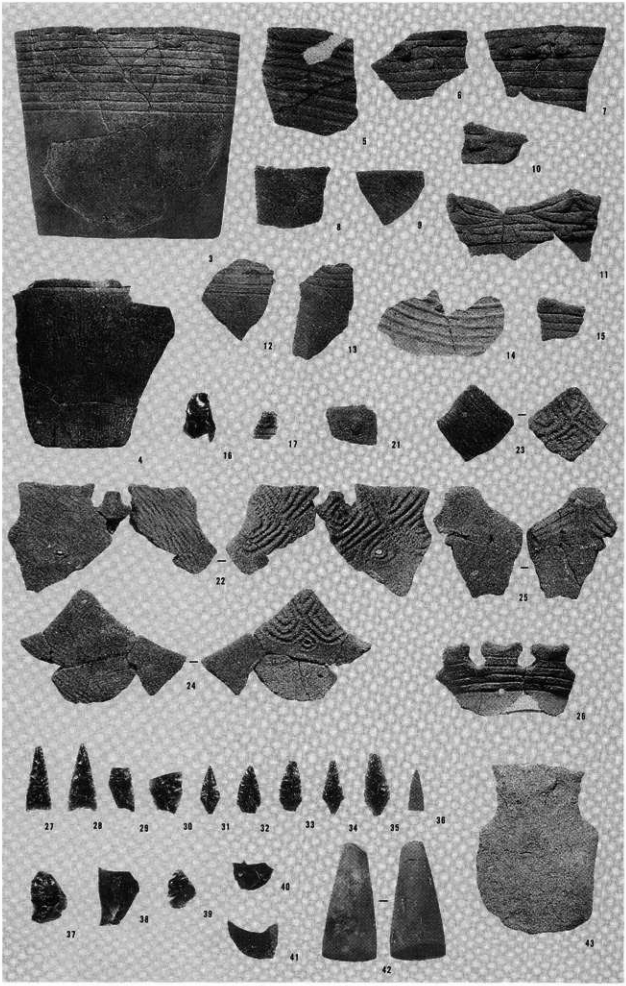
2　P－4・6・8の遺物 (1/2・1/3)



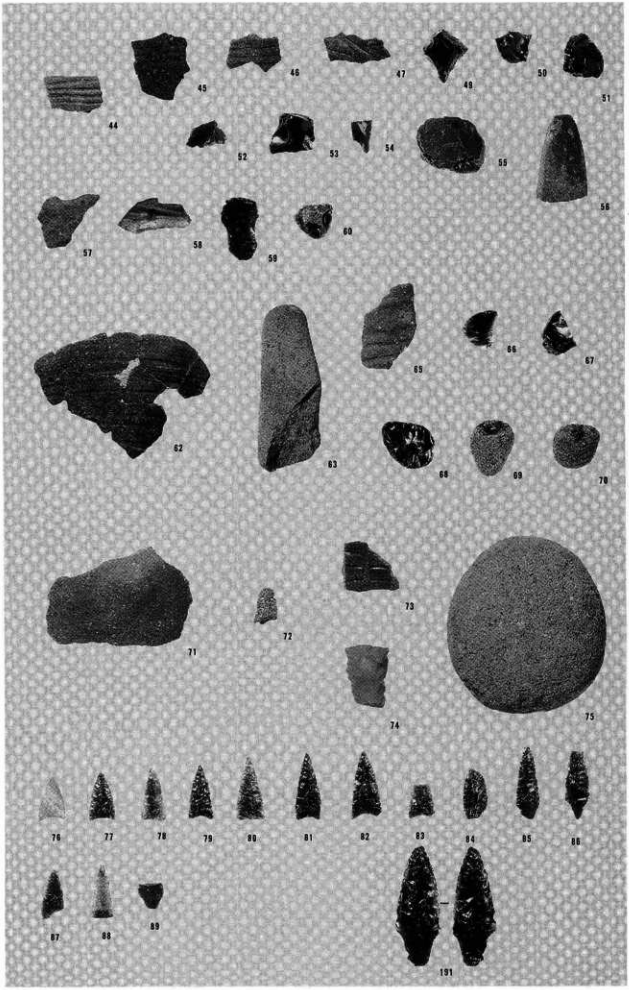
3　P－9・13・17・24・25の遺物 (1/2・1/3)



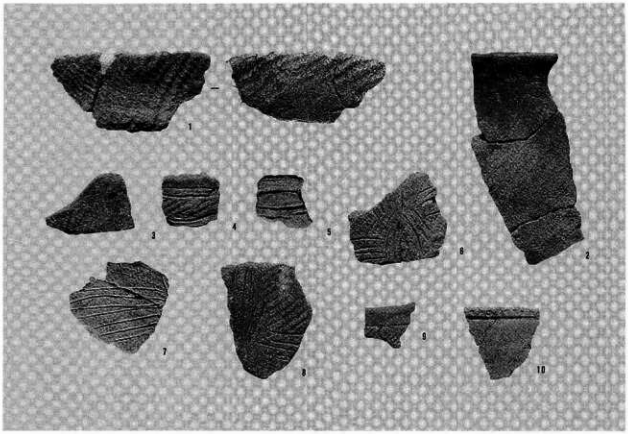
4　P－10の遺物 (1/3)



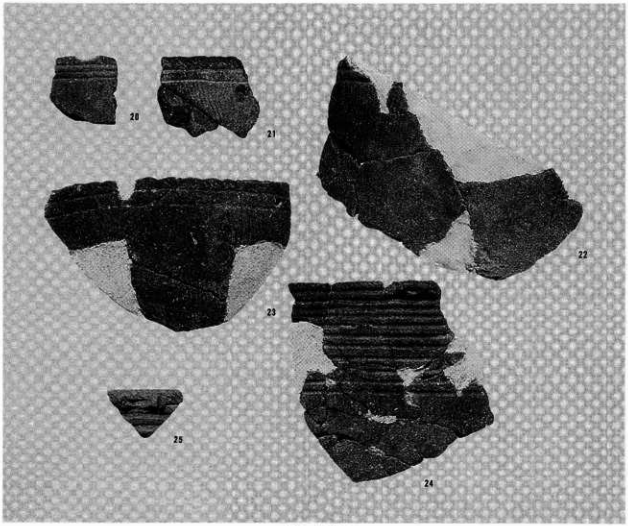
1　P－12・14の遺物 (1/2・1/3)



1　P－15・16・18・21・22・26・27・28・30の遺物 (1/2・1/3)

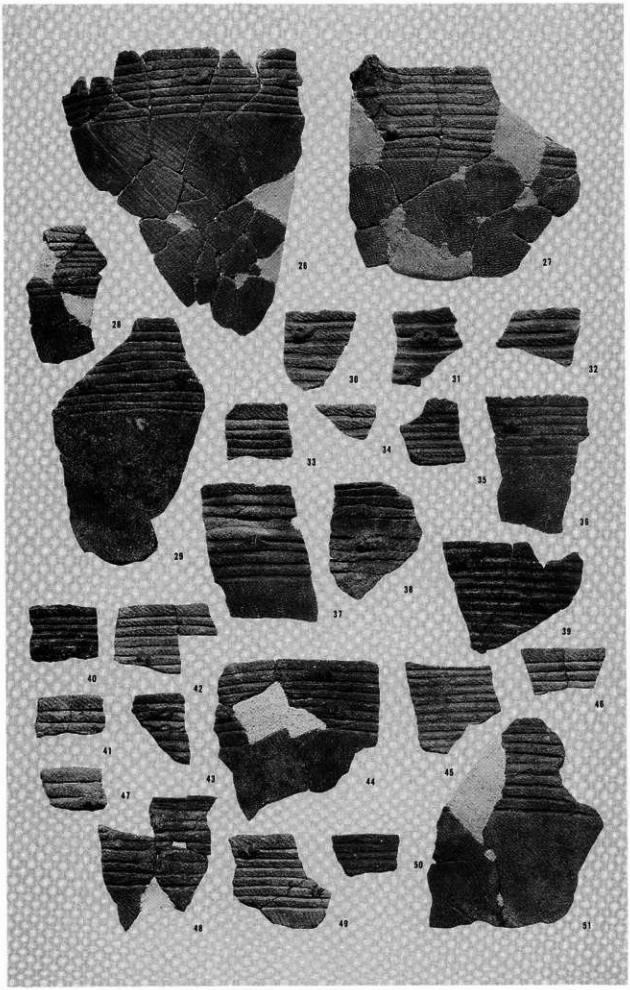


1　中・後期 (1/3)

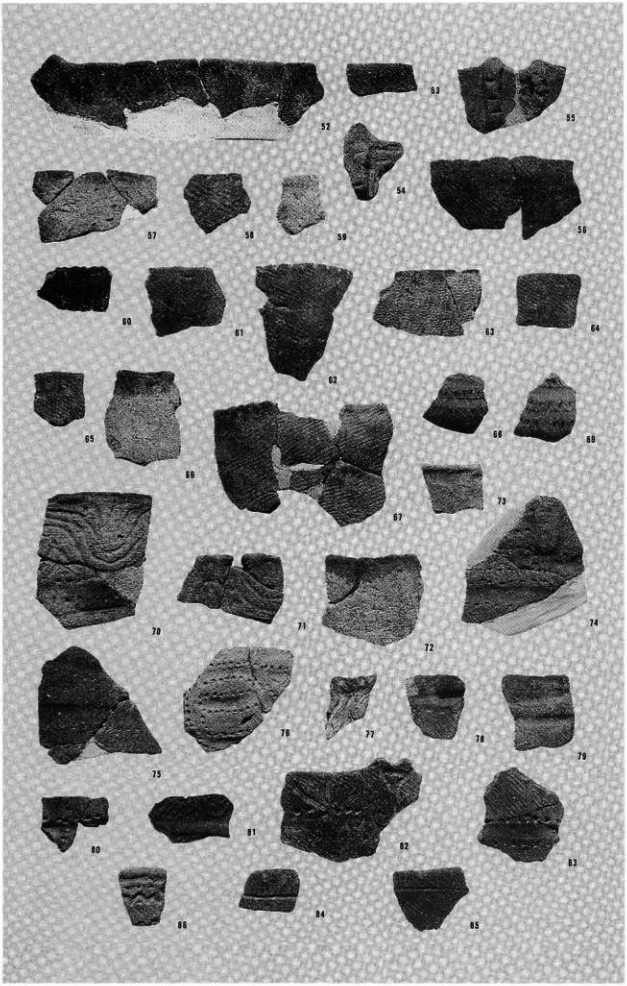


2　晩期・深鉢(1) (1/3)

図版 40　包含層の土器(2)

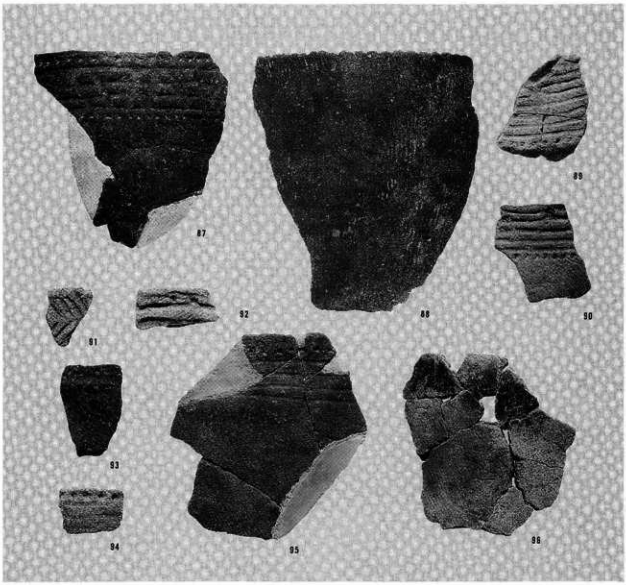


1　晩期・深鉢(2) (1/3)

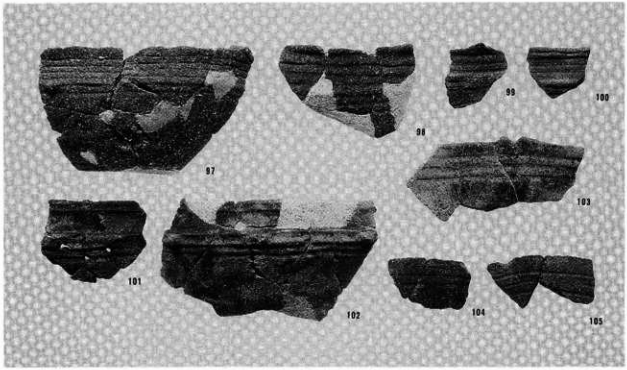

52
53
55
54
57
58
59
56
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
86
84
85

1　晩期・深鉢(3) (1/3)

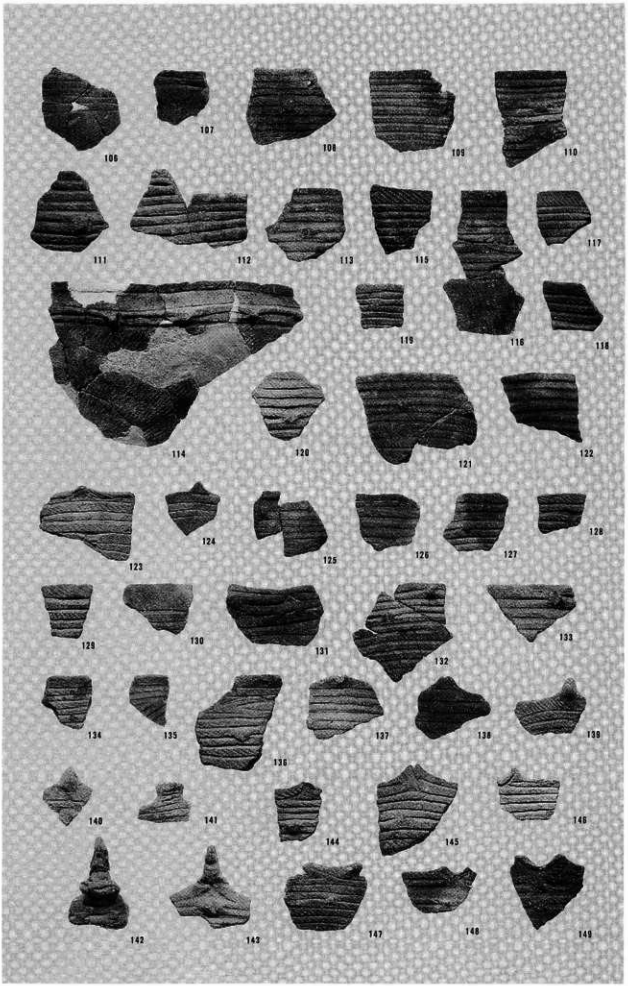
図版 42　包含層の土器(4)



1　晩期・深鉢(4) (1/3)

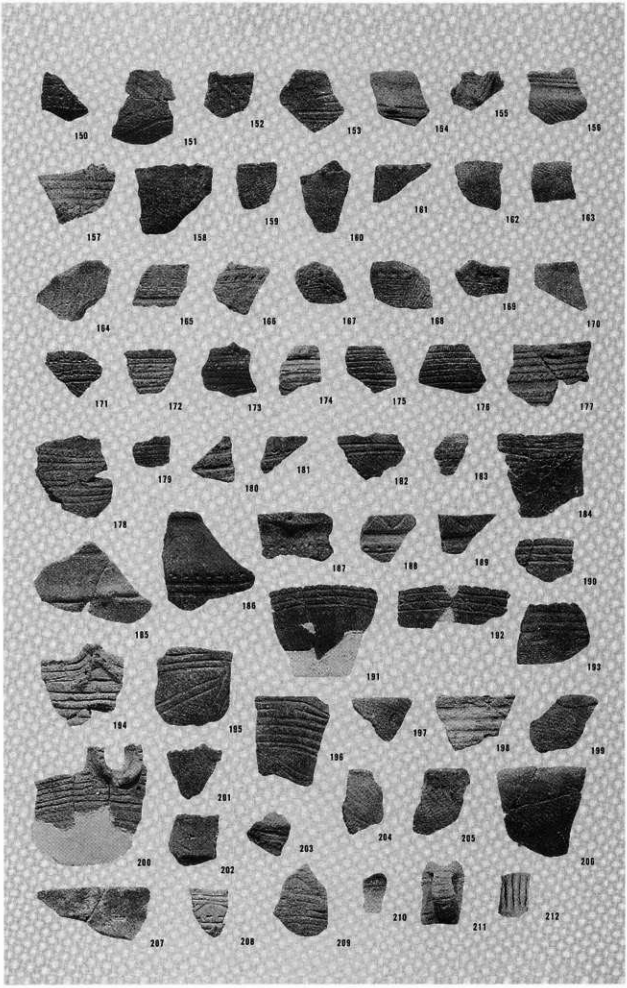


2　晩期・鉢(1) (1/3)

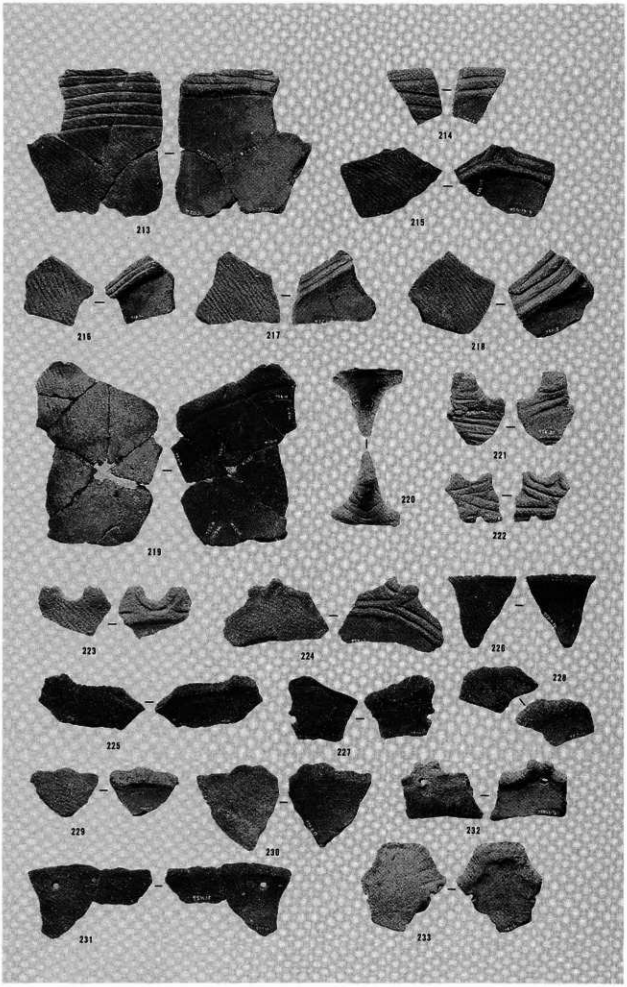

106
107
108
109
110
111
112
113
115
117
114
119
116
118
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
144
145
146
142
143
147
148
149

1　晩期・鉢(2) (1/3)

図版 44　包含層の土器(6)

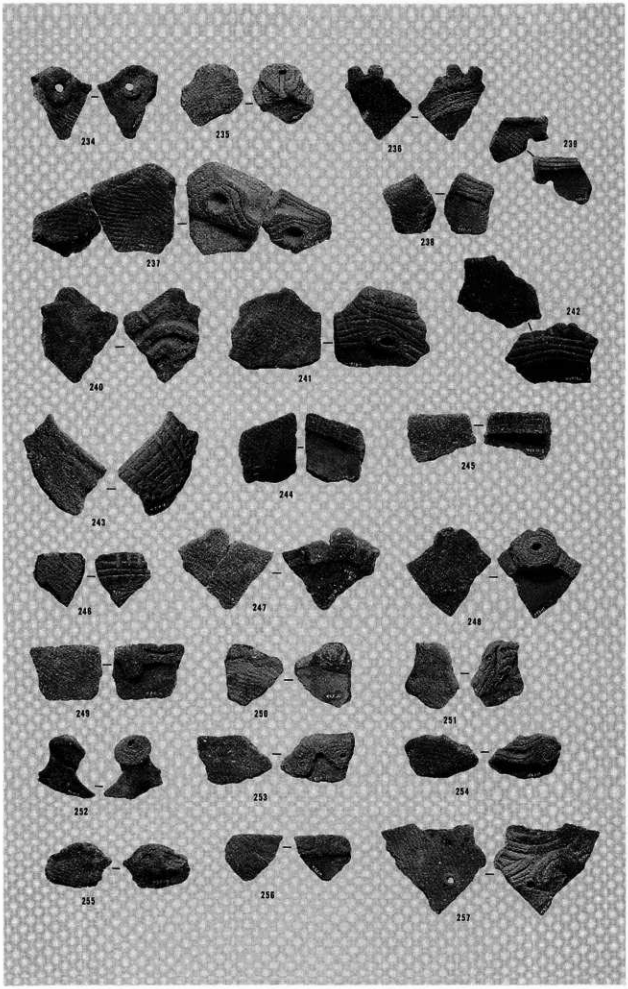


1　晩期・鉢(3) (1/3)

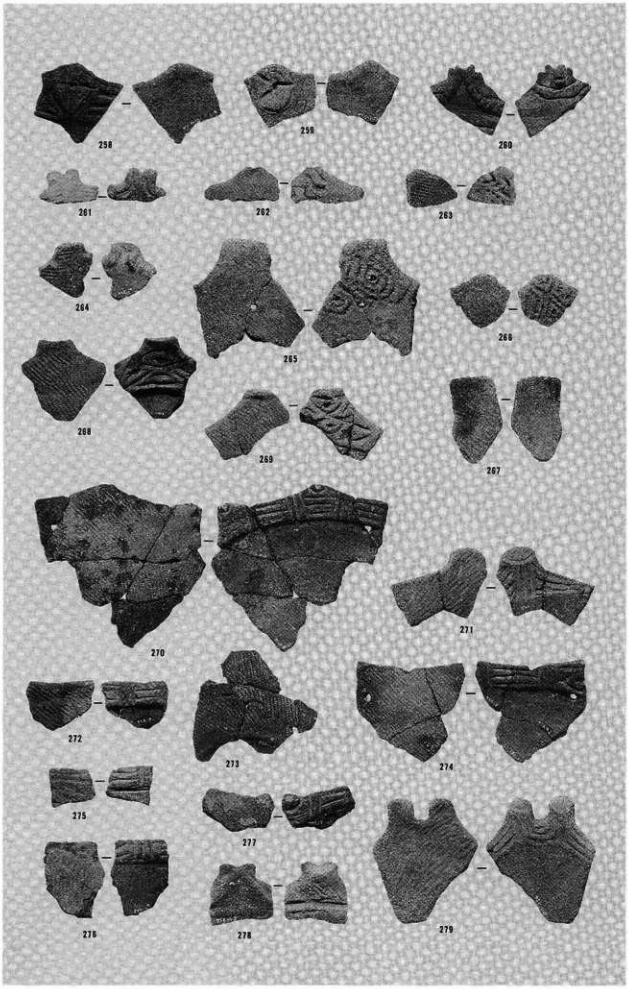

213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
226
225
227
228
229
230
232
231
233

1　晩期・浅鉢(1) (1/3)

図版 46　包含層の土器(8)

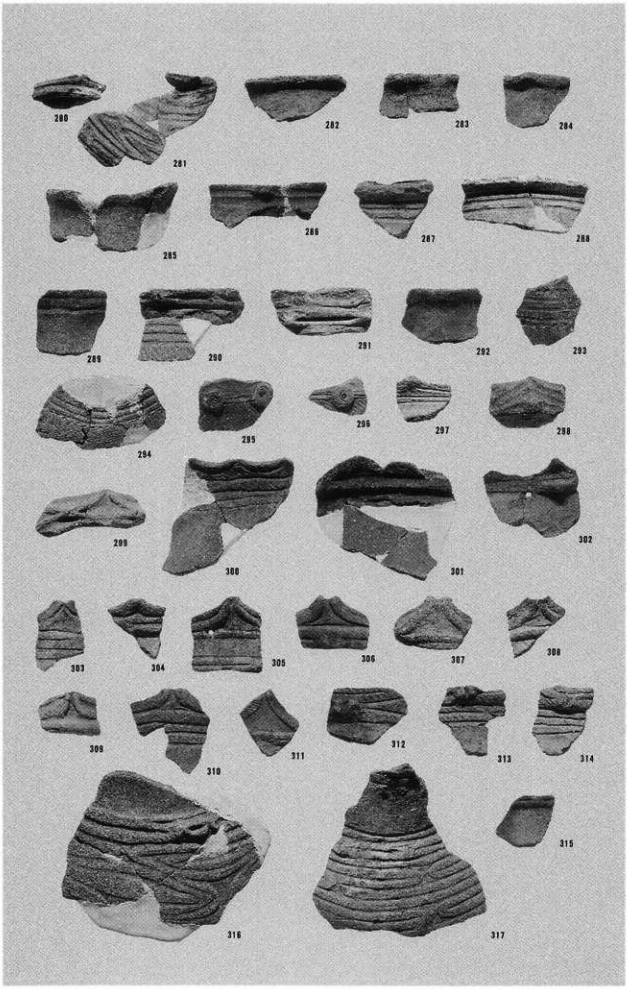


1　晩期・浅鉢(2) (1/3)

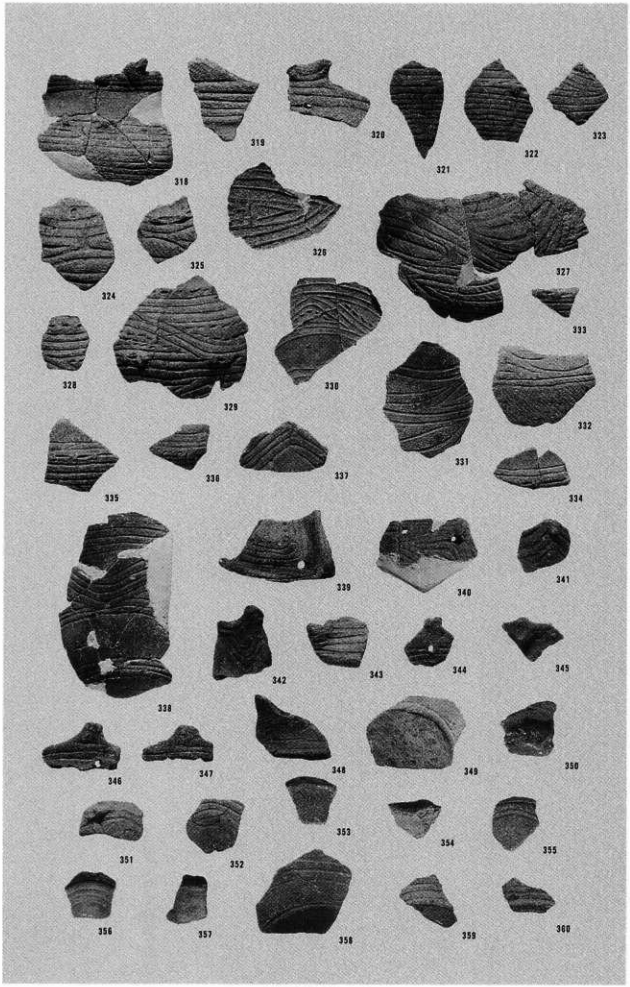

256
258
260
261
262
263
264
265
266
268
269
267
270
271
272
273
274
275
277
276
278
279

1　晩期・浅鉢(3) (1/3)

図版 48　包含層の土器(10)

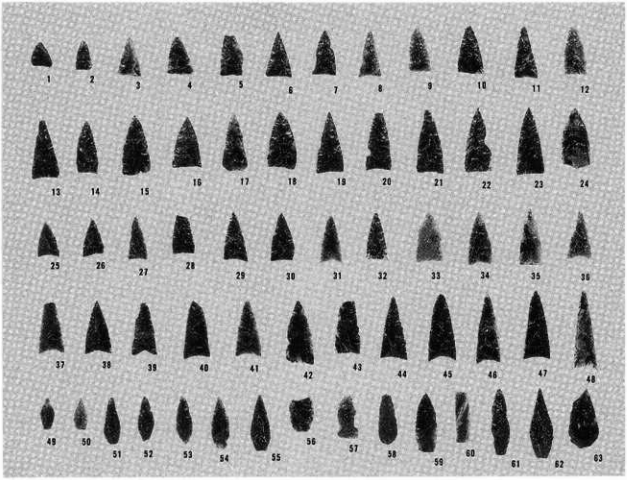


1　晩期・壺(1) (1/3)

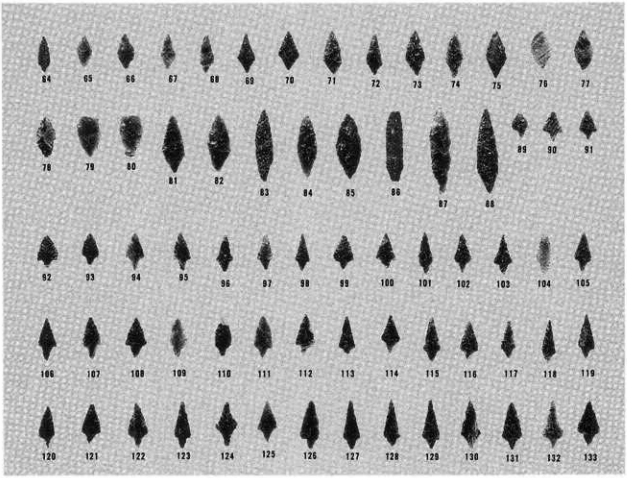

318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360

1　晩期・壺(2)・異形・底 (1/3)

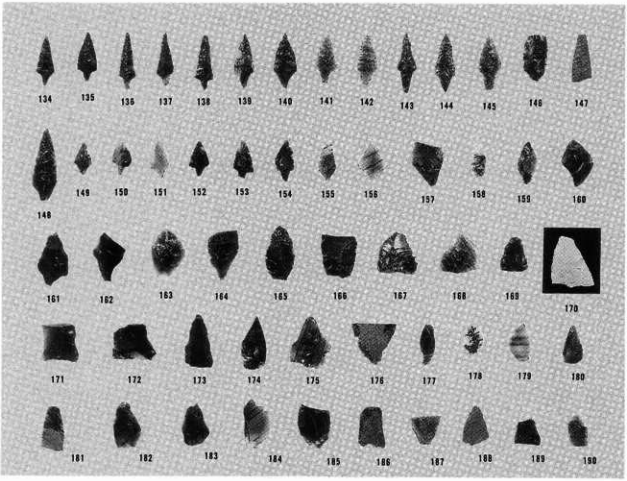
図版 50　包含層の石器(1)



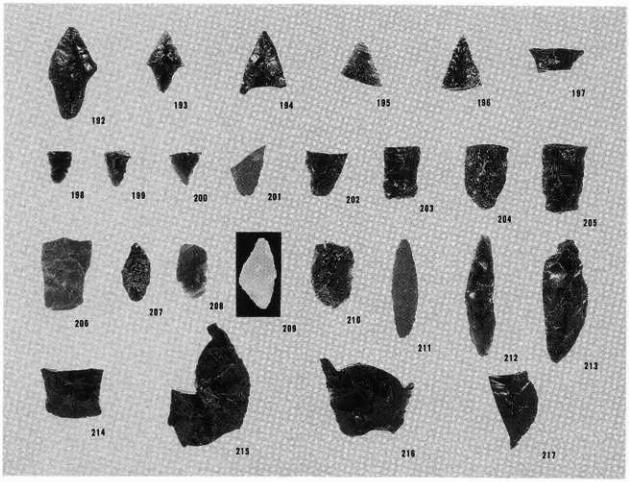
1　石鏃(1) (1/2)



2　石鏃(2) (1/2)

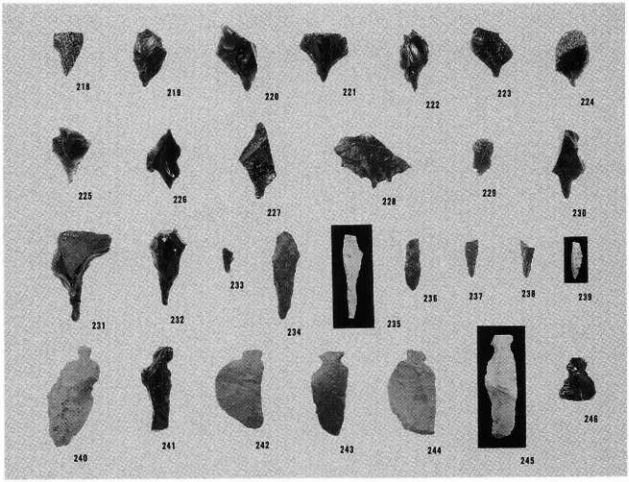


1　石鏃(3) (1/2)

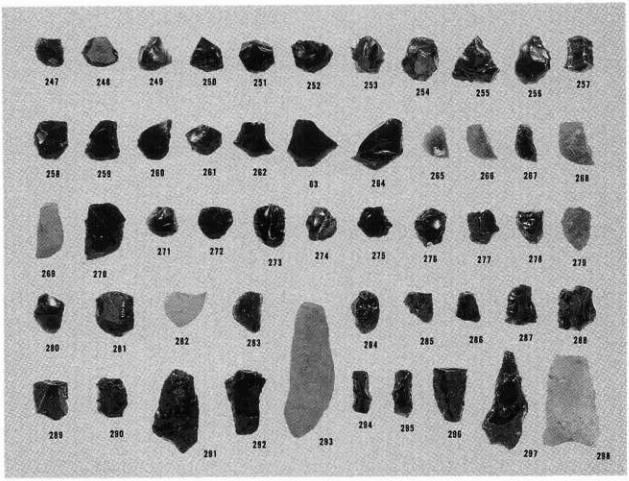


2　やり先またはナイフ (1/2)

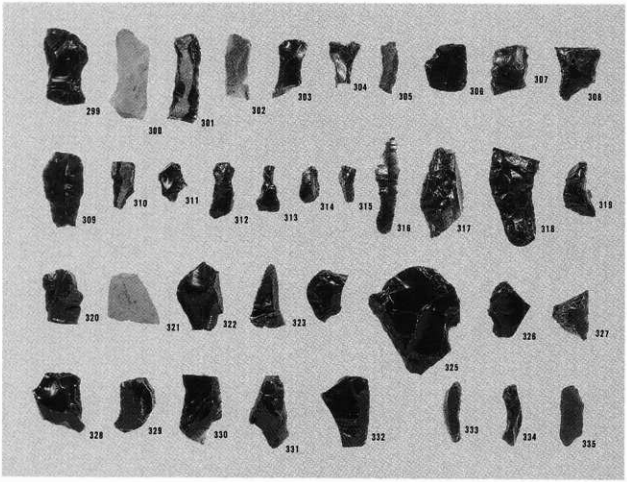
図版 52　包含層の石器(3)



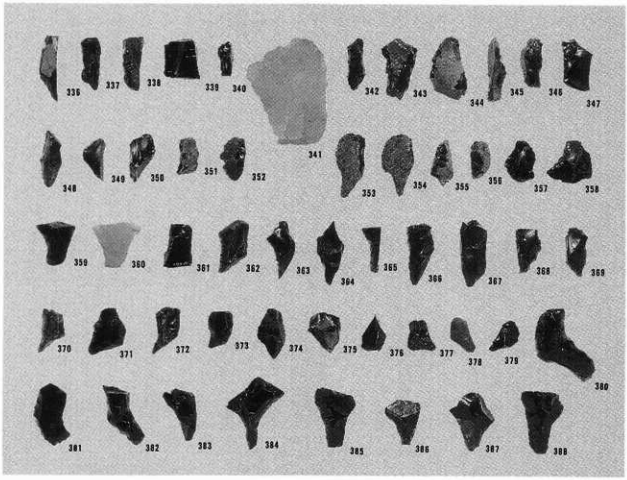
1　石錐・つまみ付きナイフ (1/2)



2　スクレイパー(1) (1/3)

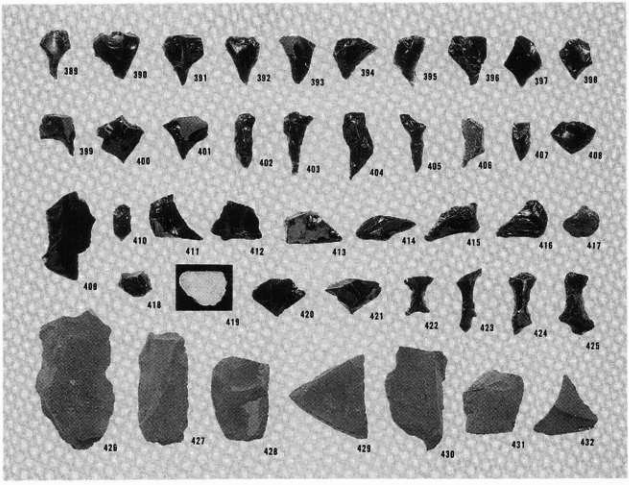


1　スクレイパー(2) (1/3)

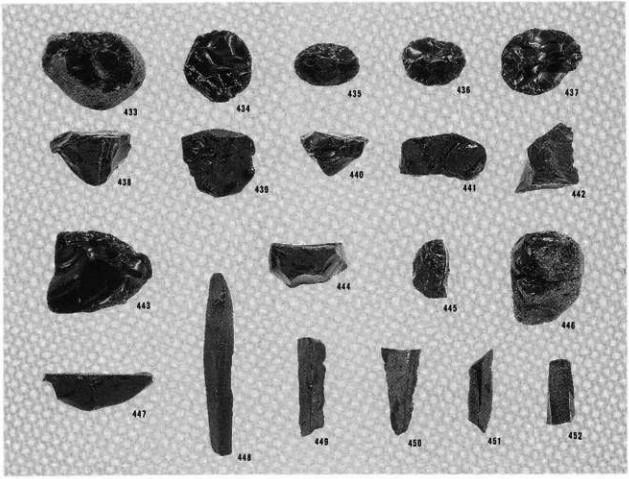


2　スクレイパー(3) (1/3)

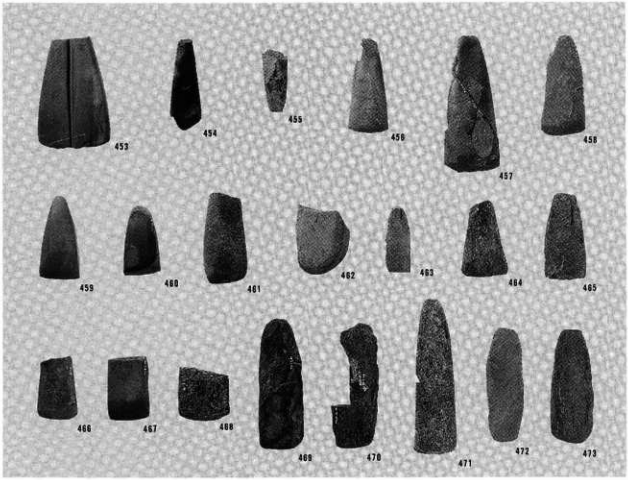
図版 54　包含層の石器(5)



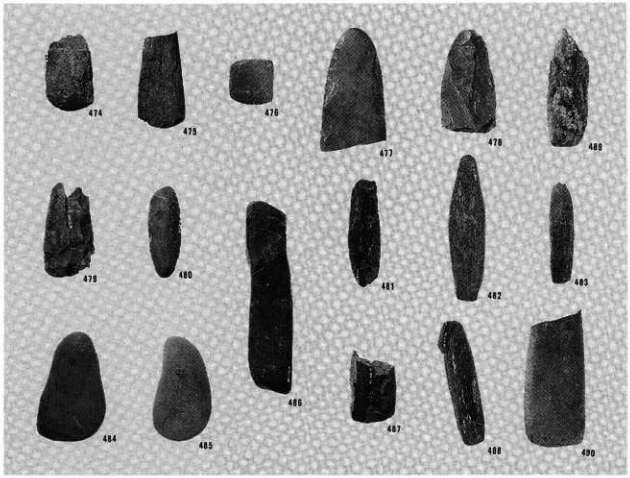
1　スクレイパー(4)（1/3）



2　石核・棒状原石（1/2）

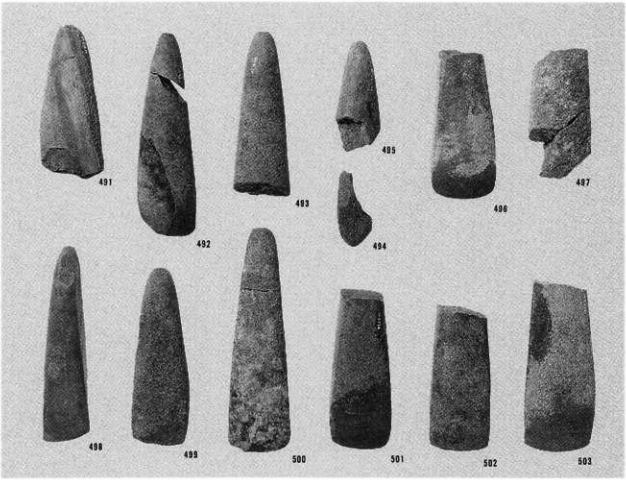


1　石斧(1) (1/3)

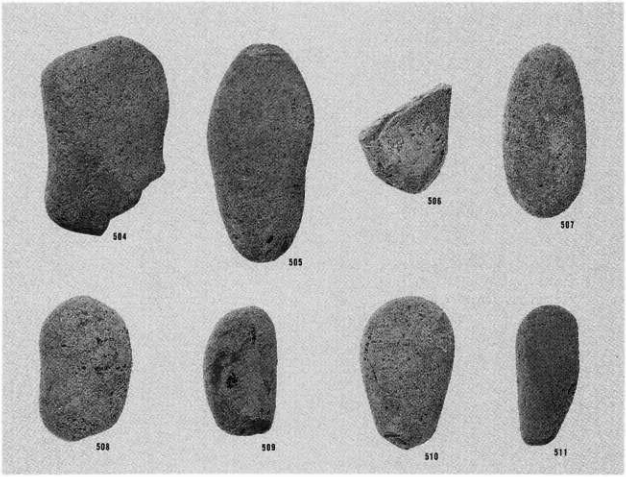


2　石斧(2) (1/3)

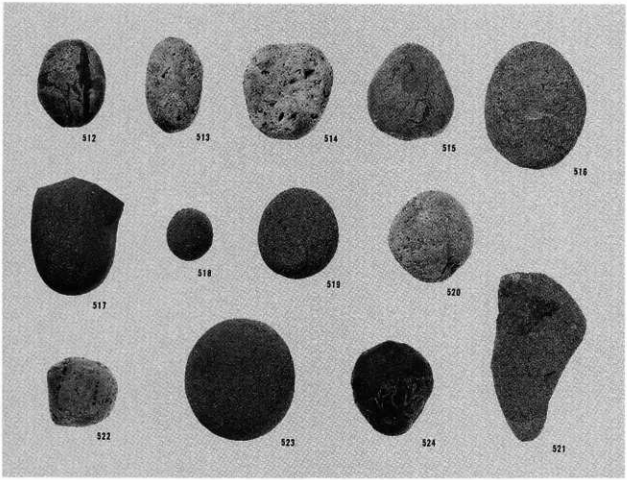
図版 56　包含層の石器(7)



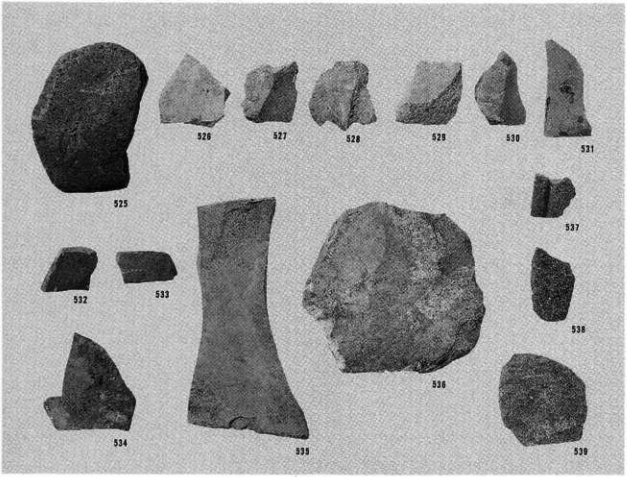
1　石斧(3) (1/3)



2　たたき石(1) (1/3)

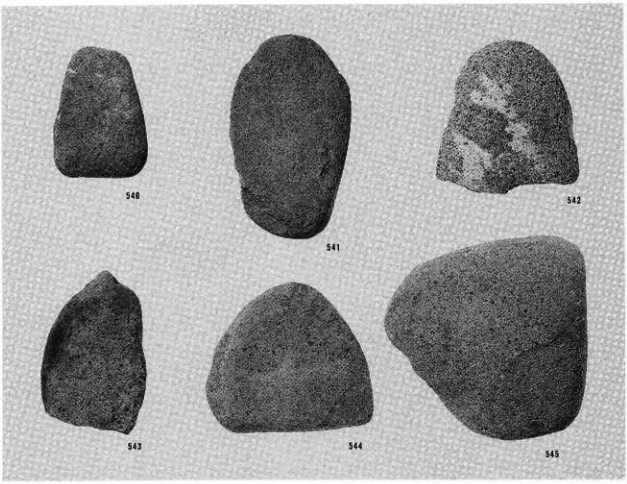


1　たたき石(2) (1/3)

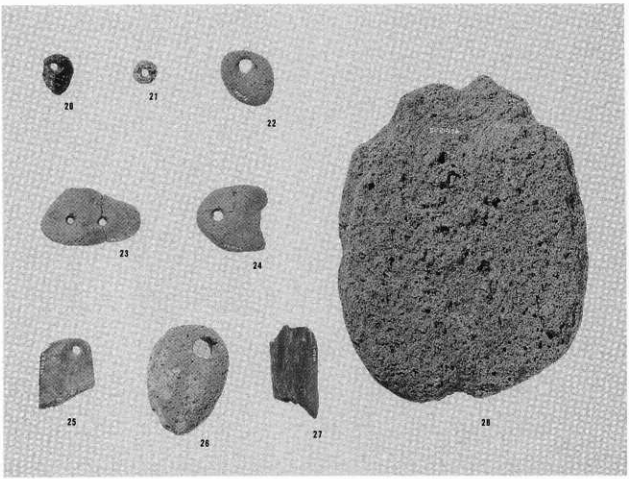


2　砥石 (1/3)

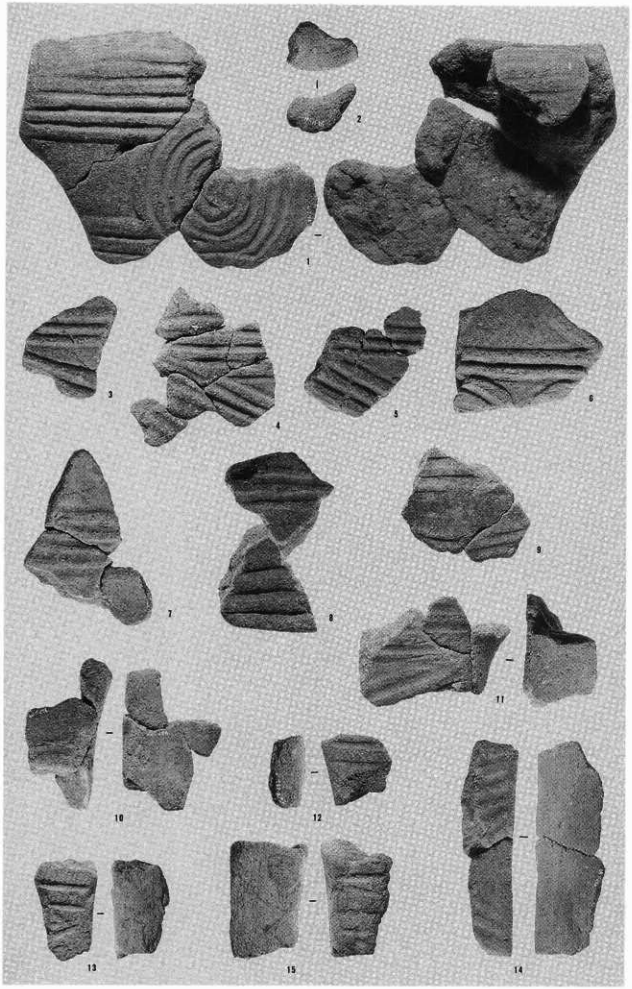
図版 58　包含層の石器(9)・石製品



1　台石 (1/4)

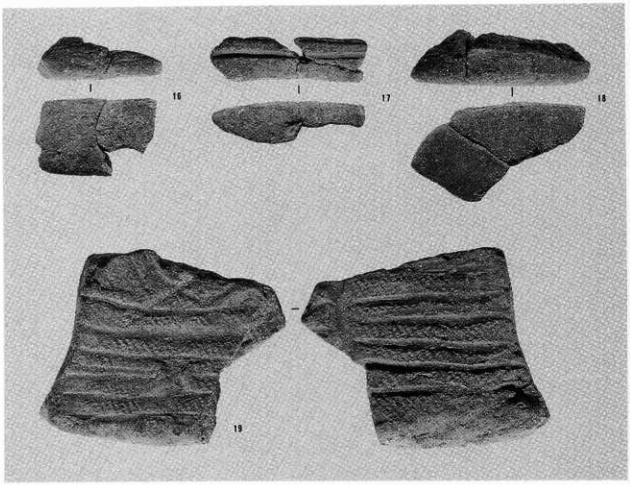


2　石製品 (1/2)

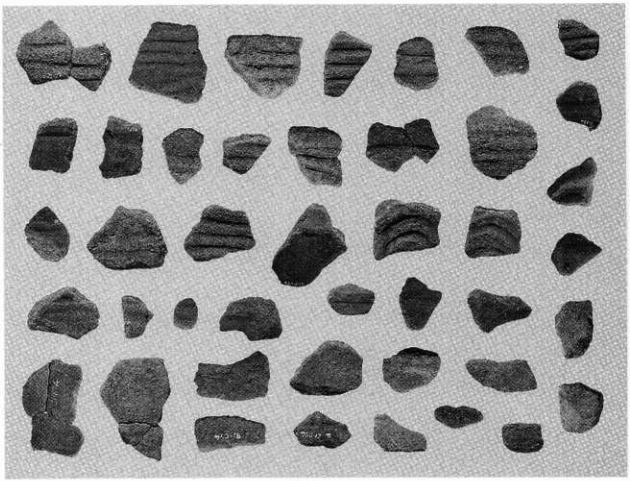


1　土偶(1) (1/2)

図版 60　包含層の土製品(2)



1　土偶(2) (1/2)



2　土偶(3) (1/2)

㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第66集

余市町

栄　町　5　遺　跡

北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成２年３月31日発行

編集・発行　財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
☎011(561)3131

印　　刷　㈱ 総 北 海 札幌支社
〒001 札幌市北区北30条西5丁目菊地ビル4F
☎011(757)6995